2026 年度版

履修の手引き
学生生活の手引き

国際医療福祉大学大学院
医療福祉学研究科
薬学研究科
薬科学研究科
医学研究科

International University of Health and Welfare Graduate School
Graduate School of Health and Welfare Sciences
Graduate School of Pharmacy
Graduate School of Pharmaceutical Sciences
Graduate School of Medicine／Graduate School of Public Health



大学のシンボルマーク

国際医療福祉大学は、地域の方々や関係諸機関等による多大なご協力とご支援のもとに平成7年4月に開学いたしました。

表紙にある大学のシンボルマークは、「医療分野において国際的に活躍できる人材の育成」という本学の教育理念をふまえたものです。

シンボルマークのデザインの意味

1. 球形・・・・・・・・・・・・地球をあらわし国際性を意味しています。
2. 7つの同心円・・・・・本学で学んだ皆さんが広く世界を見つめ巣立ってゆくイメージと本学が掲げる7つの教育理念をあらわしています。
3. クロス・・・・・・・・・・・・未来に向けてはばたく鳥のイメージと医療のシンボルである十字をあらわしています。
4. INTERNATIONAL UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE
・・・・・・・・・・・・・・・・・「国際医療福祉大学」の英訳です。

目　次

履修の手引き･学生生活の手引き

大学院に入学された皆さんへ

・大学院長挨拶 2
・副大学院長挨拶 3

①本学について

１－１　本学大学院の沿革 5
１－２　教育理念とポリシーについて 6
１－３　研究科の概要 43
１－４　取得学位の名称 47
１－５　各キャンパス施設 49

②履修の手引き（共通）

２－１　授業時限・授業日・年間行事予定 51
２－２　授業計画（シラバス） 58
２－３　科目ナンバリング 61
２－４　履修登録（ユニバーサルパスポートを利用した履修登録について） 65
２－５　成績 66
２－６　修士課程・専門職学位課程の修了要件 68
２－７　博士課程の修了要件 69
２－８　研究指導について 70
２－９　本学の授業形態 72
２－１０　学内の情報連絡 73
２－１１　研究計画の倫理審査 75
２－１２　ＴＡ（ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ･ｱｼｽﾀﾝﾄ）制度 80
２－１３　既修得単位認定の申請 81
２－１４　転分野・転領域等について 81
２－１５　休学や退学の手続き 82

③大学院公開講座

３－１　大学院公開講座（乃木坂スクール） 85

④医療福祉学研究科（修士課程）

４－１　授業科目の履修 93
４－２　修士課程の開講科目、修了要件表 95
４－３　研究報告会（修士） 150
４－４　修士論文の審査 151
４－５　課題研究の審査 157

⑤医療福祉学研究科（博士課程）

５－１　授業科目の履修 160
５－２　修士課程の開講科目、修了要件表 162
５－３　研究報告会（博士） 194
５－４　博士論文の審査 195

⑥薬科学研究科

６－１　授業科目の履修　205
６－２　修士課程の開講科目、修了要件表　207
６－３　修士論文の審査　210

⑦薬学研究科

７－１　授業科目の履修　217
７－２　博士課程の開講科目、修了要件表　219
７－３　博士論文の審査　221

⑧医学研究科（専門職学位課程）

８－１　授業科目の履修　230
８－２　修士課程の開講科目、修了要件表　232
８－３　研究報告会（修士）　236
８－４　修士論文の審査　237

⑨医学研究科（博士課程）

９－１　授業科目の履修　240
９－２　博士課程の開講科目、修了要件表　242
９－３　研究報告会（博士）　247
９－４　博士論文の審査　248

⑩がんプロコース

１０－１　文部科学省「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」採択「がんプロコース」　259
１０－２　がんプロコースの修了認定要件　261
１０－３　がんプロコースの開講科目　265
１０－４　がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材養成コース　266
１０－５　がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース　268
１０－６　がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース　270
１０－７　がん看護CNSコース　272
１０－８　がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材養成コース（インテンシブコース）　274
１０－９　がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース（インテンシブコース）　276
１０－１０　がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース（インテンシブコース）　278
１０－１１　連携校共通インテンシブコースについて　280
１０－１２　多職種協働市民公開講座・セミナー・ 教育ワークショップ　284

⑪学生生活の手引き

１１－１　学生証	286
１１－２　図書館および学術情報の利用	287
１１－３　インターネット・データ解析ソフトの利用	291
１１－４　メール等の利用について	292
１１－５　名刺作成について	294
１１－６　学生の福利厚生	295
１１－７　ハラスメント、学生相談室	297
１１－８　研究の経費	300
１１－９　証明書の申請・各種届出	313
１１－１０　学生の個人情報保護に関する本学の方針について	316

大学院に入学された皆さんへ

大学院生の皆さんへのメッセージ

国際医療福祉大学大学院に入学された皆様、おめでとうございます。心より歓迎いたします。ここに、2026 年度の履修および学生生活の手引きをお届けします。この手引きが本学大学院で研鑽を積まれるにあたり、必要な情報をまとめた指南役としてお役に立つことを願っています。

我が国において、大学院は、知の生産、価値創造を先導する高度な人材「知のプロフェッショナル」の育成を中心的に担うことが期待される存在とされています。激動する社会の中で、皆様、是非、「知のプロフェッショナル」としての基盤を本学で作っていただければと思います。また、本学大学院は、仕事を持つ社会人の方も数多く在籍されていますが、人生 100 年時代が訪れようとしている中、大学院で学び直すことの意義が更にクローズアップされているのではないかと思います。本学での新しい学びの貴重な経験が、皆様のライフステージにおいて飛躍の契機となり、輝ける未来への扉を開いてくれることを期待しています。

本学大学院は、わが国の保健・医療・福祉の分野で指導的な役割を果たすことができる高度医療福祉専門職の人材の育成を目的に 1999 年に開設され、四半世紀が経過しました。本学大学院は、時代が必要とする分野や領域を我が国の先駆けとなり常に開拓してきましたが、現在、4 研究科・8 専攻に 50 以上の分野や 100 以上の領域・コースを用意して多彩な学びの場を提供しており、既に、修士・博士課程合わせて 5,500 名を超える修了生を送り出すことができました。卒業生は多彩な専門分野において、学会や学術団体のオピニオン・リーダーとして活躍しています。皆様もぜひ、豊かな学際性や国際性を生かし、このような先輩方に引き続き、本学が目指している建学の精神 －病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現－ に力を注いでいただきたいと願っています。

本学大学院は絶えずイノベーションを実現できる高度なエキスパート・知のプロフェッショナルの育成に注力していますが、単に研究における知的創造のみを目標にしているのではありません。本学では、常に、院生の皆様の人間的なさらなる成長と、心身の健康を守ることを最優先として、最適な勉学環境の提供を心掛けるよう努力してきました。ポストコロナ時代においても、改めて、教職員の緊密なネットワークの形成、教学マネジメント機能の十分な発揮、および学習者に寄り添った、学習者本位のプログラムと教育内容の提供を心がけていきたいと考えています。その効果を十分に生かすためにも、院生の皆様もこの手引きを参照して大学院におけるシステムを良くご理解いただき、ルールを守って学習目標の達成に邁進していただきたいと望んでいます。もちろん、研究テーマに関してよい研究を行って修士・博士の学位をとることは重要ですが、是非、それにとどまらず、多くのことを吸収していただき、共生社会の実現に貢献できる医療人になって下さい。

どうぞ本学において、多くの仲間と新しい絆を手に入れ、大いにキャンパスライフをエンジョイして下さい。皆様のご活躍を期待いたします。

大学院長　矢冨　裕

国際医療福祉大学大学院への進学、おめでとうございます。

大学院とは科学的思考とそれに基づいた行動を学び、身に着けていくためのプロセスであり、具体的には大学で学んだ知識や技術をさらに専門的に発展させるための最高の教育機関となります。皆さんはそこに進学したことになり、これから医療福祉に関する課題の解決に研究という視点からチャレンジしていくことになります。

近年、研究に関して様々な倫理的問題が社会的に話題になっており、研究者としての高い倫理観が必要となります。さらにこの大学院は医療福祉に特化しており、医療福祉に携わる者としても高い倫理観も求められているところです。是非、それを忘れずにいてください。

さて研究を進める中で困難な状況に出会うかもしれません。そのときには指導教員や同僚などに支援やアドバイスを求めましょう。そして、一つ一つ解決して行ってください。解決できたときの喜び、達成感はきっと大きなものです。そしてその研究成果は発表して多くの意見や批評を受けましょう。それらはさらに良い研究成果につながります。

皆さんの努力と成果は医療福祉の発展に寄与するとともに、皆さんの将来の勇気やモチベーションに繋がるものです。頑張ってください。

（副大学院長　伊豫雅臣）

国際医療福祉大学大学院への進学、おめでとうございます。

皆さんは、将来どのようなキャリアを歩みたいのか、熟考され自らの目的に合った大学院として国際医療福祉大学院を選ばれたことと思います。大学院の主要な目的の一つは、修士・博士の学位を取得することですが、同時にその学位取得過程での学びは、これまでの経験とは比較できないほどの広さと深さをもちます。

大学院は自らの興味・関心のある分野について主体的に深く学び、研究する場です。論文執筆や研究の過程では、答えがある課題に取り組むのではなく、自らが課題を設定し研究成果を示すことになります。従って、研究テーマに関して問題意識を持って批判的に考え、様々な視点から調査・分析、考察する力等が養われます。日々の授業や演習、論文執筆に向けた研究活動を通じて、専門性の高い知識や技能、論理的思考力、プレゼンテーションスキルを身につけることができるとともに、批判的に考える力が養われます。

本学の大学院で学ぶ院生の特徴は、社会人大学院生が多いということです。二足の草鞋をはき、仕事と研究、そして通常の生活を送るためには、大学院が提供する学ぶ環境が重要です。本学の学ぶ環境は、多彩なカリキュラムはもとより、学ぶ方法も院生の状況を踏まえて柔軟に対応しています。

研究活動を行う期間は苦しいながらも、振り返れば満足感、達成感の得られる期間になることまちがいありません。大学院での研究活動の経験が、皆さんの自律性を一層高め、これから先のキャリアの中で多いに役立つことでしょう。ロードマップを作成し、着実に進めて行っていただきたいと思います。

教職員一同、皆さんの学ぶ環境を整え、支援して参ります。

（副大学院長　福井トシ子）

本学について

1-1　本学大学院の沿革

国際医療福祉大学大学院は、我が国の保健・医療・福祉の分野において、指導的な役割を担うことが期待できる高度医療専門職の人材を集め育成することを願って 1999 年に開設されました。仕事を持つ社会人にも十分な研究環境を提供できるよう、さまざまな配慮をした、他に類を見ないユニークな大学院です。現在、大学卒業後すぐに進学した大学院生はもとより、すでに医療福祉の現場で働いている社会人の大学院生も多く学んでいます。

年	事柄
1999 年	医療福祉学研究科 保健医療学専攻（修士課程）開設
2001 年	医療福祉学研究科 保健医療学専攻（博士課程）、医療福祉経営専攻（修士課程）開設
2004 年	公開講座「乃木坂スクール」開講
2007 年	医療福祉学研究科 臨床心理学専攻（修士課程）開設 （2008 年 4 月（財）日本臨床心理士資格認定協会第 1 種指定）
2008 年	文部科学省『がんプロフェッショナル養成プラン』に基づき、以下のコースを開設 「がん治療放射線技師コース」、「がん登録専門コース」、「がん薬物療法認定薬剤師コース」
2009 年	薬科学研究科 医療・生命薬科学専攻（修士課程）開設（現：生命薬科学専攻）
2012 年	薬学研究科 医療・生命薬学専攻（博士課程）開設
2013 年	文部科学省『がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン』に基づき、以下のコースを開設 「がん先端医療に対する多職種連携重点コース」
2018 年	医学研究科 医学専攻（博士課程）、公衆衛生学専攻（修士課程）開設
	文部科学省『がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン』に基づき、以下のコースを開設 「ライフステージに対応したがんプロフェッショナル多職種協働人材育成コース」、 「ゲノム解析医療・希少がん診療に精通した医療者育成コース」
2024 年	医学研究科 公衆衛生学専攻（専門職学位課程）開設
	文部科学省『がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン』に基づき、以下のコースを開設 がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材育成コース がん個別化医療・創薬の推進を目指したｹﾞﾉﾑ医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース がん看護 CNS コース

1-2　教育理念とポリシーについて

本学大学院の教育理念

国際医療福祉大学は、「人間中心の大学」、「社会に開かれた大学」、「国際性を目指した大学」という３つの基本理念と、この理念を実現するための７つの教育理念（人格形成、専門性、学際性、情報科学技術、国際性、自由な発想、新しい大学運営）とを掲げ、病む人も、障害のある人も、元気な人も、互いに互いを尊敬しあいながら「共に生きる社会」の実現を目指した教育を行っています。

国際医療福祉大学大学院（以下「本大学院」という。）は、上記の基本理念と教育理念とを踏まえながら、学校教育法が大学院の目的として「高度の専門性が求められる職業についてそれを担うための深い学識と卓越した能力を培うこと」及び「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめること」の２つを掲げていることを念頭に置いて、保健医療福祉分野において、特に国際性を身につけた指導的な専門職業人を養成することを目指しています。

とくに修士課程では、「保健医療福祉の分野において他分野を理解し、連携することのできる高度専門職または研究職」を育成することをめざし、博士課程では、「保健医療福祉の分野において高度な研究能力を有し指導者的役割を果たすことのできる人材」を育成することを目標にしています。

本大学院教育は以上の趣旨を踏まえ、この目標を達成するため、以下に示す大学院における４つの教育理念を掲げています。

1.　専門性：　修士課程では、大学を卒業した保健・医療・福祉分野の専門職またはこれに準じる人々に高度かつ先進的な専門教育の場を提供することにより、高度専門職を養成する。また博士課程の学生、および修士課程でも研究者を志す学生には、徹底した研究指導を行う。

2.　学際性：　種々の領域の講義を聴講できる、あるいは他領域の教員や学生と討論を行うことができる場の提供により、保健・医療・福祉分野の幅広い視野を持つ専門職の養成に努める。

3.　学術性：　各教員が、日進月歩する保健・医療・福祉の高度化・専門分化に対応した教育と研究の推進に努める。

4.　利便性：　働きながらでも学修できる授業時間割編成、Web コミュニケーションツールによる双方向授業の導入などにより、従来なら時間的、空間的制約のため大学院教育を受けられなかった社会人に対して大学院教育の門戸を開く。

国際医療福祉大学大学院アドミッション・ポリシー

大学の基本理念・教育理念および大学院の教育理念をふまえて、本大学院が入学者に求める要件は、以下のとおりである。

１. 国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を有していること。そのための豊かで幅広い人間性と高い倫理的責任感を有し、生命の尊厳を尊重できる感性を有すること。

２. 保健・医療・福祉の専門分野でトレーニングを受けるための基礎知識を有し、研究や実践を通じて自らの能力を活かそうとする強い意欲と積極性を有すること。

３. 大学院の勉学における自らの目的を明確に意識していること。すなわち保健・医療・福祉分野における課題への追求意欲を持ち、自己啓発に積極的であること。

４. 個別的な知識を統合し、科学的エビデンスを分析できる論理的思考力を持ち、実践家又は教育・研究者としての自立性を志向する者であること。

５. 保健・医療・福祉の発展に寄与する意欲を有し、生涯にわたり専門職としての社会への貢献と後進の指導を行うことを目指していること。

６. 志望分野が特定の要件を要求する場合、それを満たしていること。

各研究科が入学者に求める学生像は、大学院が入学者に求める要件をふまえ以下のとおりである。

●医療福祉学研究科

医療福祉学研究科では、医療福祉の各分野における高度な研究開発能力を備え、また高度な専門技術の実践を担う人材を育成することを目的としており、入学者に求める学生像は、以下のとおりである。

1)保健医療福祉分野において国際的視野に立ち、多様化する保健医療福祉の需要に対応できる高度な専門職業人を目指す者であること。

2)保健医療福祉分野において専門職業人として活躍しうる基本的知識と能力を備え、様々な医療福祉上の問題に対して積極的に取り組む姿勢を示す者であること。

3)学術研究と臨床実践をバランス良く推進して、将来保健医療福祉分野のリーダーとして活躍しうる指導的な専門職業人として成長してゆく意欲を有する者であること。

4)保健医療福祉分野の知識を礎として、自らの研究分野において課題解決に向けて積極的に研究を実施する意志を有する者であること。

各専攻では入学者選考において、以下の点が問われる。

【保健医療学専攻（修士課程及び博士課程)】

本専攻の修士課程では、保健医療の分野における高度な専門家（研究者、教育者、高度専門職業人）の育成を目的としている。

本専攻では看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、視機能療法学、福祉支援工学、放射線・情報科学、臨床検査学、及びその他保健医療等を構成する各種の学術に関し、保健医療学に関する基本的な知識を礎として、論理的思考過程や研究能力を習得し、健康の増進や疾病の克服に寄与しようとする意欲のある者を求めている。さらに、自領域を超えた視野を持ち連携を図る力を高め、保健医療の各分野において高い学識を有する指導者として分野の発展に貢献する意欲のある者を求めている。

また時代の新たな需要に応え、特定行為看護師、生殖補助医療胚培養士、助産師、遺伝カウンセラーなどの高度専門職の分野に置いて実践的に大いに活躍する意欲を有する者を求めている。

本専攻の博士課程では、保健医療の各分野における先進的研究を推進する研究者の養成を目的とし、独創的研究能力を有する者を求めており、看護学分野の管理実践看護学領域（Doctor of Nursing Practice：DNP）では、高度な実践を政策・管理的に取り組むことのできる人材の育成を目的とし、高度な実践力を有するものを求めている。また国内外において指導者としてそれぞれの分野で指導的な役割を果たし、分野の発展に貢献する意欲を有する者を求めている。

【医療福祉経営専攻　（修士課程)】

本専攻においては、医療福祉機関の管理運営及び福祉の提供に関し、研究開発又は高度専門技術の実践を担う人材を育成することを目的としている。

本専攻は、深い学識と能力をもつ人材を送り出すことを目的としており、医療と福祉をさまざまな角度から学ぶことで、つねに時代の要請に応えられる人材として社会に貢献しようとする意欲を持つ者を求めている。医療介護福祉の現場の実践者として、医療事業の経営管理や診療情報アナリストと

して、あるいは医療ジャーナリストや医療通訳者として、改めて医療福祉をとらえ直し自己研鑽を図ろうとする意欲を有する者を求めている。

【臨床心理学専攻　（修士課程）】

本専攻においては、臨床心理学の分野における研究能力を備え、医療、福祉、教育、司法・矯正、労働・産業などの分野に関し、今日的な社会的要請に応えうる臨床心理の実践を担う人材を育成することを目的とする。

本専攻では、研究者や教育者はもとより、本学の特色である他分野の専門職と協働して医療福祉に貢献でき、そして現代社会のニーズに応えることのできる高度専門職業人としての臨床心理士を目指す意欲を有する者を求めている。また、本学大学院では、公認心理師の資格取得を目指す者も対象としている。

●薬学研究科

【医療・生命薬学専攻　（博士課程）】

１）国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、高い倫理観を持った高度専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を有する者であること。

２）薬学分野の先端研究を国際的に推進する意欲と語学能力を有しており、高度な修練実施により薬学または薬物治療上の問題に対して積極的に取り組む意欲を示す者であること。

３）薬学研究者または高度専門職業人としての自覚を持ち、大きく変貌を遂げる薬学の未来を担う意欲を示すものである者であること。

４）多様化する薬学の需要に指導的立場で対応できる薬学研究者または高度専門職業人を目指し、薬学や医療福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を有する者であること。

５）薬剤師として医療や薬学研究・教育の現場において、常に自己研鑽に務め、薬物療法の発展に係わる目的を有する者であること。

●薬科学研究科

【生命薬科学専攻　（修士課程）】

１）国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、高い倫理観を持って薬学研究者または高度専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を有する者であること。

２）薬学分野の先端研究を推進し、研究の実施により薬学または臨床上の問題に対して積極的に取り組む問題解決能力を醸成する意思を持つ者であること。

３）薬学研究者または高度専門職業人としてライフサイエンス分野における高度の研究を実施し、医薬品開発に携わる研究者・技術者さらに薬学・環境行政や教育者を目指す者であること。

４）多様化する薬学の需要に対応できる薬学研究者または高度専門職業人を目指し、薬学の発展に貢献したいという強い意志を有する者であること。

５）臨床や医薬品開発研究の現場で問題点を抽出した上で、自らの研究分野において自らの専門性を持って探求し、質の高い薬学研究に寄与する意志を有する者であること。

●医学研究科（博士課程）

医学研究科では、医学の分野における高度な研究能力を備え、また高度な専門技術の実践を担う人材を育成することを目的としており、入学者に求める学生像は、以下のとおりである。

１）国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、高い倫理観を持って医学研究者または高度専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を有する者であること。

２）医学・生命科学分野の先端研究を国際的に推進する意欲と語学能力を有しており、高度な修練実施により医学または医療上の問題に対して積極的に取り組む意欲を示す者であること。

３）医学研究者または高度専門職業人としての自立性を志向する者であること。すなわち果敢に挑戦する独創性と創造力で、大きく変貌を遂げる医学・医療の未来を担う意欲を示すものである者であること。

４）多様化する医学・医療の需要に指導的立場で対応できる医学研究者または高度専門職業人を目指し、保健・医療・福祉分野の発展に貢献したいという強い意志を有する者であること。

【医学専攻　（博士課程）】

国際的に活躍できる医学研究者、および専門医や行政官等、博士号を取得し高度専門職業人を目指す者を求めている。

基礎医学研究分野では、科学的な仮説を設定し、実験により証明して新たな知識を創造するというプロセスの重要性を理解する者、学習・研究活動を通じて単に業績をあげることだけに留まらず、独立した研究者になるための基盤を身につけることに意欲を示す者を求めている。また、国際的な研究者を目指し、診療現場の疑問を科学的に解決する「トランスレーショナル・リサーチ」の実現を目指す者を求めている。

社会医学研究分野では、国際社会・地域社会の健康増進、保健福祉の向上、医学教育の発展などに貢献できる研究者を目指し、予防医学や公衆衛生学の視点で、統計学や医療情報学などの手法を習得することを目指す意欲を有する者を求めている。また。基礎医学、臨床医学とも強く連携しながら社会医学研究の発展を目指し、世界の第一線で活躍する意欲を示す者を求めている。

臨床医学研究分野では、臨床での疑問から経験や症例を増やし、国内外との比較など臨床研究の発展に貢献する意欲を有する者、細胞生物学、分子生物学などの新知見や、遺伝細胞工学、再生医療などの新技術を取り入れた先進的臨床研究を行なう専門家を目指そうとする意欲を有する者を求めている。

●医学研究科（専門職学位課程）

１）国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志をもつ者であること。

２）大学院での専門能力獲得の意欲とそれに必要な基礎的知識及び語学能力を有しており、さらに本大学院で国際性を身につけ、国内外の医学・公衆衛生学上の問題に対して積極的に取り組み、保健、医療、福祉分野の発展に貢献したいという強い意志をもつ者であること。

３）実践家または教育・研究者としての自立性を志向する者であること。

４）多様化する公衆衛生分野の需要に対応できる指導的な専門職業人を目指し、本大学院において大学院教育を受けたい者であること。

【公衆衛生学専攻　（専門職学位課程）】

国際保健・感染症学分野では、医療の国際化に伴う国内外の医療現場などで起こり得る各種の課題解決に取り組み、国際的な政策提言に意欲を示す者、また、感染症の状況を世界的な視野で捉え、医療現場において感染症のコントロールに参画でき、専門的立場からアドバイスを与えられることを目指す者を求めている。

医療福祉政策・管理学分野では、超高齢者社会を見据え、医療・福祉・介護政策の現状と課題を理解しながら解決策を打ち出せることを目指す者、また、システム科学・情報科学の知識を基盤にして、日々専門化・複雑化が進む医療福祉の分野で、データを収集・解析し、フィードバックあるいはストラテジーを立案できることを目指す者を求めている。

疫学・社会予防医学分野は、臨床試験に不可欠な統計学、医学研究のデザイン等に役立つ疫学、薬剤疫学など、医療全般でのデータ解析・評価ができる専門家を目指す意欲のある者、母子保健、老人保健、産業衛生など医学・公衆衛生上の諸問題に適切に対処し、課題を解決することに意欲を有する者を求めており、特に健康予防医学では、健診医学に関連したデータ分析から有用な健診・検診方法を習得・研究し、人間ドック運営や健診事業の政策などヘルスプロモーションに積極的にかかわる意欲を有する者を求めている。

『大学院の入学者選抜方針と基準』

１．入試区分は以下のごとくである。
１）一般入試：各専攻・分野の出願基準を満たしていれば、誰でも出願できる。
２）社会人入試：一般入試の出願資格を満たし、かつ各分野が指定する年数以上の職務経験がある者などを対象として施行する。
３）留学生入試：本大学院への出願資格を満たし、入学時までに「留学」の在留資格が得られる日本以外の国籍を有する者を対象として施行する。
４）学内推薦入試：国際医療福祉大学卒業（見込）者、国際医療福祉大学大学院修了（見込）者を対象として施行する。
分野・専攻によっては一部の入試区分を用いて入試を実施する。その要項については別に定める。

２．出願資格は原則として以下のごとくである。
１)修士課程においては、４年制大学を卒業した（卒業見込みを含む）あるいは学士の学位を授与された（授与見込みを含む）者、または入学時点で満２２歳以上であり本大学院による出願資格審査において４年制大学を卒業同等以上と認められた者。
２)博士課程においては、医療福祉学研究科では修士の学位または専門職学位を取得した者（取得見込みを含む)、薬学研究科では薬学部を卒業した者（卒業見込みを含む)、医学研究科では修士の学位を取得した者（取得見込みを含む）または６年制の課程（医学、歯学、獣医学、薬学）を卒業した者（卒業見込みを含む)。
　出願資格の詳細については別に定める。なお、志望分野が特定の要件を要求する場合、それを満たしている必要がある。

３．選抜方法は以下のごとくである。
１)分野・専攻によってそれぞれ試験日および試験場〈キャンパス〉を設定して入試を実施する。
２)試験は学力、人物などを総合的に評価して実施する。その要項については別に定める。
診療を遂行できる。

国際医療福祉大学大学院カリキュラム・ポリシー

大学及び大学院の教育理念を踏まえ、本大学院教育を通じて人材育成の目的に応じた以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定して教育を行う。

●大学院共通のカリキュラム体系は以下の如くである。
（IUHW-GS-CP1ー9）
１.ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、必ず履修して単位を修得しなければならない「必修科目」を設定している。また、所定の選択科目群より指定単位を必ず履修しなければならない「選択必修科目」を設定している場合がある。
進級、修了に必要な必修科目及び選択必修単位数の内容と下限数を各分野別に指定している。

２.幅広い知識や視野を身につけるため、所定の範囲から自由に選択して履修できる「選択科目」を設定している。在学期間中に上記の必修科目と選択科目を合わせて必要な単位数を修得する必要がある。

３.研究科において、医療福祉系大学院生として必要な基本的・普遍的な知識や幅広い教養を教授する「共通科目」を設定している。また、分野における教育目標を達成するために専門性の高いかつ重要な知識を教授する「分野共通科目」を設定している場合がある。

４.共通科目が必修あるいは選択科目として設定されるかは、分野のプログラムにより異なる。他研究科の院生が共通科目を履修できるか否かは、それぞれの履修条件による。

５.研究科において、各専門領域の専門家としてディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために必要な講義、演習、実習、研究指導などを「専門科目」として設定している。

６.専門科目が必修あるいは選択科目として設定されるかは、分野のプログラムにより異なる。他研究科の院生が共通科目を履修できるか否かは、それぞれの履修条件による。

７.研究指導は学位取得のための研究を指導するもので、学位論文（あるいは課題研究）の作成に必要な教育科目であり、必修専門科目として設定される。

８.国家資格あるいは学術的な専門資格取得を目指す大学院生のための開講科目を「制度上の科目」として必修あるいは選択科目として設定している分野がある。

９.仕事を持つ社会人学生に対する教育的配慮として、同時双方向遠隔授業やｅラーニングなど多様なメディアを高度に利用した授業の導入、開講時間の配慮、長期履修制度の導入などを積極的に実施している。

１０.学業の指導体制としては、大学院生は希望進路と適切な評価を元に指導教員及び副指導教員を決定し、それぞれの専門分野に配属される。大学院生は、上記の科目を修得し、分野のゼミナールの

履修や研究指導を通じて研究成果を発表し、学位論文あるいは課題研究成果を作成する。

１１.科目の到達目標、授業内容、履修方法や年間計画、成績評価方法についてはシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価する。

各研究科のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりである。

●医療福祉学研究科のカリキュラム・ポリシー

（GS-HWS-CP-１ー５）

医療福祉学研究科では、医療福祉の各分野における高度な研究開発能力を備え、また高度な専門技術の実践を担う人材を育成することを目的としており、教育理念あるいは学位授与方針で示す目標を大学院生が達成できるよう、次の方針に則り教育課程を編成・実施する。

１.国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を涵養するために必要な授業科目を設定する。修士課程の共通科目において、研究・教育の方法の基礎知識、人間・集団・情報システムに関する概論、保健・医療・福祉に関する動向などを学ぶ科目を用意する。博士課程の共通科目としては博士課程のための研究法指南を提供する。これらを提供することにより、専門家としての素養を涵養する。

２.保健医療福祉分野において明確な目的意識を持ち、専門職業人としての使命感、倫理観など医療プロフェッショナリズムを備え、専門分野での研究や臨床を実践できるように必要な授業科目を設定する。医療のバックグラウンドを有さない非医療系出身者に配慮して、医学の基本知識を養うため医学系概論教育を行う。また医療倫理やわが国での医療政策に関する教育などを提供する。

３.大学院生が明確に専門医療人としての立場を自覚し、専門分野における幅広い知識、技能と判断力を修得できる科目を設定する。すなわち、それぞれの専門領域の講義・演習・実習科目を通じて深い学識を培い、卓越した教育・研究能力の獲得を目指す。

４.専門医療職業人としての自立性を確立でき、卓越した臨床能力を発揮し、指導的立場で活躍できるためのプログラムを設定する。実践的臨床能力を磨くための専門資格の取得のための配慮をおこなう。また、応用性、学際性あるいは知識の統合的理解を培い、他分野との積極的コミュニケーションを取れるチーム医療能力を涵養するための指導もおこなう。さらに国際性を培い、国際的な活躍に必要な科目の設定もおこなう。

５.論理的思考を習得し、研究成果を発表できる能力の育成を目的とした科目を設定する。修士論文や課題研究の研究指導、博士論文の研究指導（研究課題の明確化と計画作成、文献検索、データ収集・分析、論文作成）などの科目を設定する。

６.科目の到達目標、授業内容、履修方法や年間計画、成績評価方法についてはシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

【保健医療学専攻】

保健医療学専攻は、看護学、理学療法学、作業療法学、言語聴覚学、視機能療法学、福祉支援工学、放射線・情報科学、臨床検査学、及びその他保健医療等を構成する各種の学術に関し、研究開発又は高度専門技術の実践を担う人材を育成することを目的とする。

＜看護学分野＞

看護学分野では、修士課程で看護学研究法、看護教育論、看護倫理学を始めとする多彩な分野共通科目を設定し、看護学の基礎教育を修了した学生が各自のもつ学問的な関心を土台とし追究課題を定め、それを科学的に探究する過程を学べるように、基本的かつ体系的知識を学ぶ機会を提供する。看護学は看護の実践の質を高めることが重要であり、看護の科学的探究と看護実践との関係がいろいろな角度から議論される。

博士課程では、看護学研究者の育成をめざし、看護の専門性をより広い視野からとらえ、それを高めるための学問的探究の方法論を確実に身につけていく科目を設定する。看護学研究者は独立して看護学の研究を行う能力をもつだけではなく、研究グループをリードする能力も求められる。そのため本課程では、広く関連領域の専門家とふれあい、知識を学ぶとともに学問的交流の機会を提供する場を設ける。

看護管理・政策学領域、看護教育学領域、看護実践基礎・援助学領域、感染管理・感染看護学領域、精神看護学領域、リプロダクティブヘルス看護学領域、小児看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、家族看護学領域、在宅看護学領域、公衆衛生看護学領域ではそれぞれ修士課程・博士課程を設け、専門領域の知識や実践看護力、教育能力、研究能力を身につけるための、講義・演習、研究指導などの専門科目を設定する。

管理実践看護学領域（Doctor of Nursing Practice：DNP）は実践に焦点を当てた博士課程である。専門的な高度看護実践のエキスパートを育成するために設定されており、信頼できる研究成果を応用した革新的でエビデンスに基づく実践に重点を置いている。実践重視型プログラムの学生は、知識を生み出す研究活動ではなく、一般に、総合的な実践経験の不可欠な部分である実践応用志向の「最終DNP プロジェクト（実装)」を実施する。そのため、実装科学研究に必要な科目を設定している。

公衆衛生看護学領域では修士課程に実践コースを設定し、保健師国家資格取得に向けた講義・実習を行い、課題研究指導を行う。

周麻酔期看護学領域では麻酔管理ができる人材育成を目的に修士課程に必要な知識と技術の習得を目指す科目を設定する。感染管理・感染看護学領域、がん看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域では修士課程に専門看護師に期待される役割および高度実践方法と課題解決に関する研究方法を習得する専門看護師教育コース（CNS コース）を設定している。国際看護学領域ではグローバルヘルスの課題を念頭に国際的な看護の向上に貢献できる人材育成を目的に修士課程に必要な知識と技術の習得を目指す科目を設定する。

看護学の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜特定行為看護師養成分野＞

特定行為看護師養成分野では、修士課程に保健師助産師看護師法に基づく特定行為に係る看護師を養成する指定研修機関として厚生労働省令に規定された、21 区分 38 行為すべての特定行為についての研修を提供していると同時に、日本 NP 教育大学院協議会に規定された診療看護師（NP）の研修を提供している。病態生理を考慮した専門領域の知識や実践看護力、教育能力を身につけるために必要な講義・演習、病院実習などの専門科目を設定する。さらに研究能力を身につけるための経験症例に関する課題研究指導を設定する。

特定行為看護師養成分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題研究達成状況などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜助産学＞

助産学では妊産婦や育児期の女性への支援を促進し、ウィメンズヘルス支援として思春期から更年期まで女性のリプロダクティブヘルス／ライツを検討する。

修士課程は修士論文コース、実践コースの２コースがある。いずれも助産師免許保有者が対象である。修士論文コースにおいては、助産学の研究者・教育者・管理者の育成を目指すものとする。助産学に特化したカリキュラムを充実し、女性及び子ども・家族の健康課題や助産師や助産師教育に関する課題に取り組む研究能力および高度実践力を培うための専門科目を設定する。実践コースにおいては、主に臨床や地域における実践能力の向上に必要な講義・演習、病院実習、助産所実習および課題研究などの専門科目を設定する。

博士課程においては修士課程での研究や高度実践を基盤とし、助産学という学問分野に蓄積できる学術研究の実施を目的に、研究活動に必要な講義、演習、博士学位論文研究指導などの専門科目を設定する。

助産学の成績評価方法は講義・演習参加の準備性・積極性、レポート評価またはプレゼンテーション能力の評価、課題達成状況、研究論文の進捗状況など、シラバスに記載される課題到達度を評価して判断する。

＜理学療法学＞

理学療法は科学としての研究が必要な分野である。理学療法士は、患者への適切な理学療法を提供するとともに、新規でより有効な治療法を発展させる必要性がある。

理学療法学分野の修士課程は、運動学を中心に人間の行動の一側面である運動(Movement)や動作(Action)のメカニズム解明を目的とした基礎理学療法学領域及び臨床場面で疾病・疾患から生じる運動障害などを科学的に探ることを目的に、より応用的な分野をカバーする応用理学療法学領域の２つの専門領域に分かれる。

修士課程では色々な専門領域の理学療法概論や画像診断あるいはリハビリテーションに関するリスクや評価指標など一般的な知識を習得する分野共通科目を設定する。科学的思考の基礎を身につけ、実際の研究を通して応用することを目的として、専門領域の知識や実践能力を身につけるための、講義・演習、及び修士論文研究指導などの専門科目を設定する。

博士課程も同様に基礎理学療法学領域及び応用理学療法学領域の２つの専門領域を有し、専門領域の知識や高度実践能力、教育能力、研究能力を身につけるための、講義・演習及び博士学位論文研究指導などの専門科目を設定する。特に博士課程においては、修士課程での科学的思考をもとに理学療法学の独創的研究を更に深め、指導的立場として若い世代の教育に携わり、理学療法学の将来の系統的発展を図るための専門科目を設定する。

また、両課程ともに、理学療法に関したセミナー、講習会などを積極的に開催し、専門領域の科学的思考の開発と研究能力の向上に貢献する。

理学療法学の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜作業療法学＞

作業療法学は、対象者の疾患特性や個々の事例性に着目し、医学モデル及び社会モデルに基づくリハビリテーションに重要な役割を果たす、当たり前の日常生活を科学的な視点で捉える学問体系である。

修士課程は、作業活動とその遂行を科学的にとらえる作業活動分析学領域、作業療法の実践を支える原理を探る作業活動支援学領域、精神機能の障害及びその周辺分野に関して作業療法の実践的研究を行う精神神経障害作業療法学領域及び感覚運動障害を持つ人々に対して作業活動を活用し介入する感覚運動障害作業療法学領域の４つの専門領域に分かれる。作業療法学修士課程では作業療法学の基礎から応用実践に至る各側面についての研究法の教授と実践を通じて、作業療法の実践能力とともに研究指導能力を兼ね備えた、人間性豊かな実践家、教育者ならびに研究者を養成するために、講義・演習、及び修士論文研究指導などの専門科目を設定する。また、修士課程では作業療法の動向を学ぶ分野共通科目を用意する。

博士課程は、作業活動分析学領域、作業活動支援学領域、２つの専門領域を有している。作業療法におけるさらなる高度な専門実践能力を有するとともに研究能力を深め、指導的役割を果たせる優れた教育者ならびに研究者を養成するために、講義・演習、及び博士学位論文研究指導などの専門科目を設定する。

作業療法学の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜言語聴覚分野＞

言語聴覚分野は健常な言語・聴覚・コミュニケーション・嚥下過程を科学的に究明し、それを基盤として各種障害の病態、予防、診断、治療法等を探究し人々の健康と福祉に貢献することを目指している。

修士課程は、幅広い年齢層に生じる言語、聴覚、認知の障害について最新の知識と臨床技法を修得する言語聴覚障害学領域と幅広い年齢層に生じるスピーチの障害および摂食嚥下障害の臨床と研究の基礎について学ぶ発声発語・嚥下障害学領域の２領域を有する。また、高度の臨床活動を行い、新たな理論や技術を創出できる高度専門職業人、臨床の指導者、教育者、研究者の育成を目指し、講義・演習の専門科目を設定し、確かな研究技能の修得を図り修士論文研究指導の専門科目を設定する。

博士課程は言語・コミュニケーション障害および認知機能障害の基礎と臨床に関する優れた研究を実践する言語障害学領域、各種聴覚障害とそれに伴う認知・コミュニケーション障害の研究を実践する聴覚障害学領域及びスピーチの障害および摂食・嚥下障害の研究を実施する発声発語・摂食嚥下障害学領域の 3 領域に分かれ、優れた研究を通じて臨床と学問の発展に貢献できる研究者、教育者、臨床の指導者の育成と、また近接する学問分野との学際的研究を推進し、国際的に活躍する人材の育成を目指し、講義・演習の専門科目を設定する。また、先端技術を用いた研究技法を修得し、オリジナリティのある本格的研究を進める博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

言語聴覚分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜視機能療法学分野＞

我々の視覚は精緻な光学系と視覚神経系により成立し、他の感覚機能と相まって、認知や判断などの高次脳機能と密接に関係している。視機能療法学分野では、視覚科学に関連する幅広い領域で活躍できる高度な知識と応用性を有する専門家・教育者・研究者を目指す人材の養成を目的としている。

修士課程では視覚の基礎的及び臨床的研究を通じて、探求心や思考力を養うとともに実践的な研究

技法を修得することを目指し、講義・演習、修士論文研究指導の専門科目を設定する。

博士課程では、単に視覚科学のみならずチーム医療の経験や他領域との学際研究を推進することで、新たな課題を解決できる専門家・研究者の養成を目指し、講義・演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

視機能療法学分野の成績評価方法についてはシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜福祉支援工学分野＞

福祉支援工学分野では、修士課程は動作分析を中心として人の動きを工学的な視点から研究し臨床や用具の活用に役立てることを目的とする福祉支援工学領域と福祉用具の選定相談、開発に係る人を対象に社会学的、人間工学的な視点からの研究を行う福祉用具管理指導者領域の２領域から構成される。さらに後者は「福祉用具プランナー管理指導者」の協会資格が取得できる福祉用具管理指導者コースと福祉用具コースの２コースを用意している。それぞれの講義・演習、論文研究指導の専門科目を設定し、福祉用具管理指導者コースでは課題研究指導も選択できる。

博士課程は福祉支援工学領域で設定されており、高度な実践や研究を深め指導的役割を担うことを目的に、講義、演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

福祉支援工学分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜リハビリテーション学分野＞

リハビリテーション学分野では、リハビリテーションに関する様々な領域の学問を網羅しており、実務者として高度な知識と実践力を体得するとととともに、研究者としての実力の育成を目的としている。修士課程、博士課程を設け、専門領域の知識や実践行動力、教育能力、研究能力を身につけるための、講義・演習、学位論文研究指導などの専門科目を設定する。

博士課程においては独立した研究者としての能力の育成を目指し、リハビリテーション関連のリーダーとしての次世代の研究者の育成を目指し、講義、演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

リハビリテーション学分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜放射線・情報科学分野＞

放射線・情報科学分野では、医用診断および放射線治療機器に係る基礎研究や臨床応用のための研究や新方式の開発などに取り組むため、修士課程と博士課程に医用画像学領域と放射線治療学領域の２領域を設ける。

両領域ともに修士課程に医学物理士認定機構の認定取得を目指す医学物理コースを設け、放射線治療学領域はがん治療放射線技師コースを基盤研究コースに加え設定している。各コースは「修士論文プログラム」と「臨床実習プログラム」を用意し、前者は、研究教育力を身につける講義・演習、学位論文研究指導などの専門科目を設定し、後者は臨床の現場で活躍できる診療放射線技師の育成を目

指し、講義・演習・実習及び課題研究指導を設定する。

博士課程では、他領域のスタッフと協力して多彩な領域をカバーできる高度な専門実践力、研究能力及び教育指導力を養うため、講義・演習、博士学位論文研究指導などの専門科目を設定する。

放射線・情報科学分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜生殖補助医療胚培養分野＞

胎生学者は生殖補助医療（ART）において、卵子や精子を管理して胚の生体外での成長を促す重要な役割を果たす。生殖補助医療胚培養分野では、教育機関において胚培養士の養成に特化した正式なコースとして、生殖医療に関する集学的、学際的な知識及びラボワークに必要とされる技術をバランス良く習得し、科学的思考を有する胚培養士を養成することを目指しており、修士課程・博士課程を設けている。

専門領域の知識や実践臨床能力あるいは研究能力を身につけるため、修士過程では講義・実習・課題研究指導の専門科目を設定する。なお修士課程の実習に関しては、既に胚培養士として勤務しており委託契約を締結できた場合、委託実習を選択することもできる。

博士課程では、生殖補助医療における深い知識、高度な実践能力、優れた研究能力を修得するため、講義・演習、博士学位論文研究指導などの専門科目を設定する。

生殖補助医療胚培養分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題研究達成状況などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療福祉教育・管理分野＞

医療福祉教育・管理分野では、教育の原理や方法論、管理学など医療福祉教育機関において質の高い教育を実施できる人材、医療福祉施設において組織を効果的・効率的に管理できる人材の育成を目的としている。修士課程では専門領域の知識や教育・管理能力、研究能力を身につけるための講義と修士論文研究指導科目が設定された 2 年で修了するコースに加え、既に豊富な実務経験を有する者を対象にして、e ラーニングや集中講義を活用し、より実践的能力を身につけるための講義と課題研究指導が設定された 1 年で修了するコースが用意されている。

博士課程では、医療福祉の教育施設における高度な研究能力を有した教職員を養成するため、講義・演習、博士学位論文研究指導などの専門科目を設定する。

医療福祉教育・管理分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜臨床検査学＞

臨床検査学における検査手法は科学技術の急速な発達を反映して急激な進歩を遂げており、多数の疾患に対する検査試験が開発されている。

臨床検査学分野では、修士課程及び博士課程を設けている。修士課程では、現状の検査知識および技術を学ぶと共に、次世代に必要とされる検査法や機器・試薬の開発など、多方面からの研究を行い、研究的思考を兼ね備えた人材の育成を目指し、講義・演習・修士論文研究指導を設定する。また、臨床医学研究センターとの連携により細胞検査士養成コースを設置し、講義・演習・実習及び課題研究指導を設定する。

博士課程では、人々の健康を維持しより良質で安全な診療を促進すべく、臨床検査学における高度な研究能力を有した人材を育成するため、講義・演習、博士論文研究指導などの専門科目を設定する。

臨床検査学の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜遺伝カウンセリング分野＞

遺伝カウンセリング分野では、修士課程において高い専門性と豊かな人間性を備えた認定遺伝カウンセラーの育成を目標としており、専門領域のプロフェッショナルによる講義や演習、附属病院および多彩な提携施設での実習やゲノム解析実習、課題研究指導を設定し、社会人にも通いやすいカリキュラム内容とする。

遺伝カウンセリング分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題研究達成状況などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療遺伝学分野＞

医療遺伝学分野では博士課程において、ヒト医療遺伝学に関する研究能力を有し、医療施設の遺伝カウンセリング部門やゲノム研究施設、および教育機関において指導者的役割を担い活躍できる人材を育成するため、講義・演習、博士論文研究指導などの専門科目を設定する。

医療遺伝学分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜災害医療分野＞

災害医療分野では、修士課程において災害対応にあたる医療専門職や行政職などを対象として、組織の災害マニュアルや事業継続計画の策定、災害訓練の評価のあり方、災害対応に関連した教育プログラム開発、多職種連携の促進など災害時の保健医療対応での課題を解決していける人材の育成を目指し、講義、演習、課題研究指導などの専門科目を設定する。

博士課程では、災害時の保健医療対応における指導的な立場になると同時に災害医療における高度な研究能力を有した人材を育成するため、講義・演習、博士論文研究指導などの専門科目を設定する。

災害医療分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題研究達成状況などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療福祉経営学分野＞

医療福祉経営学分野では、医療経営管理分野の博士課程として、医療福祉に関わる経営・政策・情報等の研究課題に関してより深く探求し、幅広い分野の専門家から個別指導を受け研究論文の作成を目指し、講義、演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

本分野の主要研究テーマは、ヘルスケア管理、保健セクターでの地域開発分析、医療機器、医療用具、医薬品、医療政策及びヘルスケア法律調査に関する解析、ヘルスケアに関する資金調達、税金、意思決定の分析、及び公衆衛生的研究でその研究指導を行う。

医療福祉経営学分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜診療情報管理・分析学分野＞

診療情報管理・分析学分野では、診療情報アナリスト養成分野の博士課程として、医療の質の維持という高いモラルと、医療費の体系・経営管理手法の知識、および情報処理技術を身につけた人材の育成を目標している。

本分野では診療情報管理分析を通して、病院管理や医療の質の改善に関して病院管理者に提言でき、病院管理の多彩な分野をカバーする研究トピックスを体系化できる洗練された研究能力を有した卓越した人材の育成を目標して、講義、演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

診療情報管理・分析学分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療福祉国際協力学分野＞

医療福祉国際協力学分野博士課程では、わが国を取り巻く急速な国際化を見据え、医療現場における国際間の協力にかかる様々な問題解決に取り組む知識や能力を養い、専門的な立場から国際的な提言ができると同時に当該分野における卓越した研究能力を有する人材を育成する。そのための講義、演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

医療福祉国際協力学分野博士課程の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜先進的ケア・ネットワーク開発研究分野＞

先進的ケア・ネットワーク開発研究分野博士課程では、介護福祉学領域及びケアマネジメント学領域の２領域を擁している。保健医療福祉分野において介護福祉やケアの向上に向けてのリーダーシップをとり、広い視野から他職種との連携が取れ、ケアの現場が抱える問題に即して適切な教育・研究指導を行える人材の育成を目指し、講義、演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

先進的ケア・ネットワーク開発分野博士課程の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療福祉学分野＞

医療福祉学分野博士課程では、本学の特色を生かして福祉学、対人援助論と保健医療学の教員とが協働して研究指導を行い、地域包括ケア時代の医療、福祉、介護の制度の連携と協働の時代にふさわしい研究環境を提供している。さらなる保健医療・福祉専門職の専門能力、研究・教育指導能力の向上を目指し、講義、演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定する。

医療福祉学分野博士課程の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療福祉ジャーナリズム分野＞

医療福祉ジャーナリズム分野博士課程では、医療福祉ジャーナリズムの方法論を身につけ、指導者としての実力をつけることを目指している。すなわち、医療技術の進歩や医療政策や新たな医療福祉文化の創造に寄せる人々の関心とニーズを把握し、仮説の設定とその検証・分析を行うことは他の学問領域と共通した方法論を有するが、他分野と異なり、得られた成果を説得力のある文章や映像にまとめあげて、人々の心を動かし社会の変革に誘導する能力の獲得を必要とする。そのため専門能力、研究・教育指導能力の向上を目指し、講義、演習、博士学位論文研究指導の専門科目を設定し、さらに作品と論文を一対の成果物とする。

医療福祉ジャーナリズム分野博士課程の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜臨床心理学分野＞

臨床心理学分野博士課程では、臨床心理学専門職大学院を修了した者、または臨床心理士養成指定大学院を修了した者に対してより高度な教育研究の指導を行うことを目的とする。特に、医療福祉領域における臨床心理学上の諸課題に対して、国際的視野に立って研究および実践指導が可能なコンピテンシーを獲得できる人材の養成を目指し、講義、演習、博士学位論文研究指導を設定する。

臨床心理学分野博士課程の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

【医療福祉経営専攻】

医療福祉経営専攻においては、医療福祉機関の管理運営及び福祉の提供に関し、研究開発又は高度専門技術の実践を担う人材を育成することを目的としている。

＜医療経営管理分野＞

医療経営管理分野では、修士課程としてヘルスケア分野における高い経営戦略立案能力と第一線で活躍できる人物の養成を主たる目的とする「医療経営戦略コース（h-MBA コース）」と、ヘルスケアに関して専門的な研究を行う「医療福祉管理学コース（研究コース）」の２コースを開講している。h-MBA コースでは講義、演習、課題研究指導の専門科目を設定してヘルスケア分野に特化した MBA 取得を目指し、医療福祉管理学コースでは講義及び修士論文研究指導の専門科目を設定して論文作成を目指す。

医療経営管理分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜診療情報アナリスト養成分野＞

診療情報アナリスト養成分野では、修士課程として医療情報を医療の質の向上や病院経営に有効に活用できる医療情報分析の専門家や医療経営を支える実務者の養成を目指している。そのため診療情報管理の知識と技能を基礎として、診療記録の正確な記載や分析・評価を行い、その利活用により医療の質の向上や健全な運営に必要な情報を提供し、経営改善の提案ができる人材育成を目指し、実践コース、がん登録コース、研究コースの３コースを設定している。実践コース・がん登録コースでは講義、演習、課題研究指導の専門科目を設定し、がん登録コースでは更に実習を設定する。研究コースでは講義、演習及び修士論文研究指導の専門科目を設定する。

診療情報アナリスト養成分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜先進的ケア・ネットワーク開発研究分野＞

先進的ケア・ネットワーク開発研究分野では、修士課程として介護福祉・ケアマネジメント学領域、自立支援介護学領域、自立支援実践ケアマネジメント学領域の３領域を設定している。介護福祉学領域及びケアマネジメント領域では、介護福祉やケアの現場が抱える問題の改善に取り組み、その向上やケアシステムの開発、ケアに係る教育を担う人材の育成を目指し、学際的な教育・研究指導を行う。そのための講義、演習、修士論文研究指導の専門科目を設定する。

自立支援介護学領域及び自立支援実践ケアマネジメント領域は、より専門性の高い自立支援に向けた介護実践あるいはケアマネジメント実践を求め、質の高い専門能力や管理能力の向上を目指す１年修了コースであり、講義、演習、課題研究指導に加え実習科目を設定する。

先進的ケア・ネットワーク開発研究分野修士課程の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療福祉学分野＞

医療福祉学分野では、修士課程として地域包括ケアの時代の保健医療・福祉専門職の力量向上のために、支援を必要する人びとが地域での自立した生活が営めるよう社会サービス関連分野と連携して支援を行う専門能力の向上や福祉・介護サービスの経営管理能力の涵養のために、さらに保健医療の専門職に対して生活支援をはじめとする福祉への理解を深めるために、講義、演習、修士論文研究指導の専門科目を設定する。

医療福祉学分野修士課程の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療福祉ジャーナリズム分野＞

医療福祉ジャーナリズム分野では、修士課程として医療福祉関連施設における広報の重要性を背景として、医療福祉関連の基礎的な広範囲な知識を身につけ、医療福祉ジャーナリストとして自身の現場で調査研究などを実践しつつ、社会的要請に応え発信する知識・技術を深める人材育成コースを開設しており、そのための講義、演習、課題研究指導の専門科目を設定する。

医療福祉ジャーナリズム分野修士課程の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参

加姿勢、レポート評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

＜医療通訳・国際医療マネジメント分野＞

医療通訳・国際医療マネジメント分野では、修士課程として医療サービスの国際化に対応できる人材養成を目的として、医療通訳や国際医療事務に関する基本的な技術や知識と共に、医療機関等において国際医療サービスを展開していくために必要な経営戦略立案能力等を備えた人材の育成コースを開設している。実践力の向上を主眼とした1年修了コースでは講義、演習、課題研究指導に加え実習科目を設定し、研究能力向上を目指した修士論文コースでは講義、演習、修士論文研究指導の専門科目を設定する。

医療通訳・国際医療マネジメント分野の成績評価方法はシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

【臨床心理学専攻】

臨床心理学専攻においては、臨床心理学の分野における研究能力を備え、医療、福祉、教育、司法・矯正、労働・産業などの分野に関し、今日的な社会的要請に応えうる臨床心理の実践を担う人材を育成することを目的とする。

修士課程では国家資格の公認心理師資格取得に対応するための公認心理師科目と、日本臨床心理士資格認定協会の第1種大学院指定に対応した臨床心理士資格試験受験のための臨床心理士科目の両者を有し、両方の受験資格を満たす大学院における科目構成となっている。ただし、公認心理師については学部科目での必要条件を満たさなければ受験できない。

保健医療分野（精神医学）、福祉分野（障害者（児）心理）、教育分野（学校臨床心理学）、司法・犯罪分野（犯罪心理学）、産業・労働分野（産業・組織心理学）、心理的アセスメント（臨床心理査定）、心理支援（心理面接）、家族関係・集団・地域社会における心理的支援（家族心理学）、心の健康教育などに関する多彩な領域の特論を必修科目として用意し、臨床心理士科目として臨床心理面接や臨床心理学特論、臨床心理査定演習などを必修科目として設定する。

赤坂心理相談室での実習に加え附属病院での精神科実習、福祉施設や教育施設など様々な提携施設で心理実践実習や臨床心理実習を設定し、実習を通じて高度な専門性と学術性、学際性、豊かな人間性と国際性を備え、保健・医療・福祉など多職種と協働し現場で貢献できる公認心理師・臨床心理士の育成を目指している。さらに特別研究を通じて修士論文指導を設定する。

臨床心理学専攻の成績評価方法についてはシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

●薬学研究科のカリキュラム・ポリシー

（GS-P-CP-1ー７）

薬学研究科では教育理念あるいは学位授与方針で示す目標を院生が達成できるよう、次の方針に則り教育課程を編成・実施する。

１.薬学研究科医療・生命薬学専攻では、医療薬学、生命薬学の分野における高度な専門的知識と技術を有し、幅広く医療関連分野で活躍しうる、薬物治療学に精通した薬剤師を育成することを目的とした科目を設定する。

２.がん・感染症・精神神経疾患等の薬物治療において、高度な知識と技術、さらにはその領域に関する研究能力を備えた専門性の高い薬剤師（がん専門薬剤師・がん指導薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、感染制御専門薬剤師等）やこれら人材の指導・教育に携わることができる薬剤師の育成を目標とした科目を設定する。

３.論理的あるいは問題解決能力を高め、専門領域の理論の修得や研究開発を行う能力を養成するために、徹底した研究指導や高度の実践教育を重視したカリキュラムを実践する。

４.研究指導は学位取得のための研究を指導するもので、研究指導教員により施行される学位論文の作成に必要な教育科目であり、必修専門科目として設定すされる。

５.仕事を持つ社会人学生に対する教育的配慮として、同時双方向遠隔授業やｅラーニングなど多様なメディアを高度に利用した授業の導入、開講時間の配慮、長期履修制度の導入などを積極的に実施するしている。

６.学業の指導体制としては、院生は希望進路と適正の評価を基に指導教員及び副指導教員を決定し、それぞれの専門分野に配属される。学生は、上記の科目を習得し、分野のゼミナールの履修や研究指導を通じて研究成果を発表し、学位論文を作成する。

７.科目の到達目標、授業内容、履修方法や年間計画、成績評価方法についてはシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する

●薬科学研究科のカリキュラム・ポリシー

（GS-PS-CP-1ー８）

薬科学研究科では教育理念あるいは学位授与方針で示す目標を院生が達成できるよう、次の方針に則り教育課程を編成・実施する。

１.生命薬学分野では、薬理学、ゲノム分子生物学を中心に、医薬品合成、薬理活性物質の検索、医薬品の分析、健康と衛生等、薬学研究における最先端の知見を学ぶことを目標とする。さらに、薬化学、生化学、生理学、薬物動態学などライフサイエンスの広い分野に対応する高度の薬学教育・研究を実施し、医薬品開発に携わる研究者・技術者の養成や、薬学・環境行政を担う人材（教育者を含む）の育成を目標とした科目を設定する。

２.医療薬学分野　がん薬物療法学領域では、がん専門薬剤師に要求される臨床腫瘍学、緩和薬理学、臨床薬物動態学に重点を置き、課程修了後は、日本病院薬剤師会認定の「がん薬物療法認定薬剤師」あるいは「がん専門薬剤師」認定を目標とした科目を設定する。

３.医療薬学分野　臨床薬学領域では、臨床における問題解決能力を学ぶことで、病院における薬剤師業務に精通し、患者を中心としたチーム医療に熟知した臨床能力を有する薬剤師育成や、保険薬局における薬剤師業務に精通し、地域医療のレベルアップに貢献できる薬剤師育成を目標とした科目を設定する。

４.論理的あるいは問題解決能力を高め、専門領域の理論の修得や研究開発を行う能力を養成するために、徹底した研究指導や高度の実践教育を重視したカリキュラムを実践する。

５.研究指導は学位取得のための研究を指導するもので、研究指導教員により施行される学位論文の作成に必要な教育科目であり、必修専門科目として設定すされる。

６.仕事を持つ社会人学生に対する教育的配慮として、同時双方向遠隔授業やｅラーニングなど多様なメディアを高度に利用した授業の導入、開講時間の配慮、長期履修制度の導入などを積極的に実施すしている。

７.学業の指導体制としては、院生は希望進路と適正の評価を元に指導教員及び副指導教員を決定し、それぞれの専門分野に配属される。学生は、上記の科目を習得し、分野のゼミナールの履修や研究指導を通じて研究成果を発表し、学位論文を作成する。

８.科目の到達目標、授業内容、履修方法や年間計画、成績評価方法についてはシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

●医学研究科のカリキュラム・ポリシー

（GS-M&PH-CP-１ー５）

医学研究科では教育理念あるいは学位授与方針で示す目標を院生が達成できるよう、次の方針に則り教育課程を編成・実施する。

１.国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、医学研究者または専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を涵養するために必要な授業科目を設定する。修士課程の共通科目において、公衆衛生学の基本５科目を体系的に学び、８つのコア・コンピテンシーを獲得することを目指している。博士課程の共通科目として医学研究者のための医学研究特論を設定し、分野横断型で基本かつ多様なコースワークを選択する。これらを提供することにより、基本となる素養を備えた医学専門家を養成する。

２.医学分野において明確に目的意識を持ち、医学研究者あるいは高度専門職業人としての使命感、倫理観など医療プロフェッショナリズムを備え、専門分野での研究や臨床を実践できるように必要な授業科目を設定する。特に医療倫理や研究倫理に関する全学生必修の教育プログラムを設定し、わが国での医療情勢や研究手法に関する教育なども提供する。また医療のバックグラウンドを有さない非医療系出身者に配慮して、医学の基本知識を養うため医学概論教育を行う。

３.各領域に分かれて専門的な教育・指導を受けることにより、院生が明確に専門医療人としての立場を自覚し、専門分野における幅広い知識、技能と判断力を修得できる科目を設定する。すなわち、それぞれの専門領域の講義・演習・実習科目などを通じて深い学識を培い、卓越した教育、研究能力あるいは臨床能力の獲得を目指す。修士課程では各領域の選択必修科目、博士課程ではそれぞれ志望した専門分野の特論科目が必修としている。その他学生の研究内容や進捗状況、高度専門職業人としての修練に密接に関連し、研究発展能力を涵養するための選択科目を設定する。

４.専門医療人としての自立性を確立でき、卓越した医学能力を発揮するとともにマネジメント能力を有し、リーダーシップを発揮できるためのプログラムを設定する。また、応用性・学際性あるいは知識の統合的理解を培い、他分野との積極的コミュニケーションを取り他の研究領域における最先端の研究内容に触れることが可能な分野横断コースを用意する。さらに国際性を培い、国際的なレベルの医学研究や医療の実践あるいは国際的医療機関での活躍を可能とするための、必要な科目の設定や英語教育プログラムを設定する。

５.論理的思考を習得し、研究成果を発表し、専門分野に関する学問的創造性に貢献できる能力の涵養と指導的な役割を発揮できることを目的とした科目を設定する。科学的思考力を基に質の高い医学研究を行うために修士課程ではゼミナールの開催と論文の研究指導、博士課程では博士論文の研究指導（研究課題の明確化と計画作成、文献検索、データ収集・分析、論文作成）などの科目を設定する。

６.科目の到達目標、授業内容、履修方法や年間計画、成績評価方法についてはシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、研究論文完成度などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

【医学専攻】

１.学生が志望する研究領域に応じて、基礎医学研究分野・社会医学研究分野・臨床医学研究分野の 3 分野を設定し、学生は各分野の研究室に所属する。各研究室は、所属する学生を対象とする、研究実践能力を涵養する必修の研究実習科目、及びその学生の研究内容や進捗状況、高度専門職業人としての修練に密接に関連する選択科目を設定する。

２.医学研究者または優れた研究能力を備えた高度専門職業人としてのプロフェッショナリズムを涵養するため、研究倫理に関する全学生必修の教育プログラムを設定する。また、研究推進能力を涵養するため、学生が行う研究の内容や進捗状況に合わせて選択することが可能な研究基盤系教育プログラム、及び研究発展能力を涵養するため、他の研究領域における最先端の研究内容に触れることが可能な選択制の教育プログラムを設ける。

３.医学研究または高度専門職の国際化への対応、国際的なレベルの医学研究または医療の実践、内外の医学研究・医療・行政機関等での活躍を可能とするため、母国語が英語以外の学生を対象とする英語によるライティングやプレゼンテーションの技能を修得するための教育プログラムを設定する。

●医学研究科（専門職学位課程）のカリキュラム・ポリシー（GS-MPH-CP-1ー５）

医学研究科（専門職学位課程）では教育理念あるいは学位授与方針で示す目標を院生が達成できるよう、次の方針に則り教育課程を編成・実施する。

１.本学の理念を理解し「共に生きる社会」の実現に貢献する能力を涵養するため、国内外の社会福祉や公衆衛生上の課題を認識し、その解決に取り組むために必要な授業科目を設定する。すなわち全員必修の専攻必修科目にて広く課題の認識を行い、分野必修専門科目の研究指導において解決に貢献する能力を高める。

２.医学・公衆衛生学の専門職業人としてのプロフェッショナリズムを涵養するため、研究倫理や公衆衛生政策論を学び、医学・公衆衛生学研究の実施と研究結果を用いた公衆衛生サービスの提供を実践するための、公衆衛生研究の基本的知識に関する生物統計学や疫学等の講義・演習科目に加えて課題研究指導を必修科目として設ける。

３.医学・公衆衛生学の諸問題の国際化への対応、国際的なレベルの医学・公衆衛生学研究の実践、国内外の医学・公衆衛生学研究・教育・行政機関での活躍を可能とするため、コミュニケーション能力、マネジメント能力並びにリーダーシップを発揮させるための国際保健学・公衆衛生政策論・医療福祉政策・管理学などを設定し、国際的な活躍の観点から日本語に加え英語での指導を提供する。

４.医学・公衆衛生学研究及び事業の多職種と協調・連携できる能力を磨き事業での中心的役割を果たせるように、学生が所属する国際保健・感染症学分野、医療福祉政策・管理学分野、疫学・社会予防医学分野の３つの専門分野に対応した選択科目を設けるほか、研究領域に関わらず研究方法や科学的思考及び広い教養を養うことを目的とする選択科目を設ける。

５.地域医療からグローバルな医学・公衆衛生学分野の諸課題に的確に対処し、課題解決に貢献できる実践的教育の重要性に鑑み、希望者には、各種国際機関、国内外の関連専門機関などでの最長６週間のインターンシップを選択科目として提供する。

６.科目の到達目標、授業内容、履修方法や年間計画、成績評価方法についてはシラバスに表記し、学業の成績は、授業参加姿勢、レポート評価、試験成績評価、課題達成状況、などシラバスに記載される学習到達度を評価して判断する。

【公衆衛生学専攻（専門職学位課程）】

国際保健・感染症学分野、医療福祉政策・管理学分野、疫学・社会予防医学分野の 3 分野に分かれ、公衆衛生学修士（専門職）の学位の取得を目指して、それにふさわしい教育プログラムを編成している。

総合的な公衆衛生専門職大学院として幅広い教育を提供し、公衆衛生学の基本 5 科目（生物統計学、疫学、環境・産業保健学、医療福祉政策・管理学、社会行動科学）及び研究倫理の修得を義務付け、米国公衆衛生大学院の認証機関である Council on Education for Public Health（CEPH）の基準に基づいた教育カリキュラムの提供を行う。

医学系学部以外の出身者は医学概論の履修を必要とする。主として 1 年次前期では、基本 5 科目及

び研究倫理を体系的に学び、その後各分野に分かれて専門的な教育・指導を受ける。

＜国際保健・感染症学分野＞

国際保健・感染症学分野は、医療の国際化の急速な進行に伴う医療現場などで生じる各種の課題への解決提案や、国際的な政策提言ができる人材の養成を目指している。感染症分野は国際感染症や耐性菌への対応など感染症の状況を世界的な視野で捉えて専門家として医療現場で活躍できると同時に、感染症発症動向サーベイランスや感染症のコントロールに参画でき、専門的立場からアドバイスが与えられるような人材の養成を目指している。

なお国際保健学分野では、通常コースの他に海外からの留学生を受け入れて教育するための、全て英語による特別教育プログラム（英語コース）の設定に配慮する。基本共通必修必修科目、分野の専門必修科目に加え、分野共通科目や各分野の科目で履修制限の無いものの中から選択科目を履修し、課題研究指導を受ける設定とする。

＜医療福祉政策・管理学分野＞

医療福祉政策・管理学分野は医療・福祉政策に幅広い知見を持ち、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年問題を見据えて地域医療構想、地域包括ケアシステム等の構築を中心に医療・介護政策の現状と課題を理解しながら解決策を打ち出せる人材の養成を目指している。

また、システム科学・情報科学の知識を基盤にして、日々専門化・複雑化が進む医療福祉の分野で、データを収集・解析し、個々の医療福祉専門領域にフィードバックできる人材またこれらのストラテジーを立案できる人材の養成を目指している。基本共通必修科目、分野の専門必修科目に加え、分野共通科目や各分野の科目で履修制限の無いものの中から選択科目を履修し、課題研究指導を受ける設定とする。

＜疫学・社会予防医学分野＞

疫学・社会予防医学分野は臨床試験に不可欠な統計学、医学研究のデザイン等に役立つ疫学、薬剤疫学など、医療全般でのデータ解析・評価ができる専門家、並びに母子保健、老人保健、産業衛生など医学・公衆衛生上の諸問題に適切に対処し、課題を解決できる人材の養成を目指している。特に労働環境や職場ストレスの健康への影響や労災の予防などに取り組み、国際的にも活躍できる人材の養成に取り組む。

また、健診医学領域において、健診及び検診の場における高度な知識・技能を有する指導者、健診医療に関するデータ分析から有用な健診・検診方法や政策について提言できる者、人間ドック運営や健診事業に積極的に関われる者、あるいは予防医学におけるヘルスプロモーションの専門家などの人材の養成を目指している。基本共通必修科目、分野の専門必修科目に加え、分野共通科目や各分野の科目で履修制限の無いものの中から選択科目を履修し、課題研究指導を受ける設定とする。

国際医療福祉大学大学院　ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学大学院の課程修了及びディグリー（学位）取得にあたっては、大学の基本理念・教育理念および大学院の教育理念を踏まえ、構築した体系的カリキュラムに沿って評価を行い、本大学院教育を通して修了生にふさわしい目標が達成されているかを確認する。

本学の大学院教育は、主として国際性を備えた指導的立場に立つ高度の専門職業人の養成を目指すものであり、また、学生の要望と能力に応じて研究者の養成を行う場合があることを考慮することとしている。 このため、上記の目標が達成されているかどうかを確認することを基本目標として、各研究科において次のことが達成できた者に卒業を認定し、学位を授与する。

●医療福祉学研究科のディプロマ・ポリシー

医療福祉学研究科では、医療福祉の各分野における高度な研究開発能力を備え、また高度な専門技術の実践を担う人材を育成することを目的としており、教育理念を踏まえこれらの目標を学生が達成できたかを確認する。

(GS-HWS-DP-１ー６)

１.国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を涵養できている。

２.医療福祉分野において明確に目的意識を持ち、専門職業人としての使命感、倫理観など医療プロフェッショナリズムを備え、専門分野での研究や臨床を実践できる。

３.専門分野における幅広い知識、技能と判断力を修得し、専門職業人としての論理的思考や深い学識を養い、卓越した教育、研究あるいは臨床能力を十分に発揮できる。

４.実践家あるいは教育・研究者としての自立性を確立でき、優れた実践能力やコミュニケーション能力と国際性を培い、指導的立場で活躍できる。

５.（看護学分野 管理実践看護学領域のみ）複雑化する保健医療福祉の課題を分析し、解決策を提案ならびに、政策提言を行うことができる。

６.所属分野が特定の修了要件を要求する場合、それを満たしている。

７.修士および博士課程の修了要件として、①大学院学則に定める修業年限以上在学し、②授業科目について所定の単位以上を修得し、③必要な研究指導を受けた上で、修士課程においては修士論文の作成または課題研究を行い、修士論文審査（または課題研究成果の審査）および所定の試験に合格した者、博士課程においては博士学位論文の作成を行い、博士学位論文審査および所定の試験に合格した者を修了とする。

なお、高度の専門実践家の養成にあたっての学位の審査については、研究者養成の場合に要求される学術論文（の一部）に代えて、実務経験から得られた知識の集積、実際の職業活動に活用される制作物等によって評価できることとする。

○医療福祉学研究科における修士論文審査基準

・全般基準

1.修士論文はディプロマ・ポリシーが求める、当該分野においての研究者・教育者・専門職業人としての基本的な知識および技能を獲得したことを示す学術的価値のある内容である必要がある。

2.修士論文は専門領域の中で、どのような位置付けがなされているかを十分に自覚しており、研究領域の中で共有される意義のある公益性を示唆するものでなければならない。

3.修士論文は、研究テーマが当該分野において専門職業人として将来優れた貢献をなす可能性を示唆し、それに必要な論証性を有するものでなくてはならない。

4.修士論文は研究者の倫理規範に則って適正に行われた研究に基づき作成されたものでなければならず、申請者以外の権利を不当に侵害してはならない。

5.修士論文の作成要領については別に定める。

・論文内容

修士論文は原則として次の要件を満たす構成と内容とする。ただし、審査にあたり審査項目内容の選択と追加については、審査委員会に一任される。

1.論文の題目が選択されたテーマと一致して適切であること。

2.研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。特に先行研究を着実に踏まえて研究を設定していること。

3.研究における倫理的配慮に関する必要な配慮や情報が記載されていること。

4.研究方法が詳細に記述されており、目的に沿った方法であること。

5.研究目的と方法に従って研究成果が的確に収集されており、結果が図表などを用いて適切に提示されていること。

6.結果の分析と解釈が的確に行われており、考察が結果の適切な解釈に基づいて行われていること。

7.結果や結論が目的に対応して適切に導き出されており、論旨展開に一貫性が見られること。

8.結果に新規性があり、医療福祉の分野において有用性があること。

9.引用文献が適切に用いられていること。

10.全体にわたり適切な文章表現が用いられており、適切な構成と完結性を有すること。

○特定課題研究成果評価基準

特定課題研究は主として研究分野の実践経験あるいは実践的または理論的内容に基づいた研究であり、その研究成果は従来型の論文に比べ、直面する問題に対して現実的な解決策を構築して技術・知識の発展につながる内容である。

特定課題研究は次の要件を満たす構成と内容とする。ただし、審査にあたり審査項目内容の選択と追加については、審査委員会に一任される。

1．研究成果の題目が選択されたテーマと一致して適切であること。

2．研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。特に先行研究を着実に踏まえて研究を設定していること。

3．研究における倫理的配慮に関する必要な配慮や情報が記載されていること。

４．課題に適合する適切な研究方法や調査方法を選択し、関連情報を正確に把握していること。
５．特定課題研究成果の記述（本文、図表、引用など）が適切であり、妥当な結論を導く論理構成になっていること。
６．特定課題研究の成果の独自性を有していること。
７．研究成果が問題点の的確な状況把握を示し、実践的問題解決能力の向上につながること。

○医療福祉学研究科の博士学位論文審査基準
・全般基準
１.博士学位論文はディプロマ・ポリシーが求める、当該分野においての研究者・教育者・専門職業人として卓越した専門領域における学識・能力・資質を獲得したことを的確に示す学術的内容である必要がある。
２.博士学位論文は専門領域の中で、どのような位置付けがなされているかを十分に自覚しており、研究領域の中で共有される意義のある公益性を示唆するものでなければならない。
３.博士学位論文は、専門分野において国際水準での高い独創性を示し、学術研究の発展に貢献をなす十分な学術的価値を有する内容である必要がある。
４.博士学位論文は研究者の倫理規範に則って適正に行われた研究に基づき作成されたものでなければならず、申請者以外の権利を不当に侵害してはならない。
５.博士学位論文（審査用学位論文）および副論文の条件および作成要領は別に定める。

・論文内容
博士学位論文は原則として次の要件を満たす構成と内容とする。ただし、審査にあたり審査項目内容の選択と追加については、審査委員会に一任される。

１.論文の題目が選択されたテーマと一致して適切であること。
２.研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。特に先行研究を着実に踏まえて研究を設定しており、かつ高い新規性・独創性を有するものであること。
（看護学分野 管理実践看護学領域のみ）研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。特に先行研究を着実に踏まえて研究を設定しており、かつ実装的取り組みであること。
３.研究における倫理的配慮に関する必要な配慮や情報が記載されていること。
４.研究方法やプロセスに関して詳細に記述されており、目的に沿った方法であること。
５.研究目的と方法に従って研究成果が的確に収集されており、結果が図表などを用いて適切に提示されていること。
６.結果の分析と解釈が的確に行われており、考察が結果の適切な解釈に基づいて行われていること。
７.結果や結論が目的に対応して適切に導き出されており、論旨展開に一貫性が見られること。
８.結果に新規性があり、医療福祉の分野において普遍性および有用性があること。
（看護学分野 管理実践看護学領域のみ）結果は保健医療福祉の分野において有用性があること。
９.引用文献が適切に用いられていること。
１０.全体にわたり適切な文章表現が用いられており、高いレベルで適切な構成と完結性を有すること。
１１．（看護学分野 管理実践看護学領域のみ）研究を通して高い実践力の開発が明らかになっていること。

●薬学研究科のディプロマ・ポリシー
(GS-P-DP-１～５)
１.国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、薬学研究者・教育者あるいは高度専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を有している。

２.薬学研究者・教育者あるいは高度専門職業人としての使命感・倫理観などのプロフェッショナリズムを備え、特にがんや感染症、精神疾患領域における国際的なレベルの薬学研究を実践し、専門性の高い薬剤師資格を取得できる。

３.薬学研究の進展に対応した幅広い知識、マネジメント能力及びリーダーシップを持ち、大学や企業を始めとする国内外の薬学研究機関や医療機関等で活躍できる能力を有する。

４.実務家あるいは教育・研究者としての自立性を有し、薬学分野での深い学識、コミュニケーション能力と国際性を持ち、指導的立場で活躍し、かつ科学的思考力を基に質の高い薬学研究を遂行できる。

５.博士課程の修了要件として①大学院学則に定める修業年限以上在学し、②授業科目について所定の単位以上を要領し、③必要な研究指導を受けた上で、博士学位論文の作成を行い、博士学位論文審査および所定の試験に合格した者を修了とする。

○薬学研究科の博士学位論文審査基準
・全般基準
１.博士学位論文はディプロマ・ポリシーが求める、当該分野においての薬学研究者・教育者あるいは高度専門医療人としての卓越した学識・能力・資質を発揮できることを、明確に示す質の高い薬学研究内容である必要がある。
２.博士学位論文は、薬学専門分野においてリーダーシップを発揮できる 国際的なレベルでの高い独創性を示し、学術研究の発展に貢献をなす学問的将来性と十分な学術的価値を有する内容である必要がある。
３.博士学位論文は専門領域の中で、どのような位置付けがなされているかが明確に示され、科学的思考力を基に薬学研究者あるいは高度専門医療人としての社会に有意義な活動を行える意義のある公益性を有していなければならない。
４.博士学位論文は、薬学研究者あるいは高度専門医療人としての強い使命感、倫理観に基づき施行され、倫理規範に則って適正に行われた研究に基づき作成されたものでなければならず、申請者以外の権利を不当に侵害してはならない。
５.博士学位論文（審査用学位論文）および副論文の条件および作成要領は別に定める。

・論文内容
博士学位論文は原則として次の要件を満たす構成と内容とする。ただし、審査にあたり審査項目内容の選択と追加については、審査委員会に一任される。

１.論文の題目が選択されたテーマと一致して内容を適切に表現していること。
２.研究課題の科学的重要性や背景などにつき適切に論述されていること。特に関連領域に関する先行研究を引用しつつ研究の意義が明確に論述されていること。
３.研究背景を踏まえ研究の目的が明確に設定されていること。特に研究の新規性や独創性に関して明確にされていること。
４.研究の内容は、研究倫理や関連する法令を遵守していること。
５.研究方法やデータ解析方法が正確に詳述されており、目的に沿った方法であること。研究結果を再現できるだけの具体的な情報を含んでいること。
６.研究目的と方法に従ってデータが的確に収集されており、成績が図表などを用いて適切に示されていること。
７.データの分析と解釈を正確かつ詳細に記載しており、考案が成績の適切な解釈に基づいて行われていること。
８.結果や結論が目的に対応して適切に導き出されており、論旨展開に一貫性が見られること。本研究によって何が明らかになったかを論理的に論述しており、その学術的価値が明確に示されていること。
９.引用文献が適切に用いられていること。
１０.全体にわたり適切な文章表現が用いられており、適切な構成と完結性を有すること。

●薬科学研究科のディプロマ・ポリシー
(GS-PS-DP-1ー５)
１.国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、薬学研究者・教育者あるいは高度専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を有している。

２.薬学研究者・教育者あるいは専門薬剤師等の高度専門職業人としての使命感・倫理観などのプロフェッショナリズムを備え、国際的なレベルの基礎薬学、生命薬学分野などの薬学研究を実践できる。

３.生命薬学分野では、薬理学、ゲノム分子生物学等のライフサイエンスを中心に、医薬品合成・薬理活性物質の検索・医薬品の分析・健康と衛生等、薬学研究における最先端の研究を実施できる。

４.医療薬学分野では、「がん薬物療法認定薬剤師」あるいは「がん専門薬剤師」をはじめとする専門薬剤師認定のための要件の修得やチーム医療や地域医療の発展につながる薬学研究を実施できる。

５.修士課程の修了要件として①大学院学則に定める修業年限以上在学し、②授業科目について所定の単位以上を修得し、③必要な研究指導を受けた上で、修士論文の作成を行い、修士論文審査および所定の試験に合格した者を修了とする。

○薬科学研究科の修士論文審査基準
・全般基準
１.修士論文はディプロマ・ポリシーが求める、当該分野においての薬学研究者、教育者あるいは高度専門医療人としての基本的な知識、技能およびその応用能力を獲得したことを示す学術的価値を有する内容である必要がある。
２.修士論文は、研究テーマが当該分野において専門医療人としての優れた貢献をなす可能性を示唆し、それに必要な論証性を有する意義あるものでなくてはならない。
３.修士論文は専門領域の中で、どのような位置付けがなされているかが明確に示され、薬学研究者あるいは高度専門医療人として社会に有意義な活動を行える可能性を備えることを示さなければならない。
４.修士論文は、薬学研究者あるいは高度専門医療人としての強い使命感、倫理観に基づき施行され、倫理規範に則って適正に行われた研究に基づき作成されたものでなければならず、申請者以外の権利を不当に侵害してはならない。
５.修士論文の作成要領については別に定める。

・論文内容
　修士論文は原則として次の要件を満たす構成と内容とする。ただし、審査にあたり審査項目内容の選択と追加については、審査委員会に一任される。

１.論文の題目が選択されたテーマと一致して内容を適切に説明していること。
２.研究の背景が適切に記述され、研究目的が明確に記載されていること。特に関連の先行研究を適切に引用して設定していること。
３.研究の内容は、研究倫理や関連する法令を遵守していること。

４.研究方法が詳細に記述されており、目的に沿った方法であること。研究結果を再現できるだけの具体的な情報を含んでいること。
５.研究目的と方法に従ってデータが的確に収集されており、成績が図表などを用いて適切に示されていること。修士課程在籍中に得られた関連する研究結果を詳細に記載していること。
６.データの分析と解釈を正確かつ詳細に記載しており、考案が成績の適切な解釈に基づいて行われていること。
７.結果や結論が目的に対応して適切に導き出されているおり、論旨展開に一貫性が見られること。本研究によって何が明らかになったかを論理的に論述していること。
８.引用文献が適切に用いられていること。
９.全体にわたり適切な文章表現が用いられており、適切な構成と完結性を有すること。

●医学研究科のディプロマ・ポリシー
(GS-M&PH -DP-１ー６)
医学研究科では、医学の分野における高度な研究能力を備え、また高度専門技術の実践又は研究開発を担い、幅広く医療関連分野で活躍できる人材を育成することを目的としており、教育理念を踏まえこれらの目標を院生が達成できたかを確認する。

１.国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、医学研究者・教育者あるいは高度専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する強い意志を有している。

２.医学分野において明確に目的意識を持ち、医学研究者・教育者あるいは高度専門職業人としての使命感・倫理観などのプロフェッショナリズムを備え、国際的なレベルの医学研究を実践できる。

３.専門分野における幅広い知識、技能と判断力を修得し、専門医療人としての論理的思考や深い学識を養い、卓越した教育、研究あるいは臨床能力を十分に発揮できる。

４.専門医療人としての自立性を確立でき、医学研究の国際化に対応した卓越した医学能力とコミュニケーション能力・マネジメント能力及びリーダーシップを持ち、国内外の医学研究機関等で活躍できる能力を有する。

５.広い教養と寛容な精神を兼ね備えた上で医学研究または高度専門職に必要なサイエンスとアートを修得し、科学的思考力を基に質の高い医学研究または患者診療を遂行できる。さらに専門医学分野に関する学問的創造性に貢献できる能力の涵養と指導的な役割を発揮できる。

６.修士および博士課程の修了要件として、①大学院学則に定める修業年限以上在学し、②授業科目について所定の単位以上を習得し、③必要な研究指導を受けた上で、修士課程においては修士論文の作成を行い、修士論文審査および所定の試験に合格した者、博士課程においては博士学位論文の作成を行い、博士学位論文審査および所定の試験に合格した者を修了とする。

医学研究科における博士学位論文審査基準及び特定課題研究成果評価基準について次に示す。
○医学研究科の博士学位論文審査基準
・全般基準
１.博士学位論文はディプロマ・ポリシーが求める、当該分野においての医学研究者・教育者あるいは高度専門医療人としての卓越した学識・能力・資質を発揮できることを、明確に示す質の高い医学研究内容である必要がある。
２.博士学位論文は、医学専門分野においてリーダーシップを発揮できる国際的なレベルでの高い独創性を示し、学術研究の発展に貢献をなす学問的将来性と十分な学術的価値を有する内容である必要がある。
３.博士学位論文は専門領域の中で、どのような位置付けがなされているかが明確に示され、科学的思考力を基に医学研究者あるいは高度専門医療人としての社会に有意義な活動を行える意義のある公益性を有していなければならない。
４.博士学位論文は、医学研究者あるいは高度専門医療人としての強い使命感、倫理観に基づき施行

され、倫理規範に則って適正に行われた研究に基づき作成されたものでなければならず、申請者以外の権利を不当に侵害してはならない。
５.博士学位論文（審査用学位論文）および副論文の条件および作成要領は別に定める。

・論文内容
博士学位論文は原則として次の要件を満たす構成と内容とする。ただし、審査にあたり審査項目内容の選択と追加については、審査委員会に一任される。

１.論文の題目が選択されたテーマと一致して内容を適切に表現していること。
２.研究課題の科学的重要性や背景などにつき適切に論述されていること。特に関連領域に関する先行研究を引用しつつ研究の意義が明確に論述されていること。
３.研究背景を踏まえ研究の目的が明確に設定されていること。特に研究の新規性や独創性に関して明確にされていること。
４.研究の内容は、研究倫理や関連する法令を遵守していること
５.研究方法やデータ解析方法が正確に詳述されており、目的に沿った方法であること。研究結果を再現できるだけの具体的な情報を含んでいること。
６.研究目的と方法に従って研究成果が的確に収集されており、データが図表などを用いて適切に示されていること。
７.データの分析と解釈を正確かつ詳細に記載しており、考案が結果の適切な解釈に基づいて行われていること。
８.結果や結論が目的に対応して適切に導き出されており、論旨展開に一貫性が見られること。本研究によって何が明らかになったかを論理的に論述しており、それが明確に示されていること。
９.結果に新規性があり、医学の分野において普遍性および有用性があること。
１０.引用文献が適切に用いられていること。
１１.全体にわたり適切な文章表現が用いられており、高いレベルで適切な構成と完結性を有すること。

●医学研究科（専門職学位課程）のディプロマ・ポリシー(GS-MPH -DP-1ー6)

1.国際医療福祉大学の基本理念と教育理念とを充分に理解し、専門職業人として「共に生きる社会」の実現に貢献する能力を身につけている。

2.医学・公衆衛生分野の専門家としての使命感・倫理観などプロフェッショナリズムを備え、医学・公衆衛生学研究の実施と研究結果を用いた公衆衛生サービスの提供を実践できる。

3.医学・公衆衛生学研究の国際化に対応した幅広い知識と高いコミュニケーション能力、マネジメント能力及びリーダーシップを持ち、国内外の医学・公衆衛生学研究・教育・行政機関などで活躍できる。

4.医学・公衆衛生学研究及び事業の多職種と協調・連携できる能力及び各職種の役割や責任体制に関する知識を身につけ、将来、地域医療からグローバルな医学・公衆衛生学分野の諸課題に的確に対処し、課題解決に貢献できる中核的な役割を担うことができる。

○特定課題研究成果評価基準

特定課題研究は主として研究分野の実践経験あるいは実践的または理論的内容に基づいた研究であり、その研究成果は従来型の論文に比べ、直面する問題に対して現実的な解決策を構築して技術・知識の発展につながる内容である。

特定課題研究は次の要件を満たす構成と内容とする。ただし、審査にあたり審査項目内容の選択と追加については、審査委員会に一任される。

1.研究成果の題目が選択されたテーマと一致して適切であること。
2.研究の背景が記述され、研究目的が明確であること。特に先行研究を着実に踏まえて研究を設定していること。
3.研究における倫理的配慮に関する必要な配慮や情報が記載されていること。
4.課題に適合する適切な研究方法や調査方法を選択し、関連情報を正確に把握していること。
5.特定課題研究成果の記述（本文、図表、引用など）が適切であり、妥当な結論を導く論理構成になっていること。
6.特定課題研究の成果の独自性を有していること。
7.研究成果が問題点の的確な状況把握を示し、実践的問題解決能力の向上につながること。

1-3　研究科の概要

大学院の組織運営について

国際医療福祉大学大学院は「大学院長」が大学院運営の最高責任者です。「副大学院長」がその補佐をします。

また、４研究科のそれぞれに「研究科長」が置かれます。各研究科に置かれているそれぞれの専攻には「専攻主任」が置かれ、それぞれの専攻の教育活動を統括しています。

「専攻」の下に「分野」が置かれ、分野の教育活動を統括する者として「分野責任者」が置かれています（分野が置かれていない専攻もあります)。

医療福祉学研究科

保健医療学専攻博士（D）課程

- この課程は、原則として保健医療領域あるいはその近隣領域で既に修士の学位をもつ人が、研究者としてさらに修練を積みたいと考えて進学する場合に備えています。すなわち、それぞれの領域における研究者、指導者を目指す人のための課程です。

保健医療学専攻修士（M）課程

- この課程は、(１)各種保健医療専門職の養成課程を卒業し、その直後又は職業経験を得た後に、さらに高度の専門技術や研究方法を修得したいと考える人、(２)助産師、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士、医学物理士、胚培養士など特定の高度専門職技術の修得をめざす人のためにつくられています。院生は、分野・領域の中から１つを選び、これを中心に２年間の学修を進めます（医療福祉教育・管理分野は１年修了コースです)。

医療福祉経営専攻修士（M）課程

- この課程は、(1) 医療経営管理分野・医療福祉学分野、先進的ケア・ネットワーク開発研究分野の高度な学術や研究法の修得をめざす人、(２) 診療情報アナリスト、医療福祉ジャーナリストなど特定の高度専門職技術の修得を目指す人のために作られています。院生は、分野・領域の中から１つを選び、これを中心に２年間の学修を進めます。

臨床心理学専攻修士（M）課程

- この課程は、公認心理師、臨床心理士をめざしつつ、心理学分野の高度な学術や研究法の修得をめざす人のために設けられています。本大学院は、（財）日本臨床心理士資格認定協会 第１種指定大学院に指定されています。

薬学研究科

医療・生命薬学専攻博士（D）課程

- この課程は、医療薬学、生命薬学の分野における高度な専門的知識と技術を有し、幅広い医療関連分野で活躍しうる、薬物治療学に精通した人材を育成します。特に、がん・感染症・精神神経疾患等の薬物治療において、高度な知識と技術、さらにはその領域に関する研究能力を備えた専門性の高い薬剤師や研究者、また、これら人材の指導・教育に携わることができる人材の育成を目標としています。

薬科学研究科

生命薬科学専攻修士（M）課程

- この課程は、(1) 生命薬学分野は、薬学研究における最先端の知見を学び、さらにライフサイエンスの広い分野に対応する高度の研究を実施し、医療薬品開発に関わる研究者・技術者の養成や、薬学・環境行政を担う人材さらには教育者を目指す人、(2) 医療薬学分野は、高度の専門職業人としての薬剤師に必要な技術の修得を目指す人又は、高度の専門技術や研究開発を目指したいと考える人のために作られています。

医学研究科

医学専攻博士（D）課程

- この課程は、国際的に活躍できる医学研究者、および専門医や行政官等をめざす人のために、２０１８年新規に開設されました。院生は、基礎医学研究分野、社会医学研究分野、臨床医学研究分野のいずれかの分野に所属します。さらに、希望する方は分野横断的な自由科目も履修することが可能です。

公衆衛生学専攻専門職学位（M）課程

- この課程は、国際性を備えた指導的立場に立つ高度な専門職業人をめざす人のため、２０２４年に修士課程から専門職学位課程に移行しました。３分野からなる総合的な公衆衛生専門職大学院として、大きく変貌を遂げる国内外の公衆衛生・医療福祉の未来を担うべく、国際感染症、医療福祉管理学、国際保健学や予防医学など、さらなる発展が期待されている分野に力を注ぎ、実践的な高度専門能力を身につけた人材の養成を行っていきます。１年次前期では、主要な５科目を体系的に学び、その後、各分野・領域に分かれて専門的な教育・指導を受けます。

■医療福祉学研究科

課程	専攻	分野	領域	コース
修士課程	保健医療学専攻	看護学分野	看護管理・政策学領域	
			看護教育学領域	研究コース
				臨床看護教育者（CNE）コース
			看護実践基礎・援助学領域	
			感染管理・感染看護学領域	研究コース
				専門看護師（CNS）コース
			精神看護学領域	研究コース
				専門看護師（CNS）コース
			リプロダクティブヘルス看護学領域	
			小児看護学領域	
			成人看護学領域	
			老年看護学領域	
			がん看護学領域	専門看護師（CNS）コース
			周麻酔期看護学領域	
			家族看護学領域	
			在宅看護学領域	研究コース
				専門看護師（CNS）コース
			公衆衛生看護学領域	研究コース
				実践（資格取得）コース
			国際看護学領域	
		特定行為看護師養成分野	特定行為看護師養成領域	
		助産学分野	助産学領域	実践（資格取得）コース
				実践（有資格者）コース
				修士論文コース
		理学療法学分野	基礎理学療法学領域	
			応用理学療法学領域	
		作業療法学分野	作業活動分析学領域	
			作業活動支援学領域	
			感覚運動障害作業療法学領域	
			精神神経障害作業療法学領域	
		言語聴覚分野	言語聴覚障害学領域	
			発声発語・嚥下障害学領域	
		視機能療法学分野	視機能療法学領域	
		福祉支援工学分野	福祉支援工学領域	
			福祉用具管理指導者領域	福祉用具管理指導者コース
				福祉用具コース
		リハビリテーション学分野	リハビリテーション学領域	
		放射線・情報科学分野	医用画像学領域	基盤研究コース
				医学物理コース
			放射線治療学領域	基盤研究コース
				がん治療放射線技師コース
				医学物理コース
		生殖補助医療胚培養分野	生殖補助医療胚培養領域	
		医療福祉教育・管理分野	医療福祉教育・管理領域	１年修了コース
				修士論文コース（2年）
		臨床検査学分野	臨床検査学領域	先端医学検査コース
				細胞検査士養成コース
		災害医療分野	災害医療領域	
		遺伝カウンセリング分野	遺伝カウンセリング領域	
	医療福祉経営専攻	医療経営管理分野	医療経営管理領域	医療経営戦略コース（h-MBAコース）
				医療福祉管理学コース
		診療情報アナリスト養成分野	診療情報アナリスト養成領域	実践コース
				研究コース
		先進的ケア・ネットワーク開発研究分野	介護福祉・ケアマネジメント学領域	
			自立支援介護学領域	１年修了コース
			自立支援実践ケアマネジメント学領域	１年修了コース
		医療福祉学分野	医療福祉学領域	
		医療福祉ジャーナリズム分野	医療福祉ジャーナリズム領域	
		医療通訳・国際医療マネジメント分野	医療通訳・国際医療マネジメント領域	1年修了コース
				修士論文コース(2年)
	臨床心理学専攻	分野・領域なし		

（■医療福祉学研究科）

博士課程	保健医療学専攻	看護学分野	管理実践看護学領域（DNPコース）	
			看護管理・政策学領域	
			看護教育学領域	
			看護実践基礎・援助学領域	
			感染管理・感染看護学領域	
			精神看護学領域	
			リプロダクティブヘルス看護学領域	
			小児看護学領域	
			成人看護学領域	
			老年看護学領域	
			家族看護学領域	
			在宅看護学領域	
			公衆衛生看護学領域	
		助産学分野	助産学領域	
		理学療法学分野	基礎理学療法学領域	
			応用理学療法学領域	
		作業療法学分野	作業活動分析学領域	
			作業活動支援学領域	
			精神神経障害作業療法学領域	
		言語聴覚分野	言語障害学領域	
			聴覚障害学領域	
			発声発語・嚥下障害学領域	
		視機能療法学分野	視機能療法学領域	
		福祉支援工学分野	福祉支援工学領域	
		リハビリテーション学分野	リハビリテーション学領域	
		放射線・情報科学分野	医用画像学領域	
			放射線治療学領域	
		生殖補助医療胚培養分野	生殖補助医療胚培養領域	
		医療福祉教育・管理分野	医療福祉教育・管理領域	
		臨床検査学分野	臨床検査学領域	
		災害医療分野	災害医療領域	
		医療遺伝学分野	医療遺伝学領域	
		医療福祉経営学分野	医療福祉経営学領域	
		診療情報管理・分析学分野	診療情報管理・分析学領域	
		先進的ケア・ネットワーク開発研究分野	介護福祉学領域	
			ケアマネジメント学領域	
		医療福祉学分野	医療福祉学領域	
		医療福祉ジャーナリズム分野	医療福祉ジャーナリズム領域	
		臨床心理学分野	臨床心理学領域	

■薬科学研究科

課程	専攻	分野	領域	コース
修士課程	生命薬科学専攻	生命薬学分野	生命薬学領域	
		医療薬学分野	がん薬物療法学領域	
			臨床薬学領域	

■薬学研究科

課程	専攻	分野	領域	コース
博士課程	医療・生命薬学専攻	分野・領域なし		

■医学研究科

課程	専攻	分野	領域	コース
専門職学位課程	公衆衛生学専攻	国際保健・感染症学分野	領域なし	
		医療福祉政策・管理学分野	領域なし	
		疫学・社会予防医学分野	領域なし	
博士課程	医学専攻	基礎医学研究分野	領域なし	
		社会医学研究分野	領域なし	
		臨床医学研究分野	領域なし	

1-4　取得学位の名称

医療福祉学研究科　保健医療学専攻　修士課程

課程・分野	領域・コース	学位名称	英文表記
看護学分野	全領域	修士（看護学）	Master of Nursing
特定行為看護師養成分野	全領域	修士（看護学）	Master of Nursing
助産学分野	全領域	修士（助産学）	Master of Midwifery
理学療法学分野	全領域	修士（保健医療学）	Master of Health Sciences
作業療法学分野	全領域	修士（保健医療学）	Master of Health Sciences
言語聴覚分野	全領域	修士（言語聴覚学）	Master of Science in Speech, Language and Hearing Sciences
視機能療法学分野	全領域	修士（保健医療学）	Master of Health Sciences
福祉支援工学分野	全領域	修士（保健医療学）	Master of Health Sciences
リハビリテーション学分野	全領域	修士（保健医療学）	Master of Health Sciences
放射線・情報科学分野	全領域	修士（保健医療学）	Master of Health Sciences
生殖補助医療胚培養分野	全領域	修士（生殖補助医療学）	Master of Science in Assisted Reproductive Technology
医療福祉教育・管理分野	全領域	修士（医療福祉教育・管理学）	Master of Education and Management in Health and Welfare
臨床検査学分野	全領域	修士（臨床検査学）	Master of Medical Laboratory Science
災害医療分野	全領域	修士（災害医療学）	Master of Disaster Risk management for health
遺伝カウンセリング分野	全領域	修士（遺伝カウンセリング学）	Master of Science in Genetic Counseling

医療福祉学研究科　医療福祉経営専攻　修士課程

課程・分野	領域・コース	学位名称	英文表記
医療経営管理分野	（医療経営戦略コース）	修士（医療ビジネス経営学）	Master of Health Business Administration
	（医療福祉管理学コース）	修士（医療福祉管理学）	Master of Health and Welfare Management
診療情報アナリスト養成分野	全領域	修士（診療情報管理学）	Master of Health Information Management
先進的ケア・ネットワーク開発研究分野	介護福祉・ケアマネジメント学領域	修士（介護福祉・ケアマネジメント学）	Master of Care and Care Management
	自立支援介護学領域	修士（自立支援介護学）	Master of Functional Recovery Care
	自立支援実践ケアマネジメント学領域	修士（自立支援実践ケアマネジメント学）	Master of Care Management for Independence
医療福祉学分野	全領域	修士（医療福祉学）	Master of Health and Social Service
医療福祉ジャーナリズム分野	全領域	修士（医療福祉ジャーナリズム学）	Master of Journalism in Health and Welfare
医療通訳・国際医療マネジメント分野	全領域	修士（医療通訳・国際医療マネジメント学）	Master of Health Care Interpreting and International Health Service Management

医療福祉学研究科　臨床心理学専攻　修士課程

課程・分野	領域・コース	学位名称	英文表記
（分野なし）	領域なし	修士（臨床心理学）	Master of Clinical Psychology

医療福祉学研究科　保健医療学専攻　博士課程

課程・分野	領域・コース	学位名称	英文表記
看護学分野	全領域	博士（看護学）	Doctor of Nursing
助産学分野	全領域	博士（助産学）	Doctor of Midwifery
理学療法学分野	全領域	博士（保健医療学）	Doctor of Health Sciences
作業療法学分野	全領域	博士（保健医療学）	Doctor of Health Sciences
言語聴覚分野	全領域	博士（言語聴覚学）	Doctor of Philosophy in Speech, Language and Hearing Sciences
視機能療法学分野	全領域	博士（保健医療学）	Doctor of Health Sciences
福祉支援工学分野	全領域	博士（保健医療学）	Doctor of Health Sciences
リハビリテーション学分野	全領域	博士（保健医療学）	Doctor of Health Sciences
放射線・情報科学分野	全領域	博士（保健医療学）	Doctor of Health Sciences
生殖補助医療胚培養分野	全領域	博士（生殖補助医療学）	Doctor of Science in Assisted Reproductive Technology
医療福祉教育・管理分野	全領域	博士（医療福祉教育・管理学）	Doctor of Education and Management in Health and Welfare
臨床検査学分野	全領域	博士（臨床検査学）	Doctor of Medical Laboratory Science
災害医療分野	全領域	博士（災害医療学）	Doctor of Philosophy(PhD) in Disaster Risk management for health
医療遺伝学分野	全領域	博士（医療遺伝学）	Doctor of Philosophy(PhD) in Human Health Genetics
医療福祉経営学分野	全領域	博士（医療福祉経営学）	Doctor of Health Service Management
診療情報管理・分析学分野	全領域	博士（診療情報管理学）	Doctor of Health Information Management
医療福祉国際協力学分野	全領域	博士（医療福祉国際協力学）	Doctor of Science in Global Cooperation for Health and Welfare
先進的ケア・ネットワーク開発研究分野	全領域	博士（介護福祉・ケアマネジメント学）	Doctor of Care and Care management
医療福祉学分野	全領域	博士（医療福祉学）	Doctor of Health and Social Service
医療福祉ジャーナリズム分野	全領域	博士（医療福祉ジャーナリズム学）	Doctor of Journalism in Health and Welfare
臨床心理学分野	全領域	博士（臨床心理学）	Doctor of Clinical Psychology

薬科学研究科　生命薬科学専攻　修士課程

課程・分野	領域・コース	学位名称	英文表記
生命薬学分野	全領域	修士（薬科学）	Master of Pharmaceutical Sciences
医療薬学分野	全領域		

薬学研究科　医療・生命薬学専攻　博士課程

課程・分野	領域・コース	学位名称	英文表記
（分野なし）	領域なし	博士（薬学）	Doctor of Pharmacy

医学研究科　公衆衛生学専攻　専門職学位課程

課程・分野	領域・コース	学位名称	英文表記
国際保健・感染症学分野	全領域	公衆衛生学修士（専門職）	Master of Public Health
医療福祉政策・管理学分野	全領域		
疫学・社会予防医学分野	全領域		

医学研究科　医学専攻　博士課程

課程・分野	領域・コース	学位名称	英文表記
基礎医学研究分野	領域なし	博士（医学）	Doctor of Philosophy(PhD) in Medical Science
社会医学研究分野	領域なし		
臨床医学研究分野	領域なし		

1-5各キャンパス施設

各キャンパスの概要

- 本学では大田原（栃木県）のほか、成田（千葉県）、東京赤坂（東京都）、小田原（神奈川県）、熱海（静岡県）、福岡、大川（いずれも福岡県）に合計で7つのキャンパスがあります。
- 事務局の場所や図書館、また館内での注意事項など、それぞれのキャンパスの施設概要については大学院用Web掲示板に掲載していますので、ご覧ください。

授業資料のキャンパス間配信

【授業資料について】（以下の内容をご確認いただいた上で、ご対応お願い致します。）

- 大学院ではペーパーレス化を推奨しており、授業資料は原則として、全てデータでの提供となります。
- 事務局への印刷依頼などは受付できませんので、ご注意ください。

各キャンパスの連絡先

キャンパス	連絡先
大田原	住所　：〒３２４－８５０１　栃木県大田原市北金丸２６００－１ ＴＥＬ：０２８７－２４－３７２９　ＦＡＸ：０２８７－２０－２０５９ Ｅ－ｍａｉｌ：otawara.s.c@ihwg.jp
成田	住所　：〒２８６－８６８６　千葉県成田市公津の杜　４－３ ＴＥＬ：０４７６－２０－７７０３　ＦＡＸ：０４７６－２０－７７０２ Ｅ－ｍａｉｌ：narita.s.c@ihwg.jp
東京赤坂	住所　：〒１０７－８４０２　東京都港区赤坂４－１－２６ ＴＥＬ：０３－５５７４－３９００　ＦＡＸ：０３－５５７４－３９０１ Ｅ－ｍａｉｌ：tokyo.s.c@ihwg.jp
小田原	住所　：〒２５０－８５８８　神奈川県小田原市城山１－２－２５ ＴＥＬ：０４６５－２１－６５００　ＦＡＸ：０４６５－２１－６５０１ Ｅ－ｍａｉｌ：odawara.s.c@ihwg.jp
熱海	住所　：〒４１３－００１２　静岡県熱海市東海岸町１３－１ 国際医療福祉大学熱海病院内 ＴＥＬ：０５５７－８１－９１９７　ＦＡＸ：０５５７－８３－６６３２ Ｅ－ｍａｉｌ：atami.s.c@ihwg.jp
福岡	住所　：〒８１４－０００１　福岡県福岡市早良区百道浜２－４－１６ ＴＥＬ：０９２－４０７－０４３４　ＦＡＸ：０９２－４０７－０４７４ Ｅ－ｍａｉｌ：fukucamp@ihwg.jp
大川	住所　：〒８３１－８５０１　福岡県大川市榎津１３７－１ ＴＥＬ：０９４４－８９－２０３１　ＦＡＸ：０９４４－８９－２００１ Ｅ－ｍａｉｌ：oocamp@ihwg.jp

履修の手引き

2-1　授業時限・授業日・年間行事予定

授業時限

- 授業は、９０分で１時限となっています。
- 各時限の時間帯は、以下のとおりです。

授業時限と時間帯

時　限	時　間　帯
１時限	０９：００～１０：３０
２時限	１０：４０～１２：１０
３時限	１３：００～１４：３０
４時限	１４：４０～１６：１０
５時限	１６：２０～１７：５０
６時限	１８：００～１９：３０
７時限	１９：４５～２１：１５

学期と授業日

- 本大学院は、２学期制を採っています。４月から９月を「前期」、１０月から３月を「後期」と呼びます。前期と後期にはそれぞれ約１５週間ずつ授業日があります。
- P52に、本年度前期の授業開講日を、P53に本年度後期の授業開講日を示します。なお、国際医療福祉大学の学部の大学祭など大学全体の行事があっても大学院では授業を開講する場合があります。各授業の担当教員に確認するようにしてください。
- 祝日が特定の曜日に集中するなどのため、授業回数調整のために、**休日・祝日にも通常どおりに授業を行う日が何日か設定されています**ので、注意してください。
- 大学院の授業では、期末試験が行われることはそれほど多くなく、前期と後期のレポート提出その他の期末試験に代わるいろいろな方式が成績判定に用いられています。科目によって成績判定方法は異なりますので、シラバスなどで確認してください。

年間行事予定

- 本大学院の年間予定には、授業の開始日・終了日のほか、各年次の研究報告会、修士学位論文発表会、博士学位論文発表会などの主要行事が含まれています。
- ２０２６年度の医療福祉学研究科及び薬科学・薬学研究科、医学研究科の年間行事予定についてP54より示します。研究報告会や論文発表会の日程のほか、報告書等の提出締め切り日にも注意してください。

2026年度（大学院・前期） 授業週間

曜日 / 授業週間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	備考
	3月30日	3月31日	4月1日	4月2日	4月3日 大川入学式	4月4日	4月5日	
			←←←←←		入学式週間			
第1週	4月6日 小田原入学式	4月7日 赤坂入学式	4月8日 **前期授業開始**	4月9日	4月10日 大田原入学式	4月11日	4月12日 成田入学式	
			入学式週間				→→→→→	
			←←←←←		年間履修科目登録期間			
			①	①	①	①		
第2週	4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日	4/8（水）前期授業開始
	年間履修科目登録期間							4/8（水）～4/24（金） 年間履修科目登録期間
	①	①	②	②	①	②		
第3週	4月20日	4月21日	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日 学部授業日	4月26日	
	年間履修科目登録期間				→→→→→			
	②	②	③	③	②	③		
第4週	4月27日	4月28日	4月29日 **（昭和の日）** 通常授業日	4月30日 学部授業日	5月1日 （創立記念日） 学部授業日	5月2日	5月3日 **（憲法記念日）**	4/29（水）祝日　通常授業日 5/1（金）創立記念日
	③	③	④					
第5週	5月4日 **（みどりの日）**	5月5日 **（こどもの日）**	5月6日 **（振替休日）**	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	
				④	③	④		
第6週	5月11日	5月12日	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日	
	④	④	⑤	⑤	④	⑤		
第7週	5月18日	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日	
	⑤	⑤	⑥	⑥	⑤	⑥		
第8週	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日	
	⑥	⑥	⑦	⑦	⑥	⑦		
第9週	6月1日	6月2日	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日 学部補講日	6月7日 **M2報告会** **前期博論提出予定者報告会**	6/7（日）【医療福祉/医】M2研究報告会、【医療福祉】前期博論提出予定者報告会
	⑦	⑦	⑧	⑧	⑦	⑧		
第10週	6月8日	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日	
	⑧	⑧	⑨	⑨	⑧	⑨		
第11週	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日	
	⑨	⑨	⑩	⑩	⑨	⑩		
第12週	6月22日	6月23日	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日	
	⑩	⑩	⑪	⑪	⑩	⑪		
第13週	6月29日	6月30日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	
	⑪	⑪	⑫	⑫	⑪	⑫		
第14週	7月6日	7月7日	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	
	⑫	⑫	⑬	⑬	⑫	⑬		
第15週	7月13日	7月14日	7月15日	7月16日	7月17日	7月18日 学部補講日	7月19日	
	⑬	⑬	⑭	⑭	⑬	⑭		
第16週	7月20日 **（海の日）** 通常授業日	7月21日	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日	7/20（月）祝日　通常授業日
	⑭	⑭	⑮	⑮	⑭	⑮		
第17週	7月27日	7月28日	7月29日	7月30日	7月31日	8月1日	8月2日	7/31（金）前期授業終了
	⑮	⑮	（予備日）	（予備日）	⑮	（予備日）		
	8月3日 （予備日）	8月4日 （予備日）	8月5日 レポート事務局〆	8月6日	8月7日 （予備日）	8月8日	8月9日	
	8月10日	8月11日 **（山の日）**	8月12日	8月13日	8月14日	8月15日	8月16日	
	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日	
	8月24日	8月25日 成績評価〆	8月26日	8月27日	8月28日	8月29日	8月30日	

注1）授業は、半期：90分×15回実施する。
注2）　の日は、大学行事、祝祭日、休暇期間等により授業は行わない。

2026年度(大学院・後期) 授業週間

曜日 / 授業週間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	備考
第1週	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日 **後期授業開始** ①	9月5日 ①	9月6日	9/4(金)後期授業開始
第2週	9月7日 ①	9月8日 ①	9月9日 ①	9月10日 ①	9月11日 ②	9月12日 ②	9月13日	
第3週	9月14日 ②	9月15日 ②	9月16日 ②	9月17日 ②	9月18日 ③	9月19日 ③	9月20日	
第4週	9月21日 **(敬老の日)**	9月22日 **(国民の休日)**	9月23日 **(秋分の日)**	9月24日 学部後期授業開始 ←←←←← ③	9月25日 後期選択科目の履修登録変更期間 ④	9月26日 ④	9月27日 **後期博論提出予定者報告会**	9/24(木)学部後期授業開始 9/24(木)～10/7(水)後期選択科目の履修登録変更期間 9/27(日)【医療福祉】後期博論提出予定者報告会
第5週	9月28日 後期選択科目の履修登録変更期間 ③	9月29日 ③	9月30日 ③	10月1日 ④	10月2日 ⑤	10月3日 学部総合型選抜 ⑤	10月4日	
第6週	10月5日 後期選択科目の履修登録変更期間 ④	10月6日 ④	10月7日 →→→→→ ④	10月8日 ⑤	10月9日 大学祭準備 **休講日**	10月10日 大学祭	10月11日 大学祭	10/9(金)休講日 10/10(土)・11(日)大学祭
第7週	10月12日 **(スポーツの日)**	10月13日 ⑤	10月14日 ⑤	10月15日 ⑥	10月16日 ⑥	10月17日 学部授業日 ⑥	10月18日 **博士論文発表会** **M1報告会**	10/18(日)【医】博士論文発表会・M1研究報告会
第8週	10月19日 ⑤	10月20日 ⑥	10月21日 ⑥	10月22日 ⑦	10月23日 ⑦	10月24日 ⑦	10月25日	
第9週	10月26日 ⑥	10月27日 ⑦	10月28日 ⑦	10月29日 ⑧	10月30日 ⑧	10月31日 ⑧	11月1日	
第10週	11月2日 ⑦	11月3日 **(文化の日)** 通常授業日 ⑧	11月4日 ⑧	11月5日 ⑨	11月6日 ⑨	11月7日 学部補講日 ⑨	11月8日 **M1報告会**	11/3(火)祝日　通常授業日 11/8(日)【医療福祉】M1研究報告会
第11週	11月9日 ⑧	11月10日 ⑨	11月11日 ⑨	11月12日 ⑩	11月13日 ⑩	11月14日 学部学校推薦型選抜 帰国生徒/社会人/留学生選抜 ⑩	11月15日	
第12週	11月16日 ⑨	11月17日 ⑩	11月18日 ⑩	11月19日 ⑪	11月20日 ⑪	11月21日 ⑪	11月22日	
第13週	11月23日 **(勤労感謝の日)** 通常授業日 ⑩	11月24日 ⑪	11月25日 ⑪	11月26日 ⑫	11月27日 ⑫	11月28日 ⑫	11月29日	11/23(月)祝日　通常授業日
第14週	11月30日 ⑪	12月1日 ⑫	12月2日 ⑫	12月3日 ⑬	12月4日 ⑬	12月5日 ⑬	12月6日 **D1・D2報告会**	12/6(日)【医療福祉】D1・D2研究報告会
第15週	12月7日 ⑫	12月8日 ⑬	12月9日 ⑬	12月10日 ⑭	12月11日 ⑭	12月12日 特待奨学生特別選抜 **休講日**	12月13日 **D1・D2・D3報告会** **課題研究発表会**	12/13(日)【医】D1・D2・D3研究報告会・M2課題研究発表会
第16週	12月14日 ⑬	12月15日 ⑭	12月16日 ⑭	12月17日 ⑮	12月18日 ⑮	12月19日 学部補講日 ⑭	12月20日	
第17週	12月21日 ⑭	12月22日 ⑮	12月23日 ⑮	12月24日 (予備日)	12月25日 (予備日)	12月26日 ⑮	12月27日	
第18週	12月28日 ⑮	12月29日	12月30日	12月31日	1月1日 **(元日)**	1月2日	1月3日	12/28(月)後期授業終了 12/29(火)～1/3(日)冬期休暇期間
	1月4日 (予備日)	1月5日 (予備日)	1月6日 レポート事務局〆 (予備日)	1月7日 学部授業日	1月8日 学部授業日	1月9日 (予備日)	1月10日	
	1月11日 **(成人の日)**	1月12日 学部授業日	1月13日 学部授業日	1月14日 学部授業日	1月15日 共通テスト準備	1月16日 共通テスト	1月17日 共通テスト	1/16(土)・17(日)共通テスト
	1月18日 成績評価〆	1月19日	1月20日	1月21日	1月22日	1月23日	1月24日	1/19(火)～1/26(火)学部後期定期試験期間
	1月25日	1月26日	1月27日	1月28日 一般選抜前期	1月29日 一般選抜前期	1月30日 一般選抜前期	1月31日 社会人/留学生選抜	
	2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	2月6日	2月7日 **D3発表会**	2/7(日)【医療福祉】D3博士論文発表会
	2月8日	2月9日	2月10日	2月11日 **(建国記念の日)**	2月12日	2月13日	2月14日 **M2発表会**	2/14(日)【医療福祉】M2修士論文発表会
	2月15日	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日 **研究科会議** **(合否判定)**	2月20日	2月21日	

注1) 授業は、半期:90分×15回実施する。
注2) ［　］の日は、大学行事、祝祭日、休暇期間等により授業は行わない。

2026年度　年間行事予定（医療福祉学研究科）

	修士課程		博士課程		
	１年次（Ｍ１）	２年次（Ｍ２）	１年次（Ｄ１）	２年次（Ｄ２）	３年次（Ｄ３）
4月	4/3(金)　入学式（大川キャンパス）　4/6(月)　入学式（小田原キャンパス） 4/7(火)　入学式（東京赤坂キャンパス）　4/10(金)　入学式（大田原キャンパス）　4/12(日)　入学式（成田キャンパス）				
	4/8（水）　前　期　授　業　開　始				
	4/8（水）－ 4/24（金）　年　間　履　修　登　録　期　間				
5月	5/1（金）　大　学　創　立　記　念　日				
		5/14（木）　研究題目登録〆切			
		5/21（木）　研究計画書提出〆切			
6月		6/7（日）　M2研究報告会			
7・8月	7/31（金）　前　期　授　業　終　了				
	8/1（土）－ 9/3（木）　夏　期　休　暇　期　間				
					8/1（土）　D論文審査申請・審査員推薦書、抄録受付開始
	8/5（水）　前　期　期　末　レ　ポ　ー　ト　事　務　局　提　出　〆　切				
9・10月	9/4（金）　後　期　授　業　開　始				
					9/4（金）　D論文申請・審査員推薦書提出〆切
					9/11（金）　D論文抄録提出〆切
	9/24（木）-10/7（水）　後　期　履　修　登　録　変　更　期　間				
					9/27（日）　後期博士論文提出予定者報告会
	9/28（月）　研究題目登録〆切				
10月	10/5（月）　研究計画書提出〆切				10/5（月）　D論文（主/副論文）受付開始
		10/19（月）　M論文申請・審査員推薦書受付開始			
		10/26（月）　M論文申請・審査員推薦書提出〆切			
11月	11/8（日）　M1研究報告会				
			11/4（水）　D1/D2研究題目登録〆切		11/4（水）　D論文（主/副論文）提出〆切
			11/11（火）　D1/D2研究計画書提出〆切		
12月			12/6（日）　D1/D2研究報告会		
		12/1（火）　M論文提出〆切			
	12/28（月）　後　期　授　業　終　了				
	12/29（火）-1/3（日）　冬　期　休　暇　期　間				
1月	1/6（水）　後　期　期　末　レ　ポ　ー　ト　事　務　局　提　出　〆　切				
					1/18（月）　主論文・論文抄録最終版提出〆切
		1/22（金）　M論文抄録提出・題目登録〆切			
2月					2/7（日）　D論文発表会
		2/14（日）　M論文発表会			
		2/17（水）　修了判定（研究科会議）			2/17（水）　修了判定（研究科会議）
		2/19（金）　修了者発表（学籍番号掲示）			2/19（金）　修了者発表（学籍番号掲示）
3月		3/1（月）　M論文データ提出〆切			3/1（月）　D論文ﾃﾞｰﾀ提出〆切
		3月上旬　学位記授与・伝達式			3月上旬　学位記授与・伝達式

※上記日程について追加・変更等が生じた場合、掲示等にてお知らせいたします。

2026年度　年間行事予定　（薬科学研究科）

	修士課程（薬科学研究科）	
	（M）	
4月	4/3(金)入学式（大川キャンパス）　4/4(土)福岡IUHW入学式　4/6(月)入学式（小田原キャンパス） 4/7(火)入学式（東京赤坂キャンパス）　4/10(金)入学式（大田原キャンパス）　4/12入学式（成田キャンパス）	
	4/8（水）　前　期　授　業　開　始	
	4/8（水）－ 4/24（金）　履　修　登　録　期　間	
5月	5/1（金）　大学創立記念日	
6月		
7・8月	7/31（金）　前　期　授　業　終　了	
	8/8（土）－ 9/3（木）　夏期休暇期間	
	8/5（水）　前　期　期　末　レ　ポ　ー　ト　事　務　局　提　出　〆　切	
9・10月		
	9/4（金）　後期授業開始	
	9/24（木）－ 10/7（水）　後期履修登録変更期間	
11月		
	11/27（金）	M2論文申請・審査員推薦書、論文発表要旨 受付開始
12月		
	12/10（木）	M2論文申請・審査員推薦書 提出〆切
	12/16（水）	M2論文発表要旨提出〆切 M2発表会用パワーポイントデータ提出〆切
	12/28（月）　年内授業終了・後期授業終了	
	12/29（火）－ 1/3（日）　冬期休暇期間	
1月	1/4（月）	M2研究発表会
	1/6（水）　後　期　期　末　レ　ポ　ー　ト　事　務　局　提　出　〆　切	
	1/12（火）	M2論文提出〆切
2月		
	2/15（月）	修了判定（研究科会議）
	2/22（月）	修了者発表（学籍番号掲示）
	2/24（水）	M2論文データ提出〆切
3月		
	3月上旬　学位記授与・伝達式	

※上記日程について追加・変更等が生じた場合、掲示等にてお知らせいたします。

2026年度　年間行事予定　（薬学研究科）

	博士課程（薬学研究科）
	（D）
4月	4/3(金)入学式（大川キャンパス）　4/4(土)福岡IUHW入学式　4/6(月)入学式（小田原キャンパス） 4/7(火)入学式（東京赤坂キャンパス）　4/10(金)入学式（大田原キャンパス）　4/12入学式（成田キャンパス）
	4/8（水）　前　期　授　業　開　始
	4/8（水）- 4/24（金）　履　修　登　録　期　間
5月	5/1（金）　大学創立記念日
6月	
7・8月	7/31（金）　前　期　授　業　終　了
	8/1（土）- 9/3（木）　夏期休暇期間
	8/5（水）　前　期　期　末　レ　ポ　ー　ト　事　務　局　提　出　〆　切
9・10月	9/4（金）　後期授業開始
	9/24（木）- 10/7（水）　後期履修登録変更期間
	10/28（水）　D4論文申請・審査員推薦書、論文発表要旨 受付開始
11月	11/12(木)　D4論文申請・審査員推薦書、論文発表要旨 提出〆切
	11/27(金)　D4発表会用パワーポイントデータ提出〆切
12月	12/2（水）　D4研究発表会
	12/28（月）　年内授業終了・後期授業終了
	12/29（火）- 1/3（日）　冬期休暇期間
1月	1/4（月）　D4論文提出〆切
	1/6（水）　後　期　期　末　レ　ポ　ー　ト　事　務　局　提　出　〆　切
2月	2/15（月）　修了判定（研究科会議）
	2/22（月）　修了者発表（学籍番号掲示）
	2/24（水）　D4論文データ提出〆切
3月	3月上旬　学位記授与・伝達式

※上記日程について追加・変更等が生じた場合、掲示等にてお知らせいたします。

2026年度　年間行事予定(医学研究科)

	専門職学位課程（公衆衛生学専攻）		博士課程（医学専攻）			
	１年次（Ｍ１）	２年次（Ｍ２）	１年次（Ｄ１）	２年次（Ｄ２）	３年次（Ｄ３）	4年次（D4）
4月	4/3(金)　入学式（大川キャンパス）　4/6(月)　入学式（小田原キャンパス） 4/7(火)　入学式（東京赤坂キャンパス）　4/10(金)　入学式（大田原キャンパス）　4/12(日)　入学式（成田キャンパス）					
	4/8（水）　前　期　授　業　開　始					
	4/8（水）- 4/24（金）　年　間　履　修　登　録　期　間					
5月	5/1（金）　大　学　創　立　記　念　日					
		5/14（木）　研究題目登録〆切				
		5/21（木）　研究計画書提出〆切				
6月		6/7（日）　課題研究報告会				
7・8月	7/31（金）　前　期　授　業　終　了					
	8/1（土）- 9/3（木）　夏　期　休　暇　期　間					
						8/1（土）　D論文審査申請・審査員推薦書、抄録受付開始
	8/5（水）　前　期　期　末　レ　ポ　ー　ト　事　務　局　提　出　〆　切					
9月	9/4（金）　後　期　授　業　開　始					
						9/4（金）　D論文審査申請・審査員推薦書提出〆切
						9/11（金）　D論文抄録提出〆切
	9/24（木）-10/7（水）　後　期　履　修　登　録　変　更　期　間					
	9/28（月）　研究題目登録〆切					
10月	10/5（月）　研究計画書提出〆切					10/6（月）　D論文（主/副論文）受付開始
	10/18（日）　課題研究報告会					10/18（日）　博士学位論文発表会
		10/19（月）　課題研究審査申請・審査員推薦書受付開始				
		10/27（月）　課題研究審査申請・審査員推薦書提出〆切				
11月		11/4（水）　課題研究審査申請・審査員推薦書提出〆切	11/4（水）　D1/D2/D3研究題目登録〆切			11/4（水）　D論文（主/副論文/抄録）提出〆切 研究業績報告回答〆切
			11/11（水）　D1/D2/D3研究計画書提出〆切			
		11/24（月）　課題研究抄録提出〆切				
12月		12/13（日）　課題研究発表会	12/13（日）　D1/D2/D3研究報告会			
	12/28（月）　後　期　授　業　終　了					
	12/29（火）-1/3（日）　冬　期　休　暇　期　間					
		1/4（月）　課題研究提出・研究業績回答〆切				
	1/6（水）　後　期　期　末　レ　ポ　ー　ト　事　務　局　提　出　〆　切					
2月		2/17（水）　修了判定（研究科会議）				2/17（水）　修了判定（研究科会議）
		2/19（金）　修了者発表（学籍番号掲示）				2/19（金）　修了者発表（学籍番号掲示）
		3/1（月）　課題研究データ提出〆切				3/1（月）　D論文ﾃﾞｰﾀ提出〆切
3月		3月上旬　学位記授与・伝達式				3月上旬　学位記授与・伝達式

※上記日程について追加・変更等が生じた場合、掲示等にてお知らせいたします。

2-2　授業計画（シラバス）

- シラバスとは、科目ごとの教育内容や目的等を記載した授業計画書です。
- 本大学院のシラバスは、Web 上で閲覧できます。詳しくは、下記をご覧ください。

1．ログイン方法

国際医療福祉大学大学院ホームページ（https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/）



クリックし、「大学院ポータル」を開く



「UNIVERSAL PASSPORT」を開く

次の画面が表示されますので、「シラバス照会」をクリックしてください。



2．シラバス照会

(1)「シラバス照会」をクリックします。



(2) ①授業科目名、②担当教員名、③曜日時限、④キーワード、のいずれかを入力し、**「検索」**をクリックしてください。



注意！

③の「曜日時限」の項目中の「集中講義など」について

各専門科目の授業のなかで論文・研究指導等は、決まった時間に行うというよりも、双方の都合に併せて行うことが多く、このような授業については「集中講義」という名称で便宜上表示しており、時間割上に掲載がありません。時間割上に該当する科目がない場合、「集中講義」の項目で検索してください。e ラーニング授業が主体となる科目についても便宜上「集中講義」としています。

（3）自分が参照したい**科目名**をクリックしてください。



水2	L410071 統計学	稲垣　誠一	週間授業	2024年度 後期/2学期	2単位
火6	M100010 生物統計学概論	山崎　力／桜井　亮太	週間授業	2024年度 前期/1学期	2単位
	M100201 生物統計学概論E （通期）	桜井　亮太／稲垣　…	集中講義	2024年度 前期/1学期 2024年度 後期/2学期 2025年度 前期/1学期	2単位
火6	M130140 疫学・生物統計学各論	桜井　亮太／山崎　…	週間授業	2024年度 後期/2学期	2単位
	S900071 統計学	稲垣　誠一	集中講義	2024年度 前期/1学期	2単位
水5	S900073 統計学 （英語クラス）	稲垣　誠一	週間授業	2024年度 前期/1学期	2単位
木7	S900080 統計学入門	藤田　烈	週間授業	2024年度 前期/1学期	2単位
	S900910 生物統計学概論	山崎　力／桜井　亮太	集中講義	2024年度 前期/1学期	2単位
木6	S9101N0 高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]II （感染症の疫学・統計学）	坂木　晴世	週間授業	2024年度 前期/1学期	2単位
土3	S930570 データ解析のための統計学入門	角田　圭雄	週間授業	2024年度 前期/1学期	2単位

39件 （1 / 1）　200

科目名について　　「S012345　科目名〇〇〇」と表示されています。

大学院の授業科目は、科目名の前に「S」（医療福祉学研究科 修士課程・博士課程）又は「P」（薬科学研究科 修士課程）、「R」（薬学研究科 博士課程）、「M」（医学研究科 専門職学位課程・博士課程）から始まるコードが付いているものです。

（4）シラバスを参照することができます。



シラバス照会

印刷

国際医療福祉大学 授業計画（シラバス）				キャンパス	大学院
科目名	統計学			授業開始年度	2024年度
科目担当責任者	稲垣　誠一	科目担当者	稲垣　誠一		
学科	共通	学年	全学年	期	前期
曜日時限	集中講義	必修／選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間
授業の形態	eラーニング授業 この科目は、Google Classroomを利用します。 毎回出題する確認問題は、出席確認にも使いますので、必ず回答してください。 学期末には、レポートを課しますので、必ず提出してください。				
アクティブラーニング（AL）	□Aディスカッション/ディベート　□Bグループワーク　□Cプレゼンテーション □D実習/フィールドワーク　□Eその他（　　）				
クラスコード	m5664wa				
授業の概要（主題）	保健・医療・福祉の分野において日常的に用いられる統計解析の手法について、必須となる統計基礎知識を学習する。研究や分析のもとになるデータの収集方法やまとめ方から授業を始め、データの種類や変数の数によって異なる統計解析手法のうち、代表的な手法について実例を中心に学習する。				
授業の到達目標	1．保健・医療・福祉の分野における統計学の役割を説明できる。 2．記述統計と推測統計の特徴を説明できる。 3．統計学的仮説検定の原理を説明できる。 4．基本的な統計解析手法を使い分け、データの分析ができる。				

2-3　科目ナンバリング

科目ナンバリングとは

- 科目ナンバリングとは、授業科目の学問分野や難易度等を適切な番号や記号をつけて分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を分かりやすく示す仕組みのことです。学生は、ナンバリングコードでその授業科目の学問分野や難易度等の科目の位置付けを把握したうえで履修をすることができます。本学では、９桁のナンバリング構成とし、シラバスでも明示します。

科目ナンバリング体系

- 本学における科目ナンバリングは下記の構成となります。なお、ナンバリングコードは、毎年度毎に付番するのではなく、原則として授業科目に固定したものとします。

ナンバリングコード

4	N	－	2	0	0	1	－	2	1	A
①	②		③	④	⑤	⑥		⑦	⑧	⑨

各コードの意味

① 桁：キャンパス／学部・特別専攻科・大学院研究科・専攻コード
② 桁：学科・分野／課程（コース）の固有識別コード
③ 桁：科目分類（大分類）
④ 桁：科目分類（中分類）
⑤⑥桁：科目分類（小分類）整理番号
⑦ 桁：必修／選択および難易度－水準コード
⑧ 桁：配当年次および使用言語
⑨ 桁：授業形態および主要科目コード

ナンバリングコード表

①桁目：キャンパス／学部・特別専攻科・大学院研究科・専攻コード

【アルファベットまたは数字１桁】

コード	キャンパス／学部・特別専攻科・	コード	大学院研究科・専攻
O	（大田原）保健医療学部	1	（大学院）医療福祉学研究科保健医療学専攻（博士課程）
O	（大田原）医療福祉学部	2	（大学院）薬学研究科医療・生命薬学専攻（博士課程）
T	（大田原）薬学部	3	（大学院）医学研究科医学専攻（博士課程）
M	（成　田）医学部	4	（大学院）医療福祉学研究科保健医療学専攻（修士課程）
N	（成　田）成田看護学部	5	（大学院）医療福祉学研究科医療福祉経営専攻（修士課程）
N	（成　田）成田保健学部	6	（大学院）医療福祉学研究科臨床心理学専攻（修士課程）
R	（成　田）成田薬学部	7	（大学院）薬科学研究科生命薬科学専攻（修士課程）
N	（成　田）特別専攻科（介護福祉）	8	（大学院）医学研究科公衆衛生学専攻（専門職学位課程）
A	（東京赤坂）赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	0	（大学院）共通科目（修士課程・博士課程共通）
D	（小田原）小田原保健医療学部		
F	（大　川）福岡保健医療学部		
K	（大　川）福岡薬学部		

②桁：学科・分野／課程（コース）の固有識別コード【アルファベットまたは数字１桁】

コード	学科・分野／課程（コース）	コード	学科・分野／課程（コース）
N	看護学科、看護学分野	F	助産学分野
P	理学療法学科、理学療法学分野	N	特定行為看護師養成分野
O	作業療法学科、作業療法学分野	T	福祉支援工学分野
S	言語聴覚学科、言語聴覚分野	X	リハビリテーション学分野
C	視機能療法学科、視機能療法学分野	E	生殖補助医療胚培養分野
R	放射線・情報科学科、放射線・情報科学分野	K	医療福祉教育・管理分野
M	医学検査学科、臨床検査学分野	D	災害医療分野
P	薬学科、生命薬科学専攻・医療・生命薬学専攻	G	遺伝カウンセリング分野、医療遺伝学分野
H	医療福祉・マネジメント学科（大田原）	V	医療機器イノベーション分野
H	医療マネジメント学科（赤坂）	L	診療情報アナリスト養成分野、診療情報管理・分析学分野
Y	心理学科、臨床心理学専攻・臨床心理学分野	Z	先進的ケア・ネットワーク開発研究分野
W	介護福祉特別専攻科	H	医療福祉学分野
A	医学部医学科、医学研究科医学専攻	J	医療福祉ジャーナリズム分野
A	医学研究科公衆衛生学専攻	I	医療通訳・国際医療マネジメント分野
B	医療経営管理分野、医療福祉経営学分野	0	（大学院）共通科目（修士課程・博士課程共通）

③桁：科目分類（大分類）【数字１桁】

コード	科目分類（大分類）
0	総合
1	専門基礎-学部共通
2	専門基礎
3	専門

④桁：科目分類（中分類）【数字またはアルファベット１桁】

区分	コード	科目分類（中分類）
総合区分	1	研究・教育の方法
	2	人間・集団
	3	保健・医療・福祉
	4	医療・福祉の経営と管理
	5	情報
	6	特別講座
専門基礎区分	0	分野共通科目

「専門区分」【アルファベット１桁】

各分野の領域・コースを示す整理記号。

（例）

看護学分野／特定行為看護師養成分野		
区分	コード	科目分類（中分類）
専門区分	A	看護管理・政策学領域
	B	看護教育学領域
	C	看護教育学領域（CNEコース）
	D	看護実践基礎・援助学領域
	E	感染管理・感染看護学領域（研究コース）
	F	感染管理・感染看護学領域（CNSコース）
	G	精神看護学領域（研究コース）
	H	精神看護学領域（CNSコース）
	I	リプロダクティブヘルス看護学領域
	J	小児看護学領域
	K	成人看護学領域
	L	老年看護学領域
	M	がん看護学領域（CNSコース）
	N	周麻酔期看護学領域
	O	家族看護学領域
	P	在宅看護学領域（研究コース）
	Q	在宅看護学領域（CNSコース）
	R	公衆衛生看護学領域 研究コース
	S	公衆衛生看護学領域 実践コース
	T	国際看護学領域
	U	特定行為看護師養成領域

⑤⑥桁：科目分類（小分類）整理番号　【数字２桁】

科目を管理するための２桁の整理番号。（０１～）

⑦桁：必修／選択および難易度－水準コード【数字１桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
1	必修：基礎的な内容で入門的な難易度
2	必修：基本発展的な内容で中間的な難易度
3	必修：応用専門的な内容で比較的高度な難易度
4	選択必修（コースにより必修等）：基礎的な内容で入門的な難易度
5	選択必修（コースにより必修等）：基本発展的な内容で中間的な難易度
6	選択必修（コースにより必修等）：応用専門的な内容で比較的高度な難易度
7	選択（又は自由）：基礎的な内容で入門的な難易度
8	選択（又は自由）：基本発展的な内容で中間的な難易度
9	選択（又は自由）：応用専門的な内容で比較的高度な難易度

⑧桁：配当年次および使用言語

【数字またはアルファベット１桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
1	1年次または1年次以上配当（日本語）
2	2年次または2年次以上配当（日本語）
3	3年次または3年次以上配当（日本語）
4	4年次または4年次以上配当（日本語）
5	5年次または5年次以上配当（日本語）
6	6年次配当（日本語）
7	全学年で修得できる授業科目（日本語）
8	比較的低学年（１～２学年）で修得する授業科目（英語など外国語科目）
9	比較的高学年（３～４学年）で修得する授業科目（英語など外国語科目）
0	全学年で修得できる授業科目（英語など外国語科目）
A	１ー２学年の低学年で２年間で修得する日本語科目
B	２ー３学年の中学年で２学間で修得する日本語科目
C	３ー４学年の高学年で２学間で修得する日本語科目
D	比較的低学年で３年間以上で修得する日本語科目
E	比較的高学年で３年間以上で修得する日本語科目
F	上記以外の日本語科目（飛び飛びの学年設定など）
G	上記以外の外国語科目

⑨桁：授業形態および主要科目コード

【アルファベット１桁】

コード	必修／選択および難易度－水準コード
A	講義形式―主要科目で資格取得と関連した科目
B	講義形式―主要科目、資格取得とは関連しない
C	講義形式―主要科目以外の科目
D	演習形式-主要科目で資格取得と関連した科目
E	演習形式―主要科目、資格取得とは関連しない
F	演習形式―主要科目以外の科目
G	実習形式―主要科目で資格取得と関連した科目
H	実習形式―主要科目、資格取得とは関連しない
I	実習形式―主要科目以外の科目
J	卒業研究/研究指導―主要科目で資格取得と関連した科目
K	卒業研究/研究指導―主要科目、資格取得とは関連しない
L	卒業研究/研究指導―主要科目以外の科目
M	その他―主要科目で資格取得と関連した科目
N	その他―主要科目、資格取得とは関連しない
S	その他―主要科目以外の科目

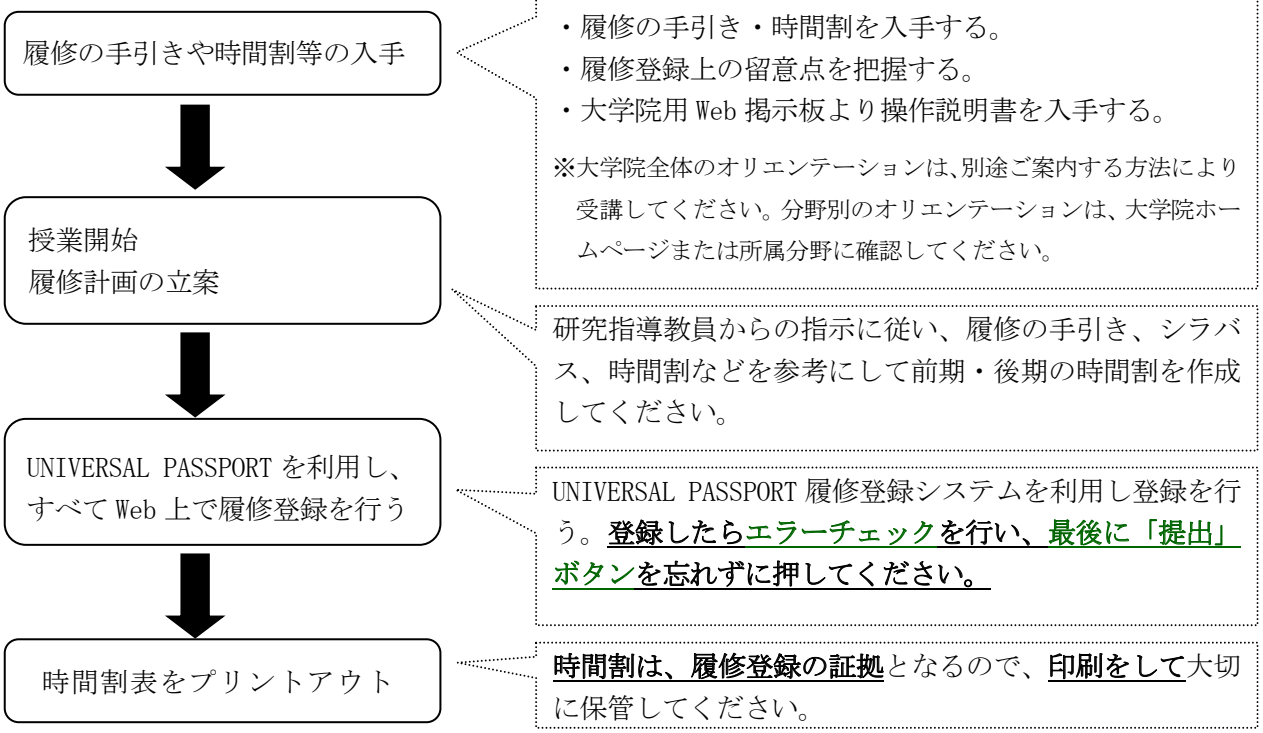
2-4　履修登録
(ユニバーサルパスポートを利用した履修登録について)

履修登録

- 当該年度に履修する前期・後期・通年等の全ての科目を、前期履修登録期間内に履修登録します。
- 後期履修登録科目の変更（追加・取消）を行いたい場合は、後期履修登録変更期間に変更することができます（後期履修登録変更期間には、前期・通年等科目の変更はできません)。
- **履修登録期間終了後の登録手続きは一切認められません。万が一、手続きを怠り、履修登録を行わなかった場合、授業に出席し、レポート等を提出しても、当該年度の履修は全て無効となります。**
- 履修登録は、「UNIVERSAL PASSPORT（ユニバーサルパスポート)」を利用し、Web 上で行います。
- ログインの際は、User ID と PassWord を入力し、ログインをクリックしてください。
  User ID は学籍番号（7 桁)、初期パスワードは入学時に配信されるランダム英数字(8 桁)です。
  セキュリティの関係上パスワードは、必ず変更してください。
- 「UNIVERSAL PASSPORT 操作説明書」は、大学院用 Web 掲示板にアップしていますので、各自確認の上、履修登録を行ってください。
- 研究指導の科目（○○研究指導、○○特別研究、○○課題研究）は、履修登録期間終了後に事務局にて履修登録の確認を行います。特論、講義、演習等その他の科目は、各自履修登録してください。
- 履修科目の選定にあたっては研究指導教員の指導を受けてください。

前期履修登録期間	２０２６年４月８日（水）～ ４月２４日（金）１７：００
後期履修登録変更期間	２０２６年９月２４日（木）～ １０月７日（水）１７：００

履修登録の手順



2-5　成　績

成績評価

評価（和）	評価（英）	評価（総合得点）	ＧＰ（Grade Point）
秀	S	90-100 点	4
優	A	80-89 点	3
良	B	70-79 点	2
可	C	60-69 点	1
不可（不合格）	D	0-59 点	0

※現在履修中の科目および認定により修得した科目は、ＧＰＡ対象外です。

○２０２６年度入学生のＧＰＡ（Grade Point Average）算出方法は以下のとおりです。

【修士課程】

計算対象科目：すべての履修科目

$$\mathrm{GPA} = \frac{4\times\text{秀の修得単位数}+3\times\text{優の修得単位数}+2\times\text{良の修得単位数}+1\times\text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不可」の単位を含む）}}$$

【博士課程】

計算対象科目：研究指導科目（「○○研究指導」、「○○特別研究」等）

$$\mathrm{GPA} = \frac{4\times\text{秀の修得単位数}+3\times\text{優の修得単位数}+2\times\text{良の修得単位数}+1\times\text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不可」の単位を含む）}}$$

成績照会

- 学期ごとの成績はユニバーサルパスポートにて開示します。
- 閲覧は、前期・後期の履修登録期間開始前頃から 1 か月程度です。前学期までの成績を開示します（成績結果表（紙）の配付は行いません）。
- 閲覧可能になると「成績照会」のボタンが表示されます。
- 閲覧期間は、大学院用 Web 掲示板で案内します。
- ID、パスワードの取り扱いには十分注意してください。
  特に初期設定のままのパスワードを使用している院生は、必ず変更してください。
- 離席の際は必ず画面を閉じてログアウトしてください。
- 成績は閲覧期間内に各自必ず確認し、印刷の上、修得単位の証拠として大切に保管してください（期間内に成績結果を確認しなかった場合の対応は行いません）。

追試験・再試験

○追試験について

- 忌引きや疾病、その他のやむを得ない理由により定期試験を欠席した場合、その授業科目について追試験を受けることが出来ます。追試験の申請は、欠席の理由を証明できるものを添えて、大学院事務局を通じて大学院長に「追試験申請書」を提出し、許可を得る必要があります。
- 追試験の成績評価は、90 点を限度とします。

○再試験について

- 再試験は原則として行いませんが、科目担当教員の判断により行うことがあります。再試験を許可された場合、「再試験願」に再試験料（1 科目につき 2,000 円）を添えて、各キャンパスの大学院事務局に提出する必要があります。
- 再試験で合格した場合の成績評価は、「可」とします。

2-6　修士課程・専門職学位課程の修了要件

- 修了（いわゆる卒業のこと）のために必要な条件を、修了の要件と言います。
- 修士課程・専門職学位課程を修了するには、以下の条件が必要となります。

  ①大学院学則に定める修業年限（※）以上在学する。

  ②授業科目について所定の単位以上を修得する。

  ③必要な研究指導を受けたうえで学位論文の作成又は課題研究を行い、論文審査（又は課題研究成果の審査）及び最終試験に合格する。

  ※入学後も就業上の理由や家事・育児等の理由で学修時間が十分確保できない事情が認められる場合は、３年間での計画的な長期履修とすることが可能です。（但し、留学生や１年修了コースは対象外）

  入学後の長期履修の新規申請・期間変更については、以下の時期を目安に必要な手続きをご案内します。

  新規申請

  １年次 12～1 月期

  期間変更

  短縮申請（３→２年）･･･１年次 12 月～１月

  延長申請（３→４年）･･･２年次 12 月～1 月

- **所定の単位**、及び**学位論文作成、課題研究のいずれを行うか**は研究科、専攻、分野、領域により案内が異なります。
- **上記の他、課程の修了には、研究倫理に関する本学指定の講習または科目を受講することが必要です。**
- 標準履修年次で履修できなかった科目は、その他の年次で履修してください。

2-7　博士課程の修了要件

- 修了（いわゆる卒業のこと）のために必要な条件を、修了の要件と言います。
- 博士課程を修了するには、以下の条件が必要となります。

  ①大学院学則に定める修業年限（※）以上在学する。

  ②授業科目について必要な単位数以上を修得する。

  ③必要な研究指導を受けたうえで博士論文を作成し、論文審査及び最終試験に合格する。

  ※入学後も就業上の理由や家事・育児等の理由で学修時間が十分確保できない事情が認められる場合は、４年間（医学研究科・薬学研究科は５年間）での計画的な長期履修とすることが可能です。（但し、留学生は対象外）

  入学後の長期履修の新規申請・期間変更については、以下の時期を目安に必要な手続きをご案内します。

  新規申請

  （医療福祉学研究科）２年次 12 月～１月

  （医学研究科・薬学研究科）３年次 12 月～１月

  期間変更

  （医療福祉学研究科）短縮申請（４→３年）･･･２年次 12 月～１月

  延長申請（４→５年）･･･３年次 12 月～１月

  （医学研究科・薬学研究科）短縮申請（５→４年）･･･３年次 12 月～１月

  延長申請（５→６年）･･･４年次 12 月～１月

- 特別な場合（優れた業績を上げた場合など）には短縮して修了することができますが、その場合の要件も「国際医療福祉大学大学院学則」に定められています。手続き等については事務局にお問い合わせください。
- 博士課程において、所定の期間内に所定の単位数を取得したものの、論文が未提出又は不合格のまま同課程を終える場合は、これを本学においては**「博士課程満了」**と呼びます。博士課程満了の手続き等については事務局にお問い合わせください。
- **上記の他に、課程の修了には研究倫理に関する本学指定の科目を受講することが必要です。**
- 標準履修年次で履修できなかった科目は、その他の年次で履修してください。

2-8　研究指導について

大学院修士課程・専門職学位課程・博士課程に入学した院生は、それぞれに個別に研究を行い、修士課程・専門職学位課程であれば論文または課題研究、博士課程であれば学位論文を作成しなければなりません。また、その指導を行う教員を**「研究指導教員」**と呼びます。

研究指導のしくみ

- 研究の指導は、「○○研究指導」、「○○特別研究」等の授業の中で行われます。
- 最も多い形式は、**ゼミ形式の授業**（発表・討論を主体とする授業）と、**個別指導**の併用です。これらを正規の授業時間内にどう配置するか、授業外時間をどのように使うかは、各研究指導教員の方針によって異なります。
- 指導方法は研究指導教員の意思のみによって一方的に決まるものではありません。院生は、仕事の都合なども含めて、自分の状況や希望を早い段階で指導教員に説明し、自分自身の要望をはっきりと述べ、教える者と教えられる者とのよい関係を２人の協業として築いていくことが大切です。
- 院生の所属キャンパスと指導教員の所属キャンパスが異なる場合は、以下のような方法を利用して、修士・専門職・博士の学位に相応しいレベルの学術論文または課題研究の作成を行えることができるよう、指導が行われます。
  ①研究指導教員が院生の所属キャンパスにて対面指導を行う。
  ②メール、Teams 等(同時双方向アプリ)、その他の通信手段を駆使して意見交換を行う。
- 医学研究科博士課程においては、研究指導のための必修の授業科目として、実習科目「医学特別研究」が配置され、研究指導教員と海外の研究者との共同研究など、院生が海外研究活動を行う場合も、この「医学特別研究」の授業の一部として単位が認定されます。
  必修の「研究倫理特論」にて研究倫理に関する基本的事項を学び、同じく必修の演習科目「医学研究特論」を通して、研究内容や進捗状況に合わせて、研究計画の立案法や生物統計の手法など、研究の基盤となる技能修得、あるいは最先端の研究内容について学ぶ計 15 コマ以上のコースワークを行います。

研究指導教員

1）研究指導教員

- 本学大学院では、入学志願の段階で研究指導教員（予定者）を選ぶことを奨励しています。入学後、研究指導教員を最終的に決定します。

2）研究指導教員の変更

- 研究指導教員が途中で退任することになった場合、新たな研究指導教員を選ぶ必要が生じます。旧研究指導教員の助言を得て、新しい研究指導教員を選び、本人からの承諾を得て決めてください。この場合、新しい研究指導教員が開講している専門科目を新たに履修する必要があるかを、事前に十分話し合ってください。

- 院生の側にやむを得ない事情が生じた場合、研究指導教員を変更することができます。ただし、新旧両研究指導教員の了解を得ることが必要です。また移籍に伴い、新たな専門科目の授業を履修する必要が生じたり、修了に必要な単位数が加算されたりする場合がありますので、事前に十分話し合うようにしてください。
- いずれの場合も、「研究指導教員変更届」を大学院事務局に提出する必要があります。詳しくは、大学院事務局に問い合わせてください。
- 研究指導教員の変更や新たな研究指導教員の選定にあたって助言が必要な場合は、大学院事務局も相談に応じます。

副研究指導教員

１）副研究指導教員の指名

- 研究指導教員は、原則として「副」研究指導教員を指名し、研究指導の一部を委ねることになっています（指導の最終責任は研究指導教員にあります)。
- 副研究指導教員は、本大学院の常勤教員、国際医療福祉大学の附属及び関連機関に勤務する研究者等の中から指名できます。

２）副研究指導教員の変更

- 変更があった場合は、院生から大学院事務局に届け出てください。

2-9　本学の授業形態

国際医療福祉大学大学院の授業は面接授業の他、いわゆるメディア授業として、「ソフトウェア授業」、「ｅラーニング授業」、「その他の（メディア）授業」のいずれかに分類されます。授業をどの形式で実施するか、シラバス等で確認してください。

名称	説明
面接授業	対面して行われる一般的な授業。講義に限らず、演習や実習など対面で実施される授業はすべてこの形式
ソフトウェア授業	同時双方向ソフトウェア「Teams」や「Zoom」等で実施し、自宅などで受講する授業
ｅラーニング授業	「Google Classroom」上に構築したｅラーニングにより、自宅などで好きな時に受講する授業
その他の（メディア）授業	ソフトウェア授業と ｅ ラーニング授業のどちらにも該当しないメディア授業

それぞれの詳細な受講方法については、別途、入学時のオリエンテーション等でご案内します。

ｅラーニング授業についてのお問い合わせ

ｅラーニング授業についてご質問やご相談は、大学院教務担当（e-tokyo@ihwg.jp）まで、メールにてお問い合わせください。

2-10　学内の情報連絡

掲示板

- 大学院事務局が院生宛に発信する重要な連絡は、「大学院用Web掲示板」および「メール」によって伝達します。
- **必ず１日１回は「大学院用Web掲示板」を確認してください。**

大学院用 Web 掲示板の見方

1. 国際医療福祉大学大学院ホームページ（https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/）から大学院用 Web 掲示板へアクセスしてください。





2. ログイン画面にて、ユーザ名・パスワードを入力し、ログインしてください。

ユーザ名：**学籍番号@g.iuhw.ac.jp**
パスワード：**入学時に配信されるランダム英数字（８桁）**

※ログインに際して不明な点がございましたら、「ｅラーニングシステム」のお問い合わせ先として指定している連絡先へご連絡ください。

大学院用 Web 掲示板では、随時、以下の項目についてお知らせいたします。

＜掲示内容＞

連絡事項	
各キャンパスについて	通常時/授業週間外、年末年始の各キャンパスの対応時間を掲示しています。 各キャンパスの施設利用方法などを掲示しています。
がんプロコース	がんプロコースに関することを掲示しています。
院生個別連絡	院生個別に連絡がある場合、学籍番号を掲示しています。
授業アンケート結果	各年度前期・後期授業期間後に実施している授業アンケートの結果を掲示しています。
ご意見箱回答	ご意見箱にいただいたご意見について回答を掲示しています。
学会・セミナー	学会やセミナーに関するご案内を掲示しています。

授業週間・年間スケジュール	
週間授業時間割	授業の時間割と教室を確認することができます。
授業週間	前期・後期の授業週間を確認することができます。
年間スケジュール	各研究科の年間スケジュールを確認することができます。

履修登録・情報システム	
履修登録	UNIVERSAL PASSPORT を利用した履修登録の仕方やシラバス照会、成績照会、アンケート回答の手順（操作説明書）を確認することができます。
Google Classroom の利用	Google Classroom の利用ガイドを確認することができます。
Microsoft 365 の利用	在学中に全学生へ付与される Microsoft 365 の利用について各種マニュアルを確認することができます。

履修の手引き・学生生活の手引き	「履修の手引き・学生生活の手引き」の PDF ファイルを掲示しています。
学位申請の手引き	最新の「学位申請の手引き」をダウンロードすることができます。
各種申請書・書式	長期履修や修学意思、学籍（住所変更・所属分野変更・研究指導教員変更など）に関するお手続きを行う際の各種申請・届出用紙をダウンロードすることができます。
院生指導費	院生指導費に関するマニュアルや書式をダウンロードすることができます。
奨学金・研究助成関係	各種奨学金や研究助成に関する募集を定期的に掲示しています。
求人情報	求人情報を掲載しています。

その他	
Gmail 利用案内	大学から割り当てられたメールアカウント(Gmail)の利用マニュアルを確認することができます。
統計ソフト(SPSS) インストールマニュアル	統計ソフト(SPSS)のインストールマニュアルを確認することができます。

2-１１　研究計画の倫理審査

研究に関する倫理審査について

『人を対象とする生命科学・医学系研究倫理指針』に則って行う研究は、研究を開始する前に研究に関する倫理審査を受ける必要があります。

研究倫理に関する教育

研究に関する倫理審査を受ける前に、研究倫理に関する研修を受講し、研究倫理に関する十分な知識をあらかじめ身に着けておくことが求められます。

本学では研究倫理に関する大学院生を対象とする教育は「研究倫理特論（医療福祉学研究科、薬科学研究科、薬学研究科、医学研究科公衆衛生学専攻）」、「医学研究特論（医学研究科医学専攻）」などの科目を通じて行う他、「CREDITS（クレジッツ）」という web プログラムを通じて提供しています。自分の所属する専攻・分野・領域・コースにあわせて、これらの科目の履修または講習の受講をしましょう。大学院生が定められた教育を受けていない場合、倫理審査申請を受理することができませんのでご注意ください。なお実際に研究が開始できるのは倫理審査での承認後です。

研究倫理審査の手続き

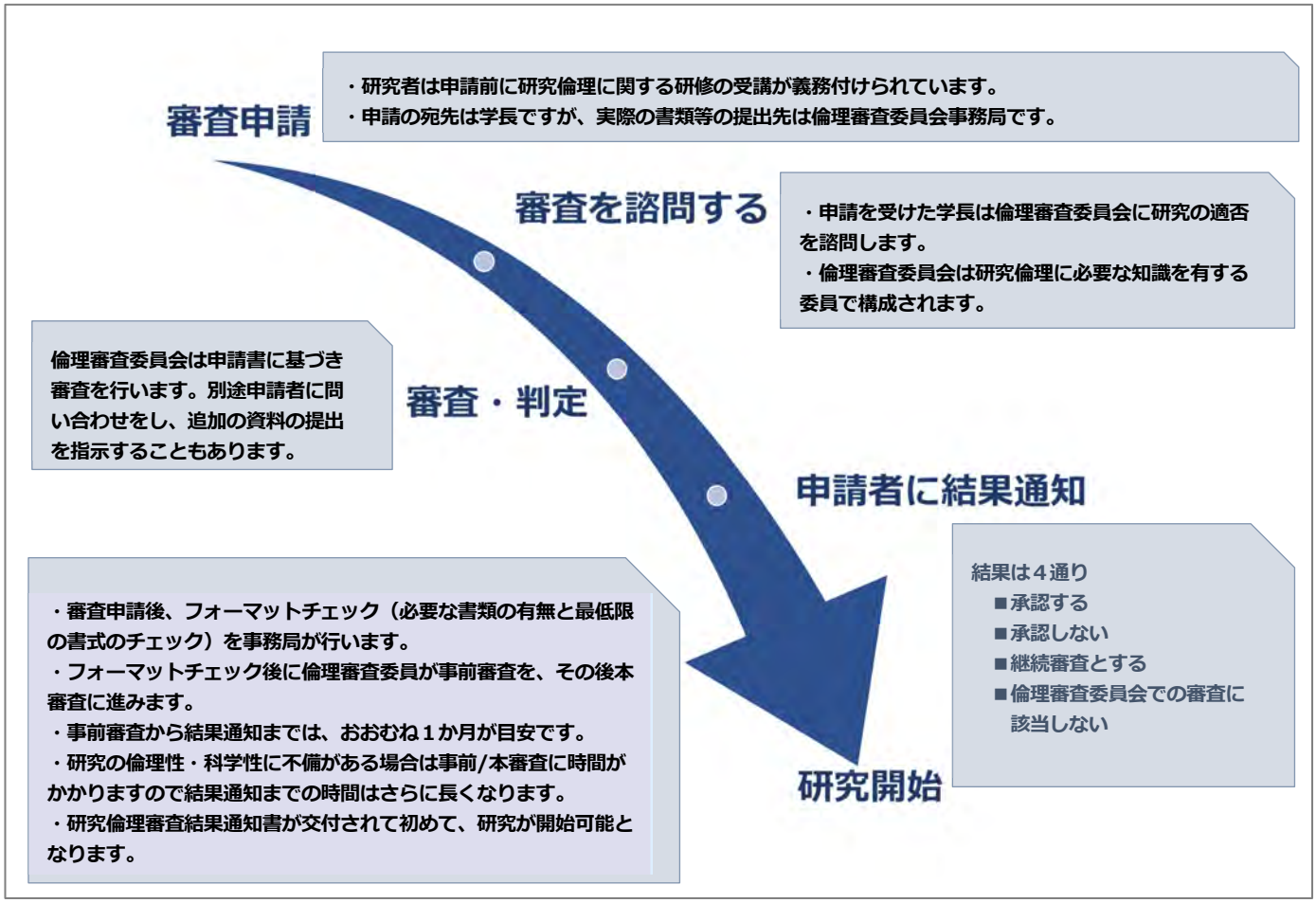
本学では、研究の倫理審査申請は BIGVBAN というシステムを用いて行います。BIGVAN の基本的な使い方は Google Classroom（クラスコードは「djgj27p」）で視聴することができます。利用ガイドなど資料一式もそこからダウンロードできます。倫理審査の直前になって申請方法が分からない、ということにならないように、新学期が始まったら早い段階で一度確認するようにしてください。

大学院生の研究に関する倫理審査の申請はこの BIGVAN から行います。必要な書式等は BIGVAN からダウンロードできます。大学院生自身が BIGVAN のシステム上で必要な書式をアップロードできますが、最終的に研究指導教員の承認（「責任者決裁」という手続きです）を経て、申請が完了します。「責任者決裁」というのは、指導教員がその研究計画書について一通り目を通してその内容を確認した、という意味です。指導される先生方もその観点からのご確認をお願いします。

申請の時だけでなく、研究を行う途上で研究倫理に関する教育を受けたことを示すエビデンスが求められることがありますので、履修・受講の記録は必ずお手元に保管しておくようにしましょう。

本学・本学グループにおける倫理審査の流れ

本学及び本学グループでは、国際医療福祉大学倫理審査委員会において審査を行います。倫理審査申請から承認までの基本的な流れは、下図のとおりです。



審査審査に関する注意事項

1. 倫理審査の申請先は、以下の①、②、③の順番で判断してください。
つまり①の規定で審査を担当する委員会が決まれば、②や③の規定でそれが変わることはありません。

①九州所属の大学院生は九州地区倫理審査委員会にて倫理審査を行う
おおよそ下記の 2 点を満たしていれば①と判断してください。
1) 指導教員が九州所属もしくは大学院生が九州所属
2) 大学院生の研究が主に実施される場所が九州地区の病院等

②医学研究科医学専攻の大学院生は千葉地区倫理審査委員会で審査を行うのを原則とする。
ただし、この場合も①の規定に合致すれば九州地区倫理審査委員会での倫理審査となる。

③上記①および②に該当しない大学院生の研究は赤坂キャンパスの倫理審査委員会で審査を行う

※問合せは、原則として研究指導教員を通じて行うようにお願いします。

【問合せ先】

大学倫理審査施設委員会（東京赤坂地区）事務局
住　所:　〒107-8402　東京都港区赤坂 4-1-26
Ｔ ｅ ｌ:　０３－５５７４－３９００
Ｍａｉｌ:　rinri-tky@ihwg.jp

大学倫理審査施設委員会(千葉地区)事務局
住　所:　〒286-8686 千葉県成田市公津の杜 4-3
Ｔ ｅ ｌ:　０４７６－２０－７７０８
Ｍａｉｌ:　rinri_md@ihwg.jp

大学倫理審査施設委員会(九州地区)事務局
住　所:　〒831-8501 福岡県大川市榎津 137-1
Ｔ ｅ ｌ:　０９４４－８９－２０００
Ｍａｉｌ:　q-rinri@ihwg.jp

2. 審査結果の詳細は以下の通りです。
ア「承認する」
イ「承認しない」
ウ「継続審査とする」
エ「倫理審査委員会での審査に該当しない」：倫理審査を行う研究に該当しません

3. 研究開始後、1 年を超えて研究を継続する場合、「実施状況報告書」の提出が必要となります。BIGVAN システムから“【通知サービス】実施状況報告のお願い”のメールが届きますので、指示に従って対応してください。

4. 研究計画の是正、研究の中止の勧告を受けることあります。また、研究中に重篤な有害事象等が発生した場合は、審査を受けた倫理審査委員会に「重篤な有害事象及び不具合等報告書」（書式あり）の提出が必要となります。

5. 研究計画が「承認」の審査結果通知書の交付を受けた後に、研究計画を変更した場合には、「研究計画変更審査申請書」（書式あり）を提出しなければなりません。承認を受けた申請書類一式（最終版）と変更が生じた書類一式に「研究計画変更審査申請書」を添付して BIGVAN システムから提出してください。

6. 研究を終了または中止したときは「研究終了（中止）報告書」（書式あり）を提出する必要があります。これについても BIGVAN システムから、“【通知サービス】予定研究期間終了のお知らせ”のメールが届きます。大学院修了などによる研究終了時にも手続きが必要となるので、注意しましょう。

7. **原則として、すでに開始された研究については、審査の対象外です（受付不可）**。既に他機関の倫理審査委員会にて承認され開始している研究に本学として参加する場合、「多機関共同研究の一括審査を受けた倫理審査委員会における変更手続きと本学における許可手続き」、あるいは「個々の機関で倫理審査を実施している研究の場合は本学での倫理審査」を受ける必要があります。

8. 「承認」の判定を受けた研究に関する証明書が必要な場合は、「研究論文等倫理審査証明申請書」

（書式あり）を提出し、証明を受けることが可能です。

9. BIGVAN システムの使い方については別途、利用ガイド等と参照してください。

10. **複数の研究機関において実施される研究を多機関共同研究といいます。その場合、倫理審査の申請の仕方等が異なる場合があります。詳しくは倫理審査委員会のホームページの「審査申請書式一覧」→「多機関共同」をご一読ください。**

倫理審査申請書等の作成・提出

必要な手続き，書式類は関連指針・法の更新に合わせ変更されますので、申請前に本学倫理審査委員会のWebページで最新版を確認してください。

（https://www.iuhw.ac.jp/research/ethics/application_t.html）

必要に応じて参照すべき法令・倫理指針

○人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html

（令和３年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第１号）※令和５年３月　２７日一部改正　７月１日より施行

○臨床研究法（平成 29 年法律第 16 号）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000163417.html

○ヒト受精胚の作成を行う生殖補助医療研究に関する倫理指針（平成２２年文部科学省・厚生労働省告示第２号）

○ヒトｉＰＳ細胞又はヒト組織幹細胞からの生殖細胞の作成を行う研究に関する指針（平成２２年文部科学省告示第８８号）

○ES 細胞の分配及び使用に関する指針（(平成２６年文部科学省告示第１７４号）

○ヒトＥＳ細胞の樹立に関する指針（平成２６年文部科学省・厚生労働省告示第２号）

○ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律(平成１２年法律第１４６号）

○特定胚の取扱いに関する指針（平成２１年文部科学省告示第８３号）

○医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令（平成９年厚生省令第２８号）

○遺伝子治療等臨床研究に関する指針（平成２７年文部科学省・厚生労働省告示第３４４号）

○再生医療等の安全性の確保等に関する法律（平成２５年法律第８５号）

○研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成１８年文部科学省告示第７１号）

○遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成１５年法律第９７号）

研究倫理については、大学院入学後できるだけ早い時期に科目の履修や講習の受講を通じて学ぶ必要があります。また、一度学習した後も、関連省庁の発表する最新の情報をフォローするようにしましょう。

手続きは年度の途中に変更になる場合もあります。必ず院生用 web 掲示板、事務局からのメール、倫理審査委員会のホームページなど、最新の情報を確認するようにしてください。

関係省庁の発表する研究倫理の方針の変更により、審査の手続きや書式が変更になること、すでに受講した講習の内容が変わり、再受講が求められることもあります。あらかじめ注意してください。

倫理審査委員会による承認の結果を得ないまま研究を始めることは絶対にあってはならないことです。審査にかかる時間も考慮し、論文作成の計画を立てるようにしましょう。

2-１２　ＴＡ（ﾃｨｰﾁﾝｸﾞ・ｱｼｽﾀﾝﾄ）制度

- ＴＡ（ティーチング・アシスタント）とは、大学院に在籍する優秀な学生が、教育的配慮の下に、学部学生に対する教育補助業務に従事する制度です。学部学生等に対するチュータリング（助言）や実験、演習の補助など、将来の教育・研究者としての訓練の機会を提供し、当該業務に対する手当を支給することにより、大学院学生を経済的に支援するとともに、大学教育の充実を図るものです。
- ＴＡの申請には、研究指導教員の推薦と所属する分野の分野責任者の承認が必要です。選考は大学院長が行います。ＴＡ制度の利用を希望する院生は、研究指導教員にご相談ください。
- 募集は毎年４月頃実施されます。所定の申請書に必要事項を記載し、研究指導教員を通じて事務局に提出してください。
- ＴＡ業務に従事するにあたり、事前に研修映像をご確認いただき、ＴＡの業務内容や心得、注意点、必要な事務手続きを把握したうえで、業務にあたってください。

【ＴＡを行う際の注意点】

■　事務局から採用の連絡がきてから業務を始めましょう。任用前の業務は業務と認められません。

■　業務時間・内容が明瞭でないものは業務時間としては申請できません。どのような業務を行ったのか、具体的な申請が必要となります。

■　行事の手伝いなど、大学運営業務の補助はＴＡ業務とはできません。

ＴＡは未来の教員としての訓練にもなります。
有意義な経験となるよう、制度を正しく理解して業務にあたってください。
わからないことは、東京赤坂キャンパス事務局にご相談ください。

2-１３　既修得単位認定の申請

- 「既修得単位認定申請」とは、本学大学院を一度退学し再入学した場合、或いは、他の大学院から本学大学院に転入学した場合等に、他の大学院等で既に単位修得した科目を現在の本学大学院で開講している科目として、単位の認定に関する審査を受けるための申請手続きです。
- 教務委員会での審査の結果、本学の開講科目を履修したと認められる場合は、単位が認定されます。
- 申請手続き等の詳細は、通学キャンパスの大学院事務局までお問い合わせください。

2-１４　転分野・転領域等について

- 院生が当初の研究テーマを変更する必要が生じた場合、あるいは研究指導教員の退任その他の理由により、その後の研究指導を他の教員に依頼することになった場合に、転分野／転領域のいずれかが生じることがあります。
- 原則として、転出先の分野・領域の専門科目は新たに履修が必要となります。また、転分野・転領域によって修了要件が変わることがあります。転分野・転領域は研究指導教員とあらかじめ十分な検討が必要になりますので、ご注意ください。
- 転分野・転領域等の手続きの詳細は、通学キャンパスの大学院事務局までお問い合わせください。

2-１５　休学や退学の手続き

休学

- 病気療養やその他やむを得ない事由により、引き続き３か月以上修学できない見込みの場合には、休学することができます。休学の手続きを行うにあたり、事前に研究指導教員へご相談の上、事務窓口へお問い合わせください。
- 休学の期間は、原則１年を超えることができません。ただし、やむを得ない事由があるときは許可を得て、さらに１年以内に限り、休学期間を延長することができます。
- 休学中も学生納付金の納付は必要となります。ご注意ください。
- 休学期間中にその事由が消滅した場合は、所定の手続きにより、復学することができます。
- 大学院生が休学した場合の修学等に関する取扱いについてはP83をご確認ください。

退学

- 諸事情により退学する場合は、必ず事前に研究指導教員へご相談の上、事務窓口へお問い合わせください。
  研究指導教員への相談状況を確認の上、お手続きをご案内いたします。
- 所定の手続きを経て、承認されると再入学することも可能です。詳細は事務窓口へお問い合わせください。

大学院生が休学した場合の修学等に関する取扱い

項目	可否	備考
履修登録、授業の受講、試験の受験（課題レポートの提出・筆記試験の受験）	×	
論文申請及び審査の受審	×	
各種研究報告会・論文発表会への参加	×	（聴講としての参加は可能）
院生指導費の執行及び申請	×	
乃木坂スクールの受講（一般申込の場合を除く）	×	
TA業務への従事	×	
院生ロッカーの利用	○	
図書館（含む貸出）の利用	○	
自習室・院生研究室の利用	○	
学生相談室の利用	○	
成績証明書の発行	○	
在学証明書の発行	○	
通学証明書の発行	×	
修了見込証明書の発行	○	※修了予定年次より発行可
学割証の発行	○	
各種届出書類の提出	○	
学生証の利用	○	
Gmail、ユニバーサルパスポートの利用	○	
掲示板の閲覧	○	
クレジッツを利用した倫理講習の受講	○	
各種研究報告会・発表会の聴講	○	
コピー機・カード利用	○	
セミナーハウスの利用	○	
駐車場・駐輪場・売店の利用	○	※駐車場棟に関しては、休学中でない学生優先
健康診断	○	

大学院公開講座

3-1 大学院公開講座 （乃木坂スクール）

概要

乃木坂スクールについて

乃木坂スクールは、医療福祉関係者のための生涯学習の夜間コースとして 2004 年に開設された、本大学院が運営する社会人向け公開講座です。開設当時、大学院キャンパスが乃木坂にあったことからこの名が付けられました。

乃木坂スクールの特徴

1. 最新のトピックスを取り上げ、各分野の第一線で活躍するリーダーや有識者を講師に招いています。
2. ほとんどの講座が Web 受講に対応しており、好きな場所で、いつでも何度でも視聴可能。
3. 東京赤坂キャンパスにて夜間帯を中心に開講され、対面での受講も可能です。
4. 講師陣や各分野で活躍する方々とのコミュニティ構築に役立ちます。

形式

乃木坂スクールの講座には、大学院の正規の授業科目を一般公開する形式と、独自に企画した講座を公開する形式があります。いずれの場合も大学院生は無料で聴講可能ですが、一部有料のものもあります。

●内容・日程は、随時更新されます。詳しくは乃木坂スクールホームページを参照してください。
https://extension.iuhw.ac.jp/

授業科目との対応表

大学院授業科目と乃木坂スクール講座の対応は下記の一覧表のとおりです。授業科目として履修する場合は、必ず履修登録を行ってください。各科目の授業形態や曜日時限等については、シラバスや大学院用 Web 掲示板に掲載されている「授業時間割」で確認してください。

2025 年前期　授業科目と乃木坂スクール講座の対応表

番号	曜日	時間	講座タイトル	大学院授業科目	担当教員	Web 受講
#01	火	18:00～19:00	令和８年度診療報酬改定 ―改定の意図を読み解き看護管理のヒントを得る―	―	福井　トシ子	○
#02	火	18:00～19:30	MBA 的医療経営２．０～目指せメディカルエグゼクティブ～	―	角田　圭雄	○
#03	火	18:00～19:30	高市政権の医療政策	―	島崎　謙治	○

#04	Web	配信日はHPを参照	臨床検査の進歩と新たな展開	―	村上 正巳	○
#05	月	18:00～19:30	体系的に学ぶ社会保障	保健医療福祉政策論Ⅰ/医療福祉学Ⅰ	中村 秀一	○
#06	月	19:45～21:15	医療・介護分野でDXを使いこなす	最新の医療福祉の動向Ⅰ（制度の視点から）	高橋 泰	○
#07	火	18:00～19:30	社会保障を分析する	医療福祉システム特論	中村 秀一	○
#08	Web	配信日はHPを参照	前例のない時代をどう生きるか	介護福祉・ケアマネジメント講義※1	石山 麗子 小平 めぐみ 坂田 佳美 鈴木 善雄	○
#09	木	19:45～21:15	これだけは知っておきたい、臨床に役立つバイオメカニクス	福祉支援工学講義修士Ⅰ（基礎）	山本 澄子 石井 慎一郎	○
#10	木	19:45～21:15	万華鏡で見る日本の医療と福祉	医療福祉ジャーナリズム特論	大熊 由紀子 丸木 一成	○
#11	金	18:00～19:30	読売新聞特別講座 変異する世界、漂流する社会、「日本人の選択」は？	医療福祉ジャーナリズム概論	丸木 一成 染谷 一	○
#12	金	19:45～21:15	医療福祉計画のロジックモデルを活用した評価 ～真のPDCAサイクルのために～	地域医療福祉ジャーナリズム特論	埴岡 健一	○
#13	Web	配信日はHPを参照	エンブリオロジスト必須講座 part 1	生殖補助医療胚培養臨床系講義Ⅰ/基礎系講義Ⅰ	猪鼻 達仁	○
#14	土 または 日、 祝日	9:00～16:10	2026年度医療通訳講座※2	臨床医学（基礎・発展）、医療通訳概論、医療通訳演習Ⅰ・Ⅱ	押味 貴之 岡村 世理奈	※

※1　大学院科目の一部を乃木坂スクールで公開しています。大学院科目として履修される場合はシラバスをご確認ください。

※2　2026年度医療通訳講座は当該分野の院生のみ受講が可能

2026年後期　授業科目と乃木坂スクール講座の対応表（2026年8月版）

番号	曜日	時間	乃木坂スクール 講座タイトル	大学院授業科目	担当教員 （敬称略）	web 受講
#01	水	18:00～19:30	加工食品を考える ～UPF（Ultra-Processed Foods）をめぐる議論～	―	山本 尚子	○
#02	水	18:00～19:30	ここでしか学べない社会保障の真実	―	大林 尚	○
#03	水	19:45～21:15	医薬品の安定供給を考える～国際的な相互依存の中で、生命と医療機能を守るために～	―	伊豆津 健一	○
#04	火	18:00～19:30	リハビリテーションと国際開発の新時代	―	河野 眞	○
#05	Web	配信日はHPを参照	アロマセラピーの科学 ～アロマセラピーを医療現場で安全に活用できるようにするために～	―	佐藤 忠章	○
#06	Web	配信日はHPを参照	宇宙環境医学	―	中原 公宏	○
#07	月	18:00～19:30	社会保障をめぐる１５の争点	保健医療福祉政策論Ⅱ	中村 秀一	○
#08	月	19:45～21:15	生成AIを使いこなす実践入門　～AIエージェント、医療・介護、アプリ作成まで～	最新の医療福祉の動向Ⅱ	高橋 泰	○
#09	水	19:45～21:15	万華鏡で見る医療と福祉 ～優しき挑戦者たち～	現場に学ぶ医療福祉倫理	大熊 由紀子	○
#10	金	18:00～19:30	医療制度・政策を解き明かす～歴史・比較・展望～	医療制度・政策論	島崎 謙治	○
#11	金	19:45～21:15	オープンデータで地域の課題を抽出し、解決に結びつける～データを「眺める人」から「地域を動かす人」へ～	医療福祉データジャーナリズム特論	埴岡 健一	○
#12	Web	配信日はHPを参照	エンブリオロジスト必須講座（臨床編）	生殖補助医療胚培養臨床系講義Ⅱ／基礎系講義Ⅱ	久須美 真紀	○
#13	木	18:00～19:30	（特別講座）『CBRNE戦記』から読み解く日本の安全保障の現在地	―	山口 芳裕	○

M e m o

受講方法

本学大学院生、研究生は乃木坂スクール講座を無料で受講できます。

・大学院生はホームページから申込みをする必要はありません。受講方法は以下をご覧ください。

・研究生はホームページから申し込みください。

対面受講

講義日をホームページで確認し、対面受講を希望の学生は直接教室へお越しください。教室は当日受付にて掲示いたします。

Web 受講

国際医療福祉大学 VOD ライブラリー（http://www.ch774.com/student/）にて受講できます。

ただし、大学院の授業科目として単位修得をしたい場合は、国際医療福祉大学 VOD ライブラリーで視聴しても成績には反映されません。単位が必要な場合には、必ず履修登録のうえ、各科目のシラバスの内容に沿って履修してください。

Web 受講視聴方法

「国際医療福祉大学 VOD ライブラリー」へログインすると、Web 受講に対応している講座をオンデマンドで視聴できます（一部の講座をのぞく）。ユーザーID はメールアドレス(Gmail)または学籍番号、初期パスワードは生年月日（8 桁）です。

① 大学院ホームページ https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/へアクセス



②ピックアップコンテンツの「大学院ポータル」をクリック



③「国際医療福祉大学 VOD ライブラリー」をクリック



④「国際医療福祉大学 VOD ライブラリー」へログイン

ログインの、ユーザーID はメールアドレス(Gmail)または学籍番号、
初期パスワードは生年月日（8 桁）です。



⑤学生向けの「乃木坂スクール Web 受講」をクリック

「乃木坂スクール Web 受講」をクリックすると、Web 受講対応講座の一覧が表示されます。



⑥各講座のページを開き、「視聴」ボタンをクリックすると講義映像の再生ができます。

資料のダウンロードは、資料の PDF ボタンをクリックしてください。



お問合せ先

乃木坂スクールの情報と問合せ先

乃木坂スクールについての最新情報は、本大学院ホームページにて確認してください。

https://extension.iuhw.ac.jp/

【お問合せ先】乃木坂スクール事務局（東京赤坂キャンパス内）
Tel：03-5574-3902　Email：nogizaka@ihwg.jp

医療福祉学研究科(修士課程)

4-1　授業科目の履修

2026 年度 修士課程開講科目

- 専攻、課程ごとの科目・標準履修年次・担当教員は下記のとおり。

  「修士」課程の共通科目・・・・・・表①　→P95

  保健医療学専攻「修士」課程の専門科目・・・・・・・表②-1　→P96

  医療福祉経営専攻「修士」課程の専門科目・・・・・表②-2　→P108

  臨床心理学専攻「修士」課程の専門科目・・・・・・・表②-3　→P111

- 各授業の詳しい内容は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス)』を閲覧してください。閲覧方法→P58

履修科目の選択と登録

１）必修科目及び選択必修科目と選択科目

- 「必修科目」とは必ず履修しなければならない科目、「選択必修科目」とは所定の選択科目群より指定単位を必ず履修しなければならない科目、「選択科目」とはある範囲から院生が自由に選択して履修することができる科目です。いずれも、科目名又は科目選択の範囲と単位数の下限が指定されています。在学期間中に、原則としてあわせて３０単位以上修得します（専攻・分野等により違いがあります)。
- 選択科目のうち、自分野・他領域、もしくは他分野の専門科目の履修制限のないものを選択する場合、遠隔授業時間割に掲載があることを確認した上で行ってください。掲載がない場合には、その科目の担当教員に確認を行なったうえで履修登録を行なってください。
- 授業を欠席する際の担当教員への連絡は事務局では受け付けませんのでご注意ください。
- 各学年を通じ、同一科目を再度履修しても、所定の単位として認めることはありません。ただし、不合格の場合を除きます。

２）履修可能な自分野・他領域、もしくは他分野の専門科目専門科目（履修制限）

- 自身の研究科、専攻おいて履修可能な他研究科、専攻科目については以下の表を参考にしてください。

専門科目履修表

	研究科・専攻（修士課程）		医療福祉学研究科		
			保健医療学専攻	医療福祉経営専攻	臨床心理学専攻
自研究科自専攻	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	○	○	×
		医療福祉経営専攻	○	○	×
		臨床心理学専攻	○ （修了要件に含まない）	○ （修了要件に含まない）	○
	研究科・専攻（修士課程）		薬科学研究科 生命薬科学専攻	医学研究科 公衆衛生学専攻	
自研究科自専攻	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	×	×	
		医療福祉経営専攻	×	×	
		臨床心理学専攻	×	×	

● 専門科目については、「履修者の限定」に該当する科目がありますので、注意をしてください。

履修者の限定について

記号	記号の意味	説明
＊	当該分野のみ	該当する分野に所属している方のみ履修可能
＊＊	当該領域・コースのみ	該当する領域・コースに所属している方のみ履修可能
○	許可を受けた学生のみ	科目担当教員が個別に許可した場合のみ履修可能

※履修者の限定欄に上記表の記号以外が記載されている場合は、その指示に従ってください。

※該当しない分野・領域・コースの方は、履修はできません。

3）履修基準

● ここでは、専攻・分野（必要によって、領域・コース）ごとに基準を設けています。
該当するページで確認をしてください。

4）履修科目の登録

● 院生は、前期登録期間にユニバーサルパスポートを利用して１年間の履修科目の登録を行い、変更がある場合、後期登録変更期間にその修正を行います。履修登録を行わなかった科目は、単位取得できませんので注意してください。履修登録期間については、大学院用 Web 掲示板等に示される通知に従ってください。

4-2　修士課程の開講科目、修了要件表

表①　2026年度　医療福祉学研究科　「修士」課程の【共通科目】・開講年次・担当教員

群	共通科目 2026年度開講科目名	単位	開講学期 前期	 後期	ナンバリング 1 2　3 4 5 6　7 8 9	担当教員名
A 研究・教育の方法	研究倫理特論	2	2		0 0 － 0 1 0 1 － 4 1 B	西垣昌和　三浦総一郎　他
	修士課程のための研究法入門	2	2		0 0 － 0 1 0 2 － 4 1 B	飯室聡　山崎力　他
	症例に基づく病理学	1	1		0 0 － 0 1 0 3 － 7 7 B	坂元亨宇
	アンケート調査・インタビュー調査・フィールドワーク入門	2	2		0 0 － 0 1 0 4 － 7 7 B	細谷幸子
	統計学入門	2	2		0 0 － 0 1 0 5 － 7 7 B	藤田烈
	統計学　*3	2	2		0 0 － 0 1 0 6 － 7 7 B	稲垣誠一
	統計学（英語クラス）　*3	2		2	0 0 － 0 1 0 7 － 7 8 B	稲垣誠一
	医学データ解析入門	2		2	0 0 － 0 1 0 8 － 7 7 B	稲垣誠一
	生物統計学概論	2	2		0 0 － 0 1 0 9 － 8 7 B	山崎力　桜井亮太
	教育学概論Ⅰ（基礎）	2	2		0 0 － 0 1 1 0 － 7 7 B	木田竜太郎
	教育学概論Ⅱ（応用）	2		2	0 0 － 0 1 1 1 － 7 7 B	木田竜太郎
	大学教育の未来展望	2		2	0 0 － 0 1 1 2 － 7 7 B	木田竜太郎
	質的研究法概論	2	2		0 0 － 0 1 1 3 － 7 7 B	細谷幸子
	質的研究法各論	2		2	0 0 － 0 1 1 4 － 7 7 B	小嶋章吾　他
	英語論文執筆演習	2		2	0 0 － 0 1 1 5 － 7 7 E	横山和仁　他
	医療における Evidence-Based Practice	2	2		0 0 － 0 1 1 6 － 4 7 B	西垣昌和
B 人間・集団	精神神経障害学　*2	2	2		0 0 － 0 2 0 1 － 8 7 B	小畠秀吾　他
	疫学概論	2	2		0 0 － 0 2 0 2 － 8 7 B	飯室聡　他
	人口問題と政策	2	2		0 0 － 0 2 0 3 － 7 7 B	菅桂太（非常勤）　他
	臨床心理学概論	2		2	0 0 － 0 2 0 4 － 7 7 B	小畠秀吾　他
	社会行動科学概論	2	2		0 0 － 0 2 0 5 － 8 7 B	調整中
	医療福祉における栄養学	2	2		0 0 － 0 2 0 6 － 7 7 B	坂口景子（非常勤）
	ボランティア論	1		1	0 0 － 0 2 0 7 － 7 7 B	中村哲也
C 保健・医療・福祉	現場に学ぶ医療福祉倫理	2		2	0 0 － 0 3 0 1 － 7 7 B	大熊由紀子
	精神保健・社会精神医学論	2	2		0 0 － 0 3 0 2 － 7 7 B	小畠秀吾
	環境・産業保健学概論	2	2		0 0 － 0 3 0 3 － 8 7 B	横山和仁　他
	災害医療論	2		2	0 0 － 0 3 0 4 － 7 7 B	石井美恵子　他
	がん医療総論	1	1		0 0 － 0 3 0 5 － 7 7 B	谷口敬道　他
	がん医療各論	2		2	0 0 － 0 3 0 6 － 7 7 B	谷口敬道　他
	医学概論	2	2		0 0 － 0 3 0 7 － 8 7 B	潮見隆之　他
	性差医学・医療	1	1		0 0 － 0 3 0 8 － 7 7 B	2026年度非開講
	先制・未病医療論	1		1	0 0 － 0 3 0 9 － 7 7 B	伊藤裕
	生活支援機器概論	2	2		0 0 － 0 3 1 0 － 7 7 B	2026年度非開講
	医療制度・政策論	2		2	0 0 － 0 3 1 1 － 7 7 B	島崎謙治
	最新の医療福祉の動向Ⅰ（制度の視点から）	2	2		0 0 － 0 3 1 2 － 7 7 B	高橋泰
	最新の医療福祉の動向Ⅱ（現場の視点から）	2		2	0 0 － 0 3 1 3 － 7 7 B	高橋泰
D 医療・福祉の経営と管理	医療経済学概論	2		2	0 0 － 0 4 0 1 － 8 7 B	池田俊也　他
	医療福祉政策・管理学概論	2	2		0 0 － 0 4 0 2 － 8 7 B	石川ベンジャミン光一
	医療福祉連携論Ⅰ（政策と制度）	2	2		0 0 － 0 4 0 3 － 7 7 B	白澤政和
	医療福祉連携論Ⅱ（実践と展開）	2		2	0 0 － 0 4 0 4 － 7 7 B	白澤政和
E 情報	医療情報システム概論	2	2		0 0 － 0 5 0 1 － 8 7 B	篠原信夫
	医療福祉面接記録法	1	1		0 0 － 0 5 0 2 － 7 7 B	小嶋章吾
F 特別講座	医療福祉アントレプレナーシップ論（自分の力で未来を拓く）	1		1	0 0 － 0 6 0 1 － 7 7 B	矢冨裕　藤田烈　他
	保健医療福祉研究のための日本語基礎　*1	6	6		0 0 － 0 6 0 2 － 7 7 N	伊吹磨友子　永射紀子
	日本語Ⅰ（アカデミックライティング基礎）　*1	1	1		0 0 － 0 6 0 3 － 7 7 N	栃丸華緒
	日本語Ⅱ（アカデミックライティング発展）　*1	1		1	0 0 － 0 6 0 4 － 7 7 N	栃丸華緒

*1「保健医療福祉研究のための日本語基礎」、「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」は、外国人学生のみを対象とした科目です。

*2「精神神経障害学」は臨床心理学専攻の学生は履修できません。

*3「統計学」及び「統計学（英語クラス）」は、いずれか一方しか履修できません。

表②－１　2026年度　医療福祉学研究科（保健医療学専攻）　「修士」課程の【専門科目】・開講年次・担当教員

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング	担当教員名
看護学分野	分野共通科目	看護学研究法Ⅰ（質的研究）	2	＊	2				4Ｎ－2001－411A	細谷幸子
		看護学研究法Ⅱ（量的研究）	2	＊	2				4Ｎ－2002－411A	熊谷たまき　他
		看護コンサルテーション論	2	＊		2			4Ｎ－2003－411A	坂木晴世
		看護教育論	2	＊		2			4Ｎ－2004－411A	吉村惠美子　他
		感覚運動看護学	2			2			4Ｎ－2005－711B	2026年度非開講
		看護クオリティマネジメント論	2	＊	2				4Ｎ－2006－711B	大谷則子
		看護政策論	2	＊		2			4Ｎ－2007－411A	福井トシ子　他
		看護倫理学	2	＊	2				4Ｎ－2008－411A	佐藤真由美　他
		高度実践看護クオリティマネジメント論	2	＊	2				4Ｎ－2009－411A	大谷則子
		高度実践フィジカルアセスメント	2	＊	2				4Ｎ－2010－411A	三條真紀子　他
		高度実践臨床病態生理学	2	＊	2				4Ｎ－2011－411A	水戸部優太　他
		高度実践臨床薬理学	2	＊	2				4Ｎ－2012－411A	佐藤真由美　他
	看護管理・政策学領域	看護管理・政策学講義［修士］Ⅰ（看護管理概論）	2		2				4Ｎ－3A01－11B	熊谷たまき　他
		看護管理・政策学講義［修士］Ⅱ（看護管理の評価と政策）	2	＊＊		2			4Ｎ－3A02－21B	
		看護管理・政策学演習［修士］Ⅰ（文献講読）	2	＊＊		2			4Ｎ－3A03－11E	熊谷たまき　髙山裕子　遠藤英子
		看護管理・政策学演習［修士］Ⅱ（研究プロセス評価）	2	＊＊			2		4Ｎ－3A04－22E	
		看護管理・政策学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4Ｎ－3A05－31K	熊谷たまき　髙山裕子　遠藤英子
		看護管理・政策学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4Ｎ－3A06－31K	
		看護管理・政策学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4Ｎ－3A07－32K	
		看護管理・政策学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4Ｎ－3A08－32K	
	看護教育学領域（研究コース）	看護教育学講義［修士］Ⅰ（概説）	2		2				4Ｎ－3B01－11B	吉村惠美子　他
		看護教育学講義［修士］Ⅱ（看護教育方法）	2	＊＊		2			4Ｎ－3B02－21B	
		看護教育学演習［修士］Ⅰ（文献検討）	2	＊＊		2			4Ｎ－3B03－11E	吉村惠美子　井上智子　佐藤真由美
		看護教育学演習［修士］Ⅱ（研究方法）	2	＊＊			2		4Ｎ－3B04－22E	鈴木由美　熊谷たまき　大谷則子 坂美奈子　山口みのり　吉岡詠美
		看護教育学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4Ｎ－3B05－31K	
		看護教育学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4Ｎ－3B06－31K	吉村惠美子　井上智子　佐藤真由美
		看護教育学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4Ｎ－3B07－32K	鈴木由美　熊谷たまき　大谷則子 坂美奈子　山口みのり　吉岡詠美
		看護教育学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4Ｎ－3B08－32K	
	看護教育学領域（CNEコース）	看護教育学講義［修士］Ⅰ（概説）	2		2				4Ｎ－3C01－11B	吉村惠美子　他
		看護教育学講義［修士］Ⅱ（看護教育方法）	2	＊＊		2			4Ｎ－3C02－21B	
		看護教育学講義［修士］Ⅲ（学習理論と方略）	2	＊＊		2			4Ｎ－3C03－21B	坂美奈子　他
		看護管理・政策学講義（修士）Ⅰ（看護管理概論）	2		2				4Ｎ－3C04－11B	熊谷たまき　他
		看護管理・政策学講義［修士］Ⅱ（看護管理の評価と政策）	2	＊＊		2			4Ｎ－3C05－21B	
		高度実践看護教育学演習［修士］Ⅰ（CNEの役割開発）	2	＊＊	2				4Ｎ－3C06－11E	坂美奈子　他
		高度実践看護教育学演習［修士］Ⅱ（学習方略、学習プログラムの設計、評価）	2	＊＊		2			4Ｎ－3C07－21E	
		高度実践看護教育学実習［修士］Ⅰ（看護基礎教育実習における教育実践）	4	＊＊	4				4Ｎ－3C08－31H	
		高度実践看護教育学実習［修士］Ⅱ（継続教育におけるOn the Job Trainingの教育実践とOff the Job Trainingのニーズ調	4	＊＊			4		4Ｎ－3C09－32H	
		高度実践看護教育学実習［修士］Ⅲ（継続教育におけるOff the Job Trainingの学修プログラム参画、評価）	2	＊＊			2		4Ｎ－3C10－32H	
		高度実践看護教育学課題研究	2	＊＊			2		4Ｎ－3C11－32K	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	後期	２年次 前期	後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
看護学分野	感染管理・感染看護学領域（研究コース）	感染管理・感染看護学講義［修士］Ⅰ（基礎理論と予防技術）	2		2				4 N － 3 E 0 1 － 1 1 B	坂木晴世　他
		感染管理・感染看護学講義［修士］Ⅱ（感染症診療の基礎）	2	＊＊		2			4 N － 3 E 0 2 － 2 1 B	
		感染管理・感染看護学演習［修士］Ⅰ（臨床疫学とＥＢＣＰ）	2	＊＊		2			4 N － 3 E 0 3 － 1 1 E	
		感染管理・感染看護学演習［修士］Ⅱ（疫学的分析手法）	2	＊＊			2		4 N － 3 E 0 4 － 2 2 E	
		感染管理・感染看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4 N － 3 E 0 5 － 3 1 K	坂木晴世
		感染管理・感染看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4 N － 3 E 0 6 － 3 1 K	
		感染管理・感染看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4 N － 3 E 0 7 － 3 2 K	
		感染管理・感染看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 N － 3 E 0 8 － 3 2 K	
	感染管理・感染看護学領域（ＣＮＳコース）	高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]Ⅰ（総論）	2	＊＊	2				4 N － 3 F 0 1 － 1 1 A	坂木晴世　他
		高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]Ⅱ（感染症の疫学・統計学）	2	＊＊	2				4 N － 3 F 0 2 － 2 1 A	
		高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]Ⅲ（洗浄・消毒・滅菌と環境調整）	1	＊＊	1				4 N － 3 F 0 3 － 2 1 A	
		高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]Ⅳ（感染症診療学）	2	＊＊		2			4 N － 3 F 0 4 － 2 1 A	
		高度実践感染管理・感染看護学援助論[修士]Ⅰ（感染看護学）	2	＊＊			2		4 N － 3 F 0 5 － 1 2 A	
		高度実践感染管理・感染看護学援助論[修士]Ⅱ（サーベイランスと疫学調査）	2	＊＊	2				4 N － 3 F 0 6 － 2 1 A	
		高度実践感染管理・感染看護学援助論[修士]Ⅲ（職業感染予防・管理論）	1	＊＊		1			4 N － 3 F 0 7 － 2 1 A	
		高度実践感染管理・感染看護学演習[修士]Ⅰ（微生物検査・実験）	2	＊＊		2			4 N － 3 F 0 8 － 1 1 D	
		高度実践感染管理・感染看護学演習[修士]Ⅱ（感染予防・管理方法論）	2	＊＊		2			4 N － 3 F 0 9 － 2 1 D	
		高度実践感染管理・感染看護学実習[修士]Ⅰ（感染症診療実習）	2	＊＊		2			4 N － 3 F 1 0 － 3 1 G	
		高度実践感染管理・感染看護学実習[修士]Ⅱ（感染予防・管理実習）	4	＊＊		4			4 N － 3 F 1 1 － 3 1 G	
		高度実践感染管理・感染看護学実習[修士]Ⅲ（感染看護実習）	4	＊＊			4		4 N － 3 F 1 2 － 3 2 G	
		高度実践感染管理・感染看護学課題研究	2	＊＊				2	4 N － 3 F 1 3 － 3 2 K	坂木晴世
	精神看護学領域（研究コース）	精神看護学講義［修士］Ⅰ（治療的介入技法）	2		2				4 N － 3 G 0 1 － 1 1 B	岡田佳詠　他
		精神看護学講義［修士］Ⅱ（精神保健医療福祉制度）	2	＊＊		2			4 N － 3 G 0 2 － 2 1 B	
		精神看護学演習［修士］Ⅰ（精神健康状態評価方法）	2	＊＊		2			4 N － 3 G 0 3 － 1 1 E	
		精神看護学演習［修士］Ⅱ（治療的介入技法）	2	＊＊			2		4 N － 3 G 0 4 － 2 2 E	
		精神看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4 N － 3 G 0 5 － 3 1 K	岡田佳詠　他
		精神看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4 N － 3 G 0 6 － 3 1 K	
		精神看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4 N － 3 G 0 7 － 3 2 K	
		精神看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 N － 3 G 0 8 － 3 2 K	
	精神看護学領域（ＣＮＳコース）	高度実践精神看護学講義[修士]Ⅰ（精神保健医療福祉制度）	2	＊＊	2				4 N － 3 H 0 1 － 1 1 A	岡田佳詠　他
		高度実践精神看護学講義[修士]Ⅱ　（精神身体状態の評価）	2	＊＊	2				4 N － 3 H 0 2 － 2 1 A	
		高度実践精神看護学講義[修士]Ⅲ　（精神科治療技法概論）	2	＊＊	2				4 N － 3 H 0 3 － 2 1 A	
		高度実践精神看護学講義[修士]Ⅳ　（精神看護理論）	2	＊＊	2				4 N － 3 H 0 4 － 2 1 A	
		高度実践精神看護学講義[修士]Ⅴ　（慢性期精神看護）	2	＊＊			2		4 N － 3 H 0 5 － 2 2 A	
		高度実践精神看護学演習[修士]Ⅰ　（精神科治療技法各論）	2	＊＊		2			4 N － 3 H 0 6 － 1 1 D	
		高度実践精神看護学演習[修士]Ⅱ　（精神看護援助技法）	2	＊＊		2			4 N － 3 H 0 7 － 2 1 D	
		高度実践精神看護学実習[修士]Ⅰ（直接ケア実習）	4	＊＊		4			4 N － 3 H 0 8 － 3 1 G	
		高度実践精神看護学実習[修士]Ⅱ（専門看護師役割機能及びコンサルテー ション・コーディネーション実習）	2	＊＊			2		4 N － 3 H 0 9 － 3 2 G	
		高度実践精神看護学実習[修士]Ⅲ（精神科診断・治療実習）	2	＊＊			2		4 N － 3 H 1 0 － 3 2 G	
		高度実践精神看護学実習[修士]Ⅳ（慢性期精神看護実習）	2	＊＊			2		4 N － 3 H 1 1 － 3 2 G	
		高度実践精神看護課題研究	2	＊＊				2	4 N － 3 H 1 2 － 3 2 K	岡田佳詠　他
	リプロダクティブヘルス看護学領域	リプロダクティブヘルス看護学講義［修士］Ⅰ（看護学の基盤）	2		2				4 N － 3 I 0 1 － 1 1 B	井村真澄　他
		リプロダクティブヘルス看護学講義［修士］Ⅱ（看護実践の探究）	2	＊＊		2			4 N － 3 I 0 2 － 2 1 B	
		リプロダクティブヘルス看護学演習［修士］Ⅰ（研究手法）	2	＊＊		2			4 N － 3 I 0 3 － 1 1 E	
		リプロダクティブヘルス看護学演習［修士］Ⅱ（看護実践のエビデンス）	2	＊＊			2		4 N － 3 I 0 4 － 2 2 E	
		リプロダクティブヘルス看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4 N － 3 I 0 5 － 3 1 K	
		リプロダクティブヘルス看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4 N － 3 I 0 6 － 3 1 K	
		リプロダクティブヘルス看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4 N － 3 I 0 7 － 3 2 K	
		リプロダクティブヘルス看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 N － 3 I 0 8 － 3 2 K	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
看護学分野	小児看護学領域	小児看護学講義［修士］Ⅰ（小児看護の基礎）	2		2				4 N － 3 J 0 1 － 1 1 B	上別府圭子　髙山裕子　他
		小児看護学講義［修士］Ⅱ（看護実践の探求）	2	＊＊		2			4 N － 3 J 0 2 － 2 1 B	
		小児看護学演習［修士］Ⅰ（研究手法）	2	＊＊		2			4 N － 3 J 0 3 － 1 1 E	
		小児看護学演習［修士］Ⅱ（事例分析）	2	＊＊			2		4 N － 3 J 0 4 － 2 2 E	
		小児看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4 N － 3 J 0 5 － 3 1 K	
		小児看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4 N － 3 J 0 6 － 3 1 K	
		小児看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4 N － 3 J 0 7 － 3 2 K	
		小児看護学研究指導［修士］Ⅳ　（論文作成）	2	＊＊				2	4 N － 3 J 0 8 － 3 2 K	
	成人看護学領域	成人看護学講義［修士］Ⅰ（基礎理論）	2		2				4 N － 3 K 0 1 － 1 1 B	佐藤真由美　他
		成人看護学講義［修士］Ⅱ（看護実践の探求）	2	＊＊		2			4 N － 3 K 0 2 － 2 1 B	井上智子　佐藤真由美　他
		成人看護学演習［修士］Ⅰ（看護実践のエビデンス）	2	＊＊		2			4 N － 3 K 0 3 － 1 1 E	
		成人看護学演習［修士］Ⅱ（研究方法演習）	2	＊＊			2		4 N － 3 K 0 4 － 2 2 E	
		成人看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4 N － 3 K 0 5 － 3 1 K	
		成人看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4 N － 3 K 0 6 － 3 1 K	
		成人看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4 N － 3 K 0 7 － 3 2 K	
		成人看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 N － 3 K 0 8 － 3 2 K	
	老年看護学領域	老年看護学講義［修士］Ⅰ（理論と方法）	2		2				4 N － 3 L 0 1 － 1 1 B	松本明美　他
		老年看護学講義［修士］Ⅱ（アセスメント・支援方法）	2	＊＊		2			4 N － 3 L 0 2 － 2 1 B	松本明美　吉村惠美子
		老年看護学演習［修士］Ⅰ（サポートシステム）	2	＊＊		2			4 N － 3 L 0 3 － 1 1 E	
		老年看護学演習［修士］Ⅱ（制度と施策）	2	＊＊			2		4 N － 3 L 0 4 － 2 2 E	
		老年看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4 N － 3 L 0 5 － 3 1 K	松本明美　吉村惠美子
		老年看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4 N － 3 L 0 6 － 3 1 K	
		老年看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4 N － 3 L 0 7 － 3 2 K	
		老年看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 N － 3 L 0 8 － 3 2 K	
	がん看護学領域（CNSコース）	高度実践がん看護学講義[修士]Ⅰ（がんに関する病態生理学）	2	＊＊	2				4 N － 3 M 0 1 － 1 1 A	三條真紀子　他
		高度実践がん看護学講義[修士]Ⅱ（がん看護に関する理論）	2	＊＊	2				4 N － 3 M 0 2 － 2 1 A	
		高度実践がん看護学講義[修士]Ⅲ（がん看護に関する看護援助論）	2	＊＊		2			4 N － 3 M 0 3 － 2 1 A	
		高度実践がん看護学講義[修士]Ⅳ（がん薬物療法看護）	2	＊＊		2			4 N － 3 M 0 4 － 2 1 A	
		高度実践がん看護学講義[修士]Ⅴ（緩和ケア）	2	＊＊		2			4 N － 3 M 0 5 － 2 1 A	
		高度実践がん看護学演習[修士]Ⅰ（がん薬物療法看護）	2	＊＊		2			4 N － 3 M 0 6 － 1 1 D	
		高度実践がん看護学演習[修士]Ⅱ（緩和ケア）	2	＊＊		2			4 N － 3 M 0 7 － 2 1 D	
		高度実践がん看護学実習[修士]Ⅰ（がん診断と治療実習）	2	＊＊		2			4 N － 3 M 0 8 － 3 1 G	
		高度実践がん看護学実習[修士]Ⅱ（専門看護師役割機能実習）	4	＊＊			4		4 N － 3 M 0 9 － 3 2 G	
		高度実践がん看護学実習[修士]Ⅲ（緩和ケア実習）	4	＊＊			4		4 N － 3 M 1 0 － 3 2 G	
		高度実践がん看護学課題研究	2	＊＊				2	4 N － 3 M 1 1 － 3 2 K	佐藤真由美　他
	周麻酔期看護学領域	周麻酔期看護学講義（状況に応じた診断・治療）	1	＊＊	1				4 N － 3 N 0 1 － 2 1 A	水戸部優太　他
		周麻酔期看護学講義（医療安全学）	2	＊＊	2				4 N － 3 N 0 2 － 2 1 A	
		周麻酔期看護学講義（特定行為実践）	2	＊＊	2				4 N － 3 N 0 3 － 2 1 A	
		周麻酔期看護学講義（薬理学および麻酔管理）	1	＊＊		1			4 N － 3 N 0 4 － 2 1 A	吉田奏　他
		周麻酔期看護学講義（モニタリングおよび術前・術後評価）	1	＊＊		1			4 N － 3 N 0 5 － 2 1 A	
		周麻酔期看護学講義（術中術後の合併症）	1	＊＊		1			4 N － 3 N 0 6 － 2 1 A	
		周麻酔期看護学演習（周麻酔期基礎技術）	2	＊＊	2				4 N － 3 N 0 7 － 2 1 D	
		周麻酔期看護学演習（麻酔中のモニタリング）	2	＊＊		2			4 N － 3 N 0 8 － 2 1 D	
		周麻酔期看護学演習（術前・術中・術後評価）	2	＊＊		2			4 N － 3 N 0 9 － 2 1 D	
		周麻酔期看護学演習（周麻酔期における合併症）	2	＊＊		2			4 N － 3 N 1 0 － 2 1 D	
		周麻酔期看護学実習Ⅰ	2	＊＊	2				4 N － 3 N 1 1 － 3 1 G	
		周麻酔期看護学実習Ⅱ	6	＊＊			6		4 N － 3 N 1 2 － 3 2 G	
		周麻酔期看護学研究法	2	＊＊	2				4 N － 3 N 1 3 － 2 1 B	水戸部優太　他
		周麻酔期看護学課題研究	6	＊＊			6		4 N － 3 N 1 4 － 3 2 K	宮下徹也　他

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 *：当該分野のみ **：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
看護学分野	家族看護学領域	家族看護学講義［修士］Ⅰ（家族看護学概論）	2		2				4Ｎ－３００１－１１Ｂ	
		家族看護学講義［修士］Ⅱ（家族看護学研究）	2	＊＊		2			4Ｎ－３００２－２１Ｂ	上別府圭子　他
		家族看護学演習［修士］Ⅰ（家族の健康を診る）	2	＊＊		2			4Ｎ－３００３－１１Ｅ	
		家族看護学演習［修士］Ⅱ（家族の声を聴く）	2	＊＊			2		4Ｎ－３００４－２２Ｅ	
		家族看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4Ｎ－３００５－３１Ｋ	村山志保　他
		家族看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4Ｎ－３００６－３１Ｋ	
		家族看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4Ｎ－３００７－３２Ｋ	上別府圭子　他
		家族看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4Ｎ－３００８－３２Ｋ	
	在宅看護学領域（研究コース）	在宅看護学講義［修士］Ⅰ（アセスメントと問題解決）	2		2				4Ｎ－３Ｐ０１－１１Ｂ	
		在宅看護学講義［修士］Ⅱ（チームケアマネジメント）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｐ０２－２１Ｂ	
		在宅看護学演習［修士］Ⅰ（ケア方法）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｐ０３－１１Ｅ	
		在宅看護学演習［修士］Ⅱ（在宅ケア管理）	2	＊＊			2		4Ｎ－３Ｐ０４－２２Ｅ	谷山牧　片平伸子　荒川博美
		在宅看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｐ０５－３１Ｋ	
		在宅看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｐ０６－３１Ｋ	
		在宅看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4Ｎ－３Ｐ０７－３２Ｋ	
		在宅看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4Ｎ－３Ｐ０８－３２Ｋ	
	在宅看護学領域（ＣＮＳコース）	高度実践在宅看護学講義[修士]Ⅰ（在宅ケアマネジメント論）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｑ０１－１１Ａ	
		高度実践在宅看護学講義[修士]Ⅱ（在宅看護アセスメント論）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｑ０２－２１Ａ	
		高度実践在宅看護学講義[修士]Ⅲ（在宅看護援助論）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｑ０３－２１Ａ	
		高度実践在宅看護学講義[修士]Ⅳ（在宅医療ケア論）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｑ０４－２１Ａ	
		高度実践在宅看護学講義[修士]Ⅴ（在宅看護管理論）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｑ０５－２１Ａ	
		高度実践在宅看護学演習[修士]Ⅰ（自立促進に関する看護）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｑ０６－１１Ｄ	片平伸子
		高度実践在宅看護学演習[修士]Ⅱ（多問題・困難課題に関する看護）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｑ０７－２１Ｄ	
		高度実践在宅看護学実習[修士]Ⅰ（包括的訪問看護実習）	6	＊＊		6			4Ｎ－３Ｑ０８－３１Ｇ	
		高度実践在宅看護学実習[修士]Ⅱ（退院支援看護実習）	2	＊＊			2		4Ｎ－３Ｑ０９－３２Ｇ	
		高度実践在宅看護学実習[修士]Ⅲ（訪問看護管理実習）	2	＊＊			2		4Ｎ－３Ｑ１０－３２Ｇ	
		高度実践在宅看護課題研究	2	＊＊				2	4Ｎ－３Ｑ１１－３２Ｋ	
	公衆衛生看護学領域研究コース	公衆衛生看護学講義［修士］Ⅰ（公衆衛生看護の対象とプロセス）	2		2				4Ｎ－３Ｒ０１－１１Ｂ	野呂千鶴子　他
		公衆衛生看護学講義［修士］Ⅱ（支援の施策化）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｒ０２－２１Ｂ	
		公衆衛生看護学演習［修士］Ⅰ（支援技術）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｒ０３－１１Ｅ	野呂千鶴子　嶋津多恵子　他
		公衆衛生看護学演習［修士］Ⅱ（評価について）	2	＊＊			2		4Ｎ－３Ｒ０４－２２Ｅ	
		公衆衛生看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索とクリティーク）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｒ０５－３１Ｋ	
		公衆衛生看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｒ０６－３１Ｋ	野呂千鶴子　嶋津多恵子
		公衆衛生看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4Ｎ－３Ｒ０７－３２Ｋ	
		公衆衛生看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4Ｎ－３Ｒ０８－３２Ｋ	
	公衆衛生看護学領域実践コース	保健医療福祉行政論［修士］Ⅰ（基礎）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｓ０１－１１Ａ	
		保健医療福祉行政論［修士］Ⅱ（発展）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｓ０２－２１Ａ	山谷麻由美　他
		公衆衛生看護学原論［修士］	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｓ０３－２１Ａ	
		実践公衆衛生看護学方法論［修士］Ⅰ（基礎）	2	＊＊	2				4Ｎ－３Ｓ０４－１１Ａ	茂木りほ　他
		実践公衆衛生看護学方法論［修士］Ⅱ（発展）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｓ０５－２１Ａ	富塚美和　他
		実践公衆衛生看護学方法論［修士］Ⅲ（応用）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｓ０６－２１Ａ	
		実践公衆衛生看護学演習［修士］Ⅰ（個人・家族支援技術）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｓ０７－１１Ｄ	茂木りほ　他
		実践公衆衛生看護学演習［修士］Ⅱ（集団への支援技術）	2	＊＊		2			4Ｎ－３Ｓ０８－２１Ｄ	
		実践公衆衛生看護学演習［修士］Ⅲ（事業化・施策化）	2	＊＊			2		4Ｎ－３Ｓ０９－２２Ｄ	富塚美和　他
		公衆衛生看護管理論［修士］	2	＊＊			2		4Ｎ－３Ｓ１０－２２Ａ	山谷麻由美　他
		公衆衛生看護学に関する課題研究Ⅰ［修士］	1	＊＊	1				4Ｎ－３Ｓ１１－３１Ｋ	山谷麻由美　茂木りほ　富塚美和
		公衆衛生看護学に関する課題研究Ⅱ［修士］	1	＊＊			1		4Ｎ－３Ｓ１２－３２Ｋ	
		公衆衛生看護学実習［修士］Ⅰ（行政）	4	＊＊			4		4Ｎ－３Ｓ１３－３２Ｇ	富塚美和　他
		公衆衛生看護学実習［修士］Ⅱ（組織・団体等）	1	＊＊				1	4Ｎ－３Ｓ１４－３２Ｇ	茂木りほ　他

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
看護学分野	国際看護学領域	国際看護学講義［修士］Ⅰ（概論）	2		2				4 N ― 3 T 0 1 ― 1 1 B	稲岡希実子
		国際看護学講義[修士]Ⅱ（協働プログラム開発過程）	2	＊＊		2			4 N ― 3 T 0 2 ― 2 1 B	
		国際看護学演習［修士］Ⅰ（協働開発計画）	2	＊＊		2			4 N ― 3 T 0 3 ― 1 1 E	
		国際看護学演習［修士］Ⅱ（フィールド検証演習）	2	＊＊			2		4 N ― 3 T 0 4 ― 2 2 E	
		国際看護学研究指導［修士］Ⅰ（文献検索・クリティーク）	2	＊＊	2				4 N ― 3 T 0 5 ― 3 1 K	
		国際看護学研究指導［修士］Ⅱ（研究デザイン）	2	＊＊		2			4 N ― 3 T 0 6 ― 3 1 K	
		国際看護学研究指導［修士］Ⅲ（データ収集と分析）	2	＊＊			2		4 N ― 3 T 0 7 ― 3 2 K	
		国際看護学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 N ― 3 T 0 8 ― 3 2 K	

		専門科目		履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次				ナンバリング	担当教員名
					１年次		２年次			
分野	領域	2026年度開講科目名	単位		前期	後期	前期	後期	1 2 3 4 5 6 7 8 9	
特定行為看護師養成分野	特定行為看護師養成領域	臨床病態生理学Ⅰ（基礎）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 1 － 1 1 A	栗田康生　他
		臨床病態生理学Ⅱ（応用）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 2 － 2 1 A	栗田康生　他
		臨床推論Ⅰ（基礎）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 3 － 1 1 A	栗田康生　他
		臨床推論Ⅱ（応用）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 4 － 2 1 A	栗田康生　他
		フィジカルアセスメントⅠ（基礎）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 5 － 1 1 D	栗田康生　他
		フィジカルアセスメントⅡ（応用）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 6 － 2 1 D	栗田康生　他
		臨床薬理学Ⅰ（基礎）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 7 － 1 1 A	栗田康生　他
		臨床薬理学Ⅱ（応用）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 8 － 2 1 A	栗田康生　他
		疾病・臨床病態概論Ⅰ（基礎）	1	＊	1				4 N － 3 U 0 9 － 1 1 A	栗田康生　他
		疾病・臨床病態概論Ⅱ（応用）	1	＊	1				4 N － 3 U 1 0 － 2 1 A	栗田康生　他
		疾病・臨床病態概論Ⅲ（高齢者を含む）	1	＊	1				4 N － 3 U 1 1 － 2 1 A	栗田康生　他
		疾病・臨床病態概論Ⅳ（小児を含む）	1	＊		1			4 N － 3 U 1 2 － 2 1 D	栗田康生　他
		医療安全	1	＊	1				4 N － 3 U 1 3 － 2 1 A	栗田康生　他
		診療看護師実践Ⅰ（基礎）	1	＊	1				4 N － 3 U 1 4 － 1 1 D	栗田康生　他
		診療看護師実践Ⅱ（応用）	1	＊	1				4 N － 3 U 1 5 － 2 1 D	栗田康生　他
		呼吸管理	2	＊		2			4 N － 3 U 1 6 － 2 1 D	栗田康生　他
		循環管理	3	＊			3		4 N － 3 U 1 7 － 2 2 D	栗田康生　他
		ドレーン管理	2	＊			2		4 N － 3 U 1 8 － 2 2 D	栗田康生　他
		感染管理	1	＊		1			4 N － 3 U 1 9 － 2 1 D	栗田康生　他
		ろう孔管理	1	＊			1		4 N － 3 U 2 0 － 2 2 D	栗田康生　他
		創傷管理	1	＊			1		4 N － 3 U 2 1 － 2 2 D	栗田康生　他
		カテーテル管理	1	＊		1			4 N － 3 U 2 2 － 2 1 D	栗田康生　他
		診断薬物療法	3	＊			3		4 N － 3 U 2 3 － 2 2 A	栗田康生　他
		法医学	2	＊		2			4 N － 3 U 2 4 － 2 1 D	栗田康生　他
		実習Ⅰ（共通科目）	2	＊	2				4 N － 3 U 2 5 － 3 1 G	栗田康生　他
		実習Ⅱ（区分別）	4	＊	4				4 N － 3 U 2 6 － 3 1 G	栗田康生　他
		実習Ⅲ（区分別）	10	＊			10		4 N － 3 U 2 7 － 3 2 G	栗田康生　他
		診療看護師研究法	2	＊		2			4 N － 3 U 2 8 － 2 1 A	栗田康生　他
		診療看護師課題研究	5	＊				5	4 N － 3 U 2 9 － 3 2 K	栗田康生

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
助産学分野	助産学領域	基礎助産学特論Ⅰ（助産学概論）	2	＊	2				4 F － 3 A 0 1 － 1 1 A	鈴木由美
		基礎助産学特論Ⅱ（母子の健康科学）	2	＊	2				4 F － 3 A 0 2 － 5 1 A	鈴木由美
		基礎助産学特論Ⅲ（家族関係論）	1	＊	1				4 F － 3 A 0 3 － 5 1 A	鈴木由美
		基礎助産学特論Ⅳ（リプロダクション）	1	＊	1				4 F － 3 A 0 4 － 5 1 A	鈴木由美
		基礎助産学特論Ⅴ（Evidence Based Midwifery）	1	＊	1				4 F － 3 A 0 5 － 8 1 A	鈴木由美
		助産診断学特論	2	＊	2				4 F － 3 A 0 6 － 5 1 A	2026年度非開講
		助産診断学演習	1	＊	1				4 F － 3 A 0 7 － 5 1 D	2026年度非開講
		助産技術学特論	1	＊	1				4 F － 3 A 0 8 － 5 1 A	2026年度非開講
		助産技術学演習	1	＊	1				4 F － 3 A 0 9 － 5 1 D	2026年度非開講
		保健指導論	1	＊	1				4 F － 3 A 1 0 － 5 1 A	2026年度非開講
		ハイリスク診断特論	2	＊	2				4 F － 3 A 1 1 － 5 1 A	2026年度非開講
		ハイリスク診断演習	1	＊		1			4 F － 3 A 1 2 － 5 1 D	2026年度非開講
		助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）	10	＊		10			4 F － 3 A 1 3 － 6 1 G	2026年度非開講
		助産学実習Ⅱ（継続事例実習）	1	＊		1			4 F － 3 A 1 4 － 6 1 G	伊藤美由紀　他
		助産学実習Ⅲ（助産所実習）	5	＊		5			4 F － 3 A 1 5 － 6 1 G	2026年度非開講
		助産学実習Ⅳ（助産管理実習）	1	＊		1			4 F － 3 A 1 6 － 6 1 G	鈴木由美
		助産学実習Ⅴ（高度実践）	4	＊		4			4 F － 3 A 1 7 － 6 1 G	2026年度非開講
		ウィメンズヘルス論	2	＊			2		4 F － 3 A 1 8 － 2 2 A	鈴木由美　他
		高度実践助産ケア論	2	＊			2		4 F － 3 A 1 9 － 5 2 A	鈴木由美　他
		地域母子保健特論	1	＊			1		4 F － 3 A 2 0 － 5 2 A	鈴木由美　他
		地域母子保健演習	1	＊			1		4 F － 3 A 2 1 － 5 2 D	鈴木由美　他
		助産管理学特論	2	＊			2		4 F － 3 A 2 2 － 2 2 A	鈴木由美　他
		母性看護学・助産学教育論	2	＊			2		4 F － 3 A 2 3 － 5 2 A	鈴木由美　他
		育児支援論	1	＊			1		4 F － 3 A 2 4 － 5 2 A	伊藤美由紀
		国際助産学特論（国際助産） （※有資格者は1年次履修可）	1	＊	1		1		4 F － 3 A 2 5 － 5 1 A	鈴木由美　他
		国際助産学演習（国際） （※有資格者は1年次履修可）	2	＊	2	2	2	2	4 F － 3 A 2 6 － 5 1 D	2026年度非開講
		助産学課題研究Ⅰ	2	＊			2		4 F － 3 A 2 7 － 6 2 K	鈴木由美　他
		助産学課題研究Ⅱ	2	＊				2	4 F － 3 A 2 8 － 6 2 K	鈴木由美　他
		助産学特別研究Ⅰ	4	＊	4				4 F － 3 A 2 9 － 6 1 K	鈴木由美　他
		助産学特別研究Ⅱ	4	＊			4		4 F － 3 A 3 0 － 6 2 K	鈴木由美　他
理学療法学分野	分野共通	呼吸理学療法概論	1		1				4 P － 2 0 0 1 － 7 1 B	糸数昌史　他
		心臓理学療法概論	1		1				4 P － 2 0 0 2 － 7 1 B	
		高次機能障害の理学療法	1			1			4 P － 2 0 0 3 － 7 1 B	
		PT・OTのための画像診断	1		1				4 P － 2 0 0 4 － 7 1 B	
		リハビリにおけるリスクとその対策	1			1			4 P － 2 0 0 5 － 7 1 B	
		呼吸リハビリテーションの有用性・汎用性	1		1				4 P － 2 0 0 6 － 7 1 B	
		リハビリテーション評価指標	1			1			4 P － 2 0 0 7 － 7 1 B	
	基礎理学療法学領域	基礎理学療法学講義［修士］Ⅰ（基礎）	2		2				4 P － 3 A 0 1 － 1 1 B	西田裕介　他
		基礎理学療法学講義［修士］Ⅱ（応用）	2			2			4 P － 3 A 0 2 － 2 1 B	
		基礎理学療法学演習［修士］Ⅰ（基礎）	2	＊		2			4 P － 3 A 0 3 － 1 1 E	
		基礎理学療法学演習［修士］Ⅱ（応用）	2	＊			2		4 P － 3 A 0 4 － 2 2 E	
		基礎理学療法学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画）	2	＊＊	2				4 P － 3 A 0 5 － 3 1 K	糸数昌史　西田裕介　河野健一
		基礎理学療法学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 P － 3 A 0 6 － 3 1 K	
		基礎理学療法学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 P － 3 A 0 7 － 3 2 K	
		基礎理学療法学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 P － 3 A 0 8 － 3 2 K	
	応用理学療法学領域	応用理学療法学講義［修士］Ⅰ（基礎）	2		2				4 P － 3 B 0 1 － 1 1 B	西田裕介　他
		応用理学療法学講義［修士］Ⅱ（応用）	2			2			4 P － 3 B 0 2 － 2 1 B	
		応用理学療法学演習［修士］Ⅰ（基礎）	2	＊		2			4 P － 3 B 0 3 － 1 1 E	
		応用理学療法学演習［修士］Ⅱ（応用）	2	＊			2		4 P － 3 B 0 4 － 2 2 E	
		応用理学療法学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画）	2	＊＊	2				4 P － 3 B 0 5 － 3 1 K	糸数昌史　西田裕介　河野健一
		応用理学療法学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 P － 3 B 0 6 － 3 1 K	
		応用理学療法学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 P － 3 B 0 7 － 3 2 K	
		応用理学療法学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 P － 3 B 0 8 － 3 2 K	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
作業療法学分野	分野共通	作業療法の動向	2			2			4 0 － 2 0 0 1 － 7 1 B	2026年度非開講
	作業活動分析学領域	作業活動分析学講義［修士］Ⅰ（基礎）	2		2				4 0 － 3 A 0 1 － 1 1 B	後藤純信　他
		作業活動分析学講義［修士］Ⅱ（応用）	2			2			4 0 － 3 A 0 2 － 2 1 B	
		作業活動分析学演習［修士］Ⅰ（基礎）	2	＊		2			4 0 － 3 A 0 3 － 1 1 E	
		作業活動分析学演習［修士］Ⅱ（応用）	2	＊			2		4 0 － 3 A 0 4 － 2 2 E	
		作業活動分析学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊	2				4 0 － 3 A 0 5 － 3 1 K	後藤純信　五味幸寛　白砂寛基 関森英伸　谷口敬道　長谷麻由 原麻理子　日田勝子　平野大輔 北島栄二
		作業活動分析学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 0 － 3 A 0 6 － 3 1 K	
		作業活動分析学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 0 － 3 A 0 7 － 3 2 K	
		作業活動分析学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 0 － 3 A 0 8 － 3 2 K	
	作業活動支援学領域	作業活動支援学講義［修士］Ⅰ（原著講読基礎）	2		2				4 0 － 3 B 0 1 － 1 1 B	藤本幹　他
		作業活動支援学講義［修士］Ⅱ（原著講読応用）	2			2			4 0 － 3 B 0 2 － 2 1 B	
		作業活動支援学演習［修士］Ⅰ（グループ演習基礎）	2	＊		2			4 0 － 3 B 0 3 － 1 1 E	
		作業活動支援学演習［修士］Ⅱ（グループ演習応用）	2	＊			2		4 0 － 3 B 0 4 － 2 2 E	
		作業活動支援学研究指導［修士］Ⅰ（研究問題の所在）	2	＊＊	2				4 0 － 3 B 0 5 － 3 1 K	北島栄二　河野眞　五味幸寛 白砂寛基　関森英伸　長谷麻由 原麻理子　平野大輔　藤本幹
		作業活動支援学研究指導［修士］Ⅱ（研究計画）	2	＊＊		2			4 0 － 3 B 0 6 － 3 1 K	
		作業活動支援学研究指導［修士］Ⅲ（研究実施）	2	＊＊			2		4 0 － 3 B 0 7 － 3 2 K	
		作業活動支援学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 0 － 3 B 0 8 － 3 2 K	
	感覚運動障害作業療法学領域	感覚運動障害作業療法学講義［修士］Ⅰ（運動学習基礎）	2		2				4 0 － 3 C 0 1 － 1 1 B	2026年度非開講
		感覚運動障害作業療法学講義［修士］Ⅱ（運動学習応用）	2			2			4 0 － 3 C 0 2 － 2 1 B	
		感覚運動障害作業療法学演習［修士］Ⅰ（文献抄読基礎）	2	＊		2			4 0 － 3 C 0 3 － 1 1 E	
		感覚運動障害作業療法学演習［修士］Ⅱ（文献抄読応用）	2	＊			2		4 0 － 3 C 0 4 － 2 2 E	
		感覚運動障害作業療法学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊	2				4 0 － 3 C 0 5 － 3 1 K	
		感覚運動障害作業療法学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 0 － 3 C 0 6 － 3 1 K	
		感覚運動障害作業療法学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 0 － 3 C 0 7 － 3 2 K	
		感覚運動障害作業療法学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 0 － 3 C 0 8 － 3 2 K	
	精神神経障害作業療法学領域	精神神経障害作業療法学講義［修士］Ⅰ（原著講読基礎）	2		2				4 0 － 3 D 0 1 － 1 1 B	2026年度非開講
		精神神経障害作業療法学講義［修士］Ⅱ（原著講読応用）	2			2			4 0 － 3 D 0 2 － 2 1 B	
		精神神経障害作業療法学演習［修士］Ⅰ（関連文献レビュー基礎）	2	＊		2			4 0 － 3 D 0 3 － 1 1 E	
		精神神経障害作業療法学演習［修士］Ⅱ（関連文献レビュー応用）	2	＊			2		4 0 － 3 D 0 4 － 2 2 E	
		精神神経障害作業療法学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画）	2	＊＊	2				4 0 － 3 D 0 5 － 3 1 K	
		精神神経障害作業療法学研究指導［修士］Ⅱ（研究実践）	2	＊＊		2			4 0 － 3 D 0 6 － 3 1 K	
		精神神経障害作業療法学研究指導［修士］Ⅲ（研究実践と分析）	2	＊＊			2		4 0 － 3 D 0 7 － 3 2 K	
		精神神経障害作業療法学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 0 － 3 D 0 8 － 3 2 K	
言語聴覚分野	言語聴覚障害学領域	言語聴覚障害学講義［修士］Ⅰ（基礎）	2		2				4 S － 3 A 0 1 － 1 1 B	畦上恭彦　他
		言語聴覚障害学講義［修士］Ⅱ（臨床）	2			2			4 S － 3 A 0 2 － 2 1 B	阿部晶子　他
		言語聴覚障害学演習［修士］Ⅰ（基礎）	2	＊		2			4 S － 3 A 0 3 － 1 1 E	阿部晶子　他
		言語聴覚障害学演習［修士］Ⅱ（展開）	2	＊			2		4 S － 3 A 0 4 － 2 2 E	畦上恭彦　他
		言語聴覚障害学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画）	2	＊＊	2				4 S － 3 A 0 5 － 3 1 K	畦上恭彦　阿部晶子　菅野倫子 富澤晃文　小森規代　岩崎淳也 大金さや香　大石斐子
		言語聴覚障害学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 S － 3 A 0 6 － 3 1 K	
		言語聴覚障害学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 S － 3 A 0 7 － 3 2 K	
		言語聴覚障害学研究指導［修士］Ⅳ（研究報告）	2	＊＊				2	4 S － 3 A 0 8 － 3 2 K	
	発声発語・嚥下障害学領域	発声発語・嚥下障害学講義［修士］Ⅰ（基礎）	2		2				4 S － 3 B 0 1 － 1 1 B	倉智雅子　他
		発声発語・嚥下障害学講義［修士］Ⅱ（臨床）	2			2			4 S － 3 B 0 2 － 2 1 B	
		発声発語・嚥下障害学演習［修士］Ⅰ（基礎）	2	＊		2			4 S － 3 B 0 3 － 1 1 E	
		発声発語・嚥下障害学演習［修士］Ⅱ（展開）	2	＊			2		4 S － 3 B 0 4 － 2 2 E	
		発声発語・嚥下障害学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画）	2	＊＊	2				4 S － 3 B 0 5 － 3 1 K	倉智雅子　前新直志　平田文 阿志賀大和
		発声発語・嚥下障害学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 S － 3 B 0 6 － 3 1 K	
		発声発語・嚥下障害学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 S － 3 B 0 7 － 3 2 K	
		発声発語・嚥下障害学研究指導［修士］Ⅳ（研究報告）	2	＊＊				2	4 S － 3 B 0 8 － 3 2 K	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
視機能療法学分野	視機能療法学領域	視機能療法学講義［修士］Ⅰ（基礎）	2		2				4 C ― 3 A 0 1 ― 1 1 B	新井田孝裕　他
		視機能療法学講義［修士］Ⅱ（応用）	2			2			4 C ― 3 A 0 2 ― 2 1 B	
		視機能療法学演習［修士］Ⅰ（基礎）	2			2			4 C ― 3 A 0 3 ― 1 1 E	
		視機能療法学演習［修士］Ⅱ（応用）	2	＊			2		4 C ― 3 A 0 4 ― 2 2 E	
		視機能療法学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊	2				4 C ― 3 A 0 5 ― 3 1 K	新井田孝裕　原直人　後関利明 内川義和　岡野真弓　鈴木賢治
		視機能療法学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 C ― 3 A 0 6 ― 3 1 K	
		視機能療法学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 C ― 3 A 0 7 ― 3 2 K	
		視機能療法学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 C ― 3 A 0 8 ― 3 2 K	
福祉支援工学分野	福祉支援工学領域	福祉支援工学講義［修士］Ⅰ（基礎）	2		2				4 T ― 3 A 0 1 ― 1 1 B	山本澄子　他
		福祉支援工学講義［修士］Ⅱ（応用）	2			2			4 T ― 3 A 0 2 ― 2 1 B	
		福祉支援工学演習［修士］Ⅰ（基礎）	2		2				4 T ― 3 A 0 3 ― 1 1 E	
		福祉支援工学演習［修士］Ⅱ（応用）	2			2			4 T ― 3 A 0 4 ― 2 1 E	
		福祉支援工学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊	2				4 T ― 3 A 0 5 ― 3 1 K	山本澄子　石井慎一郎　窪田聡
		福祉支援工学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 T ― 3 A 0 6 ― 3 1 K	
		福祉支援工学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 T ― 3 A 0 7 ― 3 2 K	
		福祉支援工学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 T ― 3 A 0 8 ― 3 2 K	
	福祉用具管理指導者領域（両コース共通）	社会福祉概説	2	＊＊	2				4 T ― 3 B 0 1 ― 2 1 B	出口弦舞　他
		福祉支援工学講義［修士］Ⅱ（応用）	2			2			4 T ― 3 B 0 2 ― 2 1 B	山本澄子　他
		移乗関連用具	2	＊＊	2				4 T ― 3 B 0 3 ― 2 1 E	出口弦舞　他
	福祉用具管理指導者領域（福祉用具管理指導者コース）	障害学	2			2			4 T ― 3 C 0 1 ― 2 1 B	下泉秀夫　他
		対人援助と指導技術	2	＊＊		2			4 T ― 3 C 0 2 ― 2 1 E	2026年度非開講
		入浴・排泄関連用具	2	＊＊		2			4 T ― 3 C 0 3 ― 2 1 E	
		起居・床ずれ関連用具	2	＊＊		2			4 T ― 3 C 0 4 ― 2 1 E	
		その他の福祉用具	2	＊＊	2				4 T ― 3 C 0 5 ― 2 1 E	
		車いすと座位保持装置	2	＊＊			2		4 T ― 3 C 0 6 ― 2 2 E	
		福祉用具整備方法	2	＊＊				2	4 T ― 3 C 0 7 ― 2 2 E	
		福祉用具市場経営論	2	＊＊				2	4 T ― 3 C 0 8 ― 2 2 B	
		個別援助計画	2	＊＊			2		4 T ― 3 C 0 9 ― 2 2 E	
		福祉住環境学（住宅改造）	2		2				4 T ― 3 C 1 0 ― 2 1 B	牛木彩子
		課題研究	4	＊＊				4	4 T ― 3 C 1 1 ― 6 2 K	2026年度非開講
		福祉用具管理指導者研究指導［修士］Ⅰ（計画作成）	2	＊＊	2				4 T ― 3 C 1 2 ― 6 1 K	出口弦舞　東畠弘子
		福祉用具管理指導者研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 T ― 3 C 1 3 ― 6 1 K	
		福祉用具管理指導者研究指導［修士］Ⅲ（論文作成基礎）	2	＊＊			2		4 T ― 3 C 1 4 ― 6 2 K	
		福祉用具管理指導者研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 T ― 3 C 1 5 ― 6 2 K	
	福祉用具管理指導者領域（福祉用具コース）	福祉用具研究指導［修士］Ⅰ（計画作成）	2	＊＊	2				4 T ― 3 D 0 1 ― 3 1 K	出口弦舞　東畠弘子
		福祉用具研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 T ― 3 D 0 2 ― 3 1 K	
		福祉用具研究指導［修士］Ⅲ（論文作成基礎）	2	＊＊			2		4 T ― 3 D 0 3 ― 3 2 K	
		福祉用具研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 T ― 3 D 0 4 ― 3 2 K	
リハビリテーション学分野	リハビリテーション学領域	リハビリテーション学講義［修士］Ⅰ（障害児・者リハビリテーション基礎）	2		2				4 X ― 3 A 0 1 ― 1 1 B	角田亘　後藤純信
		リハビリテーション学講義［修士］Ⅱ（障害児・者リハビリテーション応用）	2			2			4 X ― 3 A 0 2 ― 2 1 B	
		リハビリテーション学演習［修士］Ⅰ（文献講読）	2	＊		2			4 X ― 3 A 0 3 ― 1 1 E	角田亘　後藤純信
		リハビリテーション学演習［修士］Ⅱ（論文クリティーク）	2	＊			2		4 X ― 3 A 0 4 ― 2 2 E	
		リハビリテーション学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊	2				4 X ― 3 A 0 5 ― 3 1 K	
		リハビリテーション学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 X ― 3 A 0 6 ― 3 1 K	
		リハビリテーション学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 X ― 3 A 0 7 ― 3 2 K	
		リハビリテーション学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 X ― 3 A 0 8 ― 3 2 K	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
放射線・情報科学分野	医学物理コース（両領域共通）	力学講義	2	＊	2				4 R ― 3 A 0 1 ― 2 1 A	野村大輔
		電磁気学講義	2	＊	2				4 R ― 3 A 0 2 ― 2 1 A	本村信篤
		熱力学・統計力学講義	2	＊		2			4 R ― 3 A 0 3 ― 2 1 A	野村大輔
		原子核物理学講義	2	＊		2			4 R ― 3 A 0 4 ― 2 1 A	岡村直利
		量子力学講義	2	＊		2			4 R ― 3 A 0 5 ― 2 1 A	岡村直利
		保健物理学・放射線防護学講義	2	＊		2			4 R ― 3 A 0 6 ― 2 1 A	橋本光康　他
		放射線計測学	1	＊		1			4 R ― 3 A 0 7 ― 2 1 A	拝師智之
		放射線生物学	1	＊		1			4 R ― 3 A 0 8 ― 2 1 A	小林純也
		物理数学	2		2				4 R ― 3 A 0 9 ― 2 1 A	岡村直利
	医用画像学領域	医用画像学講義［修士］Ⅰ（技術）	2	＊＊	2				4 R ― 3 B 0 1 ― 1 1 A	椛沢宏之　他
		医用画像学講義［修士］Ⅱ（臨床）	2			2			4 R ― 3 B 0 2 ― 2 1 A	國松聡　他
		医用画像学講義［修士］Ⅲ（核医学物理学）	2	＊＊		2			4 R ― 3 B 0 3 ― 5 1 A	細貝良行　他
		医用画像学演習［修士］Ⅰ（文献調査）	2	＊＊		2			4 R ― 3 B 0 4 ― 1 1 D	椛沢宏之　拝師智之　細貝良行 樋口清孝　嶺善隆　吉岡直紀
		医用画像学演習［修士］Ⅱ（文献理解）	2	＊＊			2		4 R ― 3 B 0 5 ― 2 2 D	丸山純人　島雄大輔　本村信篤
		医用画像学研究指導［修士］Ⅰ（調査・計画）	2	＊＊	2				4 R ― 3 B 0 6 ― 3 1 K	
		医用画像学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 R ― 3 B 0 7 ― 3 1 K	椛沢宏之　拝師智之　細貝良行 樋口清孝　嶺善隆　吉岡直紀
		医用画像学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 R ― 3 B 0 8 ― 3 2 K	丸山純人　島雄大輔　本村信篤
		医用画像学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 R ― 3 B 0 9 ― 3 2 K	
	放射線治療学領域	放射線治療学講義［修士］Ⅰ（技術・物理学系）	2	＊		2			4 R ― 3 C 0 1 ― 1 1 A	橋本光康　他
		放射線治療学講義［修士］Ⅱ（臨床）	2		2				4 R ― 3 C 0 2 ― 2 1 A	橋本光康
		放射線治療学演習［修士］Ⅰ（文献調査・技術系演習）	2	＊＊		2			4 R ― 3 C 0 3 ― 1 1 D	橋本光康　小林純也　河野良介 仲田栄子
		放射線治療学演習［修士］Ⅱ（文献理解・理論計算演習）	2	＊＊			2		4 R ― 3 C 0 4 ― 2 2 D	
		放射線治療学研究指導［修士］Ⅰ（調査・計画）	2	＊＊	2				4 R ― 3 C 0 5 ― 6 1 K	
		放射線治療学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			4 R ― 3 C 0 6 ― 6 1 K	橋本光康　小林純也　河野良介 仲田栄子
		放射線治療学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		4 R ― 3 C 0 7 ― 6 2 K	
		放射線治療学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	4 R ― 3 C 0 8 ― 6 2 K	
		放射線治療学課題研究指導Ⅰ（課題実施）	2	＊＊		2			4 R ― 3 C 0 9 ― 6 1 K	2026年度非開講
		放射線治療学課題研究指導Ⅱ（論文作成）	2	＊＊				2	4 R ― 3 C 1 0 ― 6 2 K	
		放射線治療学実習Ⅰ（治療システム・線量測定）	2	＊＊	2				4 R ― 3 C 1 1 ― 6 1 H	
		放射線治療学実習Ⅱ（治療技術）	2	＊＊		2			4 R ― 3 C 1 2 ― 6 1 H	2026年度非開講
		放射線治療学実習Ⅲ（治療計画・リスク管理）	2	＊＊			2		4 R ― 3 C 1 3 ― 6 2 H	
		放射線治療学実習Ⅳ（新装置・報告書作成）	2	＊＊				2	4 R ― 3 C 1 4 ― 6 2 H	
生殖補助医療胚培養分野	生殖補助医療胚培養領域	生殖補助医療胚培養基礎系講義Ⅰ（配偶子形成と受精）	2		2				4 E ― 3 A 0 1 ― 1 1 B	
		生殖補助医療胚培養基礎系講義Ⅱ（胚発生と培養環境）	2			2			4 E ― 3 A 0 2 ― 2 1 B	
		生殖補助医療胚培養臨床系講義Ⅰ（生殖補助医療概説）	2		2				4 E ― 3 A 0 3 ― 1 1 B	堤治　他
		生殖補助医療胚培養臨床系講義Ⅱ（不妊症学）	2			2			4 E ― 3 A 0 4 ― 2 1 B	
		生殖補助医療胚培養基礎生物学講義	2	＊	2				4 E ― 3 A 0 5 ― 8 1 B	
		生殖補助医療胚培養実習（精子処理・卵子・胚処理）	16	＊	16				4 E ― 3 A 0 6 ― 3 1 H	
		生殖補助医療胚培養課題研究指導	2	＊				2	4 E ― 3 A 0 7 ― 3 2 K	堤治　他

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
医療福祉教育・管理分野	医療福祉教育・管理領域	医療福祉制度概論	2	＊		2			4 K ― 3 A 0 1 ― 2 1 B	堀本ゆかり　他
		教育原理	1	＊	1				4 K ― 3 A 0 2 ― 2 1 B	堀本ゆかり
		教育方法・評価論Ⅰ（基礎理論）	2	＊	2				4 K ― 3 A 0 3 ― 2 1 B	堀本ゆかり　他
		教育方法・評価論Ⅱ（応用）	2	＊		2			4 K ― 3 A 0 4 ― 2 1 B	堀本ゆかり　他
		教育方法・評価論Ⅲ（教育工学）	1	＊		1			4 K ― 3 A 0 5 ― 2 1 B	篠原信夫
		教育心理	1	＊		1			4 K ― 3 A 0 6 ― 2 1 B	小野田公　他
		医療福祉管理学	1	＊	1				4 K ― 3 A 0 7 ― 2 1 B	堀本ゆかり　他
		リハビリテーション教育・管理特論	1	＊	1				4 K ― 3 A 0 8 ― 2 1 B	堀本ゆかり　他
		臨床実習指導論	1	＊	1				4 K ― 3 A 0 9 ― 2 1 B	堀本ゆかり　他
		リハビリテーション管理論	1	＊		1			4 K ― 3 A 1 0 ― 2 1 B	小野田公　他
		リハビリテーション組織論	1	＊		1			4 K ― 3 A 1 1 ― 2 1 B	小野田公　他
		医療福祉教育・管理学研究指導Ⅰ（研究計画）	2	＊	2				4 K ― 3 A 1 2 ― 6 1 K	
		医療福祉教育・管理学研究指導Ⅱ（データ収集）	2	＊		2			4 K ― 3 A 1 3 ― 6 1 K	小野田公　糸数昌史　永井良治 渡邉観世子　谷口敬道　畦上恭彦 藤本幹　窪田聡　後藤純信 齋藤孝義　富永渉　篠原信夫
		医療福祉教育・管理学研究指導Ⅲ（データ分析）	2	＊			2		4 K ― 3 A 1 4 ― 6 2 K	
		医療福祉教育・管理学研究指導Ⅳ（論文作成）	2	＊				2	4 K ― 3 A 1 5 ― 6 2 K	
		医療福祉教育・管理課題研究Ⅰ（課題計画・実施）	2	＊	2				4 K ― 3 A 1 6 ― 6 1 K	小野田公　糸数昌史　永井良治 渡邉観世子　谷口敬道　畦上恭彦 藤本幹　窪田聡　後藤純信 齋藤孝義　富永渉　篠原信夫
		医療福祉教育・管理課題研究Ⅱ（課題研究報告）	2	＊		2			4 K ― 3 A 1 7 ― 6 1 K	
臨床検査学分野	臨床検査学領域	臨床検査学講義〔修士〕Ⅰ	2	＊	2				4 M ― 3 A 0 1 ― 1 1 B	長沢光章　永沢善三　竹内啓晃 村上正巳　他
		臨床検査学講義〔修士〕Ⅱ	2	＊		2			4 M ― 3 A 0 2 ― 2 1 B	
		細胞診断検査学特論Ⅰ	2	＊	2				4 M ― 3 A 0 3 ― 4 1 B	片山博徳　佐藤謙一　岡山香里 他
		細胞診断検査学特論Ⅱ	2	＊		2			4 M ― 3 A 0 4 ― 5 1 B	
		臨床検査学演習〔修士〕Ⅰ	2	＊		2			4 M ― 3 A 0 5 ― 1 1 E	長沢光章　永沢善三　竹内啓晃 清宮正徳　村上正巳　他
		臨床検査学演習〔修士〕Ⅱ	2	＊			2		4 M ― 3 A 0 6 ― 2 2 E	
		臨床検査学研究指導〔修士〕Ⅰ（研究計画）	2	＊	2				4 M ― 3 A 0 7 ― 6 1 K	長沢光章　永沢善三　竹内啓晃 清宮正徳　太田昭一郎　梅村創 廣岡良隆　佐藤謙一　矢口貴博 矢永勝彦　小荒田秀一　草場耕二 船島由美子　藤巻慎一　長田誠 久保田紀子　他
		臨床検査学研究指導〔修士〕Ⅱ（研究実践）	2	＊		2			4 M ― 3 A 0 8 ― 6 1 K	
		臨床検査学研究指導〔修士〕Ⅲ（研究実践と分析）	2	＊			2		4 M ― 3 A 0 9 ― 6 2 K	
		臨床検査学研究指導〔修士〕Ⅳ（論文作成）	2	＊				2	4 M ― 3 A 1 0 ― 6 2 K	
		細胞診断検査学課題研究Ⅰ（データ収集）	2	＊			2		4 M ― 3 A 1 1 ― 6 2 K	永沢善三　佐藤謙一　片山博徳 岡山香里　他
		細胞診断検査学課題研究Ⅱ（データ分析）	2	＊				2	4 M ― 3 A 1 2 ― 6 2 K	
		細胞診断検査学実習Ⅰ	1	＊		1			4 M ― 3 A 1 3 ― 6 1 H	佐藤謙一　永沢善三　片山博徳 岡山香里　他
		細胞診断検査学実習Ⅱ	1	＊			1		4 M ― 3 A 1 4 ― 6 2 H	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング	担当教員名
災害医療分野	災害医療領域	環境防災論	2	＊	2				4D－3A01－21B	石井美恵子　他
		環境防災演習	1	＊	1				4D－3A02－21B	石井美恵子　他
		災害医療特論（災害時対応システム）	2	＊		2			4D－3A03－21B	石井美恵子　他
		災害危機管理Ⅰ（組織マネジメント論）	2	＊		2			4D－3A04－21B	石井美恵子　他
		災害危機管理Ⅱ（リーダーシップ論）	2	＊			2		4D－3A05－22B	石井美恵子　他
		災害危機管理演習Ⅰ（リーダーシップ論）	2	＊			2		4D－3A06－22E	石井美恵子　他
		災害危機管理演習Ⅱ（組織マネジメント論）	2	＊				2	4D－3A07－22E	石井美恵子　他
		災害危機対応と倫理・法制度	1	＊	1				4D－3A08－21B	石井美恵子　他
		危機対応倫理演習	1	＊		1			4D－3A09－21E	石井美恵子　他
		研究過程・研究方法	2	＊	2				4D－3A10－21B	石井美恵子　他
		災害医療課題研究指導Ⅰ（論文講読）	2	＊			2		4D－3A11－32K	石井美恵子　他
		災害医療課題研究指導Ⅱ（研究指導）	2	＊				2	4D－3A12－32K	石井美恵子　他
遺伝カウンセリング分野	遺伝カウンセリング領域	基礎人類遺伝学Ⅰ	2	＊	2				4G－3A01－11A	西垣昌和
		基礎人類遺伝学Ⅱ	2	＊	2				4G－3A02－21A	西垣昌和
		基礎人類遺伝学演習	1	＊	1				4G－3A03－21D	西垣昌和　他
		臨床遺伝学	2	＊	2				4G－3A04－21A	西垣昌和　他
		臨床遺伝学演習	1	＊		1			4G－3A05－21D	西垣昌和　他
		遺伝情報学演習	1	＊		1			4G－3A06－21D	西垣昌和　他
		遺伝医療と社会・倫理	2	＊	2				4G－3A07－21A	西垣昌和
		遺伝医療倫理演習	1	＊		1			4G－3A08－21D	西垣昌和
		医療カウンセリング概論	1	＊	1				4G－3A09－21A	西垣昌和
		遺伝カウンセリング学	1	＊	1				4G－3A10－21A	西垣昌和
		遺伝カウンセリング演習Ⅰ（基礎）	1	＊		1			4G－3A11－11D	西垣昌和
		遺伝カウンセリング演習Ⅱ（応用）	1	＊			1		4G－3A12－21D	西垣昌和
		遺伝カウンセリング課題研究Ⅰ（研究計画作成）	2	＊	2				4G－3A13－31K	西垣昌和
		遺伝カウンセリング課題研究Ⅱ（データ収集）	2	＊		2			4G－3A14－31K	西垣昌和
		遺伝カウンセリング課題研究Ⅲ（データ分析）	2	＊			2		4G－3A15－32K	西垣昌和
		遺伝カウンセリング課題研究Ⅳ（課題研究作成）	2	＊				2	4G－3A16－32K	西垣昌和
		遺伝カウンセリング実習Ⅰ（基礎）	2	＊		2			4G－3A17－31G	西垣昌和　他
		遺伝カウンセリング実習Ⅱ（応用）	4	＊			4		4G－3A18－32G	西垣昌和　他

表②－２　2026年度　医療福祉学研究科（医療福祉経営専攻）　「修士」課程の【専門科目】・開講年次・担当教員

分野	領域・ｺｰｽ	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	科目担当教員
医療経営管理分野	分野共通科目	医療経営学入門	2		2				5 B ― 2 0 0 1 ― 5 1 B	高橋泰　他
		保健医療福祉政策論Ⅰ（総論・医療分野）	2		2				5 B ― 2 0 0 2 ― 5 1 B	中村秀一
		保健医療福祉政策論Ⅱ（介護・福祉分野）	2			2			5 B ― 2 0 0 3 ― 5 1 B	中村秀一
		医療における法と倫理	2	＊			2		5 B ― 2 0 0 4 ― 5 2 B	岡村世里奈
		データ解析のための統計学入門	2	＊	2				5 B ― 2 0 0 5 ― 5 1 B	伏見清秀　他
		財務会計論	2	＊	2				5 B ― 2 0 0 6 ― 5 1 B	中井雄一郎
		医療人事管理	2	＊		2			5 B ― 2 0 0 7 ― 5 1 B	2026年度非開講
		組織行動論	2	＊		2		2	5 B ― 2 0 0 8 ― 5 1 B	角田圭雄　他
		管理会計論	2	＊			2		5 B ― 2 0 0 9 ― 5 2 B	中井雄一郎
		医療の質とリスクマネジメント	2	＊		2			5 B ― 2 0 1 0 ― 5 1 B	2026年度非開講
		ビジネス定量分析	2	＊		2		2	5 B ― 2 0 1 1 ― 5 1 B	2026年度非開講
		医療マーケティング論	2	＊		2		2	5 B ― 2 0 1 2 ― 5 1 B	角田圭雄
		医療経営戦略論	2	＊			2		5 B ― 2 0 1 3 ― 5 2 B	角田圭雄　他
		医療福祉と税法	2	＊				2	5 B ― 2 0 1 4 ― 5 2 B	安部和彦（非常勤）
		経営者/専門家に聴くⅠ	2	＊		2			5 B ― 2 0 1 5 ― 5 1 B	高橋泰　他
		経営者/専門家に聴くⅡ	2	＊				2	5 B ― 2 0 1 6 ― 5 2 B	高橋泰　他
	医療経営戦略コース（ｈ―ＭＢＡ）	ケースメソッドで考える医療経営Ⅰ（入門）	2	＊＊	2				5 B ― 3 A 0 1 ― 3 1 E	高橋泰　他
		ケースメソッドで考える医療経営Ⅱ（初級）	2	＊＊		2			5 B ― 3 A 0 2 ― 3 1 E	
		ケースメソッドで考える医療経営Ⅲ（中級）	2	＊＊			2		5 B ― 3 A 0 3 ― 3 2 E	
		ケースメソッドで考える医療経営Ⅳ（上級）	2	＊＊				2	5 B ― 3 A 0 4 ― 3 2 E	
		医療経営演習Ⅰ（導入）	1	＊＊	1				5 B ― 3 A 0 5 ― 3 1 E	高橋泰　島崎謙治　角田圭雄 福井トシ子　伏見清秀
		医療経営演習Ⅱ（課題検討）	1	＊＊		1			5 B ― 3 A 0 6 ― 3 1 E	
		医療経営演習Ⅲ（課題分析）	1	＊＊			1		5 B ― 3 A 0 7 ― 3 2 E	
		医療経営演習Ⅳ（課題制作）	1	＊＊				1	5 B ― 3 A 0 8 ― 3 2 E	
	医療福祉管理学コース	医療福祉管理学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊	2				5 B ― 3 B 0 1 ― 3 1 K	2026年度非開講
		医療福祉管理学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			5 B ― 3 B 0 2 ― 3 1 K	
		医療福祉管理学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		5 B ― 3 B 0 3 ― 3 2 K	
		医療福祉管理学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	5 B ― 3 B 0 4 ― 3 2 K	
診療情報アナリスト養成分野	診療情報アナリスト養成領域	医療の質と診療記録のあり方	2			2			5 L ― 3 A 0 1 ― 2 1 B	齋藤豊(非常勤)
		医療情報におけるデータの視覚化	2		2				5 L ― 3 A 0 2 ― 2 1 B	江田哲也　他
		国際統計分類	1			1			5 L ― 3 A 0 3 ― 2 1 B	山口千春(非常勤)
		医療情報分析における統計処理Ⅰ	2			2			5 L ― 3 A 0 4 ― 2 1 B	江田哲也　他
		がん登録概論	2			2			5 L ― 3 A 0 5 ― 2 1 B	山口千春(非常勤)　他
		医療福祉会計特論	2		2				5 L ― 3 A 0 6 ― 2 1 B	松岡一路
		リアルワールドデータ分析と病院経営	2			2			5 L ― 3 A 0 7 ― 2 1 B	丹野清美
		診療情報管理学演習基礎Ⅰ（研究計画立案）	1	＊	1				5 L ― 3 A 0 8 ― 2 1 E	山本康弘　他
		診療情報管理学演習基礎Ⅱ（文献調査）	1	＊		1			5 L ― 3 A 0 9 ― 2 1 E	山本康弘　江田哲也　篠原信夫　他
		診療情報管理学演習応用（データ作成）	2	＊＊ 研究ｺｰｽのみ			2		5 L ― 3 A 1 0 ― 5 2 E	山本康弘　江田哲也　篠原信夫
		診療情報アナリスト課題研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成とデータ収集）	1	＊＊ 実践ｺｰｽのみ		1			5 L ― 3 A 1 1 ― 6 1 K	山本康弘　江田哲也　篠原信夫
		診療情報アナリスト課題研究指導［修士］Ⅱ（データ分析・調査）	1	＊＊ 実践ｺｰｽのみ			1		5 L ― 3 A 1 2 ― 6 2 K	
		診療情報アナリスト課題研究指導［修士］Ⅲ（課題研究報告書作成）	2	＊＊ 実践ｺｰｽのみ				2	5 L ― 3 A 1 3 ― 6 2 K	
		診療情報アナリスト研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊ 研究ｺｰｽのみ	2				5 L ― 3 A 1 4 ― 6 1 K	山本康弘　江田哲也　篠原信夫
		診療情報アナリスト研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊ 研究ｺｰｽのみ		2			5 L ― 3 A 1 5 ― 6 1 K	
		診療情報アナリスト研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊ 研究ｺｰｽのみ			2		5 L ― 3 A 1 6 ― 6 2 K	
		診療情報アナリスト研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊ 研究ｺｰｽのみ				2	5 L ― 3 A 1 7 ― 6 2 K	

分野	領域・コース	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	科目担当教員
先進的ケア・ネットワーク開発研究分野	分野共通科目	介護福祉・ケアマネジメント学講義［修士］	2		2				5Z－2A01－51B	石山麗子　他
		ケアマネジメント論［修士］	2		2				5Z－2A02－51B	石山麗子　他
		高齢者介護学[修士]	2			2			5Z－2A03－51B	小平めぐみ
		介護福祉・ケアマネジメント学演習［修士］	2		2				5Z－2A04－21E	石山麗子　他
		ケア理論演習［修士］	2	＊		2			5Z－2A05－21E	石山麗子　他
		自立支援介護学	2	＊	2				5Z－2A06－51B	小平めぐみ　他
		介護管理学	2	＊		2			5Z－2A07－51B	小平めぐみ　他
		介護保険事業各論	1	＊		1			5Z－2A08－51B	小平めぐみ　他
		ケアマネジメント教育・管理論	2	＊		2			5Z－2A09－51B	石山麗子　他
	介護福祉・ケアマネジメント学領域	介護福祉・ケアマネジメント学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊	2				5Z－3A01－31K	石山麗子　小平めぐみ　他
		介護福祉・ケアマネジメント学研究指導［修士］Ⅱ（データ収集）	2	＊＊		2			5Z－3A02－31K	
		介護福祉・ケアマネジメント学研究指導［修士］Ⅲ（データ分析）	2	＊＊			2		5Z－3A03－32K	
		介護福祉・ケアマネジメント学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成）	2	＊＊				2	5Z－3A04－32K	
	自立支援介護学領域	自立支援介護学課題研究指導Ⅰ（計画・データ収集）	2	＊＊	2				5Z－3B01－31K	小平めぐみ　他
		自立支援介護学課題研究指導Ⅱ（分析・作成）	2	＊＊		2			5Z－3B02－31K	
		自立支援型介護計画演習Ⅰ	2	＊＊	2				5Z－3B03－21E	小平めぐみ　他
		自立支援型介護計画演習Ⅱ	1	＊＊		1			5Z－3B04－21E	
		自立支援介護学演習	1	＊＊		1			5Z－3B05－21E	
		高齢者介護施設実習Ⅰ	2	＊＊	2				5Z－3B06－31H	
		高齢者介護施設実習Ⅱ	2	＊＊		2			5Z－3B07－31H	
		高齢者介護施設実習Ⅲ	2	＊＊	2				5Z－3B08－31H	
	自立支援実践ケアマネジメント学領域	ケアマネジメント直接援助・間接援助技術演習	2	＊	2				5Z－3C01－21E	石山麗子　他
		ケアマネジメント演習Ⅰ	2	＊	2				5Z－3C02－21E	
		ケアマネジメント演習Ⅱ	2	＊		2			5Z－3C03－21E	
		ケアマネジメント実践実習Ⅰ	2	＊＊	2				5Z－3C04－31H	
		ケアマネジメント実践実習Ⅱ	2	＊＊	2				5Z－3C05－31H	
		ケアマネジメント課題研究指導Ⅰ	2	＊＊	2				5Z－3C06－31K	石山麗子　他
		ケアマネジメント課題研究指導Ⅱ	2	＊＊		2			5Z－3C07－31K	
医療福祉学分野	医療福祉学領域	医療福祉学Ⅰ（地域包括ケアシステムの理念と政策動向）	2	＊	2				5H－3A01－51B	中村秀一
		医療福祉学Ⅱ（地域包括ケアシステムのマネジメント）	2	＊		2			5H－3A02－51B	中村秀一
		福祉実践各論	2		2				5H－3A03－51B	小林雅彦　他
		医療福祉システム特論	2				2		5H－3A04－52B	中村秀一
		障害学	2			2			5H－3A05－51B	下泉秀夫　他
		医療福祉制度論	2		2				5H－3A06－81B	小嶋章吾　他
		医療福祉学研究指導［修士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊	2				5H－3A07－31K	小林雅彦　小嶋章吾　白澤政和 下泉秀夫　須藤昌寛　山口佳子 中村秀一　山本由紀
		医療福祉学研究指導［修士］Ⅱ（研究方法指導）	2	＊		2			5H－3A08－31K	
		医療福祉学研究指導［修士］Ⅲ（研究実施手法指導）	2	＊			2		5H－3A09－32K	
		医療福祉学研究指導［修士］Ⅳ（論文作成指導）	2	＊				2	5H－3A10－32K	
ジャーナリズム分野	医療福祉ジャーナリズム領域	医療福祉ジャーナリズム概論Ⅰ	2		2				5J－3A01－21B	丸木一成　他
		医療福祉ジャーナリズム概論Ⅱ	2			2			5J－3A02－81B	丸木一成　他
		地域医療福祉ジャーナリズム特論	2		2				5J－3A03－21B	埴岡健一
		医療福祉ジャーナリズム特論	4		4				5J－3A04－21B	大熊由紀子　他
		医療福祉データジャーナリズム特論	2			2			5J－3A05－81B	埴岡健一　他
		医療福祉ジャーナリズム演習Ⅰ（文献講読）	2			2			5J－3A06－21E	大熊由紀子　他
		医療福祉ジャーナリズム演習Ⅱ（論文クリティーク）	2				2		5J－3A07－22E	
		医療福祉ジャーナリズム課題研究指導Ⅰ（研究計画作成）	2	＊			2		5J－3A08－32K	丸木一成　大熊由紀子　埴岡健一
		医療福祉ジャーナリズム課題研究指導Ⅱ（課題研究作成）	2	＊				2	5J－3A09－32K	

		専門科目		履修者の限定	標準履修年次				ナンバリング	
				*：当該分野のみ **：当該領域・コースのみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	1年次		2年次			
分野	領域・ｺｰｽ	2026年度開講科目名	単位		前期	後期	前期	後期	1 2 3 4 5 6 7 8 9	科目担当教員
医療通訳・国際医療マネジメント分野	医療通訳・国際医療マネジメント領域	臨床医学（基礎）	2	*、○	2				5 I － 3 A 0 1 － 4 1 B	押味貴之 他
		臨床医学（発展）	2	*、○	2				5 I － 3 A 0 2 － 5 1 B	押味貴之
		医療通訳概論	2	*	2				5 I － 3 A 0 3 － 5 1 B	押味貴之 他
		日本の医療制度と外国人医療	2	*	2				5 I － 3 A 0 4 － 5 1 B	岡村世里奈
		国際医療マネジメント総合演習	2	*		2			5 I － 3 A 0 5 － 5 1 E	岡村世里奈 他
		医療通訳演習Ⅰ	2	*	2				5 I － 3 A 0 6 － 5 1 E	押味貴之 他
		医療通訳演習Ⅱ	2	*	2				5 I － 3 A 0 7 － 5 1 E	押味貴之 他
		医療通訳演習Ⅲ	2	*		2			5 I － 3 A 0 8 － 5 1 E	押味貴之 他
		医療通訳・国際医療マネジメント実習	4	*		4		4	5 I － 3 A 0 9 － 6 1 H	岡村世里奈 他
		国際医療事務・マネジメント論	2	*		2			5 I － 3 A 1 0 － 5 1 B	岡村世里奈 他
		医療通訳・国際医療マネジメント課題研究	4	*	4				5 I － 3 A 1 1 － 6 1 K	岡村世里奈 他
		医療通訳・国際医療マネジメント学研究指導[修士]Ⅰ（研究計画）	2	*	2				5 I － 3 A 1 2 － 6 1 K	岡村世里奈 他
		医療通訳・国際医療マネジメント学研究指導[修士]Ⅱ（データ収集）	2	*		2			5 I － 3 A 1 3 － 6 1 K	
		医療通訳・国際医療マネジメント学研究指導[修士]Ⅲ（データ分析）	2	*			2		5 I － 3 A 1 4 － 6 2 K	
		医療通訳・国際医療マネジメント学研究指導[修士]Ⅳ（論文作成）	2	*				2	5 I － 3 A 1 5 － 6 2 K	

表②－３　2026年度　医療福祉学研究科（臨床心理学専攻）　「修士」課程の【専門科目】・開講年次・担当教員

専攻		臨床心理士該当群	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該専攻のみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 １年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	ナンバリング １２　３４５６　７８９	担当教員名
臨床心理学専攻	公認心理師科目	（公認心理師の資格取得を目指す学生はすべての科目を履修すること）	保健医療分野に関する理論と支援の展開／精神医学特論	2	＊	2		2		6Y－3A01－21A	小畠秀吾　野田賀大
			福祉分野に関する理論と支援の展開／障害者（児）心理学特論	2	＊		2		2	6Y－3A02－21A	橋本和明　佐野智子　小野寺敦志
			教育分野に関する理論と支援の展開／教育心理学特論	2	＊	2		2		6Y－3A03－21A	中村美穂
			司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開／犯罪心理学特論	2	＊		2		2	6Y－3A04－21A	小畠秀吾　橋本和明
			産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	＊		2		2	6Y－3A05－21A	小堀修
			心理的アセスメントに関する理論と実践／臨床心理査定演習Ⅰ	2	＊	2				6Y－3A06－21D	佐野智子　橋本和典
			心理支援に関する理論と実践／臨床心理面接特論Ⅰ	2	＊	2				6Y－3A07－21A	中野真也
			家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践／家族心理学特論	2	＊	2		2		6Y－3A08－21A	中野真也
			心の健康教育に関する理論と実践	2	＊	2		2		6Y－3A09－21A	西村信子
			心理実践実習Ⅰ	2	＊	2				6Y－3A10－31G	中村美穂　中野真也　石田航 藤森旭人　西村信子　原田真之介 剣持裕紀
			心理実践実習Ⅱ	2	＊		2			6Y－3A11－31G	
			心理実践実習Ⅲ／臨床心理実習Ⅰ（総合CF）	1	＊			1		6Y－3A12－32G	橋本和明　小畠秀吾　佐野智子 小野寺敦志　橋本和典　長谷川晃 小堀修
			心理実践実習Ⅳ／臨床心理実習Ⅲ（学外実習）	2	＊	2				6Y－3A13－31G	橋本和明　小畠秀吾　佐野智子 小野寺敦志　橋本和典　長谷川晃 小堀修　中村美穂　中野真也 石田航　藤森旭人　西村信子 原田真之介　剣持裕紀
			心理実践実習Ⅴ／臨床心理実習Ⅳ（学外実習）	2	＊			2		6Y－3A14－32G	
			心理実践実習Ⅵ（グループ支援実習）	1	＊	1				6Y－3A15－31G	
	臨床心理士科目	コア科目	臨床心理学特論Ⅰ	2	＊	2				6Y－3A16－21A	藤森旭人
			臨床心理学特論Ⅱ	2	＊		2			6Y－3A17－21A	橋本和典
			臨床心理面接特論Ⅰ／心理支援に関する理論と実践	2	＊	2				6Y－3A07－21A	中野信也
			臨床心理面接特論Ⅱ	2	＊		2			6Y－3A18－21A	西村信子　藤森旭人　原田真之介
			臨床心理査定演習Ⅰ／心理的アセスメントに関する理論と実践	2	＊	2				6Y－3A06－21D	佐野智子　橋本和典
			臨床心理査定演習Ⅱ	2	＊		2			6Y－3A19－21D	西村信子　石田航　原田真之介 山下夏美
			臨床心理基礎実習Ⅰ（学内実習／相談室）	1	＊	1				6Y－3A20－31G	中村美穂　中野真也　石田航 藤森旭人　西村信子　原田真之介 山下夏美
			臨床心理基礎実習Ⅱ（学内実習／相談室）	1	＊		1			6Y－3A21－31G	
			臨床心理実習Ⅰ／心理実践実習Ⅲ（総合CF）	1	＊			1		6Y－3A12－32G	橋本和明　小畠秀吾　佐野智子 小野寺敦志　橋本和典　長谷川晃 小堀修
			臨床心理実習Ⅱ(GSV)	1	＊				1	6Y－3A22－32G	
			臨床心理実習Ⅲ／心理実践実習Ⅳ（学外実習）	2	＊	2				6Y－3A13－31G	橋本和明　小畠秀吾　佐野智子 小野寺敦志　橋本和典　長谷川晃 小堀修　中村美穂　中野真也 石田航　藤森旭人　西村信子 原田真之介　剣持裕紀
			臨床心理実習Ⅳ／心理実践実習Ⅴ（学外実習）	2	＊			2		6Y－3A14－32G	
		A群	心理学研究法特論	2	＊	2		2		6Y－3A23－51A	小堀修
			臨床心理学研究法特論	2	＊	2		2		6Y－3A24－51A	石田航
		B群	人格心理学特論	2	＊		2		2	6Y－3A25－51A	長谷川晃
			教育心理学特論／教育分野に関する理論と支援の展開	2	＊	2		2		6Y－3A03－51A	中村美穂
		C群	犯罪心理学特論／司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	＊		2		2	6Y－3A04－51A	小畠秀吾　橋本和明
			家族心理学特論／家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	＊	2		2		6Y－3A08－51A	中野真也
		D群	障害者(児)心理学特論／福祉分野に関する理論と支援の展開	2	＊		2		2	6Y－3A02－51A	橋本和明　佐野智子　小野寺敦志
			老年心理学特論	2	＊		2		2	6Y－3A26－51A	三村將
			精神医学特論／保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	＊	2		2		6Y－3A01－51A	小畠秀吾　野田賀大
		E群	投影法特論	2	＊	2		2		6Y－3A27－51A	小野寺敦志
			グループ・アプローチ特論	2	＊		2		2	6Y－3A28－51A	原田真之介
	臨床心理学研究指導			4	＊	4				6Y－3A29－31K	橋本和明　小畠秀吾　佐野智子 小野寺敦志　橋本和典　長谷川晃 小堀修

A　保健医療学専攻

①看護学分野

看護管理・政策学領域

■看護学分野　看護管理・政策学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「看護管理・政策学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「看護管理・政策学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「看護管理・政策学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

看護教育学領域（研究コース）

■看護学分野　看護教育学領域（研究コース）　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「看護教育学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「看護教育学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「看護教育学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

看護教育学領域（CNEコース）

■看護学分野　看護教育学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
コース共通科目A	8単位	―	「看護学研究法Ⅰ（質的研究）」（2単位） 「看護学研究法Ⅱ（量的研究）」（2単位） 「教育学概論Ⅰ」（2単位） 「教育学概論Ⅱ」（2単位） 「高度実践看護クオリティマネジメント論」（2単位） 「看護倫理学」（2単位） 「看護政策論」（2単位） 「看護コンサルテーション論」（2単位） 計8科目から8単位以上を選択必修
コース共通科目B	6単位		「高度実践フィジカルアセスメント論」（2単位） 「高度実践臨床病態生理学」（2単位） 「高度実践臨床薬理学」（2単位） 計3科目6単位　必修
専門科目	26単位		「看護教育学講義（修士）Ⅰ（概説）」（2単位） 「看護教育学講義（修士）Ⅱ（看護教育方法）」（2単位） 「看護教育学講義（修士）Ⅲ（学習理論と方略）」（2単位） 「看護管理・政策学講義（修士）Ⅰ（看護管理概論）」（2単位） 「看護管理・政策学講義（修士）Ⅱ（看護管理の評価と政策）」（2単位） 「高度実践看護教育学演習［修士］Ⅰ（CNEの役割開発）」（2単位） 「高度実践看護教育学演習［修士］Ⅱ（学習方略、学習プログラムの設計、評価）」（2単位） 「高度実践看護教育学実習［修士］Ⅰ（看護基礎教育実習における教育実践）」（4単位） 「高度実践看護教育学実習［修士］Ⅱ（継続教育におけるOn the Job Trainingの教育実践とOff the Job Trainingのニーズ調査）」（4単位） 「高度実践看護教育学実習［修士］Ⅲ（継続教育におけるOff the Job Trainingの学修プログラム参画、評価）」（2単位） 「高度実践看護教育学課題研究」（2単位） 計11科目26単位　必修
小計	40単位	―	
合計	40単位以上		

【注】この他、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎　修了要件　上記４０単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

看護実践基礎・援助学領域

■看護学分野　看護実践基礎・援助学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」（2単位）必修
専門科目	16単位		「看護実践基礎・援助学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各2単位） 「看護実践基礎・援助学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各2単位） 「看護実践基礎・援助学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位） 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

感染管理・感染看護学領域（研究コース）

■看護学分野　感染管理・感染看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「感染管理・感染看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「感染管理・感染看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「感染管理・感染看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

感染管理・感染看護学領域（CNSコース）

■看護学分野　感染管理・感染看護学領域(CNSコース)　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考	
	必修	選択		
			時間割上の科目名称	専門看護師　制度上の科目
コース共通科目A	8単位	―	「看護学研究法Ⅰ(質的研究)」(2単位)	「看護研究」(2単位)
			「看護学研究法Ⅱ(量的研究)」(2単位)	
			「看護教育論」(2単位)	「看護教育論」(2単位)
			「高度実践看護クオリティマネジメント論」(2単位)	「看護管理論」(2単位)
			「看護倫理学」(2単位)	「看護倫理」(2単位)
			「看護政策論」(2単位)	「看護政策論」(2単位)
			「看護コンサルテーション論」(2単位)	「コンサルテーション論」(2単位)
				計6科目から8単位以上を選択必修
コース共通科目B	6単位		「高度実践フィジカルアセスメント論」(2単位) 「高度実践臨床病態生理学」(2単位) 「高度実践臨床薬理学」(2単位) 計3科目6単位　必修	
専門科目	28単位		「高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]Ⅰ(総論)」(2単位) 「高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]Ⅱ(感染症の疫学・統計学)」(2単位) 「高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]Ⅲ(洗浄・消毒・滅菌と環境調整)」(1単位) 「高度実践感染管理・感染看護学講義[修士]Ⅳ(感染症診療学)」(2単位) 「高度実践感染管理・感染看護学援助論[修士]Ⅰ(感染看護学)」(2単位) 「高度実践感染管理・感染看護学援助論[修士]Ⅱ(サーベイランスと疫学調査)」(2単位) 「高度実践感染管理・感染看護学援助論[修士]Ⅲ(職業感染予防・管理論)」(1単位) 「高度実践感染管理・感染看護学演習[修士]Ⅰ(微生物検査・実験)」(2単位) 「高度実践感染管理・感染看護学演習[修士]Ⅱ(感染予防・管理方法論)」(2単位) 「高度実践感染管理・感染看護学実習[修士]Ⅰ(感染症診療実習)」(2単位) 「高度実践感染管理・感染看護学実習[修士]Ⅱ(感染予防・管理実習)」(4単位) 「高度実践感染管理・感染看護学実習[修士]Ⅲ(感染看護実習)」(4単位) 「感染管理・感染看護学課題研究」(2単位) 計13科目28単位　必修	
小計	42単位	―		
合計	42単位以上			

【注】この他、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎　修了要件　上記４２単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

精神看護学領域（研究コース）

■看護学分野　精神看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「精神看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「精神看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「精神看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

精神看護学領域（CNSコース）

■看護学分野　精神看護学領域(CNSコース)　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考	
	必修	選択	時間割上の科目名称	専門看護師　制度上の科目
コース共通科目A	8単位	―	「看護学研究法Ⅰ(質的研究)」(2単位)	「看護研究」(2単位)
			「看護学研究法Ⅱ(量的研究)」(2単位)	
			「看護教育論」(2単位)	「看護教育論」(2単位)
			「高度実践看護クオリティマネジメント論」(2単位)	「看護管理論」(2単位)
			「看護倫理学」(2単位)	「看護倫理」(2単位)
			「看護政策論」(2単位)	「看護政策論」(2単位)
			「看護コンサルテーション論」(2単位)	「コンサルテーション論」(2単位)
				計6科目から8単位以上を選択必修
コース共通科目B	6単位		「高度実践フィジカルアセスメント論」(2単位) 「高度実践臨床病態生理学」(2単位) 「高度実践臨床薬理学」(2単位) 計3科目6単位　必修	
専門科目	26単位		「高度実践精神看護学講義[修士]Ⅰ(精神保健医療福祉制度)」(2単位) 「高度実践精神看護学講義[修士]Ⅱ(精神身体状態の評価)」(2単位) 「高度実践精神看護学講義[修士]Ⅲ(精神科治療技法概論)」(2単位) 「高度実践精神看護学講義[修士]Ⅳ(精神看護理論)」(2単位) 「高度実践精神看護学講義[修士]Ⅴ(慢性期精神看護)」(2単位) 「高度実践精神看護学演習[修士]Ⅰ(精神科治療技法各論)」(2単位) 「高度実践精神看護学演習[修士]Ⅱ(精神看護援助技法)」(2単位) 「高度実践精神看護学実習 [修士]Ⅰ(直接ケア実習)」(4単位) 「高度実践精神看護学実習 [修士]Ⅱ(専門看護師役割機能およびコンサルテーション・コーディネーション実習)」(2単位) 「高度実践精神看護学実習 [修士]Ⅲ(精神科診断・治療実習)」(2単位) 「高度実践精神看護学実習 [修士]Ⅳ(慢性期精神看護実習)」(2単位) 「高度実践精神看護学課題研究」(2単位) 計12科目26単位　必修	
小計	40単位	―		
合計	40単位以上			

【注】この他、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎　修了要件　上記４０単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

リプロダクティブヘルス看護学領域

■看護学分野　リプロダクティブヘルス看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「リプロダクティブヘルス看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「リプロダクティブヘルス看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「リプロダクティブヘルス看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

小児看護学領域

■看護学分野　小児看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「小児看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「小児看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「小児看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

成人看護学領域

■看護学分野　成人看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「成人看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「成人看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「成人看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

老年看護学領域

■看護学分野　老年看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「老年看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「老年看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「老年看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

がん看護学領域（CNSコース）

■看護学分野　がん看護学領域(CNSコース)　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考	
	必修	選択		
			時間割上の科目名称	専門看護師　制度上の科目
コース共通科目A	8単位	―	「看護学研究法Ⅰ(質的研究)」(2単位)	「看護研究」(2単位)
			「看護学研究法Ⅱ(量的研究)」(2単位)	
			「看護教育論」(2単位)	「看護教育論」(2単位)
			「高度実践看護クオリティマネジメント論」(2単位)	「看護管理論」(2単位)
			「看護倫理学」(2単位)	「看護倫理」(2単位)
			「看護政策論」(2単位)	「看護政策論」(2単位)
			「看護コンサルテーション論」(2単位)	「コンサルテーション論」(2単位)
				計6科目から8単位以上を選択必修
コース共通科目B	6単位		「高度実践フィジカルアセスメント論」(2単位) 「高度実践臨床病態生理学」(2単位) 「高度実践臨床薬理学」(2単位) 計3科目6単位　必修	
専門科目	26単位		「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅰ(がんに関する病態生理学)」(2単位) 「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅱ(がん看護に関する理論)」(2単位) 「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅲ(がん看護に関する看護援助論)」(2単位) 「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅳ(がん薬物療法看護)」(2単位) 「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅴ(緩和ケア)」(2単位) 「高度実践がん看護学演習[修士]Ⅰ(がん薬物療法看護)」(2単位) 「高度実践がん看護学演習[修士]Ⅱ(緩和ケア)」(2単位) 「高度実践がん看護学実習[修士]Ⅰ(がん診断と治療実習)」(2単位) 「高度実践がん看護学実習[修士]Ⅱ(専門看護師役割機能実習)」(4単位) 「高度実践がん看護学実習[修士]Ⅲ(緩和ケア実習)」(4単位) 「高度実践がん看護学課題研究」(2単位) 計11科目26単位　必修	
小計	40単位	―		
合計	40単位以上			

【注】この他、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎　修了要件　上記40単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

周麻酔期看護学領域

■看護学分野　周麻酔期看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目 専門科目	2単位	5単位以上	＜共通科目＞ 「研究倫理特論」(2単位)必修 ＜共通科目＞ 「修士課程のための研究法入門」(2単位) 「疫学概論」(2単位) 「医学概論」(2単位) 「臨床医学(発展)」(2単位) 「症例に基づく病理学」(1単位) 上記、共通科目の5科目から5単位以上選択必修
専門科目	38単位	―	「高度実践フィジカルアセスメント」(2単位) 「高度実践薬理学」(2単位) 「高度実践病態生理学」(2単位) 「周麻酔期看護学講義(状況に応じた診断・治療)」(1単位) 「周麻酔期看護学(医療安全学)」(2単位) 「周麻酔期看護学(特定行為実践)」(2単位) 「周麻酔期看護学講義(薬理学および麻酔管理)」(1単位) 「周麻酔期看護学講義(モニタリングおよび術前・術後評価)」(1単位) 「周麻酔期看護学講義(術中術後の合併症)」(1単位) 「周麻酔期看護学演習(周麻酔期基礎技術)」(2単位) 「周麻酔期看護学演習(麻酔中のモニタリング)」(2単位) 「周麻酔期看護学演習(術前・術中・術後評価)」(2単位) 「周麻酔期看護学演習(周麻酔期における合併症)」(2単位) 「周麻酔期看護学実習Ⅰ」(2単位) 「周麻酔期看護学実習Ⅱ」(6単位) 「周麻酔期看護学研究法」(2単位) 「周麻酔期看護学課題研究」(6単位) 計38単位必修
小計	40単位	5単位以上	
合計	45単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記４５単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

家族看護学領域

■看護学分野　家族看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「家族看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「家族看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「家族看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければ

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→ Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

在宅看護学領域（研究コース）

■看護学分野　在宅看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「在宅看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「在宅看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「在宅看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

在宅看護学領域（CNSコース）

■看護学分野　在宅看護学領域(CNSコース)　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考	
	必修	選択		
			時間割上の科目名称	専門看護師　制度上の科目
コース共通科目A	8単位	―	「看護学研究法Ⅰ(質的研究)」(2単位)	「看護研究」(2単位)
			「看護学研究法Ⅱ(量的研究)」(2単位)	
			「看護教育論」(2単位)	「看護教育論」(2単位)
			「高度実践看護クオリティマネジメント論」(2単位)	「看護管理論」(2単位)
			「看護倫理学」(2単位)	「看護倫理」(2単位)
			「看護政策論」(2単位)	「看護政策論」(2単位)
			「看護コンサルテーション論」(2単位)	「コンサルテーション論」(2単位)
				計6科目から8単位以上を選択必修
コース共通科目B	6単位		「高度実践フィジカルアセスメント論」(2単位) 「高度実践臨床病態生理学」(2単位) 「高度実践臨床薬理学」(2単位) 計3科目6単位　必修	
専門科目	26単位		「高度実践在宅看護学講義Ⅰ(在宅ケアマネジメント論)」(2単位) 「高度実践在宅看護学講義Ⅱ(在宅看護アセスメント論)」(2単位) 「高度実践在宅看護学講義Ⅲ(在宅看護援助論)」(2単位) 「高度実践在宅看護学講義Ⅳ(在宅医療ケア論)」(2単位) 「高度実践在宅看護学講義Ⅴ(在宅看護管理論)」(2単位) 「高度実践在宅看護学演習Ⅰ(自立促進に関する看護)」(2単位) 「高度実践在宅看護学演習Ⅱ(多問題・困難課題に関する看護)」(2単位) 「高度実践在宅看護学実習Ⅰ(包括的訪問看護実習)」(6単位) 「高度実践在宅看護学実習Ⅱ(退院支援看護実習)」(2単位) 「高度実践在宅看護学実習Ⅲ(訪問看護管理実習)」(2単位) 「高度実践在宅看護学課題研究」(2単位) 計11科目26単位　必修	
小計	40単位	―		
合計	40単位以上			

【注】この他、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎　修了要件　上記４０単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

公衆衛生看護学領域（研究コース）

■看護学分野　公衆衛生看護学領域　研究コース　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「公衆衛生看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「公衆衛生看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「公衆衛生看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。
①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96
②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

公衆衛生看護学領域（実践コース）

■看護学分野　公衆衛生看護学領域　実践コース　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	8単位	24単位以上	「研究倫理特論」(2単位) 「修士課程のための研究法入門」(2単位) 「統計学」(2単位) 「疫学概論」(2単位) 計4科目8単位必修
専門科目	29単位		「看護倫理学」(2単位) 「保健医療福祉行政論Ⅰ」(2単位) 「保健医療福祉行政論Ⅱ」(2単位) 「公衆衛生看護学原論」(2単位) 「実践公衆衛生看護学方法論Ⅰ」(2単位) 「実践公衆衛生看護学方法論Ⅱ」(2単位) 「実践公衆衛生看護学方法論Ⅲ」(2単位) 「実践公衆衛生看護学演習Ⅰ」(2単位) 「実践公衆衛生看護学演習Ⅱ」(2単位) 「実践公衆衛生看護学演習Ⅲ」(2単位) 「公衆衛生看護管理論」(2単位) 「公衆衛生看護学に関する課題研究Ⅰ」(1単位) 「公衆衛生看護学に関する課題研究Ⅱ」(1単位) 「公衆衛生看護学実習Ⅰ」(4単位) 「公衆衛生看護学実習Ⅱ」(1単位) 計15科目29単位必修
小計	37単位	24単位以上	
合計	61単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記６１単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。
○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。
①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96
②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

国際看護学領域

■看護学分野　国際看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「国際看護学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「国際看護学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「国際看護学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目・専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・Ｐ96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

教育職員（養護教諭専修）免許状課程については、

手引きが別途ありますので、大学院教務担当（e-tokyo@ihwg.jp）へお問い合わせください。

②特定行為看護師養成分野

特定行為看護師養成領域

■特定行為看護師養成分野　特定行為看護師養成領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位		「研究倫理特論」（２単位）必修
特定行為科目	４７単位	―	「臨床病態生理学Ⅰ」（１単位） 「臨床病態生理学Ⅱ」（１単位） 「臨床推論Ⅰ」（１単位） 「臨床推論Ⅱ」（１単位） 「フィジカルアセスメントⅠ」（１単位） 「フィジカルアセスメントⅡ」（１単位） 「臨床薬理学Ⅰ」（１単位） 「臨床薬理学Ⅱ」（１単位） 「疾病・臨床病態概論Ⅰ」（１単位） 「疾病・臨床病態概論Ⅱ」（１単位） 「疾病・臨床病態概論Ⅲ」（１単位） 「疾病・臨床病態概論Ⅳ」（１単位） 「医療安全」（１単位） 「診療看護師実践Ⅰ」（１単位） 「診療看護師実践Ⅱ」（１単位） 「呼吸管理」（２単位） 「循環管理」（３単位） 「ドレーン管理」（２単位） 「感染管理」（１単位） 「ろう孔管理」（１単位） 「創傷管理」（１単位） 「カテーテル管理」（１単位） 「診断薬物療法」（３単位） 「法医学」（２単位） 「実習Ⅰ」（２単位） 「実習Ⅱ」（４単位） 「実習Ⅲ」（１０単位） 特定行為科目　計２７科目４７単位　必修
課題研究科目	７単位	―	「診療看護師研究法」（２単位） 「診療看護師課題研究」（５単位） 課題研究科目　計２科目７単位　必修
小計	５６単位	―	
合計	５６単位以上		

【注】このほか、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記５６単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。（修了要件を満たした者に対し、特定行為研修修了が認められます。）

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

③助産学分野

実践コース（助産師国家試験受験資格希望者）

○助産学分野には、修士論文コース、実践コースの２つのコースがあります。実践コースについては、
助産師免許所有者と助産師国家試験受験資格希望者に分かれており、それぞれに必要となる履修科目は異なります。

（修了の要件）
- 実践コース（助産師国家試験受験資格希望者）…所定の３０単位以上の修得（課題研究審査の合格を含む）の他に、指定された助産師国家試験受験資格科目３１単位の修得
- 実践コース（助産師有資格者）…所定の３０単位以上の修得と課題研究審査に合格
- 修士論文コース…所定の３０単位以上の修得及び修士論文に合格

■助産学分野　実践コース（助産師国家試験受験資格希望者）　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	８単位	４単位以上	「研究倫理特論」（２単位） 「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「ｱﾝｹｰﾄ調査・ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ調査・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ入門」（２単位） 「統計学入門」（２単位） 計４科目８単位必修 その他、修士課程共通科目から４単位以上を選択必修
専門科目	４３単位	６単位以上	「基礎助産学特論Ⅰ（助産学概論）」（２単位） 「基礎助産学特論Ⅱ（母子の健康科学）」（２単位） 「基礎助産学特論Ⅲ（家族関係論）」（１単位） 「基礎助産学特論Ⅳ（リプロダクション）」（１単位） 「助産診断学特論」（２単位） 「助産診断学演習」（１単位） 「助産技術学特論」（１単位） 「助産技術学演習」（１単位） 「保健指導論」（１単位） 「ハイリスク診断特論」（２単位） 「ハイリスク診断演習」（１単位） 「助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）」（１０単位） 「助産学実習Ⅱ（継続事例実習）」（１単位） 「助産学実習Ⅲ（助産所実習）」（５単位） 「助産学実習Ⅳ（助産管理実習）」（１単位） 「ウィメンズヘルス論」（２単位） 「地域母子保健特論」（１単位） 「地域母子保健演習」（１単位） 「助産管理学特論」（２単位） 「育児支援論」（１単位） 「助産学課題研究Ⅰ」（２単位） 「助産学課題研究Ⅱ」（２単位） 計２２科目４３単位必修 その他、下記の専門科目から６単位以上を選択必修 「基礎助産学特論Ⅴ（Evidence Based Midwifery）」（１単位） 「高度実践助産ケア論」（２単位） 「母性看護学・助産学教育論」（２単位） 「国際助産学特論（国際助産）」（１単位） 「国際助産学演習（国際）」（２単位）
小計	５１単位	１０単位以上	
合計	６１単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得（課題研究審査の合格を含む）の他に、指定された助産師国家資格受験科目３１単位を修得しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

実践コース（助産師有資格者）

■助産学分野　実践コース（助産師有資格者）　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位		「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計２科目４単位必修
専門科目	１６単位	１０単位以上	「基礎助産学特論Ⅰ（助産学概論）」（２単位） 「ウィメンズヘルス論」（２単位） 「助産管理学特論」（２単位） 「母性看護学・助産学教育論」（２単位） 「助産学実習Ⅴ（高度実践）」（４単位） 「助産学課題研究Ⅰ」（２単位） 「助産学課題研究Ⅱ」（２単位） 計７科目１６単位必修 その他、下記の専門科目及び修士課程共通科目から１０単位以上を選択必修 「基礎助産学特論Ⅱ（母子の健康科学）」（２単位） 「基礎助産学特論Ⅲ（家族関係論）」（１単位） 「基礎助産学特論Ⅳ（リプロダクション）」（１単位） 「基礎助産学特論Ⅴ（Evidence Based Midwifery）」（１単位） 「助産診断学特論」（２単位） 「助産診断学演習」（１単位） 「助産技術学特論」（１単位） 「助産技術学演習」（１単位） 「保健指導論」（１単位） 「ハイリスク診断特論」（２単位） 「ハイリスク診断演習」（１単位） 「高度実践助産ケア論」（２単位） 「地域母子保健特論」（１単位） 「地域母子保健演習」（１単位） 「育児支援論」（１単位） 「国際助産学特論（国際助産）」（１単位） 「国際助産学演習（国際）」（２単位）
小計	２０単位	１０単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→ P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

修士論文コース

■助産学分野　修士論文コース　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位		「研究倫理特論」（２単位） 「修士課程のための研究法入門」（２単位） 計２科目４単位必修
専門科目	１６単位	１０単位以上	「基礎助産学特論Ⅰ（助産学概論）」（２単位） 「ウィメンズヘルス論」（２単位） 「助産管理学特論」（２単位） 「母性看護学・助産学教育論」（２単位） 「助産学特別研究Ⅰ」（４単位） 「助産学特別研究Ⅱ」（４単位） 計６科目１６単位必修 その他、下記の専門科目及び修士課程共通科目から１０単位以上を選択必修 「基礎助産学特論Ⅱ（母子の健康科学）」（２単位） 「基礎助産学特論Ⅲ（家族関係論）」（１単位） 「基礎助産学特論Ⅳ（リプロダクション）」（１単位） 「基礎助産学特論Ⅴ（Evidence Based Midwifery）」（１単位） 「助産診断学特論」（２単位） 「助産診断学演習」（１単位） 「助産技術学特論」（１単位） 「助産技術学演習」（１単位） 「保健指導論」（１単位） 「ハイリスク診断特論」（２単位） 「ハイリスク診断演習」（１単位） 「高度実践助産ケア論）」（２単位） 「地域母子保健特論」（１単位） 「地域母子保健演習」（１単位） 「育児支援論」（１単位） 「国際助産学特論（国際助産）」（１単位） 「国際助産学演習（国際）」（２単位）
小計	２０単位	１０単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

④理学療法学分野

基礎理学療法学領域

■理学療法学分野　基礎理学療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「基礎理学療法学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「基礎理学療法学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「基礎理学療法学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。　閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

応用理学療法学領域

■理学療法学分野　応用理学療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「応用理学療法学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「応用理学療法学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「応用理学療法学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。　閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑤作業療法学分野

作業活動分析学領域

■作業療法学分野　作業活動分析学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「作業活動分析学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「作業活動分析学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「作業活動分析学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、「作業療法の動向」または、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目(履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

作業活動支援学領域

■作業療法学分野　作業活動支援学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「作業活動支援学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「作業活動支援学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「作業活動支援学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、「作業療法の動向」または、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目(履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

感覚運動障害作業療法学領域

■作業療法学分野　感覚運動障害作業療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「感覚運動障害作業療法学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「感覚運動障害作業療法学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「感覚運動障害作業療法学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、「作業療法の動向」または、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目(履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

精神神経障害作業療法学領域

■作業療法学分野　精神神経障害作業療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「精神神経障害作業療法学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「精神神経障害作業療法学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「精神神経障害作業療法学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、「作業療法の動向」または、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目(履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑥言語聴覚分野

言語聴覚障害学領域

■言語聴覚分野　言語聴覚障害学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「言語聴覚障害学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「言語聴覚障害学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「言語聴覚障害学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この分野の他領域の科目で履修制限がないもの、この分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→ P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

発声発語・嚥下障害学領域

■言語聴覚分野　発声発語･嚥下障害学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	12単位以上	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	16単位		「発声発語･嚥下障害学講義(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「発声発語･嚥下障害学演習(修士)Ⅰ・Ⅱ」(各2単位) 「発声発語･嚥下障害学研究指導(修士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各2単位) 計16単位必修
小計	18単位	12単位以上	
合計	30単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この分野の他領域の科目で履修制限がないもの、この分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→ P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑦視機能療法学分野

視機能療法学領域

■視機能療法学分野　視機能療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「視機能療法学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「視機能療法学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「視機能療法学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑧福祉支援工学分野

福祉支援工学領域

■福祉支援工学分野　福祉支援工学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「福祉支援工学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「福祉支援工学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「福祉支援工学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

福祉用具管理指導者領域（福祉用具管理指導者コース）

■福祉支援工学分野　福祉用具管理指導者領域（福祉用具管理指導者コース）　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	３０単位以上		●福祉用具管理指導者領域（両コース共通） 「福祉支援工学講義Ⅱ」（２単位） 「移乗関連用具」（２単位） 「社会福祉概説」（２単位） 計３科目６単位必修 ●福祉用具管理指導者コース必修科目 「その他の福祉用具」（２単位） 「起居・床ずれ関連用具」（２単位） 「障害学」（２単位） 「対人援助と指導技術」（２単位） 「入浴・排泄関連用具」（２単位） 「車いすと座位保持装置」（２単位） 「福祉用具整備方法」（２単位） 「福祉用具市場経営論」（２単位） 「個別援助計画」（２単位） 「福祉住環境学（住宅改造）」（２単位） 計１０科目２０単位に加え、 「福祉用具管理指導者研究指導（修士）Ⅰ～Ⅳ」（計８単位） 又は「課題研究」（４単位）必修
小計	３２単位以上	―	
合計	３２単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。あるいは上記３２単位以上修得し必要な課題研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

福祉用具管理指導者領域（福祉用具コース）

■福祉支援工学分野　福祉用具管理指導者領域（福祉用具コース）　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位	１４単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１４単位		●福祉用具管理指導者領域（両コース共通）３科目（６単位） 「福祉支援工学講義Ⅱ」（２単位） 「移乗関連用具」（２単位） 「社会福祉概説」（２単位） 計３科目６単位必修 ●領域科目 「福祉用具研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計４科目８単位必修 計７科目１４単位必修
小計	１６単位	１４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑨リハビリテーション学分野

リハビリテーション学領域

■リハビリテーション学分野　リハビリテーション学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「リハビリテーション学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「リハビリテーション学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「リハビリテーション学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→ P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑩放射線・情報科学分野

医用画像学領域（基盤研究コース）

■放射線・情報科学分野　医用画像学領域（基盤研究コース）　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「医用画像学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「医用画像学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「医用画像学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件 上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

医用画像学領域（医学物理コース）

■放射線・情報科学分野　医用画像学領域（医学物理コース）　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	５単位	８単位以上	「がん医療総論」（１単位） 「がん医療各論」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計３科目５単位必修
専門科目	３４単位		「放射線計測学」（１単位） 「放射線生物学」（１単位） 「力学講義」（２単位） 「電磁気学講義」（２単位） 「熱力学・統計力学講義」（２単位） 「原子核物理学講義」（２単位） 「量子力学講義」（２単位） 「物理数学」（２単位） 「保健物理学・放射線防護学講義」（２単位） 「医用画像学講義[修士]Ⅲ（核医学物理学）」（２単位） 計１０科目１８単位必修 「医用画像学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「医用画像学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「医用画像学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計８科目１６単位必修
小計	３９単位	８単位以上	
合計	４７単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件 上記４７単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

放射線治療学領域（基盤研究コース）

■放射線・情報科学分野　放射線治療学領域（基盤研究コース）　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「放射線治療学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「放射線治療学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「放射線治療学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件 上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

放射線治療学領域（がん治療放射線技師コース）

■放射線・情報科学分野　放射線治療学領域（がん治療放射線技師コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	５単位	９単位以上	「がん医療総論」（１単位） 「がん医療各論」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計３科目５単位必修
専門科目	１６単位		「放射線治療学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「放射線治療学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「放射線治療学研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計８科目１６単位必修 あるいは 「放射線治療学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「放射線治療学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 「放射線治療学課題研究指導Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 計８科目１６単位必修
小計	２１単位	９単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件 上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

放射線治療学領域（医学物理コース）

■放射線・情報科学分野　放射線治療学領域（医学物理コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	５単位	８単位以上	「がん医療総論」（１単位） 「がん医療各論」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計３科目５単位必修
専門科目	３４単位		「放射線計測学」（１単位） 「放射線生物学」（１単位） 「力学講義」（２単位） 「電磁気学講義」（２単位） 「熱力学・統計力学講義」（２単位） 「原子核物理学講義」（２単位） 「量子力学講義」（２単位） 「物理数学」（２単位） 「保健物理学・放射線防護学講義」（２単位） 「医用画像学講義[修士]Ⅲ（核医学物理学）」（２単位） 計１０科目１８単位必修 「放射線治療学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「放射線治療学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「放射線治療学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計８科目１６単位必修
小計	３９単位	８単位以上	
合計	４７単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件 上記４７単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑪生殖補助医療胚培養分野

生殖補助医療胚培養領域

■生殖補助医療胚培養分野　生殖補助医療胚培養領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	２６単位		「生殖補助医療胚培養基礎系講義Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「生殖補助医療胚培養臨床系講義Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「生殖補助医療胚培養実習」（１６単位） 「生殖補助医療胚培養課題研究指導」（２単位） ６科目計２６単位必修
小計	２８単位	２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑫医療福祉教育・管理分野

医療福祉教育・管理領域（修士論文コース）

■医療福祉教育・管理分野　医療福祉教育・管理領域（修士論文コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位	４単位以上	「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計４単位必修
専門科目	２２単位		「医療福祉制度概論」（２単位） 「教育原理」（１単位） 「教育方法・評価論Ⅰ（基礎理論）（２単位） 「教育方法・評価論Ⅱ（応用）（２単位） 「教育方法・評価論Ⅲ（教育工学）（１単位） 「教育心理」（１単位） 「医療福祉管理学」（１単位） 「リハビリテーション教育・管理特論」（１単位） 「リハビリテーション組織論」（１単位） 「リハビリテーション管理論」（１単位） 「臨床実習指導論」（１単位） 「医療福祉教育・管理学研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計２２単位必修
小計	２６単位	４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。
①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96
②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

医療福祉教育・管理領域（1年修了コース）

■医療福祉教育・管理分野　医療福祉教育・管理領域（1年修了コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位	８単位以上	「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計４単位必修
専門科目	１８単位		「医療福祉制度概論」（２単位） 「教育原理」（１単位） 「教育方法・評価論Ⅰ（基礎理論）（２単位） 「教育方法・評価論Ⅱ（応用）（２単位） 「教育方法・評価論Ⅲ（教育工学）（１単位） 「教育心理」（１単位） 「医療福祉管理学」（１単位） 「リハビリテーション教育・管理特論」（１単位） 「リハビリテーション組織論」（１単位） 「リハビリテーション管理論」（１単位） 「臨床実習指導論」（１単位） 「医療福祉教育・管理課題研究Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 計１８単位必修
小計	２２単位	８単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。
①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96
②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑬臨床検査学分野

臨床検査学領域（先端医学検査コース）

■臨床検査学分野　臨床検査学領域（先端医学検査コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「臨床検査学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「臨床検査学演習（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「臨床検査学研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

臨床検査学領域（細胞検査士養成コース）

■臨床検査学分野　臨床検査学領域（細胞検査士養成コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「臨床検査学講義（修士）Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「臨床検査学演習（修士）Ⅰ」（２単位） 「細胞診断検査学特論Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「細胞診断検査学実習Ⅰ・Ⅱ」（各１単位） 「細胞診断検査学課題研究Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→P95・P96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑭災害医療分野

災害医療領域

■災害医療分野　災害医療領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	８単位	１単位以上	「研究倫理特論」（２単位） 「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「統計学」（２単位） 「災害医療論」（２単位） 計４科目８単位必修
専門科目	２１単位		「環境防災論」（２単位） 「環境防災演習」（１単位） 「災害医療特論」（２単位） 「災害危機管理Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「災害危機管理演習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「災害危機対応と倫理・法制度」（１単位） 「危機対応倫理演習」（１単位） 「研究過程・研究方法」（２単位） 「災害医療課題研究指導Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 計１２科目２１単位必修
小計	２９単位	１単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、分野専門科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑮遺伝カウンセリング分野

遺伝カウンセリング領域

■遺伝カウンセリング分野　遺伝カウンセリング領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位	２単位以上 （医療系国家資格を保持していない場合０単位）	「研究倫理特論」（２単位） 「医療におけるEvidence-Based Practice」（２単位） 計２科目４単位必修
専門科目	３１単位 （医療系国家資格を保持していない場合３５単位）		「基礎人類遺伝学Ⅰ及びⅡ」（各２単位） 「基礎人類遺伝学演習」（１単位） 「臨床遺伝学」（２単位） 「臨床遺伝学演習」（１単位） 「遺伝情報学演習」（１単位） 「遺伝医療と社会・倫理」（２単位） 「遺伝医療倫理演習」（１単位） 「医療カウンセリング概論」（１単位） 「遺伝カウンセリング学」（２単位） 「遺伝カウンセリング演習Ⅰ及びⅡ」（各１単位） 「遺伝カウンセリング実習Ⅰ」（２単位） 「遺伝カウンセリング実習Ⅱ」（４単位） 「遺伝カウンセリング課題研究Ⅰ～Ⅳ」（各２単位） 計１８科目３１単位必修 ※医療系国家資格を保持していない場合、以下の科目も必修とし、選択科目の修得単位の条件は設けないものとする。 「臨床医学（基礎）」（２単位） 「臨床医学（発展）」（２単位）
小計	３５単位もしくは３９単位	２単位以上もしくは０単位	
合計	３７単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、分野専門科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３７単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-1）→Ｐ95・96

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

B　医療福祉経営専攻

⑰医療経営管理分野

医療経営管理領域（医療経営戦略コース（h-MBAコース））

■医療経営管理分野　医療経営管理領域（医療経営戦略コース（h-MBAコース））修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択必修	
共通科目	２単位	１６単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修 「医療制度・政策論」（２単位）選択必修
専門科目	—		「医療経営学入門」（２単位） 「財務会計論」（２単位） 「データ解析のための統計学入門」（２単位） 「医療人事管理」（２単位） 「医療の質とリスクマネジメント」（２単位） 「ビジネス定量分析」（２単位） 「組織行動論」（２単位） 「医療における法と倫理」（２単位） 「管理会計論」（２単位） 「医療経営戦略論」（２単位） 「医療マーケティング論」（２単位） 「医療福祉と税法」（２単位） 「保健医療福祉政策論Ⅰ」「保健医療福祉政策論Ⅱ」（各２単位） 「経営者/専門家に聴くⅠ」「経営者/専門家に聴くⅡ」（各２単位） 共通科目「医療制度・政策論」含む上記専門科目の中から ８科目１６単位以上選択必修
	１２単位	—	「医療経営演習Ⅰ～Ⅳ」（各１単位） 「ケースメソッドで考える医療経営Ⅰ～Ⅳ」（各２単位） 計８科目１２単位必修
小計	１４単位	１６単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】３０単位を超えて単位を修得する場合の３０単位を超える分は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目のうち修了要件単位数に含める科目として履修した科目以外の科目の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→Ｐ95・108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

医療経営管理領域（医療福祉管理学コース）

■医療経営管理分野　医療経営管理領域（医療福祉管理学コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位	１８単位以上	「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計２科目４単位必修
専門科目	８単位		「医療福祉管理学研究指導（修士）Ⅰ～Ⅳ」（各２単位） 計４科目８単位必修
小計	１２単位	１８単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野共通科目の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→Ｐ95・108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑰診療情報アナリスト養成分野

診療情報アナリスト養成領域（実践コース）

■診療情報アナリスト養成分野　診療情報アナリスト養成領域（実践コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位	１４単位以上	「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計２科目４単位必修
専門科目	１２単位		「医療情報におけるデータの視覚化」（２単位） 「医療の質と診療記録のあり方」（２単位） 「医療情報分析における統計処理Ⅰ」（２単位） 「診療情報管理学演習基礎Ⅰ・Ⅱ」（各１単位） 「診療情報アナリスト課題研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（Ⅰ、Ⅱ各１単位、Ⅲ２単位） 計８科目１２単位必修
小計	１６単位	１４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→P95・P108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

診療情報アナリスト養成領域（研究コース）

■診療情報アナリスト養成分野　診療情報アナリスト養成領域（研究コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位	１４単位以上	「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計２科目４単位必修
専門科目	１２単位		「診療情報管理学演習基礎Ⅰ・Ⅱ」（各１単位） 「診療情報管理学演習応用」（２単位） 「診療情報アナリスト研究指導（修士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各２単位） 計７科目１２単位必修
小計	１６単位	１４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→P95・P108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑱先進的ケア・ネットワーク開発研究分野

介護福祉・ケアマネジメント学領域

■先進的ケア・ネットワーク開発研究分野　介護福祉・ケアマネジメント学領域　　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「介護福祉・ケアマネジメント学講義（修士）」（２単位） 「ケアマネジメント論（修士）」（２単位） 「高齢者介護学（修士）」（２単位） 「自立支援介護学」（２単位） 上記の中から２科目４単位必修 「介護福祉・ケアマネジメント学演習（修士）」（２単位） 「ケア理論演習（修士）」（２単位） 上記２科目４単位必修 「介護福祉・ケアマネジメント学研究指導（修士）Ⅰ～Ⅳ」（各２単位） 上記４科目８単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→P95・P108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

自立支援介護学領域

■先進的ケア・ネットワーク開発研究分野　自立支援介護学領域　　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	２７単位		「介護福祉・ケアマネジメント学講義（修士）」（２単位） 「介護福祉・ケアマネジメント学演習（修士）」（２単位） 「ケア理論演習（修士）」（２単位） 「高齢者介護学（修士）」（２単位） 「自立支援介護学」（２単位） 「介護管理学」（２単位） 「介護保険事業各論」（１単位） 「自立支援型介護計画演習Ⅰ」（２単位） 「自立支援型介護計画演習Ⅱ」（１単位） 「自立支援介護学演習」（１単位） 上記１０科目１７単位必修 「高齢者介護施設実習Ⅰ～Ⅲ」（各２単位） 上記３科目６単位必修 「自立支援介護学課題研究指導Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 上記２科目４単位必修
小計	２９単位	１単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→P95・P108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

自立支援実践ケアマネジメント学領域

■先進的ケア・ネットワーク開発研究分野　自立支援実践ケアマネジメント学領域　　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位	４単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	２４単位		「ケア理論演習（修士）」（２単位） 「ケアマネジメント論（修士）」（２単位） 「介護福祉・ケアマネジメント学講義（修士）」（２単位） 「介護福祉・ケアマネジメント学演習（修士）」（２単位） 「ケアマネジメント直接援助・間接援助技術演習」（２単位） 「ケアマネジメント演習Ⅰ」（２単位） 「ケアマネジメント演習Ⅱ」（２単位） 「ケアマネジメント教育・管理論」（２単位） 上記８科目１６単位必修 「ケアマネジメント実践実習Ⅰ」（２単位） 「ケアマネジメント実践実習Ⅱ」（２単位） 上記２科目４単位必修 「ケアマネジメント課題研究指導Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 上記２科目４単位必修
小計	２６単位	４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→P95・P108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑲医療福祉学分野

医療福祉学領域

■医療福祉学分野　医療福祉学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数			備　　考
	必修	選択必修	選択	
共通科目	2単位			「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	８単位	６単位	１４単位以上	「医療福祉学Ⅰ」（２単位） 「医療福祉学Ⅱ」（２単位） 「福祉実践各論」（２単位） 「医療福祉システム特論」（２単位） 「障害学」（２単位） 「医療福祉制度論」（２単位） 上記の中から３科目６単位選択必修 「医療福祉学研究指導Ⅰ～Ⅳ」（各２単位） 上記４科目８単位必修 その他共通科目、他分野専門科目及び下記の推奨科目より１４単位選択 （推奨科目） 共通科目「修士課程のための研究法入門」（２単位） 共通科目「医療福祉連携論Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 共通科目「医療福祉面接記録法」（１単位） ※「医療福祉学Ⅰ」と「保健医療福祉政策論Ⅰ」、「医療福祉学Ⅱ」と「保健医療福祉政策論Ⅱ」は読替科目のため、それぞれ重複履修はできません。
小計	１０単位	６単位	１４単位以上	
合計	３０単位以上			

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→P95・P108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

⑳医療福祉ジャーナリズム分野

医療福祉ジャーナリズム領域

■医療福祉ジャーナリズム分野　医療福祉ジャーナリズム領域　修了要件及び履修方法

◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	１２単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１６単位		「医療福祉ジャーナリズム概論Ⅰ」（２単位） 「地域医療福祉ジャーナリズム特論」（２単位） 「医療福祉ジャーナリズム特論」（４単位） 「医療福祉ジャーナリズム演習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「医療福祉ジャーナリズム課題研究指導Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 計１６単位必修
小計	１８単位	１２単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、分野専門科目、この専攻分野コース以外の科目で履修制限のないもの中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→P95・P108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

㉑医療通訳・国際医療マネジメント分野

医療通訳・国際医療マネジメント領域（1年修了コース）

■医療通訳・国際医療マネジメント分野　医療通訳・国際医療マネジメント領域（1年修了コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	４単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	２４単位		「臨床医学（基礎）」（２単位） 「医療通訳概論」（２単位） 「医療通訳演習Ⅰ」、「医療通訳演習Ⅱ」、「医療通訳演習Ⅲ」（各２単位） 「日本の医療制度と外国人医療」（２単位） 「国際医療事務・マネジメント論」（２単位） 「国際医療マネジメント総合演習」（２単位） 「医療通訳・国際医療マネジメント実習」（４単位） 「医療通訳・国際医療マネジメント課題研究」（４単位） 計１０科目２４単位必修
小計	２６単位	４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この分野以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→Ｐ95・Ｐ108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

医療通訳・国際医療マネジメント領域（修士論文コース）

■医療通訳・国際医療マネジメント分野　医療通訳・国際医療マネジメント領域（修士論文コース）修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	４単位	１８単位以上	「修士課程のための研究法入門」（２単位） 「研究倫理特論」（２単位） 計２科目４単位必修
専門科目	８単位		「医療通訳・国際医療マネジメント学研究指導[修士]Ⅰ（研究計画）」（２単位） 「医療通訳・国際医療マネジメント学研究指導[修士]Ⅱ（データ収集）」（２単位） 「医療通訳・国際医療マネジメント学研究指導[修士]Ⅲ（データ分析）」（２単位） 「医療通訳・国際医療マネジメント学研究指導[修士]Ⅳ（論文作成）」（２単位） 専門科目計４科目８単位必修 「臨床医学（基礎）」、「臨床医学（発展）」（各２単位） 「医療通訳概論」（２単位） 「医療通訳演習Ⅰ」、「医療通訳演習Ⅱ」、「医療通訳演習Ⅲ」（各２単位） 「日本の医療制度と外国人医療」（２単位） 「国際医療事務・マネジメント論」（２単位） 「国際医療マネジメント総合演習」（２単位） 「医療通訳・国際医療マネジメント実習」（４単位） 上記の中から３科目６単位以上選択
小計	１２単位	１８単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この分野以外の科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の科目一覧と標準履修年次（表①／表②-2）→Ｐ95・Ｐ108

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

C　臨床心理学専攻

■臨床心理学専攻　修了要件及び履修方法
◎履修方法

科目			年次	単位	必修	選択	自由	履修条件等
公認心理師科目	必修科目	保健医療分野に関する理論と支援の展開／精神医学特論	1・2	2	○			・公認心理師（一部臨床心理士と共通）は、必修科目１５科目２８単位です。
		福祉分野に関する理論と支援の展開／障害者（児）心理学特論	1・2	2	○			
		教育分野に関する理論と支援の展開／教育心理学特論	1・2	2	○			
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開／犯罪心理学特論	1・2	2	○			
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	○			
		心理的アセスメントに関する理論と実践／臨床心理査定演習Ⅰ	1	2	○			
		心理支援に関する理論と実践／臨床心理面接特論Ⅰ	1	2	○			
		家族関係・集団・地域社会における心理的援助に関する理論と実践／家族心理学特論	1・2	2	○			
		心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	○			
		心理実践実習Ⅰ	1	2	○			
		心理実践実習Ⅱ	1	2	○			
		心理実践実習Ⅲ／臨床心理実習Ⅰ	2	1	○			
		心理実践実習Ⅳ／臨床心理実習Ⅲ（学外実習）	1	2	○			
		心理実践実習Ⅴ／臨床心理実習Ⅳ（学外実習）	2	2	○			
		心理実践実習Ⅵ	1～2	1	○			
臨床心理士科目	コア科目	臨床心理学特論Ⅰ	1	2	○			・必修科目７科目１１単位（公認心理師読替科目は除く）
		臨床心理学特論Ⅱ	1	2	○			
		臨床心理面接特論Ⅰ／心理支援に関する理論と実践	1	2	○			
		臨床心理面接特論Ⅱ	1	2	○			
		臨床心理査定演習Ⅰ／心理的アセスメントに関する理論と実践	1	2	○			
		臨床心理査定演習Ⅱ	1	2	○			
		臨床心理基礎実習Ⅰ	1	1	○			
		臨床心理基礎実習Ⅱ	1	1	○			
		臨床心理実習Ⅰ／心理実践実習Ⅲ	2	1	○			
		臨床心理実習Ⅱ	2	1	○			
		臨床心理実習Ⅲ／心理実践実習Ⅳ（学外実習）	1	2	○			
		臨床心理実習Ⅳ／心理実践実習Ⅴ（学外実習）	2	2	○			
	Ａ群科目	心理学研究法特論	1・2	2		●		２単位選択必修
		臨床心理学研究法特論	1・2	2		●		
	Ｂ群科目	人格心理学特論	1・2	2			△	自由選択科目
		教育心理学特論／教育分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	○			
	Ｃ群科目	犯罪心理学特論／司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	○			
		家族心理学特論／家族関係・集団・地域社会における心理的援助に関する理論と実践	1・2	2	○			
	Ｄ群科目	障害者（児）心理学特論／福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	○			
		老年心理学特論	1・2	2			△	自由選択科目
		精神医学特論／保健医療分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	○			
	Ｅ群科目	投影法特論	1・2	2		●		２単位選択必修
		グループ・アプローチ特論	1・2	2		●		
	必修科目	臨床心理学研究指導	1～2	4	○			必修　４単位

○　本専攻では、公認心理師と臨床心理士の両方の受験資格を満たす大学院における科目構成となっています。
　（ただし、公認心理師については学部科目での必要要件を満たさなければ受験できません。）
○　本大学院を修了するための必要最低単位数は４７単位です。また、論文作成を課しています。
○　科目の選択については、上記の履修基準に関する表の他、科目の標準履修年次については、表②-3（→P111）を参照してください。
○　臨床心理学専攻の院生は、保健医療学専攻(修士課程・博士課程)及び医療福祉経営専攻(修士課程)の科目を履修することはできますが、修了要件には算入されません。　なお、保健医療学専攻及び医療福祉経営専攻の院生は、臨床心理学専攻の科目を履修することはできません。

4-3　研究報告会

概　要

- 論文研究は全在学期間を通して行われますが、その間に院生は、研究指導教員・副研究指導教員の指導を受けながら、毎年次に行われる研究報告会において経過報告を行い、参加者（教員、院生）の助言を受ける機会があります。

M1／M2 研究報告会

- M1 研究報告会は、修士課程１年次生、M2 研究報告会は修士課程２年次生の研究報告会の通称です。
- M1 研究報告会は、１年次生が入学後ほぼ半年が経過した時点（１１月上旬の予定）に行います。この時点の報告は、通常研究計画の報告が主体となり、質疑応答が行われます。M2 研究報告会は、２年次のはじめ（６月上旬の予定）に行います。この報告会では、それまでの経過を報告し、助言を受けるのが通常です。
- この報告会は、同時双方向アプリによるオンラインで開催されます。
  多くの分野が同日開催され、各自の PC から討論に参加します。
- 発表者は、パワーポイントスライド等を用いることを奨励されています。
- 発表者は、あらかじめ、研究報告会題目届、研究計画書を大学院事務局に提出しなくてはなりません。関連書式は大学院用 Web 掲示板からダウンロードできます。
- 詳細については、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

Ｍ１研究報告会	
計画書提出	１０月上旬
発　表　会	１１月上旬

Ｍ２研究報告会	
計画書提出	５月中旬
発　表　会	６月上旬

4-4　修士論文の審査

概　要

- 各院生は、２年次の後期後半に論文を提出し論文審査と口頭試験を受けます。
- 論文の審査と口頭試験は、３名の審査員によって行われます。うち１名は主任審査員（以下、主査）と呼んでおり、通常は研究指導教員がこれを務めます（副研究指導教員が主査を務めることがあります)。他の２人は、副審査員（以下、副査）と言い、同一分野と他分野の教員の中から１人ずつが選任されます。
- 審査員による論文審査と試験に合格した者は、修士論文発表会に臨み、さらに研究科会議による最終合否判定を受けます。ここで「合格」と判定されれば修了が確定します。
- これまでの修了生の論文は図書館に保管されていますので参考にしてください。
- 詳細は、随時大学院事務局より、大学院用 Web 掲示板等で案内します。

論文審査申請の手続き

１）論文審査申請

- 論文題目を確定し、「修士論文申請・審査員推薦書」を提出してください。これを受けて審査員の選出が始まります。関連書式は、大学院用 Web 掲示板からダウンロードできます。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

提出期限	２年次の１０月下旬を予定
提 出 先	研究指導教員

２）審査用論文の提出

- 論文は体裁と執筆要領が指定されています。**参考）１（→P153）**を参照してください。
- 論文は在学中の研究に基づく既発表論文を含むことを可とします。既発表論文の場合は共著も可としますが、申請者が筆頭著者（equally contributed を含む）でなければならず、また申請者が主に行った研究である旨を説明する文書が提出され、その文書に他の共著者の署名が添えられていなければなりません。既発表論文の掲載誌の条件は、下記＊に定めます。
- 研究指導教員の許可がある場合は、英語で書くこともできます。英語で書く場合は、必ず邦題(日本語での題目)も設けてください。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

＊論文が既発表である場合の掲載誌の条件
次のいずれかに該当するものを可とする。

① 国内外の学術誌であって査読制度を設けているもの（本学学会誌を含む)。

② 研究科会議により、上記①に準じるものと認められた商業誌等。

提出期限	２年次の１２月上旬を予定
提 出 物	審査用論文データ（PDF）他
提 出 先	指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出

審査及び口頭試験

- 審査の具体的方法は、主査と副査が協議によって決めます。審査員が当該院生にプレゼンテーションを求め、質疑応答を行い、その結果に基づいて審査委員会が合否案を決めるという方法が通常です。
- 期間内に論文の一部修正を求め、その上で改めて合否判定をする場合があります。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

修士論文発表会

- 審査員による論文審査・面接試験に合格した院生は、論文抄録**参考）2**（→P156）を作成してください。
  提出方法等の詳細は大学院用 Web 掲示板等で案内します。
- 上記の論文審査・面接試験合格者は、修士論文発表会にて発表を行います。

論文抄録提出	２年次１月下旬
提　出　先	指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出
発　表　会	２年次２月中旬

最終合否判定

- 研究科会議で論文の最終合否判定を行い、単位取得状況と併せて修了判定を行い、大学院代表者会議で承認を受け決定します。
- 修了判定の結果は、大学院用 Web 掲示板にて通知します。（学籍番号を掲示）

論文最終版の提出

- 修了が確定した院生は、以下の要領で論文の最終版データ（PDF）を提出してください。作成要領は前出の審査用の論文と同じです。
- 論文データの提出をもって、本学図書館で保管し、閲覧に供することに同意したものとみなします。
- これらの論文データは、各キャンパス図書館に保管され、図書館内でのみ PDF で公開・閲覧可能とします。
- 事務局への最終版データ（PDF）提出の他に、研究指導教員から求められた場合は、論文１部をＡ４フラットファイルに綴じ、表表紙・背表紙をつけて、研究指導教員に提出してください。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。
- 提出方法は変更される場合があります。

参考)1

－国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科－

修士論文作成要領

１．体裁

１）論文は、A)掲載された論文のコピー、もしくは、B)在学期間中に行った研究を総括した Thesis を、以下の要領に基づき作成したものを提出する。

２）日本語、Ａ４版、横書き（ワープロ書き）とする。A の場合は、体裁をＡ４版に整えて提出すること。

３）研究指導教員の許可がある場合は英語を可とする。

４）本文頁は、上下左右とも 25mm 程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる（添付資料のファイル形式により頁数を入れられない場合はのぞく)。

※表紙・目次には頁はふらないこと

（表紙）

国際医療福祉大学審査論文（修士）

大学院医療福祉学研究科修士課程

○○○○○○論文題目○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

２０○○年度

○○○学専攻・○○○学分野・○○○学領域

学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○

研究指導教員：○○○○○

副研究指導教員：○○○○○

２．構成（Ｂの形式で提出する場合）

１）論文の構成は、表紙、要旨、キーワード、目次、本文、文献一覧、（資料）の順とする。図・表は原則として本文の該当する箇所に挿入する。

２）日本語論文の場合は、要旨は日本語 400 字以内、キーワードは日本語で 3～5 語とする。英語論文の場合は、要旨は英語 300 words 以内、キーワードは英語で 3～5 語とする。これのみで１枚とする。

３）目次は、本文の章・節、謝辞、文献一覧、（資料）をこの順に掲げるものとし、該当ページを表示する。

４）本文の章立ては必ずしも○章、○節とせず、他の形式でもよい（たとえば、Ⅰ、１・・・・）。ただし、一般文章作法の範囲にとどめること。

５）文献は引用したもののみ記載する。文献引用の方法および文献一覧の作成については次項参照。

６）図や表には、別々に通し番号とタイトルを付す。図の番号とタイトルは図の下に、表の番号とタイトルは表の上に付す。資料（例　質問紙一式）は必要に応じて加える。資料を付加する場合は、それぞれに番号とタイトルをつけ、本文中にはその番号をもって引用する。

７）全体の長さに制限はもうけない。

３．文献引用および文献一覧について

・本文中に文献を引用する場合は，その箇所の右肩に[1)]や[1, 2, 9-12)]などと示す．文章の切れ目につける場合は，カンマ，ピリオドの直前の右肩に記す。

例）良好な成績を示す場合があることが報告されている[1-3)]

例）このことについてはBraune ら[1)]が述べているように・・・

・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し，本文末尾に記載する．文献一覧は 1)　2)・・・と順に通し番号を付して引用順に並べる．未発表の論文は文献リストに含めない．印刷中の論文は印刷中或いは in press と記してリストに加えてもよい。

・文献の著者名は，著者が 3 名以内の場合は全員の名前を記載し，4 名以上のときは 3 名まで記載し残りは〔ら〕，または〔et al.〕とする．著者間は英文も&を入れずにカンマで区切る．

・雑誌の論文表題，書籍の表題は，最初の文字のみ大文字とする。
書籍名，雑誌名は冠詞，接続詞，前置詞を除いて各語の初字を大文字で書く．その場合，一番初めの語の最初の文字は，冠詞，接続詞，前置詞であっても必ず大文字とする。

・文献の記載方法は，下記の例に従う．なお，文献一覧中の「，」「．」「；」「：」「-」などの記号は日本語文献の場合も半角を使用する。

①雑誌の場合

著者名．論文表題．雑誌名 発行年；巻(号)：ページ

・雑誌で，通巻ページと各号ごとのページが併記されている場合は，通巻ページを優先して記載する。通巻ページを記載した場合は，巻のあとの(号)は記入する必要はない。

・和雑誌は正式名称を記載する．洋雑誌の場合，略称を使用するときは，Index Medicus に従う。

例〕　1)池田俊也,北里博仁,野田光彦ら.薬剤経済学研究に関する最近の話題:医療データベースの薬剤経済評価への応用.臨床薬理 2010;41(6):281-286

2)Friedman W, Sypert GW, Munson JB, et al. Recurrent inhibition in type-identified motoneurons. J.Neurophysiol.1981;46:1349-1359

3)Maurel W, Thalmann D.A case study on human upper limb modeling for dynamic simulation.Computer Methods in Biomechanics and Biomedical Engineering 1999;2:1-17

②書籍の場合

著者名（訳者名）．表題．書籍名．出版地：出版社，発行年：ページ

・訳本の場合は著者名と訳者名の両方を記載し，著者名は訳本の記載に従う．訳者名は著者名の後の（ ）に〔訳〕〔tr.〕を付して書く。

・編者名は〔編〕〔ed.〕を付して，著者名の位置に書く。

・版次，巻次がある場合には，書籍名の次に「．」で区切って記載する．出版年はその版次の初刷の出版年を書く。

例〕1)南雲直二.障害受容－意味論からの問い.第2版.東京:荘道社,2002:59-63

2)内山孝憲,赤澤堅造.運動単位の活動様式を模擬する筋張力制御のためのニューラルネットワークモデル.バイオメカニズム15.東京:東京大学出版会,2000:143-152

3)シュポルスキー(玉木英彦他訳).原子物理学Ⅰ.東京:東京図書,1995:345-350

4)Braune W, Fischer O. Attitudes of the loaded body. On the Center of Gravity of the Human Body.
New York: Springer-Verlag,1985:71-90

5)Aichinger H, Dierker J, Joite-Bafub S et al.(笠井俊文, 加藤博和監訳).診断X線の基礎,東京:オーム社,2004:28-32

③インターネット上の文献の場合(※)

著者名．記述された年.(不詳の場合は省略)題目．URL 参照年月日

例〕 1)日本社会学会．2006.日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針.
http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf 2012.6.11

（※）インターネット上の文献については，インターネット以外の手段では入手困難であり，かつ学術機関･公的機関などが発行する信頼性が確保されたホームページおよび電子刊行物の情報で，かつ一般読者に利用可能でなければならない。

例〕学術機関(学会・大学等)のホームページおよびそこに掲載された研究論文等，
国際機関(標準化機関等)のホームページおよびそこに掲載された標準規格等，
公的機関(省庁・自治体・研究所等)のホームページおよびそこに掲載された研究・調査活動の内容，研究成果，調査結果等

④電子化された資料の場合

電子書籍，電子ジャーナルからの場合は，印刷媒体と同様の書誌情報に加え，その電子書籍を閲覧した際に用いた媒体の種類，またはインターネット利用の場合は，URL と参照年月日を記載する。

例〕 1)石田佳代子．看護系大学の新人教員に対するファカルティ・ディヴェロップメント(FD)推進のための文献調査に基づく課題．看護科学研究 2010; 9(1): 10-18
http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/PDF/9_1/9_1_2.pdf 2011.2.15

４．その他

１）倫理上の配慮については、別項を設けて記載すること（倫理審査を受けているか否か、倫理審査を受けていない場合にはその理由も必ず明記すること)。

以　上

参考）２

－国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科－

修士論文「論文発表会用抄録」作成要領

ここに述べる「抄録」は、論文冒頭に記載する 400 字の「要旨」とは別である。

体裁

1）日本語、Ａ４（縦）版２頁、横書き（ワープロ書き）、図表は含まない。
2）研究指導教員の許可がある場合は、英語（Ａ４版２頁）も可とする。
3）上下左右とも 25㎜程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる。文字の大きさは、題目・見出しは　１４ポイント程度、本文は 10.5 ポイントを標準とする。
4）冒頭部分の書式は、次のとおり。ただし、仕上がり時の枠取りはなし。
5）内容は、「キーワード」（３～５語、日本語)、「研究の背景と目的」、「方法」、「倫理上の配慮」、「結果」、「考察」、「結語」、「引用文献」の順に書くことを原則とするが、必要に応じて変更してよい。
6）引用文献は、最小限度にとどめる。

国際医療福祉大学審査論文（修士）
２０○○年度大学院医療福祉学研究科修士課程・論文発表会用抄録

題目：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

○○○○○○○学専攻・○○○○○○○学分野・○○○○○○○学領域
学籍番号：○○○○○○○　　氏名：○○○○○○○○
研究指導教員：○○○○○○○　　副研究指導教員：○○○○○○

キーワード：　○○○　○○○　○○○　○○○　○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
・
・
・
・
・

以　上

4-5　課題研究等の審査

- 課題研究等を課している分野は以下のとおりです。
  ※対象となる領域・コースについては、修了要件を確認してください。

  - ◆ 看護学分野
  - ◆ 特定行為看護師養成分野
  - ◆ 助産学分野
  - ◆ 福祉支援工学分野
  - ◆ 生殖補助医療胚培養分野
  - ◆ 医療福祉教育・管理分野
  - ◆ 臨床検査学分野
  - ◆ 災害医療分野
  - ◆ 遺伝カウンセリング分野
  - ◆ 医療機器イノベーション分野
  - ◆ 医療経営管理分野
  - ◆ 診療情報アナリスト養成分野
  - ◆ 先進的ケア･ネットワーク開発研究分野
  - ◆ 医療福祉ジャーナリズム分野
  - ◆ 医療通訳・国際医療マネジメント分野

  対象となる領域・コースでは、修士論文の指導を行なう授業はなく、修士論文の作成やその審査に合格することは修了要件ではありません。その代わりに、課題研究や成果物を作成し、審査を行うことになっています。

- 審査は、当該分野の教員を主体とする審査委員会において行なわれます。
- 分野によっては課題研究成果報告会を行うことがあります。
- 修了が確定した院生で、課題研究の図書館蔵書を希望する分野に所属する者は、課題研究の最終版データ（PDF）を提出してください。（本学図書館内での公開を希望する分野か否かは分野教員に確認してください。）
- 提出する最終版データ（PDF）の体裁は論文作成要領をご確認ください。
- 詳細は随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

参考)1

－国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科－

課題研究作成要領

1. 体裁

(表紙)

国際医療福祉大学課題研究（修士）

大学院医療福祉学研究科修士課程

○○○○○○○題目○○○○○○○

２０○○年度

○○○学専攻　○○○学分野　○○○学領域

学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○

研究指導教員：○○○○○

副研究指導教員：○○○○○

医療福祉学研究科(博士課程)

5-1　授業科目の履修

2026 年度 博士課程開講科目

- **表③（→P162）**に「2026 年度保健医療学専攻「博士」課程専門科目・開講年次・担当教員」を示します。
- 各授業の詳しい内容は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。閲覧方法→P58

履修科目の選択と登録

１）必修科目及び選択必修科目と選択科目

- 「必修科目」とは必ず履修しなければならない科目、「選択必修科目」とは所定の選択科目群より指定単位を必ず履修しなければならない科目、「選択科目」とはある範囲から院生が自由に選択して履修することができる科目です。いずれも、科目名又は科目選択の範囲と単位数の下限が指定されています。在学期間中にこれらを併せて１２単位以上修得しなければなりません。
- 選択科目のうち、自分野・他領域、もしくは他分野の専門科目の履修制限のないものを選択する場合、遠隔授業時間割に掲載があることを確認した上で行ってください。掲載がない場合には、その科目の担当教員に確認を行なったうえで履修登録を行なってください。
- 授業を欠席する際の担当教員への連絡は事務局では受け付けませんのでご注意ください。
- 各学年を通じ、同一科目を再度履修しても、所定の単位として認めることはありません。ただし、不合格の場合を除きます。また、共通科目を除き、修士課程の科目を履修登録すること、単位修得することはできませんのでご注意ください。

２）履修可能な自分野・他領域、もしくは他分野の専門科目専門科目（履修制限）

- 自身の研究科、専攻おいて履修可能な他研究科、専攻科目については、以下の表を参考にしてください。

専門科目履修表

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（博士課程）</td><td colspan="2">医療福祉学研究科</td></tr>
<tr><td colspan="2">保健医療学専攻</td></tr>
<tr><td>自研究科
自専攻</td><td>医療福祉学研究科</td><td>保健医療学専攻</td><td colspan="2">○
（医療福祉学研究科 修士課程共通科目含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（博士課程）</td><td>薬学研究科</td><td>医学研究科</td></tr>
<tr><td>医療・生命薬学専攻</td><td>医学専攻</td></tr>
<tr><td>自研究科
自専攻</td><td>医療福祉学研究科</td><td>保健医療学専攻</td><td>×</td><td>×</td></tr>
</table>

● 自身の研究科、専攻おいて履修可能な他研究科、専攻科目については、「履修者の限定」に該当する科目がありますので、注意をしてください。

履修者の限定について

記号	記号の意味	説明
＊	当該分野のみ	該当する分野に所属している方のみ履修可能
＊＊	当該領域のみ	該当する領域に所属している方のみ履修可能
○	許可を受けた学生のみ	科目担当教員が個別に許可した場合のみ履修可能

※履修者の限定欄に上記表の記号以外が記載されている場合は、その指示に従ってください。
※該当しない分野・領域・コースの方は、履修はできません。

3）履修基準

● ここでは、専攻・分野（必要によって、領域）ごとに基準を設けています。
該当するページで確認をしてください。

4）履修科目の登録

● 院生は、前期登録期間にユニバーサルパスポートを利用して１年間の履修科目の登録を行い、変更がある場合、後期登録変更期間にその修正を行います。履修登録を行わなかった科目は、単位取得できませんので注意してください。履修登録期間については、大学院用 Web 掲示板等に示される通知に従ってください。

5-2　博士課程の開講科目、修了要件表

表③　2026年度　医療福祉学研究科（保健医療学専攻）　「博士」課程の【共通・専門科目】・開講年次・担当教員

共通科目			標準履修年次																		担当教員名
2026年度開講科目名	単位		1年次		2年次		3年次		ナンバリング												
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	1	2		3	4	5	6		7	8	9	
博士課程のための研究法入門	2		2		2		2		0	0	－	0	1	0	1	－	7	1	B	飯室聡　山崎力　他

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域のみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
看護学分野	管理実践看護学領域	管理実践看護学講義［博士］	2	＊	2						1 N － 3 A 0 1 － 2 1 B	
		管理実践看護学演習［博士］	2	＊		2					1 N － 3 A 0 2 － 2 1 E	
		管理実践看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1 N － 3 A 0 3 － 3 2 K	福井トシ子　小野田舞
		管理実践看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1 N － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		管理実践看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1 N － 3 A 0 5 － 3 3 K	
	看護管理・政策学領域	看護管理・政策学講義［博士］	2	＊	2						1 N － 3 B 0 1 － 2 1 B	
		看護管理・政策学演習［博士］	2	＊		2					1 N － 3 B 0 2 － 2 1 E	
		看護管理・政策学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1 N － 3 B 0 3 － 3 2 K	熊谷たまき　遠藤英子　高山裕子
		看護管理・政策学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1 N － 3 B 0 4 － 3 2 K	
		看護管理・政策学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1 N － 3 B 0 5 － 3 3 K	
	看護教育学領域	看護教育学講義［博士］	2		2						1 N － 3 C 0 1 － 2 1 B	
		看護教育学演習［博士］	2			2					1 N － 3 C 0 2 － 2 1 E	
		看護教育学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1 N － 3 C 0 3 － 3 2 K	吉村惠美子　井上智子　熊谷たまき 佐藤真由美　鈴木由美　山口みのり
		看護教育学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1 N － 3 C 0 4 － 3 2 K	大谷則子　坂美奈子　吉岡詠美
		看護教育学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1 N － 3 C 0 5 － 3 3 K	
	感染管理・感染看護学領域	感染管理・感染看護学講義［博士］	2		2						1 N － 3 E 0 1 － 2 1 B	
		感染管理・感染看護学演習［博士］	2			2					1 N － 3 E 0 2 － 2 1 E	
		感染管理・感染看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1 N － 3 E 0 3 － 3 2 K	坂木晴世　他
		感染管理・感染看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1 N － 3 E 0 4 － 3 2 K	
		感染管理・感染看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1 N － 3 E 0 5 － 3 3 K	
	精神看護学領域	精神看護学講義［博士］	2		2						1 N － 3 F 0 1 － 2 1 B	
		精神看護学演習［博士］	2			2					1 N － 3 F 0 2 － 2 1 E	
		精神看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1 N － 3 F 0 3 － 3 2 K	岡田佳詠　他
		精神看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1 N － 3 F 0 4 － 3 2 K	
		精神看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1 N － 3 F 0 5 － 3 3 K	
	リプロダクティブヘルス看護学領域	リプロダクティブヘルス看護学講義［博士］	2	＊	2						1 N － 3 G 0 1 － 2 1 B	
		リプロダクティブヘルス看護学演習［博士］	2	＊		2					1 N － 3 G 0 2 － 2 1 E	
		リプロダクティブヘルス看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1 N － 3 G 0 3 － 3 2 K	井村真澄　他
		リプロダクティブヘルス看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1 N － 3 G 0 4 － 3 2 K	
		リプロダクティブヘルス看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1 N － 3 G 0 5 － 3 3 K	
	小児看護学領域	小児看護学講義［博士］	2	○	2						1 N － 3 H 0 1 － 2 1 B	
		小児看護学演習［博士］	2	○		2					1 N － 3 H 0 2 － 2 1 E	
		小児看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1 N － 3 H 0 3 － 3 2 K	上別府圭子　高山裕子
		小児看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1 N － 3 H 0 4 － 3 2 K	
		小児看護学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1 N － 3 H 0 5 － 3 3 K	
	成人看護学領域	成人看護学講義［博士］	2		2						1 N － 3 I 0 1 － 2 1 B	
		成人看護学演習［博士］	2			2					1 N － 3 I 0 2 － 2 1 E	
		成人看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1 N － 3 I 0 3 － 3 2 K	井上智子　佐藤真由美　三條真紀子
		成人看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1 N － 3 I 0 4 － 3 2 K	
		成人看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1 N － 3 I 0 5 － 3 3 K	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域のみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
看護学分野	老年看護学領域	老年看護学講義［博士］	2		2						1N－3J01－21B	松本明美
		老年看護学演習［博士］	2			2					1N－3J02－21E	
		老年看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1N－3J03－32K	吉村恵美子　松本明美
		老年看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1N－3J04－32K	
		老年看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1N－3J05－33K	
	家族看護学領域	家族看護学講義［博士］	2	○	2						1N－3K01－21B	上別府圭子　他
		家族看護学演習［博士］	2	○		2					1N－3K02－21E	
		家族看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1N－3K03－32K	
		家族看護学研究指導［博士］Ⅱ(データ収集・分析)	2	＊＊				2			1N－3K04－32K	
		家族看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1N－3K05－33K	
	在宅看護学領域	在宅看護学講義［博士］	2	＊	2						1N－3L01－21B	谷山牧　片平伸子　他
		在宅看護学演習［博士］	2	＊		2					1N－3L02－21E	
		在宅看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1N－3L03－32K	谷山牧　片平伸子
		在宅看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1N－3L04－32K	
		在宅看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1N－3L05－33K	
	公衆衛生看護学領域	公衆衛生看護学講義［博士］	2		2						1N－3M01－21B	野呂千鶴子　嶋津多恵子
		公衆衛生看護学演習［博士］	2			2					1N－3M02－21E	
		公衆衛生看護学研究指導［博士］Ⅰ(研究課題の明確化)	2	＊＊			2				1N－3M03－32K	野呂千鶴子　嶋津多恵子
		公衆衛生看護学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1N－3M04－32K	
		公衆衛生看護学研究指導［博士］Ⅲ(論文作成)	2	＊＊					2		1N－3M05－33K	
助産学分野	助産学領域	助産学講義［博士］	2		2						1F－3A01－21B	井村真澄　他
		助産学演習［博士］	2			2					1F－3A02－21E	
		助産学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画書作成）	2	＊＊			2				1F－3A03－32K	
		助産学研究指導［博士］Ⅱ（研究の実施・分析）	2	＊＊				2			1F－3A04－32K	
		助産学研究指導［博士］Ⅲ（研究論文作成）	2	＊＊					2		1F－3A05－33K	
理学療法学分野	基礎理学療法学領域	基礎理学療法学講義［博士］	2		2						1P－3A01－21B	西田裕介　他
		基礎理学療法学演習［博士］	2	＊		2					1P－3A02－21E	
		基礎理学療法学研究指導［博士］Ⅰ（データ収集）	2	＊＊			2				1P－3A03－32K	糸数昌史　西田裕介　河野健一
		基礎理学療法学研究指導［博士］Ⅱ（データ分析）	2	＊＊				2			1P－3A04－32K	
		基礎理学療法学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1P－3A05－33K	
	応用理学療法学領域	応用理学療法学講義［博士］	2		2						1P－3B01－21B	西田裕介　他
		応用理学療法学演習［博士］	2	＊		2					1P－3B02－21E	
		応用理学療法学研究指導［博士］Ⅰ（データ収集）	2	＊＊			2				1P－3B03－32K	糸数昌史　西田裕介　河野健一
		応用理学療法学研究指導［博士］Ⅱ（データ分析）	2	＊＊				2			1P－3B04－32K	
		応用理学療法学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1P－3B05－33K	
作業療法学分野	作業活動分析学領域	作業活動分析学講義［博士］	2		2						1O－3A01－21B	後藤純信　他
		作業活動分析学演習［博士］	2	＊		2					1O－3A02－21E	
		作業活動分析学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊			2				1O－3A03－32K	後藤純信　谷口敬道　日田勝子 平野大輔
		作業活動分析学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1O－3A04－32K	
		作業活動分析学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1O－3A05－33K	
	作業活動支援学領域	作業活動支援学講義［博士］	2		2						1O－3B01－21B	藤本幹　他
		作業活動支援学演習［博士］	2	＊		2					1O－3B02－21E	
		作業活動支援学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊			2				1O－3B03－32K	北島栄二　河野眞　平野大輔 藤本幹
		作業活動支援学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1O－3B04－32K	
		作業活動支援学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1O－3B05－33K	
	精神神経障害作業療法学領域	精神神経障害作業療法学講義［博士］	2		2						1O－3C01－21B	2026年度非開講
		精神神経障害作業療法学演習［博士］	2	＊		2					1O－3C02－21E	
		精神神経障害作業療法学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊			2				1O－3C03－32K	
		精神神経障害作業療法学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊＊				2			1O－3C04－32K	
		精神神経障害作業療法学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1O－3C05－33K	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域のみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
言語聴覚分野	言語障害学領域	言語障害学講義［博士］	2	＊	2						1S－3A01－21B	阿部晶子　他
		言語障害学演習［博士］	2	＊		2					1S－3A02－21E	畦上恭彦　他
		言語障害学研究指導［博士］Ⅰ（データ分析）	2	＊＊			2				1S－3A03－32K	畦上恭彦　阿部晶子　菅野倫子 岩崎淳也
		言語障害学研究指導［博士］Ⅱ（論理）	2	＊＊				2			1S－3A04－32K	
		言語障害学研究指導［博士］Ⅲ（報告）	2	＊＊					2		1S－3A05－33K	
	聴覚障害学領域	聴覚障害学講義［博士］	2	＊	2						1S－3B01－21B	富澤晃文　他
		聴覚障害学演習［博士］	2	＊		2					1S－3B02－21E	
		聴覚障害学研究指導［博士］Ⅰ（データ分析）	2	＊＊			2				1S－3B03－32K	富澤晃文
		聴覚障害学研究指導［博士］Ⅱ（論理）	2	＊＊				2			1S－3B04－32K	
		聴覚障害学研究指導［博士］Ⅲ（報告）	2	＊＊					2		1S－3B05－33K	
	発声発語・嚥下障害学領域	発声発語・嚥下障害学講義［博士］	2	＊	2						1S－3C01－21B	倉智雅子　他
		発声発語・嚥下障害学演習［博士］	2	＊		2					1S－3C02－21E	
		発声発語・嚥下障害学研究指導［博士］Ⅰ（データ分析）	2	＊＊			2				1S－3C03－32K	倉知雅子　平田文　前新直志 阿志賀大和
		発声発語・嚥下障害学研究指導［博士］Ⅱ（論理）	2	＊＊				2			1S－3C04－32K	
		発声発語・嚥下障害学研究指導［博士］Ⅲ（報告）	2	＊＊					2		1S－3C05－33K	
視機能療法学分野	視機能療法学領域	視機能療法学講義［博士］	2	＊	2						1C－3A01－21B	新井田孝裕　他
		視機能療法学演習［博士］	2	＊		2					1C－3A02－21E	
		視機能療法学研究指導［博士］Ⅰ（データ収集）	2	＊＊			2				1C－3A03－32K	新井田孝裕　原直人　後関利明 内川義和　岡野真弓　鈴木賢治
		視機能療法学研究指導［博士］Ⅱ（データ分析）	2	＊＊				2			1C－3A04－32K	
		視機能療法学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1C－3A05－33K	
福祉支援工学分野	福祉支援工学領域	福祉支援工学講義［博士］	2	＊	2						1T－3A01－21B	山本澄子　東畠弘子　石井慎一郎 窪田聡　出口弦舞
		福祉支援工学演習［博士］	2	＊		2					1T－3A02－21E	
		福祉支援工学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊＊			2				1T－3A03－32K	
		福祉支援工学研究指導［博士］Ⅱ（データ分析）	2	＊＊				2			1T－3A04－32K	
		福祉支援工学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1T－3A05－33K	
リハビリテーション学分野	リハビリテーション学領域	リハビリテーション学講義［博士］	2	＊	2						1X－3A01－21B	角田亘　後藤純信
		リハビリテーション学演習［博士］	2	＊		2					1X－3A02－21E	
		リハビリテーション学研究指導［博士］Ⅰ（データ収集）	2	＊＊			2				1X－3A03－32K	
		リハビリテーション学研究指導［博士］Ⅱ（データ分析）	2	＊＊				2			1X－3A04－32K	
		リハビリテーション学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1X－3A05－33K	
放射線・情報科学分野	医用画像学領域	医用画像学講義［博士］	2	＊＊	2						1R－3A01－21B	細貝良行　本村信篤　他
		医用画像学演習［博士］	2	＊＊		2					1R－3A02－21E	椛沢宏之　拝師智之　樋口清孝 島雄大介　本村信篤　細貝良行
		医用画像学研究指導［博士］Ⅰ（調査･計画）	2	＊＊			2				1R－3A03－32K	椛沢宏之　拝師智之　樋口清孝 細貝良行
		医用画像学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集･分析）	2	＊＊				2			1R－3A04－32K	
		医用画像学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1R－3A05－33K	
	放射線治療学領域	放射線治療学講義［博士］	2	＊＊	2						1R－3B01－21B	橋本光康　他
		放射線治療学演習［博士］	2	＊＊		2					1R－3B02－21E	
		放射線治療学研究指導［博士］Ⅰ（調査･計画）	2	＊＊			2				1R－3B03－32K	橋本光康　小林純也　河野良介 仲田栄子
		放射線治療学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集･分析）	2	＊＊				2			1R－3B04－32K	
		放射線治療学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊＊					2		1R－3B05－33K	
生殖補助医療胚培養分野	生殖補助医療胚培養領域	生殖補助医療胚培養講義［博士］	2	＊	2						1E－3A01－21B	堤治　他
		生殖補助医療胚培養演習［博士］	2	＊		2					1E－3A02－21E	
		生殖補助医療胚培養研究指導［博士］Ⅰ（精子培養）	2	＊			2				1E－3A03－32K	
		生殖補助医療胚培養研究指導［博士］Ⅱ（卵子培養）	2	＊				2			1E－3A04－32K	
		生殖補助医療胚培養研究指導［博士］Ⅲ（胚培養）	2	＊					2		1E－3A05－33K	
医療福祉教育・管理分野	医療福祉教育・管理領域	医療福祉教育・管理学講義［博士］	2	＊	2						1K－3A01－21B	堀本ゆかり　他
		医療福祉教育・管理学演習［博士］	2	＊		2					1K－3A02－21E	
		医療福祉教育・管理学研究指導［博士］Ⅰ（データ収集）	2	＊			2				1K－3A03－32K	堀本ゆかり　小野田公　久保晃 金子秀雄　糸数昌史　永井良治 渡邉観世子　谷口敬道　藤田郁代 畦上恭彦　藤本幹　窪田聡 後藤純信　齋藤孝義　冨永渉
		医療福祉教育・管理学研究指導［博士］Ⅱ（データ分析）	2	＊				2			1K－3A04－32K	
		医療福祉教育・管理学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊					2		1K－3A05－33K	

分野	領域	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 ＊：当該分野のみ ＊＊：当該領域のみ ○：許可を受けた学生のみ履修可	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
臨床検査学分野	臨床検査学領域	臨床検査学講義［博士］	2	＊	2						1 M － 3 A 0 1 － 2 1 B	長沢光章　永沢善三　竹内啓晃 村上正巳
		臨床検査学演習［博士］	2	＊		2					1 M － 3 A 0 2 － 2 1 E	
		臨床検査学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊			2				1 M － 3 A 0 3 － 3 2 K	長沢光章　永沢善三　竹内啓晃 清宮正徳　太田昭一郎　梅村創 廣岡良隆　矢口貴博　矢永勝彦 小荒田秀一　佐藤謙一　船島由美子 藤岡美幸　藤巻慎一　長田誠 久保田紀子
		臨床検査学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊				2			1 M － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		臨床検査学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊					2		1 M － 3 A 0 5 － 3 3 K	
災害医療分野	災害医療領域	災害医療学講義［博士］	2	＊	2						1 D － 3 A 0 1 － 2 1 B	石井美恵子　他
		災害医療学演習［博士］	2	＊		2					1 D － 3 A 0 2 － 2 1 E	
		災害医療学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊			2				1 D － 3 A 0 3 － 3 2 K	
		災害医療学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊				2			1 D － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		災害医療学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊					2		1 D － 3 A 0 5 － 3 3 K	
医療遺伝学分野	医療遺伝学領域	医療遺伝学講義［博士］	2	＊	2						1 G － 3 A 0 1 － 2 1 B	西垣昌和
		医療遺伝学演習［博士］	2	＊		2					1 G － 3 A 0 2 － 2 1 E	
		医療遺伝学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊			2				1 G － 3 A 0 3 － 3 2 K	西垣昌和　他
		医療遺伝学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊				2			1 G － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		医療遺伝学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊					2		1 G － 3 A 0 5 － 3 3 K	
医療福祉経営学分野	医療福祉経営学領域	医療福祉経営学講義［博士］	2	＊	2						1 B － 3 A 0 1 － 2 1 B	島崎謙治　中村秀一　池田俊也 高橋泰　岡村世里奈　角田圭雄
		医療福祉経営学演習［博士］	2	＊		2					1 B － 3 A 0 2 － 2 1 E	
		医療福祉経営学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊			2				1 B － 3 A 0 3 － 3 2 K	
		医療福祉経営学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集・分析）	2	＊				2			1 B － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		医療福祉経営学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊					2		1 B － 3 A 0 5 － 3 3 K	
診療情報管理・分析学分野	診療情報管理・分析学領域	診療情報管理・分析学講義［博士］	2	＊	2						1 L － 3 A 0 1 － 2 1 B	山本康弘　江田哲也
		診療情報管理・分析学演習［博士］	2	＊		2					1 L － 3 A 0 2 － 2 1 E	
		診療情報管理・分析学研究指導［博士］Ⅰ（データ収集）	2	＊			2				1 L － 3 A 0 3 － 3 2 K	
		診療情報管理・分析学研究指導［博士］Ⅱ（分析）	2	＊				2			1 L － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		診療情報管理・分析学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊					2		1 L － 3 A 0 5 － 3 3 K	
先進的ケア・ネットワーク開発研究分野	ケアマネジメント学領域	介護福祉・ケアマネジメント学講義［博士］	2		2						1 Z － 3 A 0 1 － 5 1 B	石山麗子　他
		ケアマネジメント論［博士］	2		2						1 Z － 3 A 0 2 － 5 1 B	石山麗子　他
		高齢者介護学［博士］	2			2					1 Z － 3 A 0 3 － 5 1 B	小平めぐみ
		自立支援介護学［博士］	2		2						1 Z － 3 A 0 4 － 5 1 B	小平めぐみ　他
		介護福祉・ケアマネジメント学演習［博士］	2		2						1 Z － 3 A 0 5 － 5 1 E	石山麗子　他
		ケア理論演習［博士］	2			2					1 Z － 3 A 0 6 － 5 1 E	石山麗子　他
		介護福祉・ケアマネジメント学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画作成）	2	＊			2				1 Z － 3 A 0 7 － 3 2 K	石山麗子　小平めぐみ　他
		介護福祉・ケアマネジメント学研究指導［博士］Ⅱ（データ収集）	2	＊				2			1 Z － 3 A 0 8 － 3 2 K	
		介護福祉・ケアマネジメント学研究指導［博士］Ⅲ（データ分析）	2	＊					2		1 Z － 3 A 0 9 － 3 3 K	
医療福祉学分野	医療福祉学領域	医療福祉学講義［博士］	2		2						1 H － 3 A 0 1 － 2 1 B	小林雅彦　小嶋章吾　白澤政和 下泉秀夫
		医療福祉学演習［博士］	2	＊		2					1 H － 3 A 0 2 － 2 1 E	
		医療福祉学研究指導［博士］Ⅰ（研究計画指導）	2	＊			2				1 H － 3 A 0 3 － 3 2 K	
		医療福祉学研究指導［博士］Ⅱ（研究手法指導）	2	＊				2			1 H － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		医療福祉学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成指導）	2	＊					2		1 H － 3 A 0 5 － 3 3 K	
医療福祉ジャーナリズム分野	医療福祉ジャーナリズム領域	医療福祉ジャーナリズム総合研究指導Ⅰ（研究計画作成）	2	＊	2						1 J － 3 A 0 1 － 3 1 K	大熊由紀子　丸木一成　埴岡健一
		医療福祉ジャーナリズム総合研究指導Ⅱ（データ収集）	2	＊		2					1 J － 3 A 0 2 － 3 1 K	
		医療福祉ジャーナリズム総合研究指導Ⅲ（論文クリティーク）	2	＊			2				1 J － 3 A 0 3 － 3 2 K	
		医療福祉ジャーナリズム総合研究指導Ⅳ（データ分析）	2	＊				2			1 J － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		医療福祉ジャーナリズム総合研究指導Ⅴ（論文作成）	2	＊					2		1 J － 3 A 0 5 － 3 3 K	
臨床心理学分野	臨床心理学領域	臨床心理学講義［博士］	2	＊	2						1 Y － 3 A 0 1 － 2 1 B	小野寺敦志　小畠秀吾　橋本和典 長谷川晃　小堀修
		臨床心理学演習［博士］	2	＊		2					1 Y － 3 A 0 2 － 2 1 E	
		臨床心理学研究指導［博士］Ⅰ（データ収集）	2	＊			2				1 Y － 3 A 0 3 － 3 2 K	
		臨床心理学研究指導［博士］Ⅱ（データ分析）	2	＊				2			1 Y － 3 A 0 4 － 3 2 K	
		臨床心理学研究指導［博士］Ⅲ（論文作成）	2	＊					2		1 Y － 3 A 0 5 － 3 3 K	

保健医療学専攻

①看護学分野

管理実践看護学領域

■看護学分野　管理実践看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「管理実践看護学講義(博士)」(2単位) 「管理実践看護学演習(博士)」(2単位) 「管理実践看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

看護管理・政策学領域

■看護学分野　看護管理・政策学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「看護管理・政策学講義(博士)」(2単位) 「看護管理・政策学演習(博士)」(2単位) 「看護管理・政策学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

看護教育学領域

■看護学分野　看護教育学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「看護教育学講義(博士)」(2単位) 「看護教育学演習(博士)」(2単位) 「看護教育学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

看護実践基礎・援助学領域

■看護学分野　看護実践基礎・援助学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「看護実践基礎・援助学講義(博士)」(2単位) 「看護実践基礎・援助学演習(博士)」(2単位) 「看護実践基礎・援助学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

感染管理・感染看護学領

■看護学分野　感染管理・感染看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「感染管理・感染看護学講義(博士)」(2単位) 「感染管理・感染看護学演習(博士)」(2単位) 「感染管理・感染看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

精神看護学領域

■看護学分野　精神看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「精神看護学講義(博士)」(2単位) 「精神看護学演習(博士)」(2単位) 「精神看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

リプロダクティブヘルス看護学領域

■看護学分野　リプロダクティブヘルス看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「リプロダクティブヘルス講義(博士)」(2単位) 「リプロダクティブヘルス演習(博士)」(2単位) 「リプロダクティブヘルス研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

小児看護学領域

■看護学分野　小児看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「小児看護学講義(博士)」(2単位) 「小児看護学演習(博士)」(2単位) 「小児看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

成人看護学領域

■看護学分野　成人看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「成人看護学講義(博士)」(2単位) 「成人看護学演習(博士)」(2単位) 「成人看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

老年看護学領域

■看護学分野　老年看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「老年看護学講義(博士)」(2単位) 「老年看護学演習(博士)」(2単位) 「老年看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

家族看護学領域

■看護学分野　家族看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「家族看護学講義(博士)」(2単位) 「家族看護学演習(博士)」(2単位) 「家族看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

在宅看護学領域

■看護学分野　在宅看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「在宅看護学講義(博士)」(2単位) 「在宅看護学演習(博士)」(2単位) 「在宅看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

公衆衛生看護学領域

■看護学分野　公衆衛生看護学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「公衆衛生看護学講義(博士)」(2単位) 「公衆衛生看護学演習(博士)」(2単位) 「公衆衛生看護学研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	12単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれのそれぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

②助産学分野

助産学領域

■助産学分野　助産学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位		「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位	―	「助産学講義（博士）」（２単位） 「助産学演習（博士）」（２単位） 「助産学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

③理学療法学分野

基礎理学療法学領域

■理学療法学分野　基礎理学療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「基礎理学療法学講義（博士）」（２単位） 「基礎理学療法学演習（博士）」（２単位） 「基礎理学療法学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

応用理学療法学領域

■理学療法学分野　応用理学療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「応用理学療法学講義（博士）」（２単位） 「応用理学療法学演習（博士）」（２単位） 「応用理学療法学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１０単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

④作業療法学分野

作業活動分析学領域

■作業療法学分野　作業活動分析学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「作業活動分析学講義（博士）」（２単位） 「作業活動分析学演習（博士）」（２単位） 「作業活動分析学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

作業活動支援学領域

■作業療法学分野　作業活動支援学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「作業活動支援学講義（博士）」（２単位） 「作業活動支援学演習（博士）」（２単位） 「作業活動支援学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

精神神経障害作業療法学領域

■作業療法学分野　精神神経障害作業療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	ー	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「精神神経障害作業療法学講義（博士）」（２単位） 「精神神経障害作業療法学演習（博士）」（２単位） 「精神神経障害作業療法学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	ー	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

⑤言語聴覚分野

言語障害学領域

■言語聴覚分野　言語障害学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位		「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位	－	「言語障害学講義（博士）」（２単位） 「言語障害学演習（博士）」（２単位） 「言語障害学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	－	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

聴覚障害学領域

■言語聴覚分野　聴覚障害学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位		「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位	－	「聴覚障害学講義（博士）」（２単位） 「聴覚障害学演習（博士）」（２単位） 「聴覚障害学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	－	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58
○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

発声発語・嚥下障害学領域

■言語聴覚分野　発声発語・嚥下障害学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「発声発語・嚥下障害学講義（博士）」（２単位） 「発声発語・嚥下障害学演習（博士）」（２単位） 「発声発語・嚥下障害学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

⑥視機能療法学分野

視機能療法学領域

■視機能療法学分野　視機能療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「視機能療法学講義（博士）」（２単位） 「視機能療法学演習（博士）」（２単位） 「視機能療法学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

⑦福祉支援工学分野

福祉支援工学領域

■福祉支援工学分野　福祉支援工学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	ー	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「福祉支援工学講義（博士）」（２単位） 「福祉支援工学演習（博士）」（２単位） 「福祉支援工学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	ー	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、分野専門科目（履修制限のないもの）の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

⑧リハビリテーション学分野

リハビリテーション学領域

■リハビリテーション学分野　リハビリテーション学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	ー	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「リハビリテーション学講義（博士）」（２単位） 「リハビリテーション学演習（博士）」（２単位） 「リハビリテーション学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	ー	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

⑨放射線・情報科学分野

医用画像学領域

■放射線・情報科学分野　医用画像学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「医用画像学講義（博士）」（2単位） 「医用画像学演習（博士）」（2単位） 「医用画像学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各2単位） 計10単位必修
小計	１２単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

放射線治療学領域

■放射線・情報科学分野　放射線治療学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「放射線治療学講義（博士）」（2単位） 「放射線治療学演習（博士）」（2単位） 「放射線治療学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各2単位） 計10単位必修
小計	１２単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

⑩生殖補助医療胚培養分野

生殖補助医療胚培養領域

■生殖補助医療胚培養分野　生殖補助医療胚培養領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」(2単位)必修
専門科目	10単位		「生殖補助医療胚培養講義(博士)」(2単位) 「生殖補助医療胚培養演習(博士)」(2単位) 「生殖補助医療胚培養研究指導(博士)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(各2単位) 計10単位必修
小計	10単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

⑪医療福祉教育・管理分野

医療福祉教育・管理領域

■医療福祉教育・管理分野　医療福祉教育・管理領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位		「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位	－	「医療福祉教育・管理学講義（博士）」（２単位） 「医療福祉教育・管理学演習（博士）」（２単位） 「医療福祉教育・管理学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	－	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

⑫臨床検査学分野

臨床検査学領域

■臨床検査学分野　臨床検査学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「臨床検査学講義（博士）」（２単位） 「臨床検査学演習（博士）」（２単位） 「臨床検査学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

⑬災害医療分野

災害医療領域

■災害医療分野　災害医療領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	ー	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「災害医療学講義（博士）」（2単位） 「災害医療学演習（博士）」（2単位） 「災害医療学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各2単位） 計10単位必修
小計	１２単位	ー	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→Ｐ162

②修士課程共通科目一覧（表①）→Ｐ95

⑭医療遺伝学分野

医療遺伝学領域

■医療遺伝学分野　医療遺伝学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「医療遺伝学講義（博士）」（2単位） 「医療遺伝学演習（博士）」（2単位） 「医療遺伝学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各2単位） 計10単位必修
小計	１２単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

⑮医療福祉経営学分野

医療福祉経営学領域

■医療福祉経営学分野　医療福祉経営学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位		「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位	－	「医療福祉経営学講義（博士）」（２単位） 「医療福祉経営学演習（博士）」（２単位） 「医療福祉経営学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	－	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

⑯診療情報管理・分析学分野

診療情報管理・分析学領域

■診療情報管理・分析学分野　診療情報管理・分析学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	ー	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「診療情報管理・分析学講義（博士）」（２単位） 「診療情報管理・分析学演習（博士）」（２単位） 「診療情報管理・分析学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	ー	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

⑰先進的ケア・ネットワーク開発研究分野

介護福祉学領域、ケアマネジメント学領域

■先進的ケア・ネットワーク開発研究分野　介護福祉学領域、ケアマネジメント学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位		「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位	―	「介護福祉・ケアマネジメント学講義（博士）」（２単位） 「ケアマネジメント論（博士）」（２単位） 「高齢者介護学（博士）」（２単位） 「自立支援介護学」（２単位） 上記の中から１科目２単位必修 「介護福祉・ケアマネジメント学演習（博士）」（２単位） 「ケア理論演習（博士）」（２単位） 上記２科目から１科目２単位必修 「介護福祉・ケアマネジメント学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各２単位） 上記３科目６単位必修
小計	１２単位	―	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

⑱医療福祉学分野

医療福祉学領域

■医療福祉学分野　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「医療福祉学講義（博士）」（2単位） 「医療福祉学演習（博士）」（2単位） 「医療福祉学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各2単位） 計10単位必修
小計	１２単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は、①博士・修士課程共通科目、②この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、③この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→ P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95

⑲医療福祉ジャーナリズム分野

医療福祉ジャーナリズム領域

■医療福祉ジャーナリズム分野　医療福祉ジャーナリズム領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	ー	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「医療福祉ジャーナリズム総合研究指導Ⅰ～Ⅴ」（各２単位） 計１０単位必修
小計	１２単位	ー	
合計	１２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。

◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

⑳臨床心理学分野

臨床心理学領域

■臨床心理学分野　臨床心理学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　考
	必修	選択	
共通科目	2単位	―	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１０単位		「臨床心理学講義（博士）」（2単位） 「臨床心理学演習（博士）」（2単位） 「臨床心理学研究指導（博士）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（各2単位） 計10単位必修
小計	１２単位	―	
合計	12単位以上		

【注】選択科目は博士・修士課程共通科目、この専攻分野の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、この専攻分野以外の博士課程の専門科目で履修制限のないもの、の中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記１２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目科目一覧と標準履修年次（表③）→P162

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

5-3　研究報告会

概要

- 学位論文研究は全在学期間を通して行われますが、その間に院生は、研究指導教員・副研究指導教員の指導を受けながら、毎年次に行われる研究報告会において経過報告を行い、参加者（教員、院生）の助言を受ける機会があります。

Ｄ１／Ｄ２研究報告会

- Ｄ１ / Ｄ２研究報告会は、博士課程１年次生及び２年次生の研究報告会の通称です。
- １年次生は、入学後ほぼ９か月が経過した時点で行います。この時点の報告は、研究計画の報告が主体となり、２年次生はそれまでの経過を報告し、質疑応答が行われるのが一般です。
- この報告会は、同時双方向アプリによるオンラインで開催されます。
  多くの分野が同日開催され、各自の PC から討論に参加します。
- 発表者は、パワーポイントスライド等を用いることが奨励されています。
- 発表者は、あらかじめ研究報告会題目を登録し、研究計画書を大学院事務局に提出しなくてはなりません。関連書式は大学院用 Web 掲示板からダウンロードできます。
- 詳細については、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

Ｄ１ / Ｄ２研究報告会	
計画書提出	１１月中旬
報　告　会	１２月上旬

5-4　博士論文の審査

概　要

- 各院生は、３年次の後期前半に、論文審査申請を行い論文抄録及び学位論文を提出し、審査と口頭試験を受けます。
- 学位論文の審査と口頭試験は、通常、研究指導教員が選任した同一分野及び異分野の教員と、研究科長と専攻主任が推薦した教員によって行われます。当該提出論文の研究指導教員は、審査員から除かれます。
- 学位論文の審査と試験に合格した者は、博士学位論文発表会に臨み、さらに研究科会議による最終合否判定を受けます。ここで「合格」と判定されれば修了が確定します。
- 修了が確定した院生は論文作成要領に従い、論文全文及び要旨の電子データ（PDF）を提出します。これらの電子データ（PDF）は、国立国会図書館への電子データでの納本及び「国際医療福祉大学機関リポジトリ」での電子的公開が行われることとなります。
- これまでの修了生の論文をリポジトリで公開しておりますので参考にしてください。
- 詳細は、随時大学院事務局より、大学院用 Web 掲示板等でお知らせします。

論文審査申請の手続き

１）学位論文審査申請と論文抄録の提出

- 論文題目を確定し、「博士学位論文申請・審査員推薦書」と論文抄録を提出してください。これを受けて審査員の選出が始まります。
- 論文抄録は、体裁と執筆要領が指定されています。後出の**参考）1**（→P199）に従ってください。
- ９月下旬には、博士学位論文提出予定者報告会が行われ、論文抄録は、当該報告会の配布資料とします。また、発表者の題目登録は、当日のプログラム作成に使用します。
- 詳細は、次ページ及び別途大学院用 Web 掲示板等で案内しますので確認してください。

「学位論文審査申請・審査員推薦書」（博論書式 1）

提出期間　　９月上旬
提 出 先　　研究指導教員

「論文抄録」

提出期限　　９月中旬
提 出 先　　指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出
※提出後の差替えには応じられませんので注意してください。

2）博士論文提出予定者報告会

- 博士学位論文審査の前の、最終の事前チェックとして広く他分野の教員からも研究の質の向上へのコメント・アドバイスを得ることを目的とし、９月下旬の日曜日に博士論文提出予定者を対象とした報告会が行われます。必ず発表してください。
- 発表する順番は、報告会開催の 2 日前までに、プログラムにより通知します。
- 発表時間は、学生 1 人 15 分（発表 10 分、質疑応答および交替時間 5 分）です。

3）審査用学位論文、抄録、副論文の提出

- 審査用資料を次のとおり提出してください。

提出期限	１１月上旬
提出書類	主論文（審査用）、 同抄録、 副論文 （各 PDF データとして提出）
提 出 先	指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出
※期限までに提出のない論文は、受領しません（期限厳守）。	

- 主論文は、A）掲載誌の書式のコピー、もしくはB）在学期間中に行った研究を総括した Thesis のいずれかの体裁となります。体裁と執筆要領は、後出の**参考）2（→P200）**に従ってください。
- 主論文、同抄録、副論文は、研究指導教員の許可により英語で書くこともできます。英語で書く場合は、必ず邦題(日本語での題目)も設けてください。
- 抄録は、前出の博士学位論文提出予定者報告会による助言を受けて修正したものを提出してください。
- 主論文、副論文の条件は、以下のとおりです。

① 主論文１篇（審査用）:

ア. 原則として原著（総説を含む）であること。ただし、在学中の研究に基づく既発表論文も可とする。

イ. 既発表論文の場合は共著も可とする。ただし、申請者が筆頭著者でなければならない(equally contributed を含む)。また、申請者が主に行った研究である旨を説明する文書が提出され、その文書に他の共著者の署名が添えられていなければならない。

ウ. 既発表論文の掲載誌の条件は、下記＊に定める。

② 副論文１篇以上：

ア. 主論文研究を実施するうえで求められる基本的な学術的知識および研究基礎力を備えていることを示す既発表論文（掲載決定証明書を含む）であること。

イ. 申請者が原則として筆頭著者であること(equally contributed を含む)。

ウ. 原著、総説あるいはそれに匹敵する内容であること。

エ. 掲載誌の条件は、下記＊に定める。

オ. 副論文の適否については、初回審査委員会において主論文を審査する前に判定する。

カ. 主論文に関わる研究の全部または一部が、発表論文として掲載あるいは投稿されている場合は、分野内の取り決めにより、副論文の提出を必要としない場合もある。指導教員によく確認すること。なお、該当する場合、発表誌の掲載決定証明書あるいは論文投稿受付証明書（投稿が受け付けられたことを証明する資料で代用可）を提出すること。

＊主論文が既発表である場合の掲載誌並びに副論文の掲載誌の条件

次のいずれかに該当するものを可とする。

ア.国内外の学術誌であって査読制度を設けているもの（本学学会誌を含む）。

イ.研究科会議により、上記（ア）に準じるものと認められた商業誌等。

審査及び面接試験

- 審査の具体的方法は主査と副査が協議によって決めます。審査員が一堂に会し、当該院生にプレゼンテーションを求め、質疑応答を行い、その結果に基づいて審査委員会が合否案を決めるという方法が一般的です。
- 期間内に論文の一部修正を求め、その上で改めて合否判定をする場合があります。
- 審査期間終了後、審査委員長から論文審査、面接試験の結果が伝えられ、合格の場合は、博士学位論文発表会での発表が許可されます。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

審査期間　　１１月中旬～翌年１月中旬を予定

博士学位論文発表会

- 審査委員会による論文審査・面接試験に合格した者は、博士学位論文発表会での発表を行います

開催日程　　２月上旬

- 発表会資料とする 論文全文、同抄録、発表者登録票を「電子データ」にて提出してください。書式は前出と同じですので、**参考）1、参考）2** に従ってください。発表者登録票は、過日提出のものを適宜修正して提出してください。
- 論文全文は、本文や図書などを別々のファイルで作成した場合にも、必ず一つのファイルにまとめた上で提出してください（PDF または Word ファイルで提出してください）。

【論文全文、同抄録の提出】

提出期限　　１月下旬

提 出 先　　指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出

- 発表する順番は、発表会開催の 2 日前までに、プログラムにより通知します。
- 発表時間は、学生 1 人 15 分（発表 10 分、質疑応答および交替時間 5 分）です。

最終合否判定

- ２月中旬の大学院研究科会議で論文の最終合否判定を行い、単位取得状況と併せて修了判定を行い、大学院代表者会議で承認を受けて決定します。
- 修了判定の結果は、大学院用 Web 掲示板にて通知します。（学籍番号を掲示）

電子データ（PDF）及び論文製本版の提出

- 修了が確定した者は、論文全文及び論文要旨の電子データ（PDF）等を提出してください。また、研究指導教員提出用の製本にあたっての注意事項は、後出の**参考）3**（→P203）に従ってください。
- 大学院事務局に提出する論文データは、以下の３件の電子データを提出してください。
  ①「博士学位論文全文」の電子データ（PDF ファイル）
  ②「論文要旨」の電子データ（PDF ファイル）
  ③「博士学位論文利用許諾書」（Excel ファイル）
- 指定の Web ページ上からファイルをアップロードし、大学院事務局に提出いただきます。
- これらの論文等は、図書館に保管されるほか、国立国会図書館への電子データでの納本及び「国際医療福祉大学機関リポジトリ」での電子的公開が行われることになります。

提出期限	3 月下旬
提 出 先	製本版 1 部　⇒　研究指導教員
	論文の電子データ（①～③）　⇒　指定の Web ページから提出
提出書類	①論文全文の電子データ（PDF ファイル）
	②論文要旨の電子データ（PDF ファイル）
	③博士学位論文利用許諾書（Excel ファイル）

参考）1

－国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科－

博士学位論文「論文発表会用抄録」
及び「論文要旨」作成要領

＊「論文発表会用抄録」とは 「博士学位論文発表会」のプログラムに掲載するものであり、 「論文要旨」とは、博士学位論文審査合格後に本学機関リポジトリによりインターネット上で公開するものである（文科省学位規則により「論文要旨」は、公開が義務付けられている)。なお、この二つの内容は同一のものでよく、体裁についてもどちらも同様のものとする。
＊また、ここでいう「論文要旨」は、論文の冒頭に記載する「400 字要旨」とは別のものであるので注意すること。

１．体裁

１）日本語、Ａ４版縦２頁、横書き（ワープロ書き)、図表は含まない。
２）研究指導教員の許可がある場合は、英語（Ａ４版２頁）も可とする。但し、学会誌に掲載された英文論文をそのまま主論文とする場合は、必ず日本語で作成すること。
３）上下左右とも 25㎜ 程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる。文字の大きさは、題目・見出しは １４ポイント程度、本文は 10.5 ポイントを標準とする。
４）冒頭部分の書式は次のとおり。ただし、仕上がり時の枠取りはなし。
５）内容は、「キーワード」（３～５語、日本語)、「研究の背景と目的」、「方法」、「倫理上の配慮」、「結果」、「考察」、「結語」、「引用文献」の順に書くことを基本とするが、必要に応じて変更してよい。
５）引用文献は、最小限度にとどめる。

国際医療福祉大学審査学位論文（博士）
20○○年度大学院医療福祉学研究科博士課程・論文発表会用抄録
（注）「論文要旨」の場合には「論文発表会用抄録」の文言を「論文要旨」に変えて作成すること）

題目：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

○○○○○○○学専攻・○○○○○○○学分野・○○○○○○○学領域
学籍番号：○○○○○○○　　氏名：○○○○○○○○
研究指導教員：○○○○○○○　副研究指導教員：○○○○○○

キーワード：　○○○　　○○○　　○○○　　○○○　○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

参考)2

－国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科－

博士学位論文作成要領

１．体裁

１）学位論文は、A)掲載された論文のコピー、もしくは、B)在学期間中に行った研究を総括したＴｈｅｓｉｓを、以下の要領に基づき作成したものを提出する。
２）日本語、Ａ４版、横書き（ワープロ書き）。Ａの場合は、体裁をＡ４版に整えて提出すること。
３）研究指導教員の許可がある場合は、英語も可とする。
４）本文頁は、上下左右とも 25mm 程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる（添付資料のファイル形式により頁数を入れられない場合はのぞく）。
※表紙・目次には頁はふらないこと

（表紙）

国際医療福祉大学審査学位論文（博士）
大学院医療福祉学研究科博士課程

○○○○○○論文題目○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

20○○年度

○○○学専攻・○○○学分野・○○○学領域
学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○
研究指導教員：○○○○○
副研究指導教員：○○○○○

２．構成（Ｂの形式で提出する場合）

１）　論文の構成は以下のとおりとする。

① 表紙

② 400 字要旨（英文要旨は、300 語以内）
和文要旨（日本語の論文題目・著者名・要旨、日本語のキーワード）
英文要旨（英語の論文題目・著者名・要旨、英語のキーワード）
和文要旨と英文要旨はそれぞれ１枚とする。

③ 目次

④ 本文

⑤ 文献一覧

⑥ 資料

２）和文要旨は、４００字以内とする。英文要旨は、３００語以内とする。キーワードは、和文要旨と英文要旨の末尾に各々3～5 語を記載する。

３）目次は、本文の章・節、謝辞、文献一覧、（資料）をこの順に掲げるものとし、該当ページを表示する。

４）本文の章立ては必ずしも○章、○節とせず、他の形式でもよい（たとえば、Ⅰ、1、・・・・）。ただし、一般文章作法の範囲にとどめること。

５）図・表は原則として本文の該当する箇所に挿入する。図や表には、別々に通し番号とタイトルを付す。図の番号とタイトルは図の下に、表の番号とタイトルは表の上に付す。資料（例　質問紙一式）は必要に応じて加える。資料を付加する場合は、それぞれに番号とタイトルをつけ、本文中にはその番号をもって引用する。

６）文献は、引用したもののみ記載する。文献引用の方法及び文献一覧の作成については次項参照。

７）全体の長さに制限は設けない。

３．文献引用及び文献一覧について

・本文中に文献を引用する場合は，その箇所の右肩に [1)]や [1, 2, 9-12)] などと示す．文章の切れ目につける場合は，カンマ，ピリオドの直前の右肩に記す。
例）良好な成績を示す場合があることが報告されている [1-3)]
例）このことについてはBraune ら [1)]が述べているように・・・

・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し，本文末尾に記載する．文献一覧は 1)　2)・・・と順に通し番号を付して引用順に並べる．未発表の論文は文献リストに含めない．印刷中の論文は印刷中或いは in press と記してリストに加えてもよい。

・文献の著者名は，著者が 3 名以内の場合は全員の名前を記載し，4 名以上のときは 3 名まで記載し残りは〔ら〕，または〔et al.〕とする．著者間は英文も&を入れずにカンマで区切る．

・雑誌の論文表題，書籍の表題は，最初の文字のみ大文字とする。
書籍名，雑誌名は冠詞，接続詞，前置詞を除いて各語の初字を大文字で書く．その場合，一番初めの語の最初の文字は，冠詞，接続詞，前置詞であっても必ず大文字とする。

・文献の記載方法は，下記の例に従う．なお，文献一覧中の「, 」「. 」「; 」「: 」「-」などの記号は日本語文献の場合も半角を使用する。

①雑誌の場合
著者名．論文表題．雑誌名 発行年; 巻(号): ページ

・雑誌で，通巻ページと各号ごとのページが併記されている場合は，通巻ページを優先して記載する。通巻ページを記載した場合は，巻のあとの(号)は記入する必要はない。

・和雑誌は正式名称を記載する．洋雑誌の場合，略称を使用するときは，Index Medicus に従う。

例〕 1)池田俊也,北里博仁,野田光彦ら.薬剤経済学研究に関する最近の話題:医療データベースの薬剤経済評価への応用.臨床薬理 2010;41(6):281-286

2)Friedman W, Sypert GW, Munson JB, et al. Recurrent inhibition in type-identified

motoneurons. J. Neurophysiol. 1981;46:1349-1359

3) Maurel W, Thalmann D. A case study on human upper limb modeling for dynamic simulation. Computer Methods in Biomechanics and Biomedical Engineering 1999;2:1-17

②書籍の場合

著者名（訳者名）. 表題. 書籍名. 出版地: 出版社, 発行年: ページ

・訳本の場合は著者名と訳者名の両方を記載し，著者名は訳本の記載に従う．訳者名は著者名の後の( )に〔訳〕〔tr.〕を付して書く。

・編者名は〔編〕〔ed.〕を付して，著者名の位置に書く。

・版次，巻次がある場合には，書籍名の次に「. 」で区切って記載する．出版年はその版次の初刷の出版年を書く。

例〕1)南雲直二. 障害受容－意味論からの問い. 第2版. 東京:荘道社, 2002:59-63

2)内山孝憲, 赤澤堅造. 運動単位の活動様式を模擬する筋張力制御のためのニューラルネットワークモデル. バイオメカニズム 15. 東京:東京大学出版会, 2000:143-152

3)シュポルスキー(玉木英彦他訳). 原子物理学Ⅰ. 東京:東京図書, 1995:345-350

4) Braune W, Fischer O. Attitudes of the loaded body. On the Center of Gravity of the Human Body.
New York: Springer-Verlag, 1985:71-90

5) Aichinger H, Dierker J, Joite-Bafub S et al.(笠井俊文, 加藤博和監訳). 診断X線の基礎, 東京:オーム社, 2004:28-32

③インターネット上の文献の場合(※)

著者名. 記述された年.(不詳の場合は省略)題目. URL 参照年月日

例〕1)日本社会学会. 2006. 日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針.
http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf 2012.6.11

（※）インターネット上の文献については，インターネット以外の手段では入手困難であり，かつ学術機関･公的機関などが発行する信頼性が確保されたホームページおよび電子刊行物の情報で，かつ一般読者に利用可能でなければならない。

例〕学術機関(学会・大学等)のホームページおよびそこに掲載された研究論文等,
国際機関(標準化機関等)のホームページおよびそこに掲載された標準規格等,
公的機関(省庁・自治体・研究所等)のホームページおよびそこに掲載された研究・調査活動の内容，研究成果，調査結果等

④電子化された資料の場合

電子書籍，電子ジャーナルからの場合は，印刷媒体と同様の書誌情報に加え，その電子書籍を閲覧した際に用いた媒体の種類，またはインターネット利用の場合は，URL と参照年月日を記載する。

例〕1)石田佳代子. 看護系大学の新人教員に対するファカルティ・ディヴェロップメント(FD)推進のための文献調査に基づく課題. 看護科学研究 2010; 9(1): 10-18
http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/PDF/9_1/9_1_2.pdf 2011.2.15

４．その他

１）倫理上の配慮については、別項を設け記載すること（倫理審査を受けているか否か、倫理審査を受けていない場合にはその理由も必ず明記すること)。

以　上

参考）3

－国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科－

論文製本にあたっての注意事項

1．研究指導教員への提出用の論文製本（※）は、著者が個々に業者に委託することによって行う。
※研究指導教員への論文製本版の提出要否は研究指導教員により異なるため、個別に確認し対応してください。

2．Aの形式で審査を行った場合
掲載論文コピー（別刷も可）に下記の形式の表紙を加える。表紙は深緑色のソフトカバー、文字は金文字以外でもよい。
※背表紙は、題目・所属・学籍番号・氏名を記載したものを必ずつけること。
（背表紙をつけるための仕様（厚紙を入れる、など）に特に定めはなく、最低限の厚さで可）

3．Bの形式で審査を行った場合
1） 表紙は光沢のある深緑色（スクールカラー）のハードカバー、文字は金文字とする。
2） 表表紙、背表紙の様式は下図にしたがう。ただし、題目文字は２０ポイント、その他は１４ポイント程度。
3） 表表紙と同様式の内表紙１枚を加える。
4） 背表紙は、題目・所属・学籍番号・氏名を記載したものを必ずつけること。
（背表紙をつけるための仕様（厚紙を入れる、など）に特に定めはなく、最低限の厚さで可）

（背表紙）

（題目）
（○○学専攻　○○分野）
（学籍番号）
（氏名）

（表表紙）

国際医療福祉大学審査学位論文（博士）
大学院医療福祉学研究科博士課程

○○○○○○論文題目○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

20○○年度

○○○学専攻・○○○学分野・○○○学領域
学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○
研究指導教員：○○○○○
副研究指導教員：○○○○○

4．その他
製本費用は自己負担。または院生指導費をあてることができる。

以　上

薬科学研究科

6-1　授業科目の履修

2026 年度 修士課程開講科目

- 科目・標準履修年次・担当教員は下記のとおり。
  共通科目・・・・・・・・**表①**　→P95
  専門科目・・・・・・・・**表④**　→P207
- 各授業の詳しい内容は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。閲覧方法→ P58

履修科目の選択と登録

１）必修科目及び選択必修科目と選択科目

- 「必修科目」とは必ず履修しなければならない科目、「選択必修科目」とは所定の選択科目群より指定単位を必ず履修しなければならない科目、「選択科目」とはある範囲から院生が自由に選択して履修することができる科目です。いずれも、科目名又は科目選択の範囲と単位数の下限が指定されています。在学期間中に、あわせて３０単位以上修得します。
- 選択科目のうち、専門科目の履修制限のないものを選択する場合、手引き、シラバス等で履修制限がない事を確認した上で履修登録を行ってください。授業時間割に掲載がない場合には、その科目の筆頭教員（コーディネーター）にメール（メールアドレスは、ホームページに公開）にて受講希望を示し、受講に関しての確認を行なったうえで履修登録を行なってください。
- 授業を欠席する際の担当教員への連絡は事務局では受け付けませんのでご注意ください。
- 各学年を通じ、同一科目を再度履修しても、所定の単位として認めることはありません。ただし、不合格の場合を除きます。

２）履修可能な自分野・他領域、もしくは他分野の専門科目（履修制限）

- 自身の研究科、専攻において履修可能な他研究科、専攻科目については以下の表を参考にしてください。

専門科目履修表

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（修士課程）</td><td colspan="3">医療福祉学研究科</td></tr>
<tr><td>保健医療学専攻</td><td>医療福祉経営専攻</td><td>臨床心理学専攻</td></tr>
<tr><td>自研究科
自専攻</td><td>薬科学研究科</td><td>生命薬科学専攻</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（修士課程）</td><td>薬科学研究科</td><td>医学研究科</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>生命薬科学専攻</td><td>公衆衛生学専攻</td></tr>
<tr><td>自研究科
自専攻</td><td>薬科学研究科</td><td>生命薬科学専攻</td><td>○
（医療福祉学研究科
修士課程共通科目含む）</td><td>×</td><td></td></tr>
</table>

３）履修基準

- ここでは、専攻ごとに基準を設けています。
  該当するページで確認をしてください。

Ａ　生命薬科学専攻

①生命薬学分野　→　P208
②医療薬学分野
　がん薬物療法学領域　→　P209
　臨床薬学領域　→　P209

４）履修年次

- 生命薬学分野　：　１年次の前期と後期に生命薬科学総合演習Ⅰ、生命薬科学総合演習Ⅱを履修してください。生命薬科学特別研究は、１・２年次の前期・後期に履修してください。その他の科目は、１・２年次いずれの年次に履修しても構いません。
- 医療薬学分野　がん薬物療法領域　：　生命薬科学特別研究は、１・２年次の前期・後期に履修してください。その他の科目は、１・２年次いずれの年次に履修しても構いません。
- 医療薬学分野　臨床薬学領域　：　１年次の前期と後期に生命薬科学総合演習Ⅰ、生命薬科学総合演習Ⅱを履修してください。臨床病院実務実習Ⅰ又は臨床保険薬局実務実習、生命薬科学特別研究は、１・２年次の前期・後期に履修してください。その他の科目は、１・２年次いずれの年次に履修しても構いません。
- 共通科目及び自分の専攻領域以外の専門科目の履修は、原則としてどの年次の履修であっても構いません。これも『授業計画（シラバス）一覧』で確認してください。

５）履修科目の登録

- 院生は、前期登録期間にユニバーサルパスポートを利用して１年間の履修科目の登録を行い、変更がある場合、後期登録変更期間にその修正を行います。履修登録を行わなかった科目は、単位取得できませんので注意してください。履修登録期間については、大学院用 Web 掲示板等に示される通知に従ってください。

６－２　修士課程の開講科目、修了要件表

表④ 2026年度　薬科学研究科（生命薬科学専攻）「修士」課程の【専門科目】・開講年次・担当教員

専攻	科目区分	専門科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定（無記入は限定なし）	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	担当教員名
薬科学研究科　生命薬科学専攻	専門科目	臨床医学特論Ⅰ（内科系）	1		1		1		7 P ー 3 B 0 1 ー 8 7 B	2026年度非開講
		臨床医学特論Ⅱ（外科系）	1		1		1		7 P ー 3 B 0 2 ー 8 7 B	2026年度非開講
		薬理学特論	1			1		1	7 P ー 3 B 0 3 ー 8 7 B	2026年度非開講
		薬物治療学特論	2		2		2		7 P ー 3 B 0 4 ー 8 7 B	八木秀樹　他
		ゲノム分子生物学特論	1			1		1	7 P ー 3 B 0 5 ー 8 7 B	八木秀樹　他
		先端薬科学研究特論	1			1		1	7 P ー 3 B 0 6 ー 8 7 B	宮川和也　他
		生命薬科学総合演習Ⅰ（基礎系）	2	生命薬学分野・医療薬学分野臨床薬学領域のみ	2				7 P ー 3 B 0 7 ー 4 1 E	八木秀樹　他
		生命薬科学総合演習Ⅱ（臨床系）	2	生命薬学分野・医療薬学分野臨床薬学領域のみ	2				7 P ー 3 B 0 8 ー 5 1 E	2026年度非開講
		がんの基礎薬学	1		1		1		7 P ー 3 B 0 9 ー 4 7 B	2026年度非開講
		基礎腫瘍学	1			1		1	7 P ー 3 B 1 0 ー 4 7 B	2026年度非開講
		がんの薬物療法学	1		1		1		7 P ー 3 B 1 1 ー 4 7 B	2026年度非開講
		臨床腫瘍学Ⅰ（基礎）	1		1		1		7 P ー 3 B 1 2 ー 4 7 B	2026年度非開講
		臨床腫瘍学Ⅱ（応用）	2		2		2		7 P ー 3 B 1 3 ー 5 7 B	2026年度非開講
		緩和薬理学	1		1		1		7 P ー 3 B 1 4 ー 4 7 B	2026年度非開講
		臨床薬物動態学特論Ⅰ（基礎）	1			1		1	7 P ー 3 B 1 5 ー 4 7 B	2026年度非開講
		臨床薬物動態学特論Ⅱ（応用）	1					1	7 P ー 3 B 1 6 ー 5 2 B	2026年度非開講
		がん薬物療法学特別実習	1	医療薬学分野 がん薬物療法学領域のみ		1		1	7 P ー 3 B 1 7 ー 6 7 H	2026年度非開講
		がん治療ＴＤＭ特別実習	1	医療薬学分野 がん薬物療法学領域のみ		1		1	7 P ー 3 B 1 8 ー 6 7 H	2026年度非開講
		がん薬物療法認定薬剤師実習	6	医療薬学分野 がん薬物療法学領域のみ		6		6	7 P ー 3 B 1 9 ー 6 7 H	2026年度非開講
		臨床病院実務実習Ⅰ（長期）	10		10		10		7 P ー 3 B 2 0 ー 6 7 H	2026年度非開講
		臨床病院実務実習Ⅱ（中期）	6		6		6		7 P ー 3 B 2 1 ー 6 7 H	2026年度非開講
		臨床保険薬局実務実習	10		10		10		7 P ー 3 B 2 2 ー 6 7 H	2026年度非開講
		生命薬科学特別研究	10		10				7 P ー 3 B 2 3 ー 3 A K	佐藤忠章

①生命薬学分野

生命薬学領域

■生命薬学分野　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位	１４単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	１４単位		「生命薬科学総合演習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「生命薬科学特別研究」（１０単位） 計１４単位必修
小計	１６単位	１４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の３種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表④）→Ｐ207
②修士課程共通科目一覧（表①）→Ｐ95
③遠隔授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

②医療薬学分野

がん薬物療法学領域

■医療薬学分野　がん薬物療法学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位	４単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	２４単位		「がんの基礎薬学」（１単位） 「基礎腫瘍学」（１単位） 「がんの薬物療法学」（１単位） 「臨床腫瘍学Ⅰ（基礎）」（１単位） 「緩和薬理学」（１単位） 「臨床薬物動態学特論Ⅰ（基礎）」（１単位） 「がん薬物療法学特別実習」（１単位） 「がん治療ＴＤＭ特別実習」（１単位） 「がん薬物療法認定薬剤師実習」（６単位） 「生命薬科学特別研究」（１０単位） 計２４単位必修
小計	２６単位	４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の３種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表④）→ P207
②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95
③遠隔授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

臨床薬学領域

■医療薬学分野　臨床薬学領域　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位	４単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	２４単位		「生命薬科学総合演習Ⅰ・Ⅱ」（各２単位） 「臨床病院実務実習Ⅰ」（１０単位）又は「臨床保険薬局実務実習」（１０単位） 「生命薬科学特別研究」（１０単位） 計２４単位必修
小計	２６単位	４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、修士課程共通科目、この専攻分野以外の科目で履修制限のないものの中から選択して履修できる。
◎修了要件　上記３０単位以上修得し、必要な研究指導を受け、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の３種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表④）→ P207
②修士課程共通科目一覧（表①）→ P95
③遠隔授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

6-3　修士論文の審査

概要

- 各院生は、２年次の後期後半に、論文の抄録を提出し、研究発表会において研究内容を発表し、参加者（教員、院生）の批評、助言を受けます。
- その後、研究指導教員等の指導を受け、学位に相応しい研究内容に修正し、論文の審査に臨みます。
- 論文の審査は、３名の審査員によって行われます。うち１名は主任審査員（以下、主査）と呼んでおり、通常は研究指導教員がこれを務めます(副研究指導教員が主査を務めることがあります)。他の２人は副審査員（以下、副査）と言い、同一分野と他分野・他研究科の教員の中から１人ずつ選任されます。
- 審査委員会による論文審査に合格した者は、研究科会議による最終合否判定を受けます。ここで「合格」と判定されれば修了が確定し、学位を授与される準備が整います。
- これまでの修了生の論文が各キャンパスの図書館又は図書室に保管されていますので参考にしてください。
- 詳細は、随時大学院事務より、大学院用 Web 掲示板等でお知らせします。

論文審査申請の手続き

1）論文抄録の提出と研究発表会

- 論文抄録を作成してください。書式は、 **参考）２**（→Ｐ215） に従ってください。
- 詳細は随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

論文抄録提出	２年次１２月中旬
提　出　先	指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出
発　表　会	２年次１月上旬

2）論文の提出

- 論文は、体裁と執筆要領が指定されています。**参考）１**（→Ｐ212）を参照してください。
- 論文は在学中の研究に基づく既発表論文を含むことを可とします。既発表論文の場合は共著も可としますが、申請者が筆頭著者（equally contributed を含む）でなければならず、また申請者が主に行った研究である旨を説明する文書が提出され、その文書に他の共著者の署名が添えられていなければなりません。既発表論文の掲載誌の条件は、下記＊に定めます。
- 研究指導教員の許可がある場合は、英語で書くこともできます。英語で書く場合は、必ず邦題(日本語での題目)も設けてください。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

＊論文が既発表である場合の掲載誌の条件
次のいずれかに該当するものを可とする。

① 国内外の学術誌であって査読制度を設けているもの（本学学会誌を含む）。
② 研究科会議により、上記①に準じるものと認められた商業誌等。

提出期限	２年次の１月中旬を予定
提出書類	審査用論文データ 研究業績報告書
提 出 先	指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出

審査及び面接試験

- 審査の具体的方法は、主査と副査が協議によって決めます。最も一般的なやり方は、審査員が一堂に会し、当該院生にプレゼンテーションを求め、質疑応答を行い、その結果に基づいて審査員が合否案を決めるというものです。
- 期間内に論文の一部修正を求め、その上で改めて合否判定をする場合があります。
- 詳細は随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

最終合否判定

- 研究科会議で論文の最終合否判定を行い、単位取得状況と併せて修了判定を行い、大学院代表者会議で承認を受け決定します。
- 修了判定の結果は、大学院用 Web 掲示板にて通知します。（学籍番号を掲示）

論文最終版の提出

- 修了が確定した院生は、以下の要領で論文の最終版データ（PDF）を提出してください。作成要領は、前出の **参考）１** と同じです。
- 論文データの提出をもって、本学図書館で保管し、閲覧に供することに同意したものとみなします。
- これらの論文データは、各キャンパス図書館に保管され、図書館内でのみ PDF で公開・閲覧可能とします。
- 事務局への最終版データ（PDF）提出の他に、研究指導教員から求められた場合は、論文１部をＡ４フラットファイルに綴じ、表表紙・背表紙をつけて、研究指導教員へ提出してください。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。
- 提出方法は変更される場合があります。

参考）１

－国際医療福祉大学大学院 薬科学研究科－

修士論文作成要領

１．体裁

１）論文は､A)掲載された論文のコピー､もしくは､B)在学期間中に行った研究を総括した Thesis を、以下の要領に基づき作成したものを提出する。

２）日本語、Ａ４版、横書き（ワープロ書き）とする。A の場合は、体裁をＡ４版に整えて提出すること。

３）研究指導教員の許可がある場合は英語を可とする。

４）本文頁は、上下左右とも 25㎜ 程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる（添付資料のファイル形式により頁数を入れられない場合はのぞく)。
※表紙・目次には頁はふらないこと。

５）A・B いずれの場合も、下図にならって表紙に必要事項を記載する。題目文字は 20 ﾎﾟｲﾝﾄ、他は 14 ﾎﾟｲﾝﾄ程度。

(表紙)

国際医療福祉大学審査論文（修士）

大学院薬科学研究科修士課程

○○○○○○論文題目○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

２０○○年度

生命薬科学専攻・○○○学分野

学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○

研究指導教員：○○○○○

副研究指導教員：○○○○○

２．構成（Ｂの形式で提出する場合）

１）論文の構成は、表紙、要旨、キーワード、目次、本文、文献一覧、（資料）の順とする。図・表は原則として本文の該当する箇所に挿入する。

２）日本語論文の場合は、要旨は日本語 400 字以内、キーワードは日本語で 3～5 語とする。英語論文の場合は、要旨は英語 300 words 以内、キーワードは英語で 3～5 語とする。これのみで１枚とする３）目次は、本文の章・節、謝辞、文献一覧、（資料）をこの順に掲げるものとし、該当ページを

表示する。

４）本文の章立ては必ずしも○章、○節とせず、他の形式でもよい（たとえば、Ⅰ、１・・・・）。ただし、一般文章作法の範囲にとどめること。

５）文献は引用したもののみ記載する。文献引用の方法および文献一覧の作成については次項参照。

６）図や表には、別々に通し番号とタイトルを付す。図の番号とタイトルは図の下に、表の番号とタイトルは表の上に付す。資料（例　質問紙一式）は必要に応じて加える。資料を付加する場合は、それぞれに番号とタイトルをつけ、本文中にはその番号をもって引用する。

７）全体の長さに制限は設けない。

３．文献引用および文献一覧について

・本文中に文献を引用する場合は，その箇所の右肩に[1)]や[1, 2, 9-12)]などと示す．文章の切れ目につける場合は，カンマ，ピリオドの直前の右肩に記す。

例）良好な成績を示す場合があることが報告されている[1-3)]

例）このことについてはBraune ら[1)]が述べているように・・・

・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し，本文末尾に記載する．文献一覧は 1)　2)・・・と順に通し番号を付して引用順に並べる．未発表の論文は文献リストに含めない．印刷中の論文は印刷中或いは in press と記してリストに加えてもよい。

・文献の著者名は，著者が 3 名以内の場合は全員の名前を記載し，4 名以上のときは 3 名まで記載し残りは〔ら〕，または〔et al.〕とする．著者間は英文も&を入れずにカンマで区切る．

・雑誌の論文表題，書籍の表題は，最初の文字のみ大文字とする。

書籍名，雑誌名は冠詞，接続詞，前置詞を除いて各語の初字を大文字で書く．その場合，一番初めの語の最初の文字は，冠詞，接続詞，前置詞であっても必ず大文字とする。

・文献の記載方法は，下記の例に従う．なお，文献一覧中の「, 」「. 」「; 」「: 」「-」などの記号は日本語文献の場合も半角を使用する。

①雑誌の場合

著者名．論文表題．雑誌名 発行年; 巻(号): ページ

・雑誌で，通巻ページと各号ごとのページが併記されている場合は，通巻ページを優先して記載する。通巻ページを記載した場合は，巻のあとの(号)は記入する必要はない。

・和雑誌は正式名称を記載する．洋雑誌の場合，略称を使用するときは，Index Medicus に従う。

例〕 1)池田俊也,北里博仁,野田光彦ら.薬剤経済学研究に関する最近の話題:医療データベースの薬剤経済評価への応用.臨床薬理 2010;41(6):281-286

2)Friedman W, Sypert GW, Munson JB, et al. Recurrent inhibition in type-identified motoneurons.J.Neurophysiol.1981;46:1349-1359

3)Maurel W, Thalmann D.A case study on human upper limb modeling for dynamic

simulation.Computer Methods in Biomechanics and Biomedical Engineering 1999;2:1-17

②書籍の場合

著者名（訳者名）．表題．書籍名．出版地：出版社，発行年：ページ

・訳本の場合は著者名と訳者名の両方を記載し，著者名は訳本の記載に従う．訳者名は著者名の後の(　)に〔訳〕〔tr.〕を付して書く。

・編者名は〔編〕〔ed.〕を付して，著者名の位置に書く。

・版次，巻次がある場合には，書籍名の次に「．」で区切って記載する．出版年はその版次の初刷の出版年を書く。

例〕1)南雲直二.障害受容－意味論からの問い.第2版.東京:荘道社,2002:59-63

2)内山孝憲,赤澤堅造.運動単位の活動様式を模擬する筋張力制御のためのニューラルネットワークモデル.バイオメカニズム15.東京:東京大学出版会,2000:143-152

3)シュポルスキー(玉木英彦他訳).原子物理学Ⅰ.東京:東京図書,1995:345-350

4)Braune W, Fischer O. Attitudes of the loaded body. On the Center of Gravity of the Human Body.
New York: Springer-Verlag,1985:71-90

5)Aichinger H, Dierker J, Joite-Bafub S et al.(笠井俊文，加藤博和監訳).診断X線の基礎,東京:オーム社,2004:28-32

③インターネット上の文献の場合(※)

著者名．記述された年.(不詳の場合は省略)題目．URL 参照年月日

例〕 1)日本社会学会．2006.日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針.
http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf 2012.6.11

（※）インターネット上の文献については，インターネット以外の手段では入手困難であり，かつ学術機関･公的機関などが発行する信頼性が確保されたホームページおよび電子刊行物の情報で，かつ一般読者に利用可能でなければならない。

例〕学術機関(学会・大学等)のホームページおよびそこに掲載された研究論文等，
国際機関(標準化機関等)のホームページおよびそこに掲載された標準規格等，
公的機関(省庁・自治体・研究所等)のホームページおよびそこに掲載された研究・調査活動の内容，研究成果，調査結果等

④電子化された資料の場合

電子書籍，電子ジャーナルからの場合は，印刷媒体と同様の書誌情報に加え，その電子書籍を閲覧した際に用いた媒体の種類，またはインターネット利用の場合は，URL と参照年月日を記載する。

例〕 1)石田佳代子．看護系大学の新人教員に対するファカルティ・ディヴェロップメント(FD)推進のための文献調査に基づく課題．看護科学研究 2010; 9(1): 10-18
http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/PDF/9_1/9_1_2.pdf 2011.2.15

4．その他

1）倫理上の配慮については、別項を設けて記載すること（倫理審査を受けているか否か、倫理審査を受けていない場合にはその理由も必ず明記すること)。

参考）２

－国際医療福祉大学大学院 薬科学研究科－

修士論文「研究発表会用抄録」作成要領

ここに述べる「抄録」は、論文冒頭に記載する 400 字の「要旨」とは別である。

体裁

1）日本語、Ａ４版縦２頁、横書き（ワープロ書き）、図表は含まない。
2）研究指導教員の許可がある場合は、英語（Ａ４版２頁）も可とする。
3）上下左右とも 25㎜ 程度の余白をとり、フッダー中央に頁数を入れる。文字の大きさは、題目・見出しは 14 ポイント程度、本文は 10.5 ポイントを標準とする。
4）冒頭部分の書式は、次のとおり。ただし、仕上がり時の枠取りはなし。
5）内容は、「キーワード」（３～５語、日本語)、「研究の背景と目的」、「方法」、「倫理上の配慮」、「結果」、「考察」、「結語」、「引用文献」の順に書くことを原則とするが、必要に応じて変更してよい。
6）引用文献は、最小限度にとどめる。

国際医療福祉大学審査論文（修士）
２０○○年度大学院薬科学研究科修士課程・研究発表会用抄録

題目：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

生命薬科学専攻・○○○○○○○学分野
学籍番号：○○○○○○○　　氏名：○○○○○○○○
研究指導教員：○○○○○○○　副研究指導教員：○○○○○○

キーワード：　○○○　○○○　○○○　○○○　○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○

・
・
・

薬学研究科

7-1　授業科目の履修

2026 年度 博士課程開講科目

- 科目・標準履修年次・担当教員は下記のとおり。
  共通科目・・・・・・・**表①**　→ P95
  専門科目・・・・・・・**表⑤**　→ P219
- 各授業の詳しい内容は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス)』を閲覧してください。閲覧方法→ P58

履修科目の選択と登録

1）必修科目と選択科目

- 「必修科目」とは必ず履修しなければならない科目、「選択必修科目」とは所定の選択科目群より指定単位を必ず履修しなければならない科目、「選択科目」とはある範囲から院生が自由に選択して履修することができる科目です。いずれも、科目名又は科目選択の範囲と単位数の下限が指定されています。在学期間中に、これらを併せて３２単位以上修得しなければなりません。
- 履修科目の選定にあたっては、研究指導教員の指示を受けるものとします。
- 共通科目の履修は、原則としてどの年次であっても構いませんが、履修の手引きや『授業計画（シラバス)』であらかじめ確認してください。
- 授業を欠席する際の担当教員への連絡は事務局では受け付けませんのでご注意ください。
- 各学年を通じ、同一科目を再度履修しても、所定の単位として認めることはありません。
  ただし、不合格の場合を除きます。

2）履修可能な自分野・他領域、もしくは他分野の専門科目（履修制限）

- 自身の研究科、専攻において履修可能な他研究科、専攻科目については以下の表を参考にしてください。

専門科目履修表

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（博士課程）</td><td colspan="2">医療福祉学研究科</td></tr>
<tr><td colspan="2">保健医療学専攻</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自研究科
自専攻</td><td rowspan="2">薬学研究科</td><td rowspan="2">医療・生命薬学専攻</td><td colspan="2" rowspan="2">×</td></tr>
<tr></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（博士課程）</td><td>薬学研究科</td><td>医学研究科</td></tr>
<tr><td>医療・生命薬学専攻</td><td>医学専攻</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自研究科
自専攻</td><td rowspan="2">薬学研究科</td><td rowspan="2">医療・生命薬学専攻</td><td rowspan="2">○
（医療福祉学研究科
修士課程共通科目含む）</td><td rowspan="2">×</td></tr>
<tr></tr>
</table>

３）履修基準

- 医療・生命薬学専攻の基準を設けています。P217を確認してください。

４）履修科目の登録

- 院生は、前期登録期間にユニバーサルパスポートを利用して１年間の履修科目の登録を行い、変更がある場合、後期登録変更期間にその修正を行います。履修登録を怠った科目は単位取得できませんので注意してください。履修登録期間については、大学院用 Web 掲示板等に示される通知に従ってください。

７－２　博士課程の開講科目、修了要件表

表⑤ 2026年度　薬学研究科（医療・生命薬学専攻）「博士」課程の【専門科目】・開講年次・担当教員

専攻	科目区分	専門科目		履修者の限定（無記入は限定なし）	標準履修年次								ナンバリング	担当教員名
					１年次		２年次		３年次		４年次			
		2026年度開講科目名	単位		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	1 2 3 4 5 6 7 8 9	
薬学研究科　医療・生命薬学専攻	専門科目	分子生物ゲノム学特論	1			1		1		1		1	2 P － 3 A 0 1 － 8 7 B	八木秀樹　他
		レギュラトリーサイエンス特論	1		1		1		1		1		2 P － 3 A 0 2 － 8 7 B	八木秀樹　他
		毒性学特論	1		1		1		1		1		2 P － 3 A 0 3 － 8 7 B	八木秀樹　他
		基礎薬物治療学特論	2			2		2		2		2	2 P － 3 A 0 4 － 8 7 B	八木秀樹　他
		臨床薬物治療学特論	2		2		2		2		2		2 P － 3 A 0 5 － 8 7 B	八木秀樹　他
		緩和医療薬学特論	1		1		1		1		1		2 P － 3 A 0 6 － 8 7 B	2026年度非開講
		基礎腫瘍学特論	1			1		1		1		1	2 P － 3 A 0 7 － 8 7 B	2026年度非開講
		臨床腫瘍学特論	2			2		2		2		2	2 P － 3 A 0 8 － 8 7 B	八木秀樹　他
		基礎薬学総合特論	2		2		2						2 P － 3 A 0 9 － 2 1 B	八木秀樹　他
		応用薬学総合特論	2		2		2						2 P － 3 A 1 0 － 3 1 B	2026年度非開講
		先端薬学研究特論	1			1		1		1		1	2 P － 3 A 1 1 － 8 7 B	宮川和也　他
		臨床病院特別研修	5		5		5		5				2 P － 3 A 1 2 － 9 1 H	2026年度非開講
		臨床保険薬局特別研修	5		5		5		5				2 P － 3 A 1 3 － 9 1 H	2026年度非開講
		医療・生命薬学特別研究	16		16								2 P － 3 A 1 4 － 3 D K	八木秀樹　他

医療・生命薬学専攻

■医療・生命薬学専攻　修了要件及び履修方法
◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２単位	１０単位以上	「研究倫理特論」（２単位）必修
専門科目	２０単位		「基礎薬学総合特論」（２単位） 「応用薬学総合特論」（２単位） 「医療・生命薬学特別研究」（１６単位） 計２０単位必修
小計	２２単位	１０単位以上	
合計	３２単位以上		

【注】選択科目は、博士・修士課程共通科目、上記の必修科目以外の薬学研究科専門科目から履修することができる。

◎修了要件　上記３２単位以上修得し、必要な研究指導を受け、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①専門科目一覧と標準履修年次（表⑤）→ P219

②修士課程共通科目一覧（表①）→P95

7-3　博士論文の審査

概要

- 各院生は、４年次の後期前半に論文審査申請を行い、論文抄録及び学位論文を提出し、博士学位論文発表会に臨み、審査が開始されます。
- 学位論文の審査と口頭試験は、通常、研究指導教員が選任した教員と、研究科長が推薦した教員によって行われます。当該提出論文の研究指導教員は審査員から除かれます。
- 審査の具体的な方法は、当該院生にプレゼンテーションを求め、質疑応答を行い、その結果に基づいて論文を提出し、審査を行います。
- 期間内に口頭試問や論文の一部修正を求め、その上で合否判定を行います。
  学位論文の審査と口頭試験に合格した者は、さらに研究科会議による最終合否判定を受けます。ここで「合格」と判定され、修了要件単位を取得していれば修了が確定し、学位を授与される準備が整います。（４年次の２月中旬）
- 修了判定の結果は、大学院用 Web 掲示板にて通知します。（学籍番号を掲示）
- 修了が確定した院生は論文作成要領に従い、最終版の論文原稿と、論文全文及び抄録の電子データ（PDF）を提出します。これらの論文等は、国立国会図書館への電子データでの納本及び「国際医療福祉大学機関リポジトリ」での電子的公開が行われることとなります。
- 詳細は随時、大学院事務局より、大学院用 Web 掲示板等でお知らせします。

論文審査申請の手続き

１）学位論文審査申請と論文抄録の提出と研究発表会

- 論文題目を確定し、「博士学位論文申請書」（博論書式１）と論文抄録を提出してください。
  部数は別途ご案内します。これを受けて審査員の選出が始まります。
  博論書式１は大学院用 Web 掲示板からダウンロードできます。
- 論文抄録は、体裁と執筆要領が指定されています。 **参考） １**（→Ｐ224）を参照してください。
- 博士学位論文申請書は、研究指導教員の署名・捺印されたものを提出してください。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

提出期間	４年次１１月中旬を予定
提 出 先	指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出
発 表 会	４年次１２月上旬を予定

２）学位論文、抄録、副論文の提出

- 主論文、副論文の条件は、以下のとおりです。

提出論文

１）主論文１篇（審査用）：

①原則として原著（総説を含む）であること。ただし、在学中の研究に基づく既発表論文も可とする。

②既発表論文の場合は共著も可とする。ただし、申請者が筆頭著者でなければならない。また、申請者が主に行った研究である旨を説明する文書が提出され、その文書に他の共著者の署名が添えられていなければならない。

③既発表論文の掲載誌の条件は、下記＊に定める。

２）副論文１篇以上：

①主論文研究を実施するうえで求められる基本的な学術的知識および研究基礎力を備えていることを示す既発表論文（掲載決定証明書を含む）であること。

②申請者が原則として筆頭著者であること。

③原著、総説あるいはそれに匹敵する内容であること。

④掲載誌の条件は、下記＊に定める。

⑤副論文の適否については、初回審査委員会において主論文を審査する前に判定する。

＊主論文が既発表である場合の掲載誌並びに副論文の掲載誌の条件

次のいずれかに該当するものを可とする。

①国内外の学術誌であって査読制度を設けているもの（本学学会誌を含む）

②研究科会議により、上記①に準じるものと認められた商業誌等

- 主論文は、Ａ）掲載誌の書式のコピー、もしくはＢ）在学期間中に行った研究を総括した Thesis のいずれかの体裁となります。体裁と執筆要領は、**参考） ２**（→Ｐ225）を参照してください。
- 研究指導教員の許可がある場合は、英語で書くこともできます。英語で書く場合は、必ず邦題(日本語での題目)も設けてください。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

提出期限	４年次の１月中旬を予定
提出書類	①主論文（審査用）、②同抄録、③副論文
提 出 先	指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出

審査及び面接試験

- 審査の具体的な方法は、当該院生にプレゼンテーションを求め、質疑応答を行いその結果に基づいて論文を提出し、審査を行います。
- 期間内に口頭試問や論文の一部修正を求め、その上で合否判定を行います。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

最終合否判定

- ２月中旬の大学院研究科会議で論文の最終合否判定を行い、単位取得状況と併せて修了判定を行います。
- 修了判定の結果は、大学院用 Web 掲示板にて通知します。（学籍番号を掲示）

電子データ(PDF) 及び論文製本版の提出

- 最終判定後に、修了が確定した院生は、以下の要領で論文全文及び要旨の電子データ（PDF）等を提出してください。また、研究指導教員提出用の製本にあたっての注意事項は、**参考）３（→ P 228)**を参照してください。
- 大学院事務局に提出する論文データは、以下の３件の電子データを提出してください。
  ①「博士学位論文全文」の電子データ（PDF ファイル）
  ②「論文要旨」の電子データ（PDF ファイル）
  ③「博士学位論文利用許諾書」の電子データ（Excel ファイル）
- 指定の Web ページ上からファイルをアップロードし、大学院事務局に提出いただきます。
- これらの論文等は、図書館に保管されるほか、国立国会図書館への電子データでの納本及び「国際医療福祉大学機関リポジトリ」での電子的公開が行われることになります。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

提出期限	2 月下旬
提 出 先	論文の電子データ（①～③） ⇒ 指定の Web ページから提出
提出書類	①論文全文の電子データ（PDF ファイル）
	②論文要旨の電子データ（PDF ファイル）
	③博士学位論文利用許諾書（Excel ファイル）

参考）１

－国際医療福祉大学大学院 薬学研究科－

博士学位論文「論文発表会用抄録」
及び「論文要旨」作成要領

＊「論文発表会用抄録」とは 「博士学位論文発表会」のプログラムに掲載するものであり、「論文要旨」とは、博士学位論文審査合格後に本学機関リポジトリによりインターネット上で公開するものである（文科省学位規則により「論文要旨」は、公開が義務付けられている)。なお、この二つの内容は同一のものでよく、体裁についてもどちらも同様のものとする。
＊また、ここでいう「論文要旨」は、論文の冒頭に記載する「400 字要旨」とは別のものであるので注意すること。

１．体裁

１）日本語、Ａ４版縦２頁、横書き（ワープロ書き)、図表は含まない。
２）研究指導教員の許可がある場合は、英語（Ａ４版２頁）も可とする。但し、学会誌に掲載された英文論文をそのまま主論文とする場合は、必ず日本語で作成すること。
３）上下左右とも 25㎜ 程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる。文字の大きさは、題目・見出しは 14 ポイント程度、本文は 10.5 ポイントを標準とする。
４）冒頭部分の書式は次のとおり。ただし、仕上がり時の枠取りはなし。
５）内容は、「キーワード」（３～５語、日本語)、「研究の背景と目的」、「方法」、「倫理上の配慮」、「結果」、「考察」、「結語」、「引用文献」の順に書くことを基本とするが、必要に応じて変更してよい。
６）引用文献は、最小限度にとどめる。

国際医療福祉大学審査学位論文（博士）
２０○○年度大学院薬学研究科博士課程・論文発表会用抄録
（注）「論文要旨」の場合には「論文発表会用抄録」の文言を「論文要旨」に変えて作成すること）

題目：○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

医療・生命薬学専攻
学籍番号：○○○○○○○　　氏名：○○○○○○○○
研究指導教員：○○○○○○○　副研究指導教員：○○○○○○

キーワード：　○○○　　○○○　　○○○　　○○○　○○○

○○
○○

以　上

参考）２

－国際医療福祉大学大学院 薬学研究科－

博士学位論文作成要領

１．体裁

１）学位論文は、A)掲載された論文のコピー、もしくは、B)在学期間中に行った研究を総括した Thesis を、以下の要領に基づき作成したものを提出する。
２）日本語、Ａ４版、横書き（ワープロ書き）。A の場合は、体裁をＡ４版に整えて提出すること。
３）研究指導教員の許可がある場合は、英語も可とする。
４）本文頁は、上下左右とも 25mm 程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる（添付資料のファイル形式により頁数を入れられない場合はのぞく）。
※表紙・目次には頁はふらないこと。
５）A・B いずれの場合も、下図にならって表紙に必要事項を記載する。題目文字は 20 ﾎﾟｲﾝﾄ、他は 14 ﾎﾟｲﾝﾄ程度。

（表紙）

国際医療福祉大学審査学位論文（博士）
大学院薬学研究科博士課程

○○○○○○論文題目○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

２０○○年度

医療・生命薬学専攻
学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○
研究指導教員：○○○○○
副研究指導教員：○○○○○

2．構成（Bの形式で提出する場合）

1）　論文の構成は以下のとおりとする。

① 表紙

② 400 字要旨（英文要旨は、300 語以内）
和文要旨（日本語の論文題目・著者名・要旨、日本語のキーワード）
英文要旨（英語の論文題目・著者名・要旨、英語のキーワード）
和文要旨と英文要旨はそれぞれ 1 枚とする。

③ 目次

④ 本文

⑤ 文献一覧

⑥ 資料

2）和文要旨は、400 字以内とする。英文要旨は、300 語以内とする。キーワードは、和文要旨と英文要旨の末尾に各々3～5 語を記載する。

3）目次は、本文の章・節、謝辞、文献一覧、（資料）をこの順に掲げるものとし、該当ページを表示する。

4）本文の章立ては必ずしも○章、○節とせず、他の形式でもよい（たとえば、Ⅰ、1、・・・・）。ただし、一般文章作法の範囲にとどめること。

5）図・表は原則として本文の該当する箇所に挿入する。図や表には、別々に通し番号とタイトルを付す。図の番号とタイトルは図の下に、表の番号とタイトルは表の上に付す。資料（例　質問紙一式）は必要に応じて加える。資料を付加する場合は、それぞれに番号とタイトルをつけ、本文中にはその番号をもって引用する。

6）文献は、引用したもののみ記載する。文献引用の方法及び文献一覧の作成については次項参照。

7）全体の長さに制限は設けない。

3．文献引用及び文献一覧について

・本文中に文献を引用する場合は，その箇所の右肩に [1)]や [1, 2, 9-12)] などと示す．文章の切れ目につける場合は，カンマ，ピリオドの直前の右肩に記す。
例）良好な成績を示す場合があることが報告されている [1-3)]
例）このことについてはBraune ら [1)]が述べているように・・・

・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し，本文末尾に記載する．文献一覧は 1)　2)・・・と順に通し番号を付して引用順に並べる．未発表の論文は文献リストに含めない．印刷中の論文は印刷中或いは in press と記してリストに加えてもよい。

・文献の著者名は，著者が 3 名以内の場合は全員の名前を記載し，4 名以上のときは 3 名まで記載し残りは〔ら〕，または〔et al.〕とする．著者間は英文も&を入れずにカンマで区切る．

・雑誌の論文表題，書籍の表題は，最初の文字のみ大文字とする。
書籍名，雑誌名は冠詞，接続詞，前置詞を除いて各語の初字を大文字で書く．その場合，一番初めの語の最初の文字は，冠詞，接続詞，前置詞であっても必ず大文字とする。

・文献の記載方法は，下記の例に従う．なお，文献一覧中の「，」「．」「；」「：」「-」などの記号は日本語文献の場合も半角を使用する。

①雑誌の場合
著者名．論文表題．雑誌名 発行年；巻(号)：ページ

・雑誌で，通巻ページと各号ごとのページが併記されている場合は，通巻ページを優先して記載する。通巻ページを記載した場合は，巻のあとの(号)は記入する必要はない。

・和雑誌は正式名称を記載する．洋雑誌の場合，略称を使用するときは，Index Medicus に従う。

例〕 1)池田俊也,北里博仁,野田光彦ら.薬剤経済学研究に関する最近の話題:医療データベースの薬剤経済評価への応用.臨床薬理 2010;41(6):281-286

2)Friedman W, Sypert GW, Munson JB, et al. Recurrent inhibition in type-identified motoneurons. J. Neurophysiol. 1981;46:1349-1359

3)Maurel W, Thalmann D. A case study on human upper limb modeling for dynamic simulation. Computer Methods in Biomechanics and Biomedical Engineering 1999;2:1-17

②書籍の場合

著者名（訳者名）. 表題. 書籍名. 出版地: 出版社, 発行年: ページ

・訳本の場合は著者名と訳者名の両方を記載し，著者名は訳本の記載に従う．訳者名は著者名の後の( )に〔訳〕〔tr.〕を付して書く。

・編者名は〔編〕〔ed.〕を付して，著者名の位置に書く。

・版次，巻次がある場合には，書籍名の次に「. 」で区切って記載する．出版年はその版次の初刷の出版年を書く。

例〕1)南雲直二. 障害受容－意味論からの問い. 第 2 版. 東京:荘道社, 2002:59-63

2)内山孝憲, 赤澤堅造. 運動単位の活動様式を模擬する筋張力制御のためのニューラルネットワークモデル. バイオメカニズム 15. 東京:東京大学出版会, 2000:143-152

3)シュポルスキー(玉木英彦他訳). 原子物理学Ⅰ. 東京:東京図書, 1995:345-350

4)Braune W, Fischer O. Attitudes of the loaded body. On the Center of Gravity of the Human Body.
New York: Springer-Verlag, 1985:71-90

5)Aichinger H, Dierker J, Joite-Bafub S et al.(笠井俊文, 加藤博和監訳). 診断 X 線の基礎, 東京:オーム社, 2004:28-32

③インターネット上の文献の場合(※)

著者名. 記述された年.(不詳の場合は省略)題目. URL 参照年月日

例〕1)日本社会学会. 2006. 日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針.
http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf 2012.6.11

（※）インターネット上の文献については，インターネット以外の手段では入手困難であり，かつ学術機関･公的機関などが発行する信頼性が確保されたホームページおよび電子刊行物の情報で，かつ一般読者に利用可能でなければならない。

例〕学術機関(学会・大学等)のホームページおよびそこに掲載された研究論文等,
国際機関(標準化機関等)のホームページおよびそこに掲載された標準規格等,
公的機関(省庁・自治体・研究所等)のホームページおよびそこに掲載された研究・調査活動の内容，研究成果，調査結果等

④電子化された資料の場合

電子書籍，電子ジャーナルからの場合は，印刷媒体と同様の書誌情報に加え，その電子書籍を閲覧した際に用いた媒体の種類，またはインターネット利用の場合は，URL と参照年月日を記載する。

例〕1)石田佳代子. 看護系大学の新人教員に対するファカルティ・ディヴェロップメント(FD)推進のための文献調査に基づく課題. 看護科学研究 2010; 9(1): 10-18
http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/PDF/9_1/9_1_2.pdf 2011.2.15

４．その他

１）倫理上の配慮については、別項を設け記載すること（倫理審査を受けているか否か、倫理審査を受けていない場合にはその理由も必ず明記すること)。

以　上

参考）３

－国際医療福祉大学大学院 薬学研究科－

論文製本にあたっての注意事項

１．研究指導教員への提出用の論文の製本は、著者が個々に業者に委託することによって行う。
※論文製本版の提出要否は研究指導教員により異なるため、個別に確認し対応すること。

２．Ａの形式で審査を行った場合
掲載論文コピー（別刷も可）に下記の形式の表紙を加える。表紙は深緑色のソフトカバー、文字は金文字以外でもよい。
※背表紙は、題目・所属・学籍番号・氏名を記載したものを必ずつけること。
（背表紙をつけるための仕様（厚紙を入れる、など）に特に定めはなく、最低限の厚さで可）

３．Ｂの形式で審査を行った場合
１） 表紙は光沢のある深緑色（スクールカラー）のハードカバー、文字は金文字とする。
２） 表表紙、背表紙の様式は下図にしたがう。ただし、題目文字は２０ポイント、その他は１４ポイント程度。
３） 内表紙以下は、参考)2「博士学位論文作成要領」に同じ。
４） 背表紙は、題目・所属・学籍番号・氏名を記載したものを必ずつけること。
（背表紙をつけるための仕様（厚紙を入れる、など）に特に定めはなく、最低限の厚さで可）

（背表紙）　（表紙）

（背表紙）

（　題目　）（　医療・生命薬学専攻　）（　学籍番号　）（　氏名　）

（表紙）

国際医療福祉大学審査学位論文（博士）
大学院薬学研究科博士課程

○○○○○○論文題目○○○○○○○

（邦題：*(英語論文の場合のみ)*　　）

２０○○年度

医療・生命薬学専攻
学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○
研究指導教員：○○○○○
副研究指導教員：○○○○○

４．その他
製本費用は自己負担。または院生指導費をあてることができる。

以　上

医学研究科(専門職学位課程)

8-1　授業科目の履修

2026 年度 専門職学位課程開講科目

- 科目・標準履修年次・担当教員は下記のとおり。
  共通科目・・・・・・・**表⑥**　→P232
  専門科目・・・・・・・**表⑥**　→P232
- 各授業の詳しい内容は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。閲覧方法→P58

履修科目の選択と登録

1）必修科目と選択科目

- 必修科目とは、必ず履修しなければならない科目、選択必修科目とは所定の選択科目群より指定単位を必ず履修しなければならない科目、選択科目とはある範囲から院生が自由に選択して履修することができる科目です。いずれも、科目名又は科目選択の範囲と単位数の下限が指定されています。在学期間中に、これらを併せて 30 単位以上修得しなければなりません。
- 履修科目の選定にあたっては、研究指導教員の指示を受けるものとします。
- 共通科目の履修は、原則としてどの年次であっても構いませんが、履修の手引きや『授業計画（シラバス）』であらかじめ確認してください。
- 授業を欠席する際の担当教員への連絡は事務局では受け付けませんのでご注意ください。
- 各学年を通じ、同一科目を再度履修しても、所定の単位として認めることはありません。ただし、不合格の場合を除きます。

2）履修可能な自分野・他領域、もしくは他分野の専門科目専門科目（履修制限）

- 自身の研究科、専攻おいて履修可能な他研究科、専攻科目については、以下の表を参考にしてください。

専門科目履修表

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（専門職学位課程）</td><td colspan="3">医療福祉学研究科</td></tr>
<tr><td>保健医療学専攻</td><td>医療福祉経営専攻</td><td>臨床心理学専攻</td></tr>
<tr><td>自研究科
自専攻</td><td>医学研究科</td><td>公衆衛生学専攻</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（専門職学位課程）</td><td>薬科学研究科</td><td>医学研究科</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>生命薬科学専攻</td><td>公衆衛生学専攻</td></tr>
<tr><td>自研究科
自専攻</td><td>医学研究科</td><td>公衆衛生学専攻</td><td>×</td><td>○</td></tr>
</table>

● 自身の研究科、専攻おいて履修可能な他研究科、専攻科目については、「履修者の限定」に該当する科目がありますので、注意をしてください。

履修者の限定について

記号	記号の意味	説明
＊	当該分野のみ	該当する分野に所属している方のみ履修可能
＊＊	当該領域・コースのみ	該当する領域・コースに所属している方のみ履修可能
○	許可を受けた学生のみ	科目担当教員が個別に許可した場合のみ履修可能

※履修者の限定欄に上記表の記号以外が記載されている場合は、その指示に従ってください。
※該当しない分野・領域・コースの方は、履修はできません。

3）履修基準

● 公衆衛生学専攻の基準を設けています。P233を確認してください。

4）履修科目の登録

● 院生は、前期登録期間にユニバーサルパスポートを利用して１年間の履修科目の登録を行い、変更がある場合、後期登録変更期間にその修正を行います。履修登録を怠った科目は単位取得できませんので注意してください。履修登録期間については、大学院用 Web 掲示板等に示される通知に従ってください。

科目受講に関して

● 一部授業では対面もしくはソフトウェア授業の受講と同等の教育効果を発揮できる授業に限り、講義を収録し、VOD での配信を行います。

● VOD 受講を出席として取り扱うためには文部科学省の「メディア授業告示」に従い、本学では Google Classroom 上に課題の設問を行い、授業映像視聴後、履修学生に解答させることとしております。授業映像の視聴だけにならないようにご注意ください。
また、履修学生からの質問を記載する欄を設け質問やコメントを受け付けます。学生の解答及び質問等へのフィードバックを授業や Google Classroom 上で行い、当該授業に関する履修学生との意見交換を実施することとしております。

● 対面もしくはソフトウェア授業において一部授業では、やむを得ず欠席した学生向けに当日の授業映像を収録し、後日公開する場合もございます。欠席した履修学生は学修の参考としてください。
（後日公開する授業映像を視聴しても当日の授業は欠席として扱います。出席とはなりませんのでご注意ください。）

● 留学生は英語科目または英語科目と同一内容の日本語科目のいずれかを選択し履修するものとする。
日本語科目とそれに対応する英語科目（E 科目）一覧

1	研究倫理特論	⇔	研究倫理特論 E
2	生物統計学概論	⇔	生物統計学概論 E
3	疫学概論	⇔	疫学概論 E
4	環境・産業保健学概論	⇔	環境・産業保健学概論 E
5	医療福祉政策・管理学概論	⇔	医療福祉政策・管理学概論 E
6	社会行動科学概論	⇔	社会行動科学概論 E
7	公衆衛生学政策論	⇔	公衆衛生学政策論 E
8	医学概論（非医療系のみ必修）	⇔	医学概論 E（非医療系のみ必修）

※それぞれの科目でいずれか一方の科目を履修するものとし、両科目を履修することはできない。

8－2　専門職学位課程の開講科目、修了要件表

表⑥　2026年度　医学研究科（公衆衛生学専攻）「専門職学位」課程の【共通・専門科目】・開講年次・担当教員

科目	分野	科目 2026年度開講科目名	単位	履修者の限定 *：当該分野のみ **：該当領域・コースのみ 履修可	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	科目担当者
共通科目	共通科目	研究倫理特論	2	当該専攻必修	2				0 0 － 0 1 0 1 － 1 1 B	西垣昌和　他
		生物統計学概論	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 0 1 － 2 1 B	山崎力　他
		疫学概論	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 0 2 － 2 1 B	飯室聡　他
		環境・産業保健学概論	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 0 3 － 2 1 B	横山和仁　他
		医療福祉政策・管理学概論	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 0 4 － 2 1 B	石川ベンジャミン光一
		社会行動科学概論	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 0 5 － 2 1 B	調整中
		公衆衛生政策論	2	当該専攻必修		2			8 A － 2 0 0 6 － 2 1 B	池田俊也　他
		研究倫理特論E　*1	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 0 7 － 2 8 B	西垣昌和　他
		生物統計学概論E　*1	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 0 8 － 2 8 B	桜井亮太　他
		疫学概論E　*1	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 0 9 － 2 8 B	飯室聡　他
		環境・産業保健学概論E　*1	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 1 0 － 2 8 B	横山和仁　他
		医療福祉政策・管理学概論E　*1	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 1 1 － 2 8 B	石川ベンジャミン光一
		社会行動科学概論E　*1	2	当該専攻必修	2				8 A － 2 0 1 2 － 2 8 B	調整中
		公衆衛生政策論E　*1	2	当該専攻必修		2			8 A － 2 0 1 3 － 2 8 B	山本尚子　他
		医療経済学概論	2			2		2	8 A － 2 0 1 4 － 8 7 B	池田俊也　他
		医療情報システム概論	2		2		2		8 A － 2 0 1 5 － 8 7 B	篠原信夫
		質的研究法概論	2			2		2	8 A － 2 0 1 6 － 7 7 B	細谷幸子
		臨床心理学概論	2			2		2	8 A － 2 0 1 7 － 7 7 B	小畠秀吾　他
		災害医療論	2			2		2	8 A － 2 0 1 8 － 7 7 B	石井美恵子　他
		インターンシップⅠ（基礎）	2		2	2	2	2	8 A － 2 0 1 9 － 9 7 N	山本尚子　他
		インターンシップⅡ（専門）	4		4	4	4	4	8 A － 2 0 2 0 － 9 7 N	山本尚子　他
		公衆衛生コンピテンシー基礎講義	1		1		1		8 A － 2 0 2 1 － 7 7 B	葛西健
		公衆衛生コンピテンシー基礎講義E　*1	1		1		1		8 A － 2 0 2 2 － 7 0 B	葛西健
		栄養疫学・公衆栄養学概論	2			2			8 A － 2 0 2 3 － 8 1 B	津金昌一郎　他
		論文執筆のための日本語　*2	2		2				8 A － 0 6 0 1 － 7 1 N	伊吹磨友子
		論文執筆のための日本語（10月入学者向け）　*2	2			2			8 A － 0 6 0 2 － 7 1 N	永射紀子
	非医療系	医学概論	2	医学系学部出身者以外は必修	2				8 A － 2 0 2 1 － 5 1 B	潮見隆之　他
		医学概論E	2	医学系学部出身者以外は必修*1	2				8 A － 2 0 2 2 － 5 8 B	潮見隆之　他
専門科目	国際保健・感染症学分野	国際保健学概論E	2			2			8 A － 3 A 0 1 － 5 8 B	山本尚子　他
		国際保健学各論E	2				2		8 A － 3 A 0 2 － 8 8 B	山本尚子　他
		感染症学	2			2			8 A － 3 A 0 3 － 5 1 B	松本哲哉　他
		国際感染症学	2				2		8 A － 3 A 0 4 － 8 2 B	松本哲哉　他
		国際保健・感染症学課題研究指導	8	*	8				8 A － 3 A 0 5 － 3 A K	各研究指導教員
	医療福祉政策・管理学分野	医療福祉政策・管理学各論	2			2			8 A － 3 B 0 1 － 5 1 B	池田俊也　他
		医療福祉データサイエンス	2			2			8 A － 3 B 0 2 － 5 1 B	石川ベンジャミン光一　他
		医療福祉政策・管理学課題研究指導	8	*	8				8 A － 3 B 0 3 － 3 A K	各研究指導教員
	疫学・社会予防医学分野	疫学・生物統計学各論	2			2			8 A － 3 C 0 1 － 5 1 B	桜井亮太　他
		臨床疫学概論	2				2		8 A － 3 C 0 2 － 8 2 B	桜井亮太　他
		予防医学概論	2			2			8 A － 3 C 0 3 － 5 1 B	山崎力　他
		予防医学各論	2				2		8 A － 3 C 0 4 － 8 2 B	山崎力　他
		疫学・社会予防医学課題研究指導	8	*	8				8 A － 3 C 0 5 － 3 A K	各研究指導教員

*1　日本語と英語で開講する科目は、いずれかの科目の履修となり、日英両方の科目を履修することはできません。
*2　「論文執筆のための日本語」は、外国人学生のみを対象とした科目です。

①国際保健・感染症学分野

■国際保健・感染症学分野　修了要件及び履修方法

◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	１４単位	４単位以上	・共通科目（各２単位） 「研究倫理特論」 「生物統計学概論」 「疫学概論」 「環境・産業保健学概論」 「医療福祉政策・管理学概論」 「社会行動科学概論」 「公衆衛生政策論」 計７科目１４単位必修 ※医療系学部以外の出身者は、「医学概論」（２単位）も必修 （「医学概論」が必修となる場合、選択科目の最低単位数は２単位）
専門科目	１２単位		・専門科目 「国際保健学概論E」（２単位）、 「感染症学」（２単位）、及び 「国際保健・感染症学課題研究指導」（８単位）の計１２単位を必修とする。なお、「国際保健・感染症学課題研究指導」（８単位）のうち、１単位分（「研究入門」（講義４コマ）及び「英論文の読み方」（講義・抄読４コマ）を含む）の講義受講を必須とする。
小計	２６単位	４単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、専攻共通科目、この専攻の各分野の科目で履修制限のないもの中から選択して履修できる

◎修了要件　上記３０単位以上の修得（課題研究成果審査を含む）

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→Ｐ58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の一覧と標準履修年次（表⑥）→Ｐ232

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

②医療福祉政策・管理学分野

■医療福祉政策・管理学分野　修了要件及び履修方法

◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	１４単位	６単位以上	・共通科目（各２単位） 「研究倫理特論」 「生物統計学概論」 「疫学概論」 「環境・産業保健学概論」 「医療福祉政策・管理学概論」 「社会行動科学概論」 「公衆衛生政策論」 計７科目１４単位必修 ※医療系学部以外の出身者は、「医学概論」（２単位）も必修 （「医学概論」が必修となる場合、選択科目の最低単位数は４単位）
専門科目	２単位 （選択必修）		・専門科目（各２単位） 「医療福祉政策・管理学各論」 「医療福祉データサイエンス」 上記２科目から１科目２単位以上　選択必修
	８単位		「医療福祉政策・管理学課題研究指導」（８単位） ８単位必修
小計	２４単位	６単位以上	
合計	３０単位以上		

【注】選択科目は、専攻共通科目、この専攻の各分野の科目で履修制限のないもの中から選択して履修できる

◎修了要件　上記３０単位以上の修得（課題研究成果審査を含む）

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の一覧と標準履修年次（表⑥）→ P232

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

③疫学・社会予防医学分野

■疫学・社会予防医学分野　修了要件及び履修方法

◎履修方法

<table>
<tr><th rowspan="2">授業科目の区分</th><th colspan="2">最低単位数</th><th rowspan="2">備　　考</th></tr>
<tr><th>必修</th><th>選択</th></tr>
<tr><td>共通科目</td><td>１４単位</td><td rowspan="3">６単位以上</td><td>・共通科目（各２単位）
「研究倫理特論」
「生物統計学概論」
「疫学概論」
「環境・産業保健学概論」
「医療福祉政策・管理学概論」
「社会行動科学概論」
「公衆衛生政策論」
計７科目１４単位必修

※医療系学部以外の出身者は、「医学概論」（２単位）も必修
（「医学概論」が必修となる場合、選択科目の最低単位数は４単位）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門科目</td><td>２単位
（選択必修）</td><td>・専門科目（各２単位）
「疫学・生物統計学各論」
「予防医学概論」
上記２科目から１科目２単位以上　選択必修</td></tr>
<tr><td>８単位</td><td>「疫学・社会予防医学課題研究指導」（８単位）
８単位必修</td></tr>
<tr><td>小計</td><td>２４単位</td><td>６単位以上</td><td></td></tr>
<tr><td>合計</td><td colspan="2">３０単位以上</td><td></td></tr>
</table>

【注】選択科目は、専攻共通科目、この専攻の各分野の科目で履修制限のないもの中から選択して履修できる

◎修了要件　上記３０単位以上の修得（課題研究成果審査を含む）

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の一覧と標準履修年次（表⑥）→ P232

②授業時間割表－大学院用Web掲示板よりダウンロードできます。

8-3　研究報告会

概　要

- 論文研究は全在学期間を通して行われますが、その間に院生は、研究指導教員・副研究指導教員の指導を受けながら、毎年次に行われる研究報告会において経過報告を行い、参加者（教員、院生）の助言を受ける機会があります。

M1／M2 研究報告会

- M1 研究報告会は、修士課程１年次生、M2 研究報告会は修士課程２年次生の研究報告会の通称です。
- M1 研究報告会は、１年次生が入学後ほぼ半年が経過した時点（１０月下旬）に行います。この時点の報告は、研究計画の報告が主体となり、質疑応答が行われるのが一般です。M2 研究報告会は、２年次のはじめ（６月上旬）に行います。この報告会では、それまでの経過を報告し、助言を受けるのが一般です。
- この報告会は、同時双方向アプリによるオンラインで開催されます。
  多くの分野が同日開催され、各自の PC から討論に参加します。
- 発表者は、パワーポイントスライド等を用いることを奨励されています。
- 発表者は、あらかじめ、研究報告会題目届、研究計画書を大学院事務局に提出しなくてはなりません。関連書式は大学院用 Web 掲示板からダウンロードできます。
- 詳細については、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

Ｍ１研究報告会	
計画書提出	１０月上旬
発 表 会	１０月下旬

Ｍ２研究報告会	
計画書提出	５月中旬
発　表　会	６月上旬

8-4　課題研究等の審査

- 審査は、当該分野の教員を主体とする審査委員会において行なわれます。
- 修了が確定した院生で、課題研究の図書館蔵書を希望する者は、課題研究の最終版を提出していただきます。
- 課題研究は PDF データで提出してください。体裁は別途、本学の論文作成要領をご確認ください。
- 詳細は随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

参考）１

－国際医療福祉大学大学院 医学研究科－

課題研究作成要領

１．体裁

（表紙）

国際医療福祉大学課題研究（専門職学位課程）

大学院医学研究科専門職学位課程

○○○○○○○題目○○○○○○○

２０○○年度

○○○学専攻　○○○学分野　○○○学領域

学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○

研究指導教員：○○○○○

副研究指導教員：○○○○○

医学研究科(博士課程)

9-1　授業科目の履修

2026 年度 博士課程開講科目

- 科目・標準履修年次・担当教員は下記のとおり。
  共通科目・・・・・・・**表①**　→ P95　**表⑦**　→ P242
  専門科目・・・・・・・**表⑦**　→ P242
- 各授業の詳しい内容は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。閲覧方法→ P58

履修科目の選択と登録

１）必修科目と選択科目

- 必修科目とは、必ず履修しなければならない科目、選択必修科目とは所定の選択科目群より指定単位を必ず履修しなければならない科目、選択科目とはある範囲から院生が自由に選択して履修することができる科目です。いずれも、科目名又は科目選択の範囲と単位数の下限が指定されています。在学期間中に、これらを併せて 30 単位以上修得しなければなりません。
- 履修科目の選定にあたっては、研究指導教員の指示を受けるものとします。

２）履修可能な自分野・他領域、もしくは他分野の専門科目専門科目（履修制限）

- 自身の研究科、専攻おいて履修可能な他研究科、専攻科目については、以下の表を参考にしてください。

専門科目履修表

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（博士課程）</td><td colspan="2">医療福祉学研究科</td></tr>
<tr><td colspan="2">保健医療学専攻</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自研究科
自専攻</td><td>医学研究科</td><td>医学専攻</td><td colspan="2">×</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2" rowspan="2">研究科・専攻（博士課程）</td><td>薬学研究科</td><td>医学研究科</td></tr>
<tr><td>医療・生命薬学専攻</td><td>医学専攻</td></tr>
<tr><td>自研究科
自専攻</td><td>医学研究科</td><td>医学専攻</td><td>×</td><td>○
（医療福祉学研究科
修士課程共通科目含む）</td></tr>
</table>

※医療福祉学研究科 修士課程共通科目は自由科目（修了要件に含まれない科目）として履修が可能。

３）履修基準

- 医学専攻の基準を設けています。P244を確認してください。

４）履修科目の登録

- 院生は、前期登録期間にユニバーサルパスポートを利用して１年間の履修科目の登録を行い、変更がある場合、後期登録変更期間にその修正を行います。履修登録を行わなかった科目は、単位取得できませんので注意してください。履修登録期間については、大学院用 Web 掲示板等に示される通知に従ってください。

9-2　博士課程の開講科目、修了要件表

表⑦　2026年度　医学研究科（医学専攻）「博士」課程の授業科目・開講年次・担当教員

科目	分野	科目 2026年度開講科目名	単位	履修上の注意	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	科目担当者
共通科目		研究倫理特論	2	専攻必修	2								0 0 － 0 1 0 1 － 1 1 B	西垣昌和　三浦総一郎　他
		医学研究特論	2	専攻必修	2								3 A － 2 0 0 1 － 2 1 B	森泰丈　他
		医学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	16	専攻必修 1～4年次：各4単位 計16単位	4		4		4		4		3 A － 2 0 0 2 － 3 D K	各研究指導教員
分野系選択科目	基礎医学研究分野	生理学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 A 0 1 － 6 D N	各担当教員
		生化学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 A 0 2 － 6 D N	各担当教員
		薬理学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 A 0 3 － 6 D N	各担当教員
		免疫学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 A 0 4 － 6 D N	各担当教員
		分子生物学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 A 0 5 － 6 D N	各担当教員
		解剖学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 A 0 6 － 6 D N	各担当教員
		病理学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 A 0 7 － 6 D N	各担当教員
		遺伝医学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 A 0 8 － 6 D N	各担当教員
	社会医学研究分野	法医学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 B 0 1 － 6 D N	各担当教員
		感染症学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 B 0 2 － 6 D N	各担当教員
		公衆衛生学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 B 0 3 － 6 D N	各担当教員
		医学教育学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 B 0 4 － 6 D N	各担当教員
		医療の質・安全学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 B 0 5 － 6 D N	各担当教員
	臨床医学研究分野	呼吸器内科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 1 － 6 D N	各担当教員
		呼吸器外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 2 － 6 D N	各担当教員
		循環器内科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 3 － 6 D N	各担当教員
		心臓外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 4 － 6 D N	各担当教員
		血管外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 5 － 6 D N	各担当教員
		消化器内科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 6 － 6 D N	各担当教員
		消化器外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 7 － 6 D N	各担当教員
		腎臓内科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 8 － 6 D N	各担当教員
		泌尿器科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 0 9 － 6 D N	各担当教員
		糖尿病・代謝・内分泌学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 0 － 6 D N	各担当教員
		産婦人科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 1 － 6 D N	各担当教員
		乳腺外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 2 － 6 D N	各担当教員
		小児科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 3 － 6 D N	各担当教員
		小児外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 4 － 6 D N	各担当教員
		整形外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 5 － 6 D N	各担当教員
		皮膚科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 6 － 6 D N	各担当教員
		リウマチ・膠原病学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 7 － 6 D N	各担当教員
		形成外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 8 － 6 D N	各担当教員
		リハビリテーション医学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 1 9 － 6 D N	各担当教員
		神経内科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 2 0 － 6 D N	各担当教員
		精神科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A － 3 C 2 1 － 6 D N	各担当教員

表⑦　2026年度　医学研究科（医学専攻）「博士」課程の授業科目・開講年次・担当教員

科目	分野	科目 2026年度開講科目名	単位	履修上の注意	標準履修年次 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	ナンバリング 1 2 3 4 5 6 7 8 9	科目担当者
分野系選択科目	臨床医学研究分野	脳神経外科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 2 2 ― 6 D N	各担当教員
		眼科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 2 3 ― 6 D N	各担当教員
		耳鼻咽喉科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 2 4 ― 6 D N	各担当教員
		血液内科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 2 5 ― 6 D N	各担当教員
		臨床腫瘍学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 2 6 ― 6 D N	各担当教員
		総合診療学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 2 7 ― 6 D N	各担当教員
		心療内科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 2 8 ― 6 D N	各担当教員
		老年病学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 2 9 ― 6 D N	各担当教員
		麻酔科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 3 0 ― 6 D N	各担当教員
		救急医学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 3 1 ― 6 D N	各担当教員
		放射線科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 3 2 ― 6 D N	各担当教員
		臨D13:D55床検査医学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ （Ⅰ：1年次　Ⅱ：2年次　Ⅲ：3年次　Ⅳ：4年次）	10	1～3年次：各2単位 4年次：4単位 計10単位	2		2		2		4		3 A ― 3 C 3 3 ― 6 D N	各担当教員

①基礎医学研究分野

■基礎医学研究分野　修了要件及び履修方法

◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２０単位	―	・共通科目 「研究倫理特論」（２単位） 「医学研究特論」（２単位） ※研究基盤系及び分野系のプログラムから研究の内容や進捗状況に合わせ、履修した年度で計　１５　コマ以上の教育プログラムを選択し受講する 「医学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各４単位） 計２０単位必修
分野系専門科目	―	１０単位以上	・選択科目 「（領域別）特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（Ⅰ～Ⅲ：各２単位、Ⅳ：４単位） ※所属する領域の特論科目を含め(選択必修）、計１０単位以上選択すること
小計	２０単位	１０単位以上	
合計	３０単位以上		

◎修了要件　上記３０単位以上の修得と博士論文の作成、学位論文審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の一覧と標準履修年次（表⑦）→P242

②医療福祉学研究科 修士課程 共通科目一覧（表①）→P95

②社会医学研究分野

■社会医学研究分野　修了要件及び履修方法

◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２０単位	－	・共通科目 「研究倫理特論」（２単位） 「医学研究特論」（２単位） ※研究基盤系及び分野系のプログラムから研究の内容や進捗状況に合わせ、履修した年度で計　１５　コマ以上の教育プログラムを選択し受講する 「医学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各４単位） 計２０単位必修
分野系専門科目	－	１０単位以上	・選択科目 「（領域別）特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（Ⅰ～Ⅲ：各２単位、Ⅳ：４単位） ※所属する領域の特論科目を含め(選択必修）、計１０単位以上選択すること
小計	２０単位	１０単位以上	
合計	３０単位以上		

◎修了要件　上記３０単位以上の修得と博士論文の作成、学位論文審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の一覧と標準履修年次（表⑦）→ P242

②医療福祉学研究科 修士課程 共通科目一覧（表①）→ P95

③臨床医学研究分野

■臨床医学研究分野　修了要件及び履修方法

◎履修方法

授業科目の区分	最低単位数		備　　考
	必修	選択	
共通科目	２０単位	―	・共通科目 「研究倫理特論」（２単位） 「医学研究特論」（２単位） ※研究基盤系及び分野系のプログラムから研究の内容や進捗状況に合わせ、履修した年度で計　１５　コマ以上の教育プログラムを選択し受講する 「医学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各４単位） 計２０単位必修
分野系専門科目	―	１０単位以上	・選択科目 「（領域別）特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（Ⅰ～Ⅲ：各２単位、Ⅳ：４単位） ※所属する領域の特論科目を含め(選択必修）、計１０単位以上選択すること
小計	２０単位	１０単位以上	
合計	３０単位以上		

◎修了要件　上記３０単位以上の修得と博士論文の作成、学位論文審査及び最終試験に合格しなければならない。

○それぞれの科目の授業計画は、ユニバーサルパスポートを利用して『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
閲覧方法→ P58

○科目の選択及び科目の履修制限については、シラバスの他、必ず次の２種類の表を参照してください。

①共通科目及び専門科目の一覧と標準履修年次（表⑦）→ P242

②医療福祉学研究科 修士課程 共通科目一覧（表①）→ P95

９－３　研究報告会

概　要

- 学位論文研究は全在学期間を通して行われますが、その間に院生は、研究指導教員・副研究指導教員の指導を受けながら、毎年次に行われる研究報告会において経過報告を行い、参加者（教員、院生）の助言を受ける機会があります。

Ｄ１/Ｄ２/Ｄ3 研究報告会

- D1/D2/D3 研究報告会は、博士課程１年次生、２年次生、３年次生の研究報告会の通称です。
- １年次生は、入学後ほぼ９か月が経過した時点で行います。この時点の報告は、研究計画の報告が主体となり、2 年次生、3 年次生はそれまでの経過を報告し、質疑応答が行われるのが一般です。
- この報告会は、 同時双方向アプリによるオンラインで開催されます。
- 発表者は、パワーポイントスライド等を用いることが奨励されています。
- 発表者は、あらかじめ題目を登録し、研究計画書を大学院事務局に提出しなくてはなりません。関連書式は大学院用 Web 掲示板からダウンロードできます。
- 詳細については、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

Ｄ１ / Ｄ２　/ Ｄ3　研究報告会	
計画書提出	１１月中旬
報　告　会	１２月上旬

9-4　博士論文の審査

概　要

- 各院生は、通常、４年次の後期前半に論文審査申請を行い、論文要旨及び学位論文を提出し、審査が開始されます。
- 学位論文の審査と口頭試験は、通常、医学研究科に所属する教授又は准教授の中から研究科長と専攻主任が協議のうえ推薦し、研究科会議が決定した３名以上の審査員によって行われます。当該提出論文の研究指導教員および副研究指導教員は審査員から除かれます。
- 口頭試問の具体的な方法は、提出された論文の内容について、審査員が当該院生にプレゼンテーションを求め、質疑応答を行い、その結果に基づいて評価します。
- 必要に応じて、期間内に口頭試問を求め、その上で合否判定を行います。
- 学位論文の審査と口頭試験に合格した院生は、さらに研究科会議による最終合否判定を受けます。ここで「合格」と判定され、修了要件単位を取得していれば修了が確定し、学位を授与される準備が整います。(4 年次の 2 月中旬)
- 修了が確定した院生は論文作成要領に従い、論文全文及び要旨の電子データ（PDF）を提出します。これらの電子データ（PDF）は、国立国会図書館への電子データでの納本及び「国際医療福祉大学機関リポジトリ」での電子的公開が行われることとなります。
- これまでの修了生の論文をリポジトリで公開しておりますので参考にしてください。
- 詳細は、随時大学院事務局より、大学院用 Web 掲示板等でお知らせします。

論文審査申請の手続き

１）学位論文審査申請と論文抄録の提出と論文発表会

- 論文題目を確定し、「博士学位論文申請書」（博論書式１）と論文要旨を提出してください。これを受けて審査員の選出が始まります。
  博論書式１は大学院用 Web 掲示板からダウンロードできます。
- 論文要旨は、体裁と執筆要領が指定されています。 **参考）１（→Ｐ252）**を参照してください。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

提出期間	４年次９月中旬
提 出 先	大学院事務局
発 表 会	４年次１０月下旬

２）学位論文、抄録、副論文の提出

- 主論文、副論文の条件は、以下のとおりです。

提出論文

１）主論文１篇（審査用）：

①原著またはそれに匹敵する論文であり、国内外の学術誌に掲載（決定済みを含む）あるいは投稿されていること。なお、該当する場合、学術誌の掲載決定証明書あるいは論文投稿受付証明書（投稿が受け付けられたことを証明する資料で代用可）を提出すること。
②共著も可とするが、申請者が筆頭著者（equally contributedを含む）でなければならない。また、申請者が主に行った研究である旨を説明する文書が提出され、当該文書に他の共著者の署名が添えられていなければならない。
③原則として英文論文とする。英文以外である場合にはその理由を示すこと。
④学位申請論文は申請者本人の本学大学院の所属が記載されている論文であること。
研究実施機関の明記は、研究データの管理の観点からもたいへん重要である。とくに、大学院修了後に学術誌に論文投稿する場合などは注意すること。所属に関して、記載漏れ・誤りに気づいた場合には、すぐに大学院事務局に知らせること。
⑤掲載誌の条件は、＊に定める。

２）副論文１篇以上：

①主論文研究を実施するうえで求められる基本的な学術的知識および研究基礎力を備えていることを示す既発表論文であること（掲載が決定されている論文を含む）。
なお、主論文が国内外の学術誌に掲載（決定済みを含む）されている場合は、副論文の提出は必要としない。
②申請者が原則として筆頭著者（equally contributedを含む）であること。
③原著、総説あるいはそれに匹敵する内容であること。
④原則として英文論文であること。
⑤掲載誌の条件は、＊に定める。
⑥副論文の適否については、初回審査委員会において主論文を審査する前に判定する。

＊主論文が既発表である場合の掲載誌並びに副論文の掲載誌の条件

次のいずれかに該当するものを可とする。
①国内外の学術誌であって査読制度を設けているもの（本学学会誌を含む）
②研究科会議により、上記①に準じるものと認められた商業誌等

- 論文は、A） 掲載誌の書式のコピー、もしくはB）在学期間中に行った研究を総括した Thesis のいずれかの体裁となります。
  なお、B）の場合、データのすべてまたは主要な部分が学術論文として掲載（投稿）されていること。A)、B）それぞれの体裁と執筆要領は、 **参考） 2** （→P253） を参照してください。
- 主論文が学術誌に未掲載の状況で、博士論文が「合格」と判定され、修了が確定した場合は、以下を遵守すること。
  １．大学院修了後に所属が変わった場合も、当該論文が本学での研究成果に基づくものであることを明記すること。
  ２．学術誌に採択された場合は、速やかに大学院事務局に報告すること。
  学術誌への採択に至らない場合、半期ごとに、その年度の投稿に関わる状況を必ず報告すること（時期が来たら、大学院事務局から問い合わせさせていただきます)。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

提出期限	4 年次１１月中旬
提出書類	①主論文（審査用)、②同抄録、③副論文　（各 PDF データとして提出）
提 出 先	指定された提出用のインターネットサイトにアクセスし、提出

審査及び面接試験

- 口頭試問の具体的な方法は、提出された論文の内容について、審査員が当該院生にプレゼンテーションを求め、質疑応答を行い、その結果に基づいて評価します。
- 必要に応じて、口頭試問を求め、その上で合否判定を行います。
- 詳細は、随時大学院用 Web 掲示板等で案内します。

最終合否判定

- ２月中旬の大学院研究科会議で論文の最終合否判定を行い、単位取得状況と併せて修了判定を行います。
- 修了判定の結果は、大学院用 Web 掲示板にて通知します。(学籍番号を掲示)

電子データ(PDF) 及び論文製本版の提出

- 修了が確定した者は、論文全文及び論文要旨の電子データ(PDF)等を提出してください。また、研究指導教員提出用の製本にあたっての注意事項は、後出の**参考）3**(→P257)に従ってください。
- 大学院事務局に提出する論文データは、以下の３件の電子データを提出してください。
  ①「博士学位論文全文」の電子データ（PDF ファイル）
  ②「論文要旨」の電子データ（PDF ファイル）
  ③「博士学位論文利用許諾書」(Excel ファイル)
- 指定の Web ページ上からファイルをアップロードし、大学院事務局に提出いただきます。
- これらの論文等は、図書館に保管されるほか、国立国会図書館への電子データでの納本及び「国際医療福祉大学機関リポジトリ」での電子的公開が行われることになります。

提出期限	２月下旬
提 出 先	製本版１部　⇒　研究指導教員
	論文の電子データ（①～③）　⇒　指定の Web ページから提出
提出書類	①論文全文の電子データ（PDF ファイル）
	②論文要旨の電子データ（PDF ファイル）
	③博士学位論文利用許諾書（Excel ファイル）

参考）１

－国際医療福祉大学大学院 医学研究科－

要旨作成要領

＊学位論文の要旨は、学位審査の申請と同時に提出するほか、 「博士学位論文発表会」のプログラムに掲載するものであり、 博士学位論文審査合格後に本学機関リポジトリによりインターネット上で公開するものである（文部科学省学位規則により「論文要旨」は、公開が義務付けられている)。

１．体裁

１）日本語、Ａ４版縦２頁、横書き（ワープロ書き)、図表は含まない。

２）上下左右とも 25㎜ 程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる。文字の大きさは、題目・見出しは１４ポイント程度、本文は 10.5 ポイントを標準とする。

３）冒頭部分の書式は次のとおり。ただし、仕上がり時の枠取りはなし。

４）内容は、「キーワード」（３～５語、日本語（英語を含めて可))、「研究の背景と目的」、「方法」、「倫理上の配慮」、「結果」、「考察」、「結語」、「引用文献」の順に書くことを基本とするが、必要に応じて変更してよい。

５）引用文献は、最小限度にとどめる。

20〇〇年度国際医療福祉大学大学院医学研究科博士課程
審査学位論文（博士）論文要旨

題目（英語）：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
（邦題　：　　）

医学専攻

学籍番号：〇〇〇〇〇〇〇　　氏名：〇〇〇〇〇〇〇〇

研究指導教員：〇〇〇〇〇〇〇　副研究指導教員：〇〇〇〇〇〇

キーワード：　〇〇〇　　〇〇〇　　〇〇〇　　〇〇〇　〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

参考）２

－国際医療福祉大学大学院 医学研究科－

博士学位論文作成要領

１．体裁

１） 学位論文は、A)掲載された論文のコピー、もしくは、B)在学期間中に行った研究を総括した Thesis を以下の要領に基づき作成したものを提出する。
２） A・Bいずれの場合も、下記の表紙を用いること（A の体裁がＡ４版でない場合は、Ａ４サイズにコピーすること
３） 原則として英文、Ａ４版、横書き（ワープロ書き）。
４） 本文頁は、上下左右とも 25mm 程度の余白をとり、フッター中央に頁数を入れる（添付資料のファイル形式により頁数を入れられない場合はのぞく）。
※表紙・目次には頁はふらないこと。

【表紙例】

国際医療福祉大学審査学位論文（博士）

大学院医学研究科博士課程

○○○○○○論文題目（英語）○○○○○○○

（邦題： ）

20○○年度

医学専攻

学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○

研究指導教員：○○○○○

副研究指導教員：○○○○○

２．構成（Ｂの形式で提出する場合）

１）論文の構成は以下を原則とする。

※論文は原則として、英文とする。

① 表紙

② 要旨

③ 目次

④ 本文

⑥ 謝辞

⑤ 文献一覧

２）英文要旨は、３００語以内とする。キーワードは、要旨の末尾に各々3～5 語を記載する。

３）目次は、本文の章・節、謝辞、文献一覧、（資料）をこの順に掲げるものとし、該当ページを表示する。

４）本文の章立ては必ずしも○章、○節とせず、他の形式でもよい（たとえば、Ⅰ、1、・・・・）。ただし、一般文章作法の範囲にとどめること。

５）図・表は原則として本文の該当する箇所に挿入する。図や表には、別々に通し番号とタイトルを付す。図の番号とタイトルは図の下に、表の番号とタイトルは表の上に付す。資料（例質問紙一式）は必要に応じて加える。資料を付加する場合は、それぞれに番号とタイトルをつけ、本文中にはその番号をもって引用する。

６）文献は、引用したもののみ記載する。文献引用の方法及び文献一覧の作成については次項参照。

７）全体の長さに制限は設けない。

３．文献引用及び文献一覧について

・本文中に文献を引用する場合は，その箇所の右肩に [1)]や [1, 2, 9-12)] などと示す．文章の切れ目につける場合は，カンマ，ピリオドの直前の右肩に記す。

例）良好な成績を示す場合があることが報告されている [1-3)]

例）このことについてはBraune ら [1)]が述べているように・・・

・引用した文献をまとめて文献一覧を作成し，本文末尾に記載する．文献一覧は1) 2)・・・と順に通し番号を付して引用順に並べる．未発表の論文は文献リストに含めない．印刷中の論文は印刷中或いは in press と記してリストに加えてもよい。

・文献の著者名は，著者が 3 名以内の場合は全員の名前を記載し，4 名以上のときは 3 名まで記載し残りは〔ら〕，または〔et al.〕とする．著者間は英文も&を入れずにカンマで区切る．

・雑誌の論文表題，書籍の表題は，最初の文字のみ大文字とする。

書籍名，雑誌名は冠詞，接続詞，前置詞を除いて各語の初字を大文字で書く．その場合，一番初めの語の最初の文字は，冠詞，接続詞，前置詞であっても必ず大文字とする。

・文献の記載方法は，下記の例に従う．なお，文献一覧中の「，」「．」「；」「：」「-」などの記号は日本語文献の場合も半角を使用する。

①雑誌の場合

著者名．論文表題．雑誌名 発行年；巻(号)：ページ

・雑誌で，通巻ページと各号ごとのページが併記されている場合は，通巻ページを優先して記載する。通巻ページを記載した場合は，巻のあとの(号)は記入する必要はない。

・和雑誌は正式名称を記載する．洋雑誌の場合，略称を使用するときは，Index Medicus に従う。

例〕1)池田俊也,北里博仁,野田光彦ら.薬剤経済学研究に関する最近の話題:医療データベースの薬剤経済評価への応用.臨床薬理 2010;41(6):281-286

2)Friedman W, Sypert GW, Munson JB, et al. Recurrent inhibition in type-identified motoneurons. J.Neurophysiol.1981;46:1349-1359

3)Maurel W, Thalmann D.A case study on human upper limb modeling for dynamic simulation.Computer Methods in Biomechanics and Biomedical Engineering 1999;2:1-17

②書籍の場合

著者名（訳者名）．表題．書籍名．出版地：出版社，発行年：ページ

・訳本の場合は著者名と訳者名の両方を記載し，著者名は訳本の記載に従う．訳者名は著者名の後の( )に〔訳〕〔tr.〕を付して書く。

・編者名は〔編〕〔ed.〕を付して，著者名の位置に書く。

・版次，巻次がある場合には，書籍名の次に「．」で区切って記載する．出版年はその版次の初刷の出版年を書く。

例〕1)南雲直二.障害受容－意味論からの問い.第2版.東京:荘道社,2002:59-63

2)内山孝憲,赤澤堅造.運動単位の活動様式を模擬する筋張力制御のためのニューラルネットワークモデル.バイオメカニズム 15.東京:東京大学出版会,2000:143-152

3)シュポルスキー(玉木英彦他訳).原子物理学Ⅰ.東京:東京図書,1995:345-350

4)Braune W, Fischer O. Attitudes of the loaded body. On the Center of Gravity of the Human Body.
New York: Springer-Verlag,1985:71-90

5)Aichinger H, Dierker J, Joite-Bafub S et al.(笠井俊文，加藤博和監訳).診断 X 線の基礎,東京:オーム社,2004:28-32

③インターネット上の文献の場合(※)

著者名．記述された年.(不詳の場合は省略)題目．URL 参照年月日

例〕 1)日本社会学会．2006.日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針.
http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf 2012.6.11

（※）インターネット上の文献については，インターネット以外の手段では入手困難であり，かつ学術機関･公的機関などが発行する信頼性が確保されたホームページおよび電子刊行物の情報で，かつ一般読者に利用可能でなければならない。

例〕学術機関(学会・大学等)のホームページおよびそこに掲載された研究論文等，
国際機関(標準化機関等)のホームページおよびそこに掲載された標準規格等，
公的機関(省庁・自治体・研究所等)のホームページおよびそこに掲載された研究・調査活動の内容，研究成果，調査結果等

④電子化された資料の場合

電子書籍，電子ジャーナルからの場合は，印刷媒体と同様の書誌情報に加え，その電子書籍を閲覧した際に用いた媒体の種類，またはインターネット利用の場合は，URL と参照年月日

を記載する。

例〕 1)石田佳代子. 看護系大学の新人教員に対するファカルティ・ディヴェロップメント(FD)推進のための文献調査に基づく課題. 看護科学研究 2010; 9(1): 10-18
http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/PDF/9_1/9_1_2.pdf 2011.2.15

４．その他

１）倫理上の配慮については、別項を設け記載すること（倫理審査を受けているか否か、倫理審査を受けていない場合にはその理由も必ず明記すること)。

以　上

参考）３

－国際医療福祉大学大学院 医学研究科－

論文製本にあたっての注意事項

１.研究指導教員への提出用の論文製本(※)は、著者が個々に業者に委託することによって行う。
※研究指導教員への論文製本版の提出要否は研究指導教員により異なるため、個別に確認し対応してください。

２．Ａの形式で審査を行った場合
掲載論文コピー（別刷も可）に下記の形式の表紙を加える。表紙は深緑色のソフトカバー、文字は金文字以外でもよい。
※背表紙は、題目・所属・学籍番号・氏名を記載したものを必ずつけること。
（背表紙をつけるための仕様（厚紙を入れる、など）に特に定めはなく、最低限の厚さで可）

３．Ｂの形式で審査を行った場合
下記の形式の製本を行う

【体裁】

１） 表紙は光沢のある深緑色（スクールカラー）のハードカバー、文字は金文字とする。

２） 表表紙、背表紙の様式は下図にしたがう。ただし、題目文字は２０ポイント、その他は１４ポイント程度。

３） 内表紙以下は、「博士学位論文作成要領」（参考２）に同じ。

４） 背表紙は、題目・所属・学籍番号・氏名を記載したものを必ずつけること。
（背表紙をつけるための仕様（厚紙を入れる、など）に特に定めはなく、最低限の厚さで可）

（背表紙）　（表表紙）

（題目（英語）（邦題））医学専攻
（学籍番号）（氏名）

国際医療福祉大学審査学位論文（博士）
大学院医学研究科博士課程

○○○○○○論文題目（英語）○○○○○○○
（邦題：　　）

20○○年度

医学専攻
学籍番号：○○○○○　　氏名：○○○○○
研究指導教員：○○○○○
副研究指導教員：○○○○○

４．その他
製本費用については、院生指導費からの支出を認める。

以　上

がんプロコース

10-1 文部科学省「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」採択「がんプロコース」

がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プランについて

2023 年 6 月、東京科学大学（旧：東京医科歯科大学）を拠点校として本学を含む連携 7 大学が共同で取り組む「次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン」が、文部科学省「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事業として採択されました。

第Ⅳ期となる本事業では、第Ⅰ期から第Ⅲ期までの成果を継承しつつ、「がんプロフェッショナル養成プラン」の育成プログラムとして、2024 年 4 月から、次の 7 つのコースを大学院課程に開設しました。

概要図

（東京科学大学作成）



本学開設コース

本学では、2024 年 4 月から、以下の 7 つのコース（①～③正規課程コース・インテンシブコース、④正規課程コース）を新たに開設いたしました。

詳細はがんプロ HPhttps://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/cancer5/をご参照願います。

本学がんプロHP

①がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材育成コース
（正規課程・インテンシブコース）
多職種連携チームを形成し、がん医療現場で顕在化している課題ー痛みの治療やケア、がん関連学際領域への対応、遠隔病理診断や地域での放射線治療などに関しての対応など、広範囲に対応できる医療専門職人材を養成します。

②がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース
（正規課程・インテンシブコース）
特にがんゲノム解析技術やがん免疫療法を大きな柱として、最新の個別化医療・創薬開発の推進に関しての知識と意欲を持ち、がんの個別化診療とくにゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う実力を有した医療専門職人材を養成します。

③がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース
（正規課程・インテンシブコース）
がんの予防医学・検診医療を大きな柱として、ビッグデータを集積してがんの予防医療を開発に意欲を持つ人材が機能的なチームを形成し、EBM に基づく将来への提言とがんの新しい予防施策を提言できるような医療専門職を養成する。さらに本コースではがんサバイバーに対する再発予防の観点から身体的・精神的なケア（生活支援や治療支援）に携わる人材の養成を行います。

④がん看護 CNS コース（正規課程コース）
がん看護専門看護師として、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族、医療従事者等に対して質の高い看護を提供する為に必要な専門的知識、技術、態度を修得することが出来る人材を養成します。

10-2　がんプロコースの修了認定要件

2023 年 6 月、本学や東京科学大学を申請校とし連携 7 大学が共同で取り組む「次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン」が、文部科学省「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事業として採択されました。

これを受け、本学で 2024 年 4 月より、大学院課程に 7 つの教育プログラム・コースを開設しました。

ここでは、当該がんプロコースの概要、履修方法について説明します。

〇教育プログラム・コースの概要について

―大学院開設の 7 コース―

［正規課程］

・コース名：**がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材育成コース**

・対象者　：専門職学位課程・修士課程（医師、看護師、保健師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラー、診療情報管理士、理学・作業療法士、言語聴覚士、生殖補助医療胚培養士、社会福祉士、介護福祉士、公認心理師（臨床心理士）など）

・修業年限：２年

・修了要件：必修科目６単位以上を含む１０単位以上を履修し、試験に合格すること

・養成する人材像：多職種連携チームを形成し、がん医療現場で顕在化している課題ー痛みの治療やケア、がん関連学際領域への対応、遠隔病理診断や地域での放射線治療などに関しての対応など、広範囲に対応できる医療専門職

・コース名：**がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース**

・対象者　：専門職学位課程・修士課程（医師（腫瘍内科・血液内科、遺伝医学、病理医、免疫学、外科、放射線科など）、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラーなど）

・修業年限：２年

・修了要件：必修科目７単位以上を含む１０単位以上を履修し、試験に合格すること

・養成する人材像：特にがんゲノム解析技術やがん免疫療法を大きな柱として、最新の個別化医療・創薬開発の推進に関しての知識と意欲を持ち、がんの個別化診療とくにゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う実力を有した医療専門職

・コース名：**がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース**

・対象者　：専門職学位課程・修士課程（医師（検診医療、腫瘍内科、緩和医療、遺伝医学、公衆衛生学、外科、放射線科、病理診断科など）、看護師・保健師、薬剤師、歯科医、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラー、生殖補助医療胚培養士、理学・作業療法士、言語聴覚士、診療情報管理士（診療情報アナリスト、データサイエンティスト）、社会福祉士、介護福祉士、公認心理師（臨床心理士）、がん検診事業管理者など）

・修業年限：２年

・修了要件：必修科目６単位以上を含む１０単位以上を履修し、試験に合格すること

・養成する人材像：がんの予防医学・検診医療を大きな柱として、ビッグデータを集積してがんの予防医療を開発に意欲を持つ人材が機能的なチームを形成し、EBM に基づく将来への提言とがんの新しい予防施策を提言できるような医療専門職を養成する。さらに本コースではがんサバイバーに対する再発予防の観点から身体的・精神的なケア（生活支援や治療支援）に携わる専門職

・コース名：**がん看護 CNS コース**
・対象者　：看護師・がん看護 CNS コースに在籍している大学院生（修士課程）
・修業年限：２年
・修了要件：必修専門科目 26 単位、コース共通科目 A 8 単位以上、コース共通科目 B　6 単位以上、合計 40 単位以上を履修し、研究の最終試験に合格すること
・養成する人材像：がん看護専門看護師として、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族、医療従事者等に対して質の高い看護を提供する為に必要な専門的知識、技術、態度を修得することが出来る医療専門職

[インテンシブコース]
・コース名：**がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材育成コース（インテンシブコース）**
・対象者　：博士課程・専門職学位課程・修士課程（医師、看護師、保健師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラー、診療情報管理士、理学・作業療法士・言語聴覚士、生殖補助医療胚培養士、社会福祉士、介護福祉士、公認心理師（臨床心理士）など）
・修業年限：１年または２年
・修了要件：必修科目６単位以上を含む１０単位以上を履修し、試験に合格すること
・養成する人材像：多職種連携チームを形成し、がん医療現場で顕在化している課題ー痛みの治療やケア、がん関連学際領域への対応、遠隔病理診断や地域での放射線治療などに関しての対応など、広範囲に対応できる医療専門職

・コース名：**がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース（インテンシブコース）**
・対象者　：博士課程・専門職学位課程・修士課程（医師（腫瘍内科・血液内科、遺伝医学、病理医、免疫学、外科、放射線科など）、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラーなど）
・修業年限：１年または２年
・修了要件：必修科目７単位以上を含む１０単位以上を履修し、試験に合格すること
・養成する人材像：特にがんゲノム解析技術やがん免疫療法を大きな柱として、最新の個別化医療・創薬開発の推進に関しての知識と意欲を持ち、がんの個別化診療とくにゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う実力を有した医療専門職

・コース名： **がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース（インテンシブコース）**

・対象者　：博士課程・専門職学位課程・修正課程（医師（検診医療、腫瘍内科、緩和医療、遺伝医学、公衆衛生学、外科、放射線科、病理診断科など）、看護師・保健師、薬剤師、歯科医、診療放射線技師、臨床検査技師、遺伝カウンセラー、生殖補助医療胚培養士、理学・作業療法士・言語聴覚士、診療情報管理士（診療情報アナリスト、データサイエンティスト）、社会福祉士、介護福祉士、公認心理師（臨床心理士）、がん検診事業管理者など）
・修業年限：１年または２年
・修了要件：必修科目６単位以上を含む１０単位以上を履修し、試験に合格すること
・養成する人材像：がんの予防医学・検診医療を大きな柱として、ビッグデータを集積してがんの予防医療を開発に意欲を持つ人材が機能的なチームを形成し、EBM に基づく将来への提言とがんの新しい予防施策を提言できるような医療専門職を養成する。さらに本コースではがんサバイバーに対する再発予防の観点から身体的・精神的なケア（生活支援や治療支援）に携わる専門職

●コース登録、履修方法と修了認定について
・がんプロコースの登録を希望し、コースの修了認定を目指す者は、「がんプロコース登録届」等を提出し、所定の科目を履修してください。（がんプロコース登録による学納金の追加徴収はありませんが、実習参加にかかる一部の経費を負担いただきます。）
・本学大学院に在学し、上記の教育プログラム・コースの概要に記載の対象者であれば、所属分野を問わず、がんプロコースへの登録が可能です。（公衆衛生学専攻専門職学位課程 2025 年度入学生を除く。）
・がんプロコースの修了認定を受けるためには、コース登録後、当該コースの修業年限以上在学し、所要の科目について所定の単位以上を修得しなければなければなりません。
・がんプロコースの修了認定が確定した者には、修了認定証を授与します。（「聴講」の場合、修了認定証は発行されません。）
・がんプロコースの単位修得科目は、それぞれの専攻・分野においては共通科目として、医学研究科医学専攻は自由科目（修了要件に含まれない科目）として扱われます。（公衆衛生学専攻専門職学位課程 2025 年度入学生を除く）。
・履修科目の選定にあたっては、研究指導教員の指導を受けるものとします。
・大学院課程を修了するためには、それぞれの所属専攻・分野の修了要件が適用されますので、詳細は、所属専分野の修了要件及び履修方法を確認してください。

●履修科目に関する注意事項
・①「がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材育成コース」を履修する者は、「がん多職種協働アクティブラーニング実習」はコース登録した 2 年目に、それ以外の必要なコース科目は、原則として 1 年目に修得してください。但し、受講登録年度が最終学年の場合は、1 年目に修得可能です。詳細はがんプロ事務局までお問合せください。
・薬学研究科 医療・生命薬学専攻の者は「がん治療薬学」ではなく、「臨床腫瘍学特論」を履修登録してください。
・「連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース」では、後期科目「がん予防カウンセリング」（必修）「がん予防カウンセリング実習」（必修）以外に、前期科目の「予防医学総論」（必修）（合計必修 3 科目 6 単位）、及び「臨床腫瘍学各論」（選択必修）（前期 1 単位）・「がん診療の基礎知識」（選択必修）

（前期 2 単位）・「臨床心理学概論」（選択必修）（後期：2 単位）の中から 3 単位以上履修し、試験に合格することが修了要件となります。なお「予防医学総論」（前期：2 単位）は必修科目です。また原則として「がん予防カウンセリング学」（後期前半）「がん予防カウンセリング学実習（後期後半）」の前に、本学開講科目を履修しておくことが求められています。
・その他詳細、7 大学連携共通インテンシブコースについては、がんプロ HP をご参照願います。

●その他
・ 履修登録は、前期履修登録期間内にユニバーサルパスポートを利用し 1 年間の履修科目の登録を行い、変更がある場合は、後期履修登録変更期間にその修正を行ってください。履修登録を怠った科目は単位取得ができませんので注意してください。
・各授業の詳しい内容は、ユニバーサルパスポート『授業計画（シラバス）』を閲覧してください。
・授業を欠席する際の担当教員への連絡は事務局では受け付けませんのでご注意ください。
・各学年を通じ、同一科目を再度履修しても、所定の単位として認めることはありません。ただし、不合格の場合を除きます。また、博士課程の方は、本学の修士課程在学中に取得した科目は、再度、履修登録すること、単位修得することは出来ませんので注意してください。

10-3　がんプロコースの開講科目

①がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材育成コース

②がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース

③がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース

④がん看護ＣＮＳコース（正規課程のみ）

	科目名	担当教員・コーディネーター	①がん医療の課題・多職種	②ゲノム医療・免疫療法	③データサイエンス・サバイバーケア	単位数	標準年次	期	
1	がん治療の先端知識の基礎	星本　相淳	必修	必修	選択	2	1年目	前期	—
2	医療プロフェッショナリズム・医療安全	矢冨　裕	必修	選択	選択	1	1年目	前期	—
3	がんのカウンセリング概論	橋本　和明	必修	選択	必修	2	1年目	前期	—
4	がん多職種協働アクティブラーニング実習	矢冨　裕、佐藤　真由美、星本　相淳、他	必修	—	—	1	2年目	—	後期
5	予防医学総論	山崎　力、津金　昌一郎、青木　大輔	選択	選択	必修	2	1年目	前期	—
6	がん診療の基礎知識	樋口　肇	選択	選択	必修	2	1年目	前期	—
7	がん遺伝子解析学	樋口　肇	選択	必修	選択	1	1年目	—	後期（後半）
8	臨床腫瘍学各論	樋口　肇	選択	必修	選択	1	1年目	前期（前半）	—
9	がん免疫治療学	河上　裕	選択	必修	選択	1	1年目	前期	—
10	がん治療薬学	白石　昌彦・辻　稔	選択	必修	選択	2	1・2・3・4	—	後期
11	予防医学各論	山崎　力	選択	選択	選択	2	2年目	前期	—
12	がん理学療法学	原　毅	選択	選択	選択	1	1年目	—	後期
13	がん作業療法学	谷口　敬道	選択	選択	選択	1	1年目	—	後期
14	がん治療放射線医科学	橋本　光康	選択	選択	選択	2	1年目	—	後期
15	生物統計学概論	山崎　力	選択	選択	選択	2	1年目	前期	—
16	臨床心理学概論（共通科目）	小畠　秀吾	選択	選択	選択	2	1・2	—	後期
17	医療福祉データサイエンス	石川　ベンジャミン光一	選択	選択	選択	2	1年目	—	後期
18	がん臨床検査学	村上　正巳・矢冨　裕	選択	選択	選択	1	1年目	—	後期
19	連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※	田村　雄一・鷲田　直輝	選択	選択	選択	2	※	—	※
20	連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース※「がん予防カウンセリング」	西垣　昌和	選択	選択	選択	2	※	—	後期（前半）
21	連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース※「がん予防カウンセリング実習」	西垣　昌和	選択	選択	選択	2	※	—	後期（後半）
22	連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース※	佐藤　真由美	選択	選択	選択	2	※	—	※

※令和7年度シラバスは、「UNIVERSAL PASSPORT（ https://upex.iuhw.ac.jp/ ）」「シラバス照会」よりご覧いただけます。

※「実習」以外は、基本VOD、もしくはZoomにてのオンライン授業となります。

※連携校共通インテンシブコースの「期」等につきましては、国際医療福祉大学がんプロHP（https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/cancer5/）をご参照願います。

※「連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース」では、上記の後期2科目（必修）以外に前期1科目「予防医学総論」（必修）（必修：合計3科目6単位）、及び前期科目「臨床腫瘍学各論」（選択必修）「がん診療の基礎知識」（選択必修）、後期科目「臨床心理学概論」（選択必修）の中から3単位以上を履修し試験に合格することが修了要件となります。

10-4　がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材養成コース（正規課程）

■開講科目と標準履修年次

がんプロコース履修科目	単位	標準履修年次					担当教員・コーディネーター
		1年目		2年目			
2026年度開講科目名		前期	後期	前期	後期	短期集中	
がん治療の先端知識の基礎	2	2					星本　相淳
医療プロフェッショナリズム・医療安全	1	2					矢冨　裕
がんのカウンセリング概論	2	2					橋本　和明
がん多職種協働アクティブラーニング実習	1					1	矢冨　裕、星本　相淳、佐藤　真由美
予防医学総論	2	2					山崎　力
がん診療の基礎知識	2	2					樋口　肇
がん遺伝子解析学	1		1				樋口　肇
臨床腫瘍学各論	1	1					樋口　肇
がん免疫治療学	1	1					河上　裕
がん治療薬学	2		2				白石　昌彦、辻　稔
予防医学各論	2			2			山崎　力
がん理学療法学	1	1					原　毅
がん作業療法学	1		1				谷口　敬道
がん治療放射線医学	2		2				橋本　光康
生物統計学概論	2	2					山崎　力
臨床心理学概論（共通科目）	2		2				橋本　和明
医療福祉データサイエンス	2		2				石川　ﾍﾞﾝｼﾞｬﾐﾝ光一
がん臨床検査学	1		1				村上　正巳、矢冨　裕
連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※	2						田村　雄一・鷲田　直輝
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学」	2						西垣　昌和
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学実習」	2						西垣　昌和
連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース※	2						佐藤　真由美

※連携校共通インテンシブプログラムコースの科目、開講時期につきましては、がんプロＨＰをご参照願います。

■コース修了認定要件及び履修方法（※参考）

授業科目の区分	最低必要単位数		備　　考
	必修	選択	
専門科目	6 単位	4 単位以上	がん治療の先端知識の基礎（2 単位） 医療プロフェッショナリズム・医療安全（1 単位） がんのカウンセリング概論（2 単位） がん多職種協働アクティブラーニング実習（1 単位） 計 6 単位以上必修 さらに下記の中から 4 単位以上を選択する。 予防医学総論（2 単位） がん診療の基礎知識（2 単位） がん遺伝子解析学（1 単位） 臨床腫瘍学各論（1 単位） がん免疫治療学（1 単位） がん治療薬学（2 単位） 予防医学各論（2 単位） がん理学療法学（1 単位） がん作業療法学（1 単位） がん治療放射線医学（2 単位） 臨床心理学概論（2 単位） 医療データサイエンス（2 単位） がん臨床検査学（1 単位） 連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※ 連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース※ 「がん予防カウンセリング」 「がん予防カウンセリング実習」 連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース ※連携校共通インテンシブプログラム
小計	6 単位	4 単位以上	
合計	10 単位以上		

【注】がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材養成コース修了認定要件：コース登録後 2 年以上在学し、上記 10 単位以上を習得し、試験に合格しなければならない。

・がんプロコースの履修を希望する者は、所定の期間内に、「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へ提出してください。詳細はがんプロ HP を確認してください。

・大学院課程を修了するためには、それぞれの所属専攻・分野の修了要件が適用されます。詳細は、所属専攻・分野の修了要件及び履修方法を確認してください。

10-5　がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース（正規課程）

■開講科目と標準履修年次

がんプロコース履修科目	単位	標準履修年次					担当教員・コーディネーター
		1年目		2年目			
2026年度開講科目名		前期	後期	前期	後期	短期集中	
がん治療の先端知識の基礎	2	2					星本　相淳
医療プロフェッショナリズム・医療安全	1	2					矢冨　裕
がんのカウンセリング概論	2	2					橋本　和明
がん多職種協働アクティブラーニング実習	1					1	矢冨　裕、星本　相淳、佐藤　真由美
予防医学総論	2	2					山崎　力
がん診療の基礎知識	2	2					樋口　肇
がん遺伝子解析学	1		1				樋口　肇
臨床腫瘍学各論	1	1					樋口　肇
がん免疫治療学	1	1					河上　裕
がん治療薬学	2		2				白石　昌彦、辻　稔
予防医学各論	2			2			山崎　力
がん理学療法学	1	1					原　毅
がん作業療法学	1		1				谷口　敬道
がん治療放射線医学	2		2				橋本　光康
生物統計学概論	2	2					山崎　力
臨床心理学概論（共通科目）	2		2				橋本　和明
医療福祉データサイエンス	2		2				石川　ﾍﾞﾝｼﾞｬﾐﾝ光一
がん臨床検査学	1		1				村上　正巳、矢冨　裕
連携校共通:がん学際領域の医療者養成コース※	2						田村　雄一・鷲田　直輝
連携校共通:がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学」	2						西垣　昌和
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学実習」	2						西垣　昌和
連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース※	2						佐藤　真由美

※連携校共通インテンシブプログラムコースの科目、開講時期につきましては、がんプロＨＰをご参照願います。

■コース修了認定要件及び履修方法（※参考）

授業科目の区分	最低必要単位数		備　　考
	必修	選択	
専門科目	7 単位	3 単位以上	がん治療の先端知識の基礎（2 単位） がん遺伝子解析学（1 単位） 臨床腫瘍学各論（1 単位） がん免疫治療学（1 単位） がん治療薬学（2 単位） 計 7 単位以上必修 さらに下記の中から 3 単位以上を選択する。 医療プロフェッショナリズム・医療安全（2 単位） がんのカウンセリング概論（2 単位） 予防医学総論（2 単位） 予防医学各論（2 単位） がん診療の基礎知識（2 単位） がん理学療法学（1 単位） がん作業療法学（1 単位） がん治療放射線医学（2 単位） 生物統計学概論（2 単位） 臨床心理学概論（2 単位） 医療福祉データサイエンス（2 単位） がん臨床検査学（1 単位） 連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※ 連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース※ 「がん予防カウンセリング」 「がん予防カウンセリング実習」 連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース ※連携校共通インテンシブプログラム
小計	7 単位	3 単位以上	
合計	10 単位以上		

【注】がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース修了認定要件：コース登録後 2 年以上在学し、上記 10 単位以上を習得し、試験に合格しなければならない。

・がんプロコースの履修を希望する者は、所定の期間内に、「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へ提出してください。詳細はがんプロ HP を確認してください。

・大学院課程を修了するためには、それぞれの所属専攻・分野の修了要件が適用されます。詳細は、所属専攻・分野の修了要件及び履修方法を確認してください。

10-6　がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース（正規課程）

■開講科目と標準履修年次

がんプロコース履修科目	単位	標準履修年次					担当教員・コーディネーター
		1年目		2年目			
2026年度開講科目名		前期	後期	前期	後期	短期集中	
がん治療の先端知識の基礎	2	2					星本　相淳
医療プロフェッショナリズム・医療安全	1	2					矢冨　裕
がんのカウンセリング概論	2	2					橋本　和明
がん多職種協働アクティブラーニング実習	1					1	矢冨　裕、星本　相淳、佐藤　真由美
予防医学総論	2	2					山崎　力
がん診療の基礎知識	2	2					樋口　肇
がん遺伝子解析学	1		1				樋口　肇
臨床腫瘍学各論	1	1					樋口　肇
がん免疫治療学	1	1					河上　裕
がん治療薬学	2		2				白石　昌彦、辻　稔
予防医学各論	2			2			山崎　力
がん理学療法学	1	1					原　毅
がん作業療法学	1		1				谷口　敬道
がん治療放射線医学	2		2				橋本　光康
生物統計学概論	2	2					山崎　力
臨床心理学概論（共通科目）	2		2				橋本　和明
医療福祉データサイエンス	2		2				石川　ﾍﾞﾝｼﾞｬﾐﾝ光一
がん臨床検査学	1		1				村上　正巳、矢冨　裕
連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※	2						田村　雄一・鷲田　直輝
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学」	2						西垣　昌和
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学実習」	2						西垣　昌和
連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース※	2						佐藤　真由美

「生物統計学概論」（全学年　前期　集中講義）

※連携校共通インテンシブプログラムコースの科目、開講時期につきましては、がんプロＨＰをご参照願います。

■コース修了認定要件及び履修方法（※参考）

授業科目の区分	最低必要単位数		備　　考
	必修	選択	
専門科目	6 単位	4 単位以上	予防医学総論（2 単位） がん診療の基礎知識（2 単位） がんのカウンセリング概論（2 単位） 計 6 単位以上必修 さらに下記の中から 4 単位以上を選択する。 がん治療の先端知識の基礎（2 単位） 医療プロフェッショナリズム・医療安全（1 単位） がん遺伝子解析学（1 単位） 臨床腫瘍学各論（1 単位） がん免疫治療学（1 単位） がん治療薬学（2 単位） 予防医学各論（2 単位） がん理学療法学（1 単位） がん作業療法学（1 単位） がん治療放射線医学（2 単位） 生物統計学概論（2 単位） 臨床心理学概論（2 単位） 医療福祉データサイエンス（2 単位） がん臨床検査学（1 単位） 連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※ 連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース※ 「がん予防カウンセリング」 「がん予防カウンセリング実習」 連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース ※連携校共通インテンシブプログラム
小計	6 単位	4 単位以上	
合計	10 単位以上		

【注】がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース修了認定要件：コース登録後 2 年以上在学し、上記 10 単位以上を習得し、試験に合格しなければならない。

・がんプロコースの履修を希望する者は、所定の期間内に、「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へ提出してください。詳細はがんプロ HP を確認してください。

・大学院課程を修了するためには、それぞれの所属専攻・分野の修了要件が適用されます。詳細は、所属専攻・分野の修了要件及び履修方法を確認してください。

10-7　がん看護 CNS コース

■コース修了認定要件及び履修方法

<table>
<tr><th rowspan="2">授業科目の区分</th><th colspan="2">最低単位数</th><th rowspan="2" colspan="2">備　考</th></tr>
<tr><th>必修</th><th>選択</th></tr>
<tr><td rowspan="10">コース共通科目A</td><td rowspan="10">8単位</td><td rowspan="12">—</td><td>時間割上の科目名称</td><td>専門看護師　制度上の科目</td></tr>
<tr><td>「看護学研究法Ⅰ（質的研究）」（2単位）</td><td rowspan="2">「看護研究」（2単位）</td></tr>
<tr><td>「看護学研究法Ⅱ（量的研究）」（2単位）</td></tr>
<tr><td>「看護教育論」（2単位）</td><td>「看護教育論」（2単位）</td></tr>
<tr><td>「高度実践看護クオリティマネジメント論」（2単位）</td><td>「看護管理論」（2単位）</td></tr>
<tr><td>「看護倫理学」（2単位）</td><td>「看護倫理」（2単位）</td></tr>
<tr><td>「看護政策論」（2単位）</td><td>「看護政策論」（2単位）</td></tr>
<tr><td>「看護コンサルテーション論」（2単位）</td><td>「コンサルテーション論」（2単位）</td></tr>
<tr><td></td><td>計6科目から8単位以上を選択必修</td></tr>
<tr><td>コース共通科目B</td><td>6単位</td><td colspan="2">「高度実践フィジカルアセスメント論」（2単位）
「高度実践臨床病態生理学」（2単位）
「高度実践臨床薬理学」（2単位）
計3科目6単位　必修</td></tr>
<tr><td>専門科目</td><td>26単位</td><td colspan="2">「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅰ（がんに関する病態生理学）」（2単位）
「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅱ（がん看護に関する理論）」（2単位）
「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅲ（がん看護に関する看護援助論）」（2単位）
「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅳ（がん薬物療法看護）」（2単位）
「高度実践がん看護学講義[修士]Ⅴ（緩和ケア）」（2単位）
「高度実践がん看護学演習[修士]Ⅰ（がん薬物療法看護）」（2単位）
「高度実践がん看護学演習[修士]Ⅱ（緩和ケア）」（2単位）
「高度実践がん看護学実習[修士]Ⅰ（がん診断と治療実習）」（2単位）
「高度実践がん看護学実習[修士]Ⅱ（専門看護師役割機能実習）」（4単位）
「高度実践がん看護学実習[修士]Ⅲ（緩和ケア実習）」（4単位）
「高度実践がん看護学課題研究」（2単位）
計11科目26単位　必修</td></tr>
<tr><td>小計</td><td>40単位</td><td>—</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>合計</td><td colspan="2">40単位以上</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

【注】がん看護 CNS コース修了認定要件：コース登録後 2 年以上在学し、必修専門科目 26 単位、コース共通科目 A　8 単位以上、コース共通科目 B　6 単位以上、合計 40 単位以上を履修宇し、研究の最終試験に合格しなければならない。

・がんプロコースの履修を希望する者は、所定の期間内に、「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へ提出してください。詳細はがんプロ HP および「履修の手引き」「がん看護学領域」「がん看護 CNS コース」を確認してください。

・大学院課程を修了するためには、それぞれの所属専攻・分野の修了要件が適用されます。詳細は、所属専攻・分野の修了要件及び履修方法を確認してください。

10-8　がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材養成コース（インテンシブコース）

■開講科目と標準履修年次

がんプロコース履修科目	単位	標準履修年次					担当教員・コーディネーター
		1年目		2年目			
2026年度開講科目名		前期	後期	前期	後期	短期集中	
がん治療の先端知識の基礎	2	2					星本　相淳
医療プロフェッショナリズム・医療安全	1	2					矢冨　裕
がんのカウンセリング概論	2	2					橋本　和明
がん多職種協働アクティブラーニング実習	1					1	矢冨　裕、星本　相淳、佐藤　真由美
予防医学総論	2	2					山崎　力
がん診療の基礎知識	2	2					樋口　肇
がん遺伝子解析学	1		1				樋口　肇
臨床腫瘍学各論	1	1					樋口　肇
がん免疫治療学	1	1					河上　裕
がん治療薬学	2		2				白石　昌彦、辻　稔
予防医学各論	2			2			山崎　力
がん理学療法学	1	1					原　毅
がん作業療法学	1		1				谷口　敬道
がん治療放射線医学	2		2				橋本　光康
生物統計学概論	2	2					山崎　力
臨床心理学概論（共通科目）	2		2				橋本　和明
医療福祉データサイエンス	2		2				石川　ﾍﾞﾝｼﾞｬﾐﾝ光一
がん臨床検査学	1		1				村上　正巳、矢冨　裕
連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※	2						田村　雄一・鷲田　直輝
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学」	2						西垣　昌和
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学実習」	2						西垣　昌和
連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース※	2						佐藤　真由美

※連携校共通インテンシブプログラムコースの科目、開講時期につきましては、がんプロＨＰをご参照願います。

■コース修了認定要件及び履修方法（※参考）

授業科目の区分	最低必要単位数		備　　考
	必修	選択	
専門科目	6 単位	4 単位以上	がん治療の先端知識の基礎（2 単位） 医療プロフェッショナリズム・医療安全（1 単位） がんのカウンセリング概論（2 単位） がん多職種協働アクティブラーニング実習（1 単位） 計 6 単位以上必修 さらに下記の中から 4 単位以上を選択する。 予防医学総論（2 単位） がん診療の基礎知識（2 単位） がん遺伝子解析学（1 単位） 臨床腫瘍学各論（1 単位） がん免疫治療学（1 単位） がん治療薬学（2 単位） 予防医学各論（2 単位） がん理学療法学（1 単位） がん作業療法学（1 単位） がん治療放射線医学（2 単位） 臨床心理学概論（2 単位） 医療データサイエンス（2 単位） がん臨床検査学（1 単位） 連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※ 連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース※ 「がん予防カウンセリング」 「がん予防カウンセリング実習」 連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース ※連携校共通インテンシブプログラム
小計	6 単位	4 単位以上	
合計	10 単位以上		

【注】がん医療の現場で顕在化している課題に多職種連携で挑む人材養成コース（インテンシブコース）修了認定要件：

・コース登録後１年もしくは２年以上在籍し、上記 10 単位以上を習得し、試験に合格しなければならない。

・がんプロコースの履修を希望する者は、所定の期間内に、「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へご提出ください。詳細はがんプロ HP を確認してください。

・大学院課程を修了するためには、それぞれの所属専攻・分野の修了要件が適用されます。詳細は、所属専攻・分野の修了要件及び履修方法を確認してください。

10-9　がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース（インテンシブコース）

■開講科目と標準履修年次

がんプロコース履修科目 2026 年度開講科目名	単位	標準履修年次					担当教員・コーディネーター
		1 年目		2 年目			
		前期	後期	前期	後期	短期集中	
がん治療の先端知識の基礎	2	2					星本　相淳
医療プロフェッショナリズム・医療安全	1	2					矢冨　裕
がんのカウンセリング概論	2	2					橋本　和明
がん多職種協働アクティブラーニング実習	1					1	矢冨　裕、星本　相淳、佐藤　真由美
予防医学総論	2	2					山崎　力
がん診療の基礎知識	2	2					樋口　肇
がん遺伝子解析学	1		1				樋口　肇
臨床腫瘍学各論	1	1					樋口　肇
がん免疫治療学	1	1					河上　裕
がん治療薬学	2		2				白石　昌彦、辻　稔
予防医学各論	2			2			山崎　力
がん理学療法学	1	1					原　毅
がん作業療法学	1		1				谷口　敬道
がん治療放射線医学	2		2				橋本　光康
生物統計学概論	2	2					山崎　力
臨床心理学概論（共通科目）	2		2				橋本　和明
医療福祉データサイエンス	2		2				石川　ﾍﾞﾝｼﾞｬﾐﾝ光一
がん臨床検査学	1		1				村上　正巳、矢冨　裕
連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※	2						田村　雄一・鷲田　直輝
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学」	2						西垣　昌和
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学実習」	2						西垣　昌和
連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース※	2						佐藤　真由美

※連携校共通インテンシブプログラムコースの科目、開講時期につきましては、がんプロ HP をご参照願います。

■コース修了認定要件及び履修方法（※参考）

授業科目の区分	最低必要単位数		備　　考
	必修	選択	
専門科目	7 単位	3 単位以上	がん治療の先端知識の基礎（2 単位） がん遺伝子解析学（1 単位） 臨床腫瘍学各論（1 単位） がん免疫治療学（1 単位） がん治療薬学（2 単位） 計 7 単位以上必修 さらに下記の中から 3 単位以上を選択する。 医療プロフェッショナリズム・医療安全（2 単位） がんのカウンセリング概論（2 単位） 予防医学総論（2 単位） 予防医学各論（2 単位） がん診療の基礎知識（2 単位） がん理学療法学（1 単位） がん作業療法学（1 単位） がん治療放射線医学（2 単位） 生物統計学概論（2 単位） 臨床心理学概論（2 単位） 医療福祉データサイエンス（2 単位） がん臨床検査学（1 単位） 連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※ 連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース※ 「がん予防カウンセリング」 「がん予防カウンセリング実習」 連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース ※連携校共通インテンシブプログラム
小計	7 単位	3 単位以上	
合計	10 単位以上		

【注】がん個別化医療・創薬の推進を目指したゲノム医療やがん免疫療法の開発を担う人材養成コース修了認定要件：

コース登録後 1 年もしくは 2 年以上在学し、上記 10 単位以上を習得し、試験に合格しなければならない。

・がんプロコースの履修を希望する者は、所定の期間内に、「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へご提出ください。詳細はがんプロ HP を確認してください。

・大学院課程を修了するためには、それぞれの所属専攻・分野の修了要件が適用されます。詳細は、所属専攻・分野の修了要件及び履修方法を確認してください。

10-10　がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース（インテンシブコース）

■開講科目と標準履修年次

がんプロコース履修科目	単位	標準履修年次					担当教員・コーディネーター
		1年目		2年目			
2026年度開講科目名		前期	後期	前期	後期	短期集中	
がん治療の先端知識の基礎	2	2					星本　相淳
医療プロフェッショナリズム・医療安全	1	2					矢冨　裕
がんのカウンセリング概論	2	2					橋本　和明
がん多職種協働アクティブラーニング実習	1					1	矢冨　裕、星本　相淳、佐藤　真由美
予防医学総論	2	2					山崎　力
がん診療の基礎知識	2	2					樋口　肇
がん遺伝子解析学	1		1				樋口　肇
臨床腫瘍学各論	1	1					樋口　肇
がん免疫治療学	1	1					河上　裕
がん治療薬学	2		2				白石　昌彦、辻　稔
予防医学各論	2			2			山崎　力
がん理学療法学	1	1					原　毅
がん作業療法学	1		1				谷口　敬道
がん治療放射線医学	2		2				橋本　光康
生物統計学概論	2	2					山崎　力
臨床心理学概論（共通科目）	2		2				橋本　和明
医療福祉データサイエンス	2		2				石川　ﾍﾞﾝｼﾞｬﾐﾝ光一
がん臨床検査学	1		1				村上　正巳、矢冨　裕
連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※	2						田村　雄一・鷲田　直輝
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学」	2						西垣　昌和
連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療者育成コース※「がん予防カウンセリング学実習」	2						西垣　昌和
連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース※	2						佐藤　真由美

※連携校共通インテンシブプログラムコースの科目、開講時期につきましては、がんプロＨＰをご参照願います。

■コース修了認定要件及び履修方法（※参考）

授業科目の区分	最低必要単位数		備　　考
	必修	選択	
専門科目	6 単位	4 単位以上	予防医学総論（2 単位） がん診療の基礎知識（2 単位） がんのカウンセリング概論（2 単位） 計 6 単位以上必修 さらに下記の中から 4 単位以上を選択する。 がん治療の先端知識の基礎（2 単位） 医療プロフェッショナリズム・医療安全（1 単位） がん遺伝子解析学（1 単位） 臨床腫瘍学各論（1 単位） がん免疫治療学（1 単位） がん治療薬学（2 単位） 予防医学各論（2 単位） がん理学療法学（1 単位） がん作業療法学（1 単位） がん治療放射線医学（2 単位） 生物統計学概論（2 単位） 臨床心理学概論（2 単位） 医療福祉データサイエンス（2 単位） がん臨床検査学（1 単位） 連携校共通：がん学際領域の医療者養成コース※ 連携校共通：がん予防を推進する遺伝医療職育成コース※ 「がん予防カウンセリング」 「がん予防カウンセリング実習」 連携校共通：がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース ※連携校共通インテンシブプログラム
小計	6 単位	4 単位以上	
合計	10 単位以上		

【注】がんのデータサイエンスに基づく予防医療やがんサバイバーケアを推進する人材育成コース修了認定要件：
コース登録後 1 年もしくは 2 年以上在学し、上記 10 単位以上を習得し、試験に合格しなければならない。
・がんプロコースの履修を希望する者は、所定の期間内に、「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へご提出ください。詳細はがんプロ HP を確認してください。
・大学院課程を修了するためには、それぞれの所属専攻・分野の修了要件が適用されます。詳細は、所属専攻・分野の修了要件及び履修方法を確認してください。

10-11　連携校共通インテンシブコースについて

７大学連携校共通インテンシブコースとは

重要な領域別に 7 大学連携の独自の 14 の Working Group（以下「WG」）が設置され、この WG が中心となり、7 大学所属の教員および学外の専門家が協力し、連携校共通インテンシブコースが設置された。

連携７大学とは

東京科学大学を拠点とする、国際医療福祉大学・慶應義塾大学・順天堂大学・東海大学・東京歯科大学・東京薬科大学



本学責任３コースについて

14 の WG が作成した連携校共通インテンシブコースの内、本学教員がリーダーとなっている WG が設置した次の 3 コースを示す

①連携校共通「がん学際領域の医療者養成コース」（インテンシブコース）
②連携校共通「がん予防を推進する遺伝医療職育成コース」（インテンシブコース）
③連携校共通「がんサバイバーを支える多職種医療人養成コース」（インテンシブコース）

３コース共通事項

対　　象 … 本学を含む連携 7 大学およびその関連病院の教職員・大学院生、その他連携校およびWG責任者が受講を認めた医療従事者
受 講 料 … 徴収なし（実習にかかる費用を除く）
修業年限 … 1 年（本学責任 3 コースにかかるコース）
受講形態 … 講義：オンデマンド講義（一部オンライン講義あり）、実習（一部科目のみ）

・申込方法
● 受講登録方法 Forms から登録
● 講義動画の視聴方法 東京科学大学様のＬＭＳからオンデマンド講義を視聴いただきます。
受講登録開始時期、視聴期限等につきましては、本学がんプロＨＰ（https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/cancer5/）にＵＰいたしますので、ご参照願います。

● 修了証の発行について
コースの修了要件を満たした場合に修了証が発行されます。修了要件につきましても、本学がんプロＨＰ「7 大学連携校共通インテンシブコース」
https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/cancer5/partner_common/
をご参照願います。

①連携校共通インテンシブコース

「がん学際領域の医療者養成コース」（インテンシブコース）

東京科学大学及び連携大学の循環器専門医・腎臓専門医・老年内科専門医が中心となり、学内外の各分野の専門家による講義を行う。

■本コースの特色・目的

がん治療の複雑化や分子標的薬の発展及び高齢化に伴い、癌治療を行う際の心血管合併症・腎障害・高齢者におけるがん治療のマネジメントなど、がん治療における学際領域の知識や経験が必要なケースが急速に増加している。そのため、がん治療に従来携わっていなかった医師、歯科医師、看護師、薬剤師、セラピストなどの医療スタッフががん治療の知識を学ぶ必要性、逆にがん治療従事者が循環器・腎臓・老年医学の知識を学ぶ必要性の双方が増している。本コースは連携大学が協力し横断的にがん治療に伴う学際領域の知識を集約して学ぶ機会を提供することにより、がん治療に特有の心血管合併症・腎障害及び老年医学の知識を体系的に学習できることを特徴とする。現場で診療に従事している医療者を対象とするため、e-learningを用いることで受講者の利便性に配慮した受講環境を整備する。

回	授業題目	担当教員（所属）
1	腫瘍循環器学入門①：腫瘍循環器学の重要性・腫瘍循環器のバイオマーカーについて	田村雄一（国際医療福祉大学）/ 佐瀬一洋（順天堂大学）
2	腫瘍循環器学入門②：Cancer VTEと抗がん剤に伴う肺高血圧症	田村雄一（国際医療福祉大学）
3	腫瘍循環器学入門③：がん薬物療法に伴う心筋障害と心エコーの評価	田村雄一（国際医療福祉大学）
4	腫瘍循環器学入門④：腫瘍循環器ガイドラインについて	田村雄一（国際医療福祉大学）/ 矢野真吾（慈恵医科大学）
5	腫瘍循環器学入門⑤：がん治療に伴う虚血性心疾患と不整脈	前嶋康浩（東京科学大学）/ 白石泰之（慶應義塾大学）
6	腫瘍腎臓病入門①：がんと糸球体疾患	伊藤純（国際医療福祉大学）
7	腫瘍腎臓病入門②：がん治療・進行と腎機能の評価	内藤省太郎（東京科学大学）
8	腫瘍腎臓病入門③：がんとAKI、抗がん剤の腎毒性	和田健彦（虎ノ門病院）
9	腫瘍腎臓病入門④：がんとCKD、透析患者のがん診療	松原雄（京都大学）
10	腫瘍腎臓病入門⑤：がんと血液浄化療法～透析を行うか?～	鷲田直輝（国際医療福祉大学）
11	老年腫瘍学① 老年腫瘍学入門（疫学、定義、高齢者機能評価）	浜本康夫（東京科学大学）
12	老年腫瘍学② 治療方針決定（高齢者機能評価、多職種チーム）	樋口雅（国際医療福祉大学）
13	老年腫瘍学③ 老年腫瘍学における臨床研究	平田賢郎（慶應義塾大学）
14	老年腫瘍学④ 老年腫瘍学におけるガイドライン	松岡歩（国立がん研究センター）
15	老年腫瘍学⑤ 高齢者がん治療における制度（社会的支援、診療加算）	浜本康夫（東京科学大学）

■コース修了認定要件及び履修方法

「がん学際領域の医療者養成コース」修了認定要件：

Formsに受講登録の上、コース登録後1年以上在学し、オンデマンドで講義動画を全て視聴し、試験に合格することが本コースの修了要件である。

※単位認定を希望する場合は、所定の期間内に「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロHP・もしくは事務局へご提出ください。

詳細はがんプロHP7大学連携校共通インテンシブコース https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/cancer5/partner_common/ をご参照ください。

②連携校共通インテンシブコース

がん予防を推進する遺伝医療者育成コース（インテンシブコース）

■本コースの特色・目的

遺伝性腫瘍と遺伝学的に診断された担癌患者の血縁者においては、遺伝学的検査による発症前診断が可能であり、遺伝学的診断に基づいたがん予防医療の高い効果が期待される。一方で、遺伝性腫瘍と診断されることは、当事者に遺伝性疾患特有の心理的、社会的、倫理的な課題が生じることにもつながり、遺伝門職による専門的対応が必要である。本コースでは遺伝医療専門職のがん医療、予防医療の知識・技能を向上し、がん予防医療に強い遺伝医療専門職の養成を目的とする。

■開講科目

がんプロコース履修科目 2025 年度開講科目名	単位	標準履修年次 前期	 後期/集中	担当教員・コーディネーター
予防医学総論※	2	2		山崎　力
がん予防カウンセリング学	2		2	西垣　昌和
がん予防カウンセリング学実習	2		2	西垣　昌和
がん診療の基礎知識※	2	2		樋口　肇
臨床腫瘍学各論※	1	1		樋口　肇
臨床心理学概論※	2		2	小畠　秀吾

講義：がん予防カウンセリング学

回	授業題目
1	がん予防カウンセリング概論
2	がんの遺伝的リスク評価
3	がん遺伝的ハイリスク者のリスク管理①：ハイリスク検診
4	がん遺伝的ハイリスク者のリスク管理②：リスク低減介入
5	がん遺伝的ハイリスク者に生じうる身体的課題
6	がん遺伝的ハイリスク者に生じうる心理社会的課題
7	がん遺伝的ハイリスク者リスク管理における ELSI
8	遺伝性腫瘍カウンセリング
9	健康行動理論①：個人的・個人内モデル 1
10	健康行動理論②：個人的・個人内モデル 2
11	健康行動理論③：個人間モデル
12	ライフステージ別カウンセリング
13	ケーススタディ 1
14	ケーススタディ 2
15	総括

実習：がん予防カウンセリング学実習

回	授業題目
1・2	ロールプレイ実習：リスクへの適応促進 分析・実践
3・4	ロールプレイ実習：受療行動促進 分析・実践
5・6	ロールプレイ実習：受療行動促進 分析・実践
7・8	ロールプレイ実習：家庭内での情報伝達 分析・実践
9・10	ロールプレイ実習：小児例への対応 分析・実践
11-14	検診施設実習
15	総括

※本コースの修了要件として、上記科目以外に左上表の本学開講科目「予防医学総論」（必修科目）、「がん診療の基礎知識」・「臨床腫瘍学各論」・「臨床心理学概論」（いずれかの選択必修科目のうち、3 単位以上の履修が必要）の履修が必要となります。
詳細は本学がんプロ HP をご参照願います。

※講義・実習いずれも西垣昌和先生（国際医療福祉大学）ご担当

※「がん予防カウンセリング学」「がん予防カウンセリング学実習」を受講するには、予め本学開講科目所定の単位を修得することが求められる。

■コース修了認定要件及び履修方法

授業科目の区分	最低必要単位数		備　　考
	必修	選択必修	
専門科目	6 単位	3 単位以上	予防医学総論（2 単位） がん予防カウンセリング学 がん予防カウンセリング学実習 計 6 単位以上必修 さらに下記の中から 3 単位以上を選択する。 がん診療の基礎知識（2 単位） 臨床腫瘍学各論(1 単位), 臨床心理学概論(2 単位)
小計	6 単位	3 単位以上	
合計	9 単位以上		

がん予防を推進する遺伝医療職育成コース修了認定要件：

東京科学大学に受講登録の上、コース登録後 1 年以上在学し、上記 9 単位以上を習得し、試験に合格しなければならない。
※単位認定を希望する者は、所定の期間内に「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へご提出ください。
詳細はがんプロ HP7 大学連携校共通インテンシブコース https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/cancer5/partner_common/をご参照ください。

③連携校共通インテンシブコース

がんサバイバーを支える多職種医療人育成コース（インテンシブコース）

■本コースの特色・目的

がんサバイバー・家族に関わる医療従事者は発達段階や発達課題を考慮し、個別性のあるケアの必要性を認識している。しかし、個別性のあるきめ細やかなケアの提供は難しい。本コースではがんサバイバー・家族へのケアをする際に必要な基礎的知識を様々な専門職種から学修することができる。またオンライン授業や e-learning 等の学修環境を整備することにより受講生が履修しやすい環境を整備する。

連携校にはがんに関する様々な専門職種がおり、受講生に対し最新知見の情報を提供できる。さらに多職種が共に学ぶことにより職種の考えを共有出来ることは、現場における多職種連携を学べる点で受講生にとって大きなメリットとなる。

回	授業題目	担当教員（所属）
1	がんサバイバーシップ	清場 昇一郎（順天堂大学）
2	がん治療とお金、がんと治療に活用できる社会的支援・制度	朝倉 準（東邦大学医学部付属病院）
3	意思決定支援 1 看護師の立場から	野上 純子（順天堂大学医学部付属順天堂医院）
4	意思決定支援 2 臨床心理士の立場から	伊藤 美穂（静岡県立がんセンター）
5	就労支援	富田 優子（東京科学大学病院）
6	小児がんサバイバーへの支援	杉山 元保（国際医療福祉大学）
7	小児がんサバイバー家族への支援	上原 京子（国際医療福祉大学）
8	AYA 世代のがんサバイバー・家族への支援 1	鈴木 美穂（マギーズ東京共同代表）
9	AYA 世代のがんサバイバー・家族への支援 2	岡田 由貴子（京都大学医学部編入科学専科学長）
10	がんサバイバー・家族へのメンタルケア	小川 朝生（国立がん研究センター東病院）
11	精神疾患をもつがんサバイバーへの支援	竹内 崇（東京科学大学）
12	がんと診断されたときからの緩和ケア	結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院）
13	がん治療と仕事の両立支援	根岸 茂登美（藤沢タクシー社長）
14	地域連携 大学病院に勤務する看護師の立場から	富田 優子（東京科学大学病院）
15	疾病予防、病気の早期発見など保健師の立場から	鈴木 穣波（国際医療福祉大学熱海病院）
16	アピアランスケア	猪又 知子（順天堂大学医学部付属順天堂医院）
17	チーム医療におけるがん薬剤師の役割	鈴木 直人（国際医療福祉大学三田病院）
18	がんのセルフマネジメント	矢ヶ崎 香（慶應義塾大学）
19	がんと栄養 栄養サポートチームの役割	高村 晴美（国際医療福祉大学成田病院）
20	がん看護外来、がん相談	藤咲 麻美（国際医療福祉大学三田病院）
21	がんのリハビリテーション 総論	辻 哲也（慶應義塾大学）
22	周術期（術前、術後）のリハビリテーション	小西 信子（国立がん研究センター東病院）
23	放射線、化学療法中、外来がんリハビリテーション診療	鈴木 克憲（静岡県立静岡がんセンター）
24	がん口コモ（骨転移対策含む）	篠田 裕介（埼玉医科大学医学部）
25	高齢がん患者とリハビリテーション診療（FIT、UNFIT）	上野 順也（国立がん研究センター東病院）
26	緩和ケア主体の時期（進行がん、末期がん）	添田 遼（鹿骨温泉病院）
27	在宅がんリハビリテーション診療（在宅療養中）	島崎 寛将（大阪府済生会富田林医療福祉センター）
28	リンパ浮腫、終末期浮腫のケア	山本 優一（北福島医療センター）
29	がんと運動、運動腫瘍学	田沼 明（順天堂大学医学部附属静岡病院）
30	がんの嚥下障害とリハビリテーション診療	安藤 牧子（慶應義塾大学大学病院）

■コース修了認定要件及び履修方法

がんサバイバーを支える多職種医療人育成コース修了認定要件：

フォームに受講登録の上、コース登録後 1 年以上在学し、全講義の視聴、第 8 回 Zoom 参加した上で、各講義課題（レポート）を提出し、合格すること

※単位認定を希望する場合は、所定の期間内に「がんプロコース登録申請」「がんプロコース登録届」をそれぞれがんプロ HP・もしくは事務局へご提出ください。

詳細はがんプロ HP7 大学連携校共通インテンシブコース https://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/cancer5/partner_common/ をご参照ください。

10-12　多職種協働市民公開講座・セミナー・教育ワークショップ

シンポジウム・公開講座等

●多職種協働市民公開シンポジウム　●市民公開講座　●セミナー　●教育ワークショップ

対 象：本学・連携校の大学院生・教職員、本学グループ病院教職員、医療従事者、一般市民の方

本学大学院がんプロでは、毎年2～3回、参加無料・ハイブリッド開催（東京赤坂キャンパス + オンライン）でシンポジウム等を実施しています。詳細はがんプロHPをご参照願います。

本学がんプロHP

〈実績例〉

● 多職種協働市民公開シンポジウム



2025年度
がんと腎臓病をともに乗り越える

● 市民公開講座



2025年度
がんの予防とがんとの共生

● セミナー　第3回 全国がんプロ協議会学際領域部会 腫瘍循環器学分野セミナー



2025年度
チームで挑む腫瘍循環器

過年度のイベントにつきましては、本学・連携校の大学院生・教職員、本学グループ病院の教職員、イベントにご参加いただいた方々は「国際医療福祉大学VODライブラリー」にて期間限定でご視聴できます。
詳細は本大学院がんプロ事務局までお願いします。

国際医療福祉大学 VOD ライブラリー



2025年度
多職種協働市民公開シンポジウム



市民公開講座
リンパ浮腫予防運動



セミナー　症例検討

学生生活の手引き

11-1　学生証

学生証

- 学生証は、みなさんが本学の院生であることを証明するものであり、図書館の利用、学割その他各種証明書の申請・受領、通学定期券を購入する際などに必要不可欠なものです。通学・受講の際には常に携帯するようにしてください。汚したり、紛失・破損（接触不良含む）しないよう大切に取り扱ってください。
- 図書館の図書・製本雑誌を借り受けるとき学生証の提示が必要になります。

学籍番号構成

【例】

26S1001

入学年度　西暦下２桁 例：２６→ ２０２６

大学院コード

Ｓ：医学福祉学研究科コード
Ｐ：薬科学研究コード
Ｒ：薬学研究科コード
Ｍ：医学研究科コード

課程区分・専攻

１or２	修士課程（臨床心理学専攻除く）or 専門職学位課程
３	博士課程
４	修士課程　臨床心理学専攻
５	博士課程（後期入学者）

学生個人番号

学生証再発行

- 学生証の紛失や盗難にあった場合は、悪用される恐れがありますので、最寄りの交番や警察署に必ず届け出てください。
- 学生証の紛失・破損・接触不良に伴う再発行の手続きは、下記のとおりです（有料）。

提出先	提出書類	手数料	交付日・備考
大学院事務局	学生証再発行願（捺印したもの）	2,500円	・申請日より　２週間程度 ・免許証等身分を証明できるものが必要

※申込みは郵送でも可能ですが、交付は各キャンパス大学院事務局窓口のみです。

※以下の場合は、学生証の記載事項が変更となるため、各キャンパス大学院事務局で変更手続きを行っていただく必要があります。詳細は、各キャンパス大学院事務局へお問い合わせください。

・氏名を変更した場合
・通学キャンパスを変更した場合
・在学期間を延長した場合

※東京赤坂キャンパスにて一部の分野では筆記試験を受験する際、学生証の提示を必須とする場合があります。学生証を忘れた場合や当日紛失した場合は、「仮学生証（当日限り有効）」を発行します（手数料：300円、発行：東京赤坂キャンパスのみ）。

11-2　図書館および学術情報の利用

国際医療福祉大学図書館概要

- 国際医療福祉大学図書館ホームページ　https://www.iuhw.ac.jp/library/
- 図書館への問い合わせフォーム　https://forms.office.com/r/QGzChtrHch
- 大田原キャンパス図書館を本館として、各キャンパスには分館(室)である以下の図書館(室)が置かれています。
  - ・成田キャンパス　：　成田キャンパス図書館、医学図書館
  - ・東京赤坂キャンパス　：　東京赤坂キャンパス図書館
  - ・小田原キャンパス　：　小田原キャンパス図書館
  - ・大川キャンパス　：　大川キャンパス図書館
  - ・熱海キャンパス　：　国際医療福祉大学熱海病院図書室

  ※福岡キャンパス所属の院生は、福岡国際医療福祉大学図書館を利用できます。
- 各図書館(室)では同様のサービスを提供していますが、開館日程や利用方法など、図書館(室)により異なる点がありますので、詳細は各図書館(室)のホームページや利用案内を確認してください。

図書館の資料構成

- 医療福祉系の教育・研究に必要な専門書、学術雑誌のほか、一般教養図書、視聴覚資料を収集提供しています。
- 専門書は米国国立医学図書館分類法（NLMC)、一般書は日本十進分類法（NDC）に基づいてテーマごとに並んでいます。
- 雑誌は誌名のアルファベット順に並んでいます。
- 文献検索データベースや電子ブック・電子ジャーナルが利用できます。

館内の利用

- 入館・退館の際は、学生証による認証が必要です。学生証を入口ゲートの IC リーダーにかざしてください。
- 資料検索用のパソコンを設置しています。
- パソコン等を使用する際には、館内の静寂を保つため、キーボードの操作音に配慮をお願いします。

図書の貸出

- 学生証が貸出カードです。学生証と資料を受付カウンターへ提出してください。
- 院生の図書の貸出冊数は 10 冊、貸出期間は 3 週間です。
- 借りた図書を他人に貸すことはご遠慮ください。
- 貸出期間内で予約がなければ 1 回に限り延長できます。
- 実習期間中の図書の貸出期間延長は、各図書館(室)へお尋ねください。
- OPAC 利用状況照会（https://opac.iuhw.ac.jp/Otawara/opac/Visitor/status_list）にログインすると借用図書のタイトルや返却期限の確認、貸出延長ができます。

図書の返却

- 受付時間中は、受付カウンターへ返却してください。
- 時間外や休館日は、ブックポストへ入れてください。
- 返却が遅れた場合、延滞した日数分の貸出を停止します。
  【例】3 日遅れて返却した場合、その後の 3 日間は資料の貸出不可
- 延滞 30 日以降は貸出停止に加え、一冊につき以下の延滞料を徴収します。
  延滞 30 日～59 日　1,000 円　以降 30 日を経過するごとに 1,000 円を加算
  原則 60 日以降は弁償
- 借用資料を紛失・汚損した場合は現物を弁償していただきます。

視聴覚資料

- DVD などの視聴覚資料は、館内の視聴ブースで利用できます（貸出不可）。見たい資料の空ケースと学生証を受付カウンターへ提出してください。

蔵書検索（OPAC オパック）

- 各図書館(室)で所蔵する図書や雑誌は、所蔵資料検索 OPAC で調べられます。各図書館(室)ホームページで確認してください。
- 横断検索（https://sv3.opac.jp/btc002d6/cross/Simple_search）で全キャンパスの所蔵資料が一括検索できます。
- 他キャンパスから図書を取り寄せることができます（無料）。受付カウンターにある申込書を提出してください。

図書の予約・リクエスト

- 利用したい図書が貸出中の場合、OPAC から予約できます。準備ができたらメールが送信されるので 1 週間以内に受付カウンターへ来てください。
- 利用したい図書が図書館にない場合、購入希望を出すことができます。リクエスト用紙に記入し提出してください。購入を検討して結果を連絡します。

電子ジャーナル・電子ブック

- 電子ジャーナル・電子ブックは、インフォナビ（http://sfx5.usaco.co.jp/iuhw/az/all）で検索できます。アルファベット順リストも表示できます。
- 詳細は、インフォナビ利用ガイド（http://sfx5.usaco.co.jp/iuhw/ejournal/manual.html）をご覧ください。
- マニュアルは、電子リソース案内（https://lib.g.iuhw.ac.jp/電子リソース案内）に掲載しています。
- 個人利用の範囲を超えた大量ダウンロード行為は禁止されています。違反すると大学全体が利用停止となるので、絶対に行わないでください。
- 電子ジャーナル等の適正利用に関連する内容を、電子リソース案内にあるページ（https://lib.g.iuhw.ac.jp/電子ジャーナルの適正利用）に掲載しています。よく確認のうえ、ルールを守り適正な利用をお願いします。

リモートアクセス（e リソースコネクト）

- e リソースコネクト MyLOFT（https://app.myloft.xyz）では、自宅や外出先から本学で契約している電子資料・文献データベースが利用できます。
- 初めてアクセスする際は、パスワードの登録が必要となります。詳しい利用方法は、e リソースコネクト利用ガイド（https://lib.g.iuhw.ac.jp/リモートアクセス）をご覧ください。
- スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末で利用する際は、専用アプリをインストールしてください。

レファレンスサービス（学習サポート・調べ物相談）

- 図書館の資料や検索機能を使って調査・研究などのお手伝いをするサービスです。
  資料の探し方、データベースの利用方法等、資料や図書館の設備で分からないことは、受付カウンターまでお気軽にお尋ねください。
  【質問例】
  - ・資料の探し方、入手方法がわからない
  - ・データベースの使い方がわからない
  - ・ある事項やデータを知りたい
  - ・あるテーマについてどんな資料・情報があるか知りたい
  - ・その他、必要な資料・情報について分からないことがある

複写（コピー）

- コイン（またはプリペイドカード式）コピー機を設置しており、著作権法に基づき館内資料の一部を複写できます（一人 1 部のみ）。
- 館内コピー機は、図書館資料の複写利用に限ります。個人の持ち込み資料（教科書・ノート・プリント等）のコピーはご遠慮ください。
- 複写した内容は 1 件ずつ複写申込書に記入してください。

文献複写・現物借用（ILL）

- 必要な資料が図書館にない場合､他の大学から論文複写の取り寄せや図書の借用ができます(実費)。詳細は受付カウンターでお尋ねください。
- データベースの検索結果から『インフォナビ』を経由してオンラインで申し込むこともできます。
- 複写料金は申込先によって異なります。他キャンパスの文献複写料金は、1 枚あたりモノクロ 10 円、カラー50 円です。
- 論文や図書が到着後、支払料金を連絡します。小銭を用意し速やかに受付カウンターへ取りに来てください。

博士論文，修士論文，課題研究の利用

- 博士論文，修士論文，課題研究は各キャンパス図書館(室)に保管されています。閲覧は受付カウンターで申し出てください。
- 修士論文，課題研究は複写できません。
- 学位規則の一部改正に伴い、平成 25 年 4 月 1 日以降に博士の学位を授与された者の博士論文は、インターネットを利用しての公表が義務づけられました。
  本学では国際医療福祉大学リポジトリ（https://iuhw.repo.nii.ac.jp/）にて公表されます。

図書館からのお願い

- 飲食物の持ち込みは禁止です。飲食時は退館してください。
- スマートフォン等はマナーモードにしてください。館内での通話は禁止です。
- 図書館内のコンセントを用いてのスマートフォン等の充電はしないでください。
- 私語等、他の利用者の迷惑になる行為はやめましょう。
- 盗難防止のためにも、貴重品やかばん等の管理は各自で充分に注意し、席を離れる際は必ず貴重品を携行してください。
- 荷物等を置いての席取り行為は禁止です。マナーを守って利用してください。
- 閲覧した本は、もとの場所に戻してください。
- 正規の手続きなしに資料を無断で持ち出すことは違法行為となり、大学として厳重に処分します。資料は必ず貸出手続きをしてください。貸出手続きをしないで資料を持ち出すと、警報ブザーが鳴ります。ブザーが鳴った場合は荷物を確認させていただきます。
- 図書館員の指示に従わない場合は、利用停止とする場合があります。

11-3 ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ・ﾃﾞｰﾀ解析ｿﾌﾄの利用

インターネットの学内利用について

- 各キャンパスは､それぞれ本学の学生が利用するためのインターネット環境を整備しています。
- インターネットを利用するには、①各キャンパスに設置しているパソコンを利用する、②自分のパソコンを持込んで学内のインターネット回線（若しくは自分所有のルータ）に接続するの方法があります。
- 各キャンパスに設置してあるパソコンを利用する場合は特に設定をする必要はありません（そのまま利用可能）が、自分のパソコンを持ち込む場合はインターネット接続設定を本学のネットワークに合せる必要があります（※自宅や勤務先などの固有の設定（DNS,proxyなど）が残っていると接続はできません）。必要に応じて各キャンパス事務局に問合せをしてください。
- 昨今、ウイルス対策を行っていない持込パソコンがコンピュータウイルスに感染し、大学のネットワーク全体に被害を及ぼすケースが相次いでいます。本学では、ウイルス対策を行っていないパソコンを学内のネットワークに接続することを禁止いたします。もし、持込パソコンによって何らかの被害が発生した場合は、当該学生の今後のインターネット利用の制限や懲罰等を検討させていただきますのでご了承ください。
- 学内設置パソコンや貸出し用ノートパソコンのUSBポートを利用して携帯電話･スマートフォンの充電・データ転送を行う場合も、ウイルス対策を行っていない携帯電話・スマートフォンを接続することは禁止いたします。
- 本学の情報システム室のホームページ（https://otawara-is.g.iuhw.ac.jp/）にネットワーク関連の情報などがありますので、学内インターネットを利用する際は必ず一度目を通してください。※全般的に教職員向けの内容となっていますが、学生が利用可能な情報も一部含んでいます。
- インターネット上の各自の通信は、大学の機器に全て記録されています。外部への不正アクセス、掲示板への誹謗中傷の書き込みなどが判明した場合は、厳粛に対応いたします。最低限のマナーは守りましょう。
- 各キャンパスに大学が設置しているパソコンに対して、フリーソフトはもちろん、正規ソフトであってもダウンロード、インストールすることは禁止しております。
- 図書館のホームページから文献データベースや電子ジャーナルのサイト利用が可能ですが、個人利用や研究目的で利用の範囲を超えたダウンロード、特定の雑誌の大量ダウンロードは禁止しております。このような行為が発生した場合、全キャンパスにおいて利用停止となりますのでルールを守ってご利用ください。

SPSS（データ解析ソフト）について

- 本学が無償で提供するSPSSサービスの利用方法には次の2つがあります。①院生研究室、自習室などに設置されているSPSSインストール済PC（本学所有のライセンスサーバにアクセス：ネットワークライセンス版）、②SPSSインストール済貸出用ノートPC（スタンドアロン版：キャンパス毎で所有台数は異なる（０～６台程度））の利用。
- 上記①のネットワークライセンス版の場合、SPSSを起動時にライセンスサーバを参照し、空いているライセンスがあれば利用可能となります。同時に利用できるのは、最大25人までです（オプションを利用する場合、オプションの種類によって同時利用は2～5人）。
- 上記①のネットワークライセンス版SPSSの利用にあたり、以下のことに留意してください。
  ・大学のネットワークに接続（有線LAN）したパソコンからのみ使用可能。
  → 大学設置のパソコンにSPSSがインストールされていない場合には、インストール済のパソコンを利用ください（若しくは各キャンパス事務局へ相談）。
  ・利用終了した場合や、長く中断するときは、PC上で一旦SPSSを終了させること。
  → 終了することで、他の方が利用可能となります。
- 自分のPCにSPSSをインストールし研究活動を進める必要がある場合は、指導教員と相談の上、院生指導費にてSPSS学生版（1年間サブスクリプション）の購入を検討してください。

11-4　メール等の利用について

Gmail

- 入学時に本学より次のメールアカウント（Gmailアドレス）が割り当てられます。
  学籍番号@g.iuhw.ac.jp

- Gmailアドレスは、研究報告会・発表会の開催案内等、大学院事務局からの連絡に使われる非常に重要なものです。**必ず定期的にチェックするようにしてください。**上記Gmailアドレスへ配信した情報を確認しなかったことによって生じた不利益は責任を負いかねますのでご了承ください。

- なお、Gmailアドレスは、**大学院在学期間中のみ利用可能です。**課程修了及び博士課程満了後はご利用いただけなくなります。

- メールの利用方法の詳細は、
  本学情報システム室ホームページ（https://otawara-is.g.iuhw.ac.jp/）上の「利用案内」⇒「Google Workspace」⇒「Gmail利用マニュアル」をご参照ください。



Microsoft 365

- 大学院在学中はMicrosoft 365アカウント（ライセンス）が付与され、代表的なOfficeアプリの使用が可能です。

- その他、障害、セキュリティやネットワークに関することは、本学情報システム室ホームページ（https://otawara-is.g.iuhw.ac.jp/）を確認してください。

＜参考＞

Microsoft 365

本学では、Microsoft 社が提供する「Microsoft 365」を導入しています。

- ログイン方法
  Google Chrome、Microsoft Edge 等の Web ブラウザで Microsoft 365 アカウントのログイン画面を開き、Microsoft 365 アカウントと初期パスワードを入力してログインしてください。
- OneDrive 等の使用容量は、学生一人あたり 100GB です。
  ※容量は状況により見直す場合があります。

ログイン URL	： https://www.office.com/
Microsoft 365 アカウント	： **学籍番号@m.iuhw.ac.jp** （全て半角） 例）26s0000@m.iuhw.ac.jp
パスワード	： ランダム英数字８桁 （初期パスワード） 例）1a2b3c4d

※初期パスワードは入学時に配信されるランダム英数字（８桁）です。
※セキュリティ対策のため、定期的にパスワードを変更し、パスワードを忘れることのないようにしてください。また、電話での問い合わせにはお答えできません。

- Microsoft 365 アカウント利用方法は以下を参考にしてください。

このアカウントを利用して Microsoft 365 アプリを利用できます。Microsoft 365 アプリや利用方法の詳細は以下 URL のリンク先「**Microsoft 365 アプリインストールマニュアル**」を参照してください。

https://otawara-is.g.iuhw.ac.jp/info/m365

また、Microsoft 365 は Outlook によるメールが利用できますが、大学との連絡手段は Gmail（g.iuhw.ac.jp）をご利用ください。他にも OneDrive 等の様々なサービスが利用できますが、予告なく制限・変更する場合がありますのでご了承ください。

なお、Microsoft 365 アプリのインストールや各サービスの利用方法について、大学ではサポートを行いません。問題が発生した場合は Microsoft 365 のヘルプとラーニングを参考にご自身で対応してください。

11-5　名刺作成について

名刺作成について

- 大学院の学生用名刺作成に関して、以下の条件を遵守した上で『大学ロゴ』を使った名刺の作成及び使用が可能です（作成費用は、学生個人の負担となります。「院生指導費」による支出は可能です）。

- 『大学ロゴ』の改変は認めません。
  （大学院用Web掲示板からサンプルをダウンロードして使用してください。）

- 学生であることがわかるよう、『大学院の所属（課程）』を必ず明記してください。

- 学生用名刺の使用は、学業・研究を目的とする場合に限ります。目的外使用が認められた場合は、使用を禁止することがあります。
  ※特に本学大学院生としての品位を汚す使用が認められた場合は、大学院学則第20条に基づく懲戒の対象となります。

- 個人への連絡先は、原則として個人メールアドレスとします（住所は所属するキャンパスのものを記載してください）。
  ※やむを得ず郵便物のあて先にキャンパスを指定することを希望する場合は、必ずあらかじめ各キャンパス事務局へご相談ください。

- 名刺を作成する場合は、必ず事前に所属キャンパス事務局に「大学院生名刺作成届」を提出してください。（「大学院生名刺作成届」は大学院用Web掲示板にあります。）
  また、作成した名刺は、サンプルとして１部、所属キャンパスの事務局へ使用を開始する前に提出してください。

11-6　学生の福利厚生

奨学金制度

1）日本学生支援機構奨学金

修学のために貸与を希望する院生が対象で、本学からの推薦に基づいて日本学生支援機構が選考し学資を貸与します。選考は、成績と本人･配偶者の収入をもとに行います。申請の際には東京赤坂キャンパス事務局、もしくは各キャンパス事務局にて必要書類をお受け取りください。

2）国際医療福祉大学学生支援基金奨学金

本人または院生の父母が不測の事態で家計に急変が生じ学費納入が困難となった場合や、院生自身の大幅な収入減少等により勉学を断念せざるを得ない状況になったときは、「国際医療福祉大学学生支援基金奨学金」の貸与が受けられます。希望する場合は、東京赤坂キャンパス事務局に相談してください。

3）その他の奨学金制度

その他奨学金についての詳細は、大学院用 Web 掲示板でご確認ください。

- 大学では各奨学団体の申込書、案内書を用意しているほか、皆さんが独自に情報を得た奨学金制度についても、推薦状の作成･発行などを通じ奨学金が受けられるようバックアップします。
- 奨学金は、日本学生支援機構のほか自治体、財団などによるものもありますが、年度により募集に違いがあり、選考によって受給ができない場合があります。また各団体によって申請方法や給付･貸与の基準が異なりますので注意してください。
- 詳細は、東京赤坂キャンパス大学院事務局にご確認ください。

留学生サポート

- 各キャンパスにおける留学生関連事務取扱部署
  各種手続きなどで分からないことがあれば、下記の部署まで連絡してください。

キャンパス･部署	連絡先	
【大田原】 国際室	TEL:0287-24-3637　E-mail: otw-international@ihwg.jp	
【成田】 国際交流センター	TEL: 0476-28-1014　E-mail: narita-kokusai@ihwg.jp	
【東京赤坂】 大学院事務局	TEL: 03-5574-3900　E-mail: akasaka.iec@ihwg.jp	
【小田原】 学務課　国際係	TEL: 0465-21-6500　E-mail: od-kokusai@ihwg.jp	
【福岡】 大学院事務部	TEL: 092-407-0434　E-mail: fukucamp@ihwg.jp	
【大川】 大学院事務局 学務課　国際係	大学院事務局 TEL: 0944-89-2018 E-mail: oocamp@ihwg.jp	学務課　国際係 TEL: 0944-89-2031 E-mail: k-international@ihwg.jp

学生教育研究災害傷害保険

※この保険は教育後援会の協力で在籍学生全員が加入しています。

加入者	本学の学生全員
補償範囲	正課中・学校行事中・大学施設内・課外活動中・通学中に生じた傷害による入院・治療・死亡・後遺障害・臨床実習中の感染症予防措置等
手続方法	① 発生したら直ちに「事故報告書」を各キャンパス窓口に提出 窓口の指示により「事故通知はがき」もしくは、 スマホ用アプリ「SKETT　BOOK」から保険会社へ事故通知 ② 治療終了後「保険金請求書」を提出 ③ おおよそ１ヶ月以内に保険金支払い

学生総合保険

加入者	任意加入
加入方法	入学時に加入の案内を送付しています。年度途中加入も可能です。 加入・変更等の手続き連絡先 （１）㈱セイフティケア(取扱代理店) ・東京本社　［アミティ乃木坂 2F］ 〒107-0062　東京都港区南青山 1-24-1　℡ 03-5770-5661 ・九州営業所　［高木病院管理棟内］ 〒831-0016　福岡県大川市酒見 141-1１　℡ 0944-89-3300 ・栃木営業所［大田原ｷｬﾝﾊﾟｽ学生課内］ 〒324-8501　栃木県大田原市北金丸 2600-1　℡ 0287-24-3150 （２）あいおいニッセイ同和損害保険㈱　栃木支店大田原オフィス 〒324-0047　栃木県大田原市美原 1-6-12　℡050-3460-1258
補償範囲および学資費用	偶然の事故で生じた ① ケガによる死亡・後遺障害・入院・通院 ② 特定感染症の発病による後遺障害・入院・通院 ③ 扶養者死亡（傷害）の際の学費および育英費用 ④ 第三者に対する賠償責任補償 ⑤ 臨床実習中の針刺し等の感染事故における検査・予防費用 ⑥ 遭難・偶然な事故により生死不明等になった場合の捜索・救助費用
手続方法	事故が発生したら至急事故受付窓口に報告し指示を受けてください。 あいおいニッセイ同和損保あんしんサポートセンター　TEL 0120-985-024

健康管理

- 健康診断は年１回の受診が必須となります。
  実施日程・内容は、大学院用Web 掲示板等で案内しますので確認してください。
  自費で勤務先の医療機関等で受診する場合は、6 月 30 日までに健康診断書の原本を提出してください。大学指定の関連医療機関で健康診断を受けた場合のみ、手数料 300 円で健康診断書（原本証明）が発行できます。

11-7　ハラスメント

ハラスメントとは？

ハラスメントとは、基本的な人権の侵害に関わるものであり、いろいろな場面での「嫌がらせ、いじめ」を指します。その種類には、セクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント等があります。
ハラスメントかどうかは、相手の認識が重視されます。行為者が「ハラスメントのつもりはなかった」と認識していたとしても、ハラスメントに当たることがあります。

○ セクシュアル・ハラスメント

セクシュアル・ハラスメントとは、相手の望まない性的な言葉や言動によって、不快感や屈辱感を抱かせる、あるいは相手の人格や個人としての尊厳を傷つけることです。これらのことによって、勉学を続けることができなくなる、あるいは研究や仕事をする意欲を失うことにもなりかねません。

(1) ことばによる事例
- 「女のくせに」、「男のくせに」等の発言
- 性的な事実関係を尋ねる
- 性的な内容の情報（噂）を流す
- 性的な冗談やからかい
- 個人的な性的体験談を話す

(2) 行動による事例
- 立場を利用して性的関係を強いる
- 食事やデートにしつこく誘う
- 抱きつく、不必要に身体を触る
- いやがられているのに、つきまとう
  （しつこい電話等、いわゆる「ストーカー行為」を含む）
- 胸や足をジロジロ見る
- ヌードポスターや写真を目につく所などに貼る

○ アカデミック・ハラスメント

アカデミック・ハラスメントとは、教育・研究の場における権力を利用したいじめや嫌がらせによって、相手の教育を受ける権利、研究を行う権利、働く権利を侵害し、相手に精神的苦痛や不利益を与えることです。

(1) 教育現場での事例
- 指導を行わない
- 「お前はバカだ」、「授業を受ける資格がない」、「やめてしまえ」、「食事につきあったら単位をあげよう」等の発言

(2) 研究現場での事例
- 研究室の図書や機器を使用させない
- 研究テーマを与えない、あるいは強制する
- 研究成果を奪う、あるいは論文作成を妨害する

○ パワー・ハラスメント

同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場間での優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える、又は、職場環境を悪化させることです。

(1) ことばによる事例

・多数の者がいるところで罵倒する
・個人の能力、性格などについて不適切な発信をする
・業務の指導の範疇を超えて、相手の人格を傷つけ、人格を侵害する様な言動をとる

(2) 行動による事例

・相手の存在を認めないような態度をとる
・職務権限外のことを要求する、あるいは私的な仕事を押しつける
・職務上必要な情報を意図的に伝えない
・仲間はずれにする

ハラスメントを受けていると感じた場合・被害に遭った場合

○まず、勇気をもって、「いやだ」という意思を言葉や態度で相手に伝える
○ハラスメントと思われる行為について、日時・場所・内容の記録をとっておく
○一人で悩んだり我慢したりせずに、周囲の人に相談する

ハラスメントを起こさないためには

ハラスメントは、誰でも被害者になると同時に、加害者になる可能性もあるものです。
ハラスメントの加害者にならないためには一人ひとりの学習が必要です。

・相手のことを軽く見ない
・これを言ったら相手はどう思うか、自問自答してみる
・相手から指摘を受けたら、素直に改める
・個人的なメールは、相手の気持ちに配慮する

ハラスメントに関する相談

本大学院では、本学関係者がハラスメント被害に遭われた場合の相談窓口を設けております。被害について話すことは勇気のいることですが、とても大切なことです。

相談することで問題解決の援助を受けることができます。相談を希望される方は、まずは下記の相談担当教員に、直接電話またメールでご相談ください。

相談教員：石井　慎一郎　教授

Mail: shin.ishii@ihwg.jp

相談教員：佐野　智子　教授

Mail: sano-tomoko-dw@ihwg.jp

学生相談室

国際医療福祉大学大学院では、各キャンパスに学生相談室を設置しています。臨床心理士の資格を持つ相談員が、院生の皆さんの学生生活の充実やより良い心身の状態に向けて、サポートをしています。

相談内容は、学業や研究に関すること、人間関係に関すること、家族に関すること、自分のこころと身体に関することなど、どのようなことでもかまいません。「こんな相談をしてもいいのかな･･･」と思われるようなことでも、遠慮せずに各キャンパスの学生相談室をご利用ください。

ご相談内容につきましては、公認心理師や臨床心理士の資格を有する相談員が担当し、秘密を厳守いたしますので、安心してご相談ください。

【キャンパス別　連絡先】

大田原キャンパス	0287-24-3099（相談室直通）
成田キャンパス	narita.soudan@ihwg.jp
東京赤坂キャンパス	akasaka.soudan@ihwg.jp
小田原キャンパス	od-soudan@ihwg.jp soudan-odawara@ihwg.jp
熱海キャンパス	
福岡キャンパス	fukuoka.soudan@ihwg.jp
大川キャンパス	okawa.soudan@ihwg.jp

※開室日やご利用方法は各キャンパスで異なりますので、掲示板などでご確認ください。

学生相談室より

人は悩みを抱えるとそのことばかりに気を取られ、次第に思考力や判断力が鈍って、本来持っている力が発揮できなくなってしまいます。そんな時誰かに話すと気持ちが落ち着いて問題が整理でき、解決の見通しがついてきたりします。皆さんには家族・友達・先生など相談する人は色々いると思いますが、相談室もその一つです。他では話しにくいなあと感じたら、どうぞ気軽に学生相談室のドアをノックしてみてください。

学生相談室では皆さんの話をじっくり聴きながら、一緒に解決の糸口を探っていきます。皆さんが自分自身で解決できるよう支援していくのです。特別悩んでいることがなくてもちょっとした心配ごとや疑問、またはいやなことがあった時など来てみてください。話すとすっきりしてまた頑張ろうという気持ちが湧いてくるかもしれません。

話すことは「離す」こと！ 学生相談室は安心してホッと一息つける場所です。一人で悩まず一緒に考えてみませんか。

11-8　研究の経費

院生指導費

- 国際医療福祉大学では、院生の教育研究に必要な経費をまかなうために、院生指導費という予算を設けています。予算執行の対象期間は、４月から翌年３月までの１年間です。

- 院生指導費は、その一部を大学院全体の共通経費にあてる他は、全てを分野責任者に配分しています。配分は、研究科・専攻・分野(コース)ごとに決められています。

支出請求とその範囲

- 院生は、個々の研究を行うにあたって、消耗品費、通信費、印刷費、旅費、学会発表経費、フィールドワークに要する経費等を大学に請求することが出来ますが、研究目的外の内容につきましては申請出来ません。
  支出請求はすべて、研究指導教員の承認の下に、その指導教員の起案によって行います。

- 各院生が支出を請求出来る内容や**使用上限額**は、研究科・専攻・分野（コース）により異なります。詳しくは研究指導教員又は分野(専攻)責任者におたずねください。

支出請求の手続き

- **2026 年 11 月より Microsoft365 を使用した電子申請にてお願い致します。**
  G メールにてご連絡しました【電子申請マニュアル】に従って手続きを進めて下さい。
  指定の Forms リンクから申請日付、研究目的、支出項目、金額等を入力後、必要な証憑書類、添付書類をアップロードし送信します。自動的に指導教員へデータが送信され、指導教員の承認→分野責任者の承認→事務確認→振込という流れになります。

- **新入生につきましては事務手続きの関係にて、6 月以降に申請を開始して下さい。**

申請前の確認事項

- 支出内容の不可について→　P303「申請できるもの 出来ないもの 誤解の多い事例」を参照。

- 経費別の注意事項及び必要な添付書類→　P304～305 を参照。

- 必要な書式は、大学院用 Web 掲示板の中の「各種申請書･書式」よりダウンロードしてください。
  （稟議書についてはキャンパスごとにフォーマットが異なりますのでご注意ください。）
  電子申請にあたり「院生指導費支出申請書」の提出は不要となります。

注意事項

- 院生指導費の申請は、経費が発生した都度行ってください。なお、申請は年度内に行って下さい。
  （１年次に消耗品を購入した場合、その年度内に申請してください。次の年に繰り越しての申請は出来ません。）

- 立替払いをする場合は、必ず**領収書**をもらってください。領収書の宛名は、『国際医療福祉大学』もしくは、『国際医療福祉大学院』とし、原則、個人名や所属勤務先名(他施設、他大学)記載のものは、支払いが出来ません。（但し、少額の消耗品購入費用はレシートのみでも可。）

- 「電子帳簿保存法」より電子的に授受した取引情報の電子データ（下記参照）をそのまま保存することが義務付けられています。電子データは、Forms へアップロードして下さい。

■　電子的に授受した取引情報(具体例)

A) Amazon 等（Web）で立替決済した領収書（PDF ﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ、ｽｸﾘｰﾝｼｮｯﾄ）
B) 電子メールの添付ファイル(PDF 等)で受け取った「見積・納品･請求書」
C) USB ﾒﾓﾘ、DVD 等の記録媒体を通して受け取る請求書・領収書等

【　注意！】紙媒体に出力後スキャナで PDF 化したものは認められません。

- 証憑が紙媒体の場合は、スマートフォンで撮影した画像を Forms へアップロードして下さい。
この際、領収日(受領日)から２か月以上経過した紙媒体の証憑書類は電子による提出･保存が認められないため電子申請完了後、その原本を事務窓口まで提出して下さい。

- インボイス制度によって売手から交付を受けた「適格請求書」等の保存が必要となります。「適格請求書」とは「事業所登録番号」、「適応税率ごとの消費税額」等の一定の事項が記載された書類のことで、請求書や納品書、領収書、レシート等があります。立替えにて申請する場合、インボイスに対応した領収書等を提出していただく必要があります。

- ポイント等で購入の場合、ポイントを差し引いた金額のみの支払となります。

- 申請金額が外貨ベースの場合は円換算をして申請してください。その場合、証憑となる書類（クレジットカードで支払った場合はクレジットカード明細書、もしくは取引日当日の為替レートがわかるもの等）も合わせて添付してください。

- 立替代金の精算は、院生（立替者）が指定する本人名義の銀行口座への振込みになります。
本学より直接業者への支払（請求書支払）も可能ですが、その場合、使用上限額を確認の上申請して下さい。

事務局からの問合せ

- 不足の書類や申請書の記載に誤りがあった場合、送信専用アドレスより「差戻し」メールが届きます。もしくは事務局から問合せをすることがあります。
送信先は全て学籍番号@g.iuhw.ac.jp　のメールアドレスです。

最終提出期限

- 申請は、随時受け付けています。経費が発生した都度、申請してください。

- 最終的な提出期限（2026 年度）は、次のとおりです。

2027 年３月 31 日（水）

- 3/31 に発生した費用は、4/3 までに申請をして下さい。(最終〆切期日)

- 切手代については、送付先が年度内までに確定済で手元に残った分は自己負担となります。
謝礼品については、年度内に当初計画の相手に渡せずに手元に残った分は自己負担となります。

- この他、手続きについて分からないことがあったら下記のメールまでご連絡をお願い致します。

■**電子申請の方法**に関する問い合わせ先　**insei-shidouhi@ihwg.jp**

■**院生指導費内容**に関する問い合わせ先　各所属キャンパスへ

・大田原キャンパス（otawara.s.c@ihwg.jp）　・福岡キャンパス（fukucamp@ihwg.jp）

・東京赤坂キャンパス（insei-shidouhi@ihwg.jp）　・大川キャンパス（oocamp@ihwg.jp）

・成田キャンパス（narita.s.c@ihwg.jp）　・小田原キャンパス（odawara.s.c@ihwg.jp）

・熱海キャンパス（atami.s.c@ihwg.jp）

院生指導費 申請出来るもの 出来ないもの 誤解の多い事例

1)旅費	通学費	×(所属キャンパスへの交通費(例)講義、ゼミ、報告会出席、院生指導)
	臨床実習施設への旅費	×
	タクシー代	× 原則不可(特別な理由がある場合のみ)
	レンタカー代	× 原則不可(特別な理由がある場合のみ)
	自己都合によるキャンセル料	×
	飛行機利用のアップグレード料金	×
	マイレージ利用料	×
	新幹線グリーン席料金	×
	宿泊先での朝食代	△(宿泊料金に含まれていれば可)
2)学会参加	学会参加費	○
	学会年会費・懇親会費	×
3)物品	ICレコーダー、外付けDVD,SSD等の備品	×
	SPSS等のソフト	○(研究内容に即しているもので、在籍期間の使用のみ)
4)消耗品	ﾄﾅｰ、ｺﾋﾟｰ用紙、文具代等の消耗品	○(研究に必要不可欠で常識的な範囲(品目、数量)を超えないこと)
5)通信費	切手、レターパック代、宅配代	○(送付先が確定していること)
6)印刷費	名刺作成費	○(大学院事務で名刺作成届が受理された場合のみ)
	論文製本費用	○
7)リライト料	校正料、英文翻訳料	○(個人に依頼する場合、源泉所得税が発生します。事前にご相談ください。)
8)文献複写料	文献複写料	○
9)文字起こし	テープ起こし	○
10)謝礼品	クオカード、図書カード等の金券類	○(現金不可、送付先が確定しており、相手に渡ったもののみ対象)
	手土産代	○(送付先が確定しており、当該年度内に相手に渡ったもののみ対象) ×(送付先が本学附属施設、グループ施設教職員の場合)
11)論文掲載料	論文掲載料	○
図書	図書	×(但し、分野及び専攻に配備する場合は可。別途、図書稟議書が必要)
その他	資格取得に係る経費(受講費用、試験料等)	×
	PCR検査費用	×
	実習時の抗体価検査	○
	実習時のワクチン費用	×
	保険加入料	×
	WiFi端末レンタル費用	×
	研究補助者人件費	△(要相談)
	飲食代、茶菓子代等	× 原則不可(特別な理由がある場合のみ)
	研究に関するアンケート調査費	○
	学位記授与(伝達)式に係る経費	×

※上記事例以外に不明点がありましたら事務局までお問い合わせください。

※内容が研究目的に適っているか判断が難しい場合、詳細を確認させていただくこともあります。

経費別　院生指導費支出申請書_添付書類

支出区分	内容	提出書類
1）旅費	別頁に記載	別頁に記載
2）学会参加費	別頁に記載	別頁に記載
3）物品	ソフトウェア ライセンス	**※研究内容に即しているもので在籍期間の使用とする。** 1）内容によって下記の稟議書を起案すること。 ・「サブスク」購入　→ **「修理営繕稟議書」** ・「サブスク」以外の購入→ **「物品購入稟議書」** 2）いずれかの稟議書をデータ（Excelシート/Web掲示板参照）にて起案
4）消耗品	トナー、コピー用紙、文具類、 実験用試薬等の消耗品	・消耗品請求伝票 ・領収書
	謝礼品としての配布用の文具類	上記2点の他に送付先リストが必要　**（期間内に残が生じないよう概算数の購入は×）**
5）通信費	切手、レターパック代 宅配便代	・領収書 ・送付先リスト（書式自由、**当該年度で送付が確定して領収書金額と一致して いること。原則、事後申請のみ、概算数の購入は×）**
6）印刷費	コピー使用料	・領収書
	アンケート調査用紙、封筒印刷等 論文製本費用	・印刷関係稟議書　（Web掲示板に紙媒体様式あり） ・領収書
	名刺作成費	・領収書 ・名刺作成届コピー（大学院事務局受理済みのもの）②領収書
	学会・ポスター印刷代	・領収書　　・ポスターをA4出力したコピー（モノクロ可）
7）リライト料	校正料 英文翻訳料	・領収書 ・成果物の表紙・目次のコピーもしくは内容を一部抜粋コピー **※翻訳、通訳等を個人事業主へ依頼する場合、源泉徴収の対象となります。事前に 事務へご相談下さい。**
8）文献複写料	文献複写料	※事後申請のみ受付可 ・領収書（本学図書館に手配を依頼した文献複写料の場合は、領収書の宛先が 個人名でも可）
9）文字起こし	テープ起こし	・領収書 ・成果物のコピー（一部抜粋）
10）謝礼品	被験者・情報提供者に対する謝礼品等	**※現金不可** **※相手先が本学附属施設、グループ施設の教職員の場合は申請不可** 図書カード、クオカード、アマゾンギフト券等は申請可とするが、年度内に受給者が 受領したものを限定とする。 ・領収書 **・送付先リスト（書式自由、渡した日付、商品名、謝礼の目的、受給者氏名、 金額を記載する。）**
11）論文掲載料	論文を学術雑誌に投稿した掲載料金	・総務課稟議書（Web掲示板に紙媒体様式あり） ・領収書 ・掲載雑誌の表紙・目次ｺﾋﾟｰ
12）その他	アンケート調査費用他	・領収書 ・料金が確認出来るもの（パンフレット、HPなど）

1)旅費　2)学会等参加費

内　容	交通費、宿泊費、学会・研修会参加費等
提出書類	①　旅費精算書(学会参加費のみの申請は①は不要) ②　領収書　＋　必要書類
備　考 (必要書類)	1. 飛行機利用 ■ビジネス料金(その他のアップグレード料金を含む)は、申請不可。 ■**搭乗券が必要。** →紛失した場合、航空会社で**搭乗証明書**を発行してもらってください。 注意:搭乗証明書の発行期間は航空会社によって異なりますのでご注意下さい。 搭乗券または搭乗証明書のどちらも提出出来ない場合は申請不可。 ■マイレージ利用分は申請不可。 ■予約完了メールは領収書の代わりになりません。 2. 電車利用 ■**必ず申請した経路・料金が記載された「ルート検索(Web　検索等)」の結果を添付してください。(添付のないものは差し戻します。)** ■グリーン料金は申請不可。 ■**新幹線、特急、スカイライナーなどを利用した場合は領収書が必要。** ■普通運賃以外の乗車料金(指定席料金、特急料金、寝台料金等)が発生しない場合、支払いを証明する書類(領収証等)の添付を省略可能。 (例)甲府(①特急)→新宿(②JR山手線)→池袋(③東京メトロ)→要町 ①　＝　領収書の添付必要 ②及び③　＝　領収書を添付省略可能 3. 自動車利用 ■ガソリン代(1km 当たり 11.5 円、 1 円未満は切り上げ)は**1日の走行距離**で計算。 ■ETC料金の領収書は、利用証明書又はクレジット利用明細書で代用可能。 4. タクシー利用 ■特別な事情により事前に決裁を受けている場合を除き、**タクシー利用は、原則不可。**万一、利用の際は領収書が必要。「旅費精算書」(備考欄)にタクシー利用理由を明記のこと。 5. 宿泊費 ■1 泊あたりの宿泊料金は、10,000 円を上限とする。(超えた分は自己負担とし、朝食代は申請不可。) 6. 学会、研修会等参加 ■**学会や研修会の領収書+その内容及び参加費用がわかる箇所(発表プログラムやホームページ等)の印刷やコピーを添付して下さい。** ■**参加証明書の添付**　(発行されない場合は、参加 ID カードやサティフィケートのコピー等) 7. **飲食費は請求出来ません。**

※ 普通運賃以外の乗車料金が発生しない場合(上記 2 参照)や 自動車のガソリン代、路線バス料金については、領収書の添付を省略可能です。

※電子帳簿保存法により、取引時に電子データで受け取った領収書は、Forms へアップロードして下さい。

院生指導費支出申請書

申請日（西暦）2026 年　　月　　日

申請者はあくまで研究指導者教員となりますので、
この欄に研究指導教員の捺印をもってください。

所属長印 (専攻・分野責任者)	申請者印 (指導教員)

専攻	専攻を選択	分野	分野を選択	指導教員氏名	
学籍番号		院生氏名		所属キャンパス	キャンパス選択

使用不可

立替者	）
振込先	届出済 口座種別　普通　口座番号
支払い方法	1．振込　2．請求払　3．その他（
目　的	目的はなるべく詳しく記載してください。
内　容	支出項目（該当項目にすべて〇） 旅費・学会参加費・物品・消耗品・通信費・印刷費・リライト料・文献複写料 文字起こし・謝礼品・論文掲載料・実習経費・その他 申請金額　　円　　確定額※　　円 ※主管部門で記入する 〈内訳その他〉支出項目２つ以上に〇をした場合金額の内訳を、その他の場合は内容を記入

立替代金は、本人名義の銀行口座への振込みとなります。当年度２回目以降の申請は、【B】に〇をつけてください。

事務局記入欄

以下は事務局記入

年度予算	円	残高　年　月　日現在	円
		経理処理	
		年　月　日	
		担当者	印

支払施設処理欄	
経理課（係）	大学院事務 (受付)

受付施設処理欄			
事務責任者	経理責任者	経理課（係）	大学院事務 (受付)

旅費精算書

No. ＿＿＿＿＿＿

＊太枠内のみご記載ください

自　年　月　日		提出日　年　月　日	
至　年　月　日　日間			
用務地：（例）○○大学 青葉キャンパ	所属：所属の分野(又は専攻)	職位：学籍番号	
用務の内容：第34回○○○○学会 参加費	福祉 花子		印

院生の所属分野(専攻)、学籍番号、氏名を記入し、捺印をすること。

月	日	発地	着地	交通費			宿泊費		業務費		経理課使用欄
		地名	地名	距離(km)※	便名・種別	金額	地名・旅館名	金額	使途	金額	
5	1	那須塩原	東京		新幹線	7,580円	○○ホテル	7,500円	学会参加費	8,000円	交通費合計
		東京	渋谷		JR(山手線)	190円					円
5	2	渋谷	東京		JR(山手線)	190円					宿泊費合計
		東京	那須塩原		新幹線	7,580円			駐車料金	700円	円
											業務費合計
											円
											控除振込手数料
											▲　円
											算定合計
			小　計			15,540円		7,500円		8,700円	円
備考											

宿泊費込のパック料金等で明細不明の場合は備考欄にその旨記載して下さい。

注意事項をよく読んで下さい。

【注意事項】

1. 必ず領収書の原本を添付してください。
2. 空路を使用した場合は、搭乗券の半券を添付してください。(半券紛失の場合は搭乗証明書を取得してください)
3. 新幹線など、乗車券以外に特別料金のかかる鉄道を利用した場合は、領収書の原本を添付してください。(原則としてグリーン車の利用は認めません)
4. 研修、学会に参加した場合は、参加を証する書類を添付して下さい。
5. ガソリン代は1kmにつき11.5円で計算(1円未満切り上げ)してください。
6. 領収書等は、A4用紙に重ならないように糊で貼り付けて経理課に提出してください。
7. 事前に超過勤務を命じられている場合を除き、原則としてタクシーの利用は認めません。やむを得ず利用した場合には、理由を明記し、事務部長(所属長)の承認を得てください。

□振込 →振込口座→　銀行　支店　□普通　□当座　口座番号

□現金

経理課受付　年　月　日

不足資料請求日　年　月　日

院生指導費の場合はこの欄不使用

確認した
受領日　年　月　日
氏名　㊞

施設責任者		経理課	申請部署所属長

分野(専攻)責任者の承認手続きは事務局で行います。

★振込による精算を希望の場合、振込手数料が発生するときは申請者本人の負担とし、振込手数料を差し引いた金額を振り込みます。(外部研究費・学内研究費を除く)
そのため、(外部研究費・学内研究費等を除き)振込による精算は、1,000円以上の場合に限り受け付けることとします。

経理課使用欄

＊科研費の場合のみに使用

日当		
	日数	日
	定額	
	計	

旅費概算	
決裁指示額	
仮払金	
差引戻・払額	

記入例

消 耗 品 請 求 伝 票

NO

＜物品区分＞

①文具　②OA機器（トナー・インク等）　③医療資材　④薬品　⑤その他

※1区分につき伝票1枚を提出。複数の物品区分を1枚の伝票に混在させないで下さい。

国際医療福祉大学			
部署名	大学院　専攻/分野		
請求者氏名	国際　太郎	印	内　線

所属長印	管理課長印	管理課担当者印	管理課受付印

請求者は、あくまで研究指導教員となりますので、この欄に研究指導教員の署名・捺印をもらってください。

分野（専攻）責任者の承認手続きは事務局で行います。

＜経費区

学科・センター研究費 ／ 教材費 ／ 実習関連経費 ／ 学内研究 事務局

院生指導費 ／ 科研費 ／ その他（　　）

管理課使用欄	品　名	メーカー	品番・ｺｰﾄﾞNo.	数量	定価	合計金額	納品チェック	受領印	備　考
	プリットのり	コクヨ	ﾀｰM315	10	150	1500		印	
	ファイル	コクヨ	1111-2222	2	300	600		印	

メーカー名、品番は
わかる範囲で記入して下さい。

研究指導教員の捺印を
もらってください。

レシート・領収書の明細通り、
税込みで記載して下さい。

【申請者】物品購入稟議書

申請情報	申請日	2026/1/30	yyyy/mm/dd
	申請法人 申請施設	赤坂キャンパス	※プルダウンから選択（赤坂は、赤坂キャンパス固定）
	申請部署	分野	※分野
	申請部署 所属長 【承認時記入】		※フルネーム、原則分野責任者（学科センタ、院生指導費の場合）
	申請者		※フルネーム、指導教員名
物品情報	案件名 物品名	ノートPC	※物品が複数ある場合は"○○一式"とする
	購入内容	新規	※新規・買替・増設
	購入目的 購入理由 希望納期		■新規・買替・増設　共通記載項目 ※5W1H(いつ・どこで・どんな目的で・どのように使うのか)を具体的に記入 ※法令・業法等との関係、補助金・助成金等の有無 ※収入/費用への影響 ※購入することによるメリット・無いことによるデメリット(購入できなかったらどうなるか) ■買替の場合の記載項目 ※現行品が使えない理由・修理の可否等、買替を選択する理由 ※現行品と買替品の仕様は同等か、仕様が変わる場合はその理由 ■増設の場合の記載項目 ※現保有数・必要数の根拠 ※不足が生じた理由
	購入物品 詳細情報	【IBM SPSS Statistics Standard Grad Pack ver30【学生版】 <見積情報> ○Amazon（¥21,120）※事後	■物品指定の場合 ※品名・メーカー・型番・指定理由を詳細に記入 ■機能指定の場合 ※必要な性能・仕様・機能等を詳細に記入 ■業者指定の場合 ※業者名・指定理由を詳細に記入
	現行品 詳細情報		【買替・増設の場合】 ※現行品の機器番号・品名・メーカー・型番・数量 ※現行品の買替後の処遇(続けて使用・廃棄・転用・予備等)
使用場所情報（管理場所）	施設名	赤坂キャンパス	※プルダウンから選択（赤坂は、赤坂キャンパス固定）
	建物名・棟		大学内配置の場合
	階数		大学内配置の場合
	部屋 エリア		大学内配置の場合
	使用部署	院生個人PC	
経費	経費区分	10 文部研	※プルダウンから選択
補助・助成金	研究費名 補助・助成金名		院生指導費（分野名称）
	予算残額		※経理部にて記入
	残額確認日		※経理部にて記入
	備考		

【申請者】修理営繕保守稟議書

Ver. 2025/6/11

申請情報	申請日	2025/5/28	
	申請法人 申請施設	国際医療福祉大学(大田原キャンパス)	
	申請部署	医学専攻社会医学研究分野	※部、課、室、病棟　等
	申請部署 所属長 【承認時記入】	国際太郎	※所属長は承認時に氏名入力。フルネーム、役職除く
	申請者	国際次郎	※フルネーム、役職除く
修理営繕保守情報	案件名	ネットワークセンタースイッチ修理	■「修理・営繕」の場合 ※○○修理、○○工事、○○修繕等 ■「保守・契約」の場合の記載項目 ※○○保守、○○点検、○○契約更新、○○メンテナンス ■「改修」の場合の記載項目 ※○○工事、○○改修
	修理営繕保守 内容	保守・契約	※「修理・営繕」、「保守・契約」、「改修」のいずれかを記入 ※複数の場合は"、"で区切って入力
	目的 理由 希望納期	センタースイッチが機能停止しネットワークが遮断することが発生しているため	■共通記載項目 ※必要な理由をを具体的に記入 ※法令・業法等との関係、補助金・助成金等の有無 ※収入/費用への影響 ※対応することによるメリット・無いことによるデメリット(対応できなかったらどうなるか)
	詳細情報	CPUボード故障のため交換する。 <見積情報> ◎A社(¥1,000,000) B社(¥1,100,000) C社(¥1,200,000)	■「修理・営繕」の場合の記載項目 ※修理内容の詳細 ■「保守・契約」の場合の記載項目 ※契約内容の詳細 ■「改修」の場合の記載項目 ※改修内容の詳細
	現行品 詳細情報		※「修理・営繕」、「保守・契約」、「改修」の対象となる物品の稟議番号・品名・メーカー・型番・数量等
使用場所情報～管理場所～	施設名	国際医療福祉大学(大田原キャンパス)	※複数の場合は代表となる1施設を入力。
	建物名・棟	E棟	※複数の場合は"、"で区切って入力。
	階数	4F	※地下階：B●F、地上階：●F、中階：M●F、屋上：R ※複数の場合は"、"で区切って入力。
	部屋 エリア	サーバ室	※複数の場合は"、"で区切って入力。 ※20文字以内
	使用部署		※部、課、室、病棟　等。複数の場合は"、"で区切って入力。
経費	経費区分	7 院生指導費	
補助・助成金 研究費	研究費名 補助・助成金名		※複数ある場合は全て記入
	予算残額		
	残額確認日		
	備考		

受付印

記入例

（赤坂キャンパス用）

印刷物稟議書（請求書）　IaP-

*キャンパスによって様式は異なります。

国際医療福祉大学　東京赤坂キャンパス

申請者記入欄	申請日	年　月　日	所属長	印
	申請部署		申請者	印
	名称		希望納期	年　月　日
			印刷内容	□新規 □単純増刷 □改訂増刷
			印刷部数	
	目的・理由			
所属長意見				

申請者は、あくまで研究指導教員となりますので、この欄に研究指導教員の氏名を記入し、捺印をもらってください。
所属長欄の分野（専攻）責任者の承認手続きは事務局で行います。

具体的に記入して下さい。

経費区分	種別（申請者記入）		学部按分・勘定科目（経理記入）		
	【予算内申請】	□科学研究費	1. 部門	2. 大科目	3. 小科目/内訳科目
	□学科・ｾﾝﾀｰ研究費	□奨学寄付金	□法人本部	□教育研究経費	□消耗品費支出
	□学生指導費	□その他	□赤坂心理・医療マネ学	□管理経費	□消耗備品費支出
	□実習関連経費	（　）	□心理学科	□教管按分	□教育研究用機器備品支出
	□教材費	【予算外申請】	□医療マネジメント学科	□設備関係支出	□その他の機器備品支出
	□備品費	□大学経費	□大学院	□その他	□その他
	□学内研究費	□教育後援会	□按分	（　）	（　）
	□受託・共同研究費	□その他	□その他		
	☑院生指導費	（　）	（　）		

この項目を選択して下さい。

年度予算額	¥	予算残額	¥ （　年　月　日現在）
管理課記入欄 業者名		印刷条件	
印刷物名			
印刷部数		支払条件	通常・その他（　月　日まで）
見積価格		過去印刷実績	日付 / 部数 / 単価 / 価格
	年　月　日 担当者　印		
決裁	年　月　日 可決・否決・保留	〔指示・条件等〕	
事務責任者意見		発注日	年　月　日
		納品日	年　月　日

回覧	東京事務責任者		東京赤坂キャンパス　運営機構				東京赤坂キャンパス　事務部			
	主責任者	副責任者		管理部	管理部	管理部	事務局長	事務部長	事務課長	担当

所属長（分野（専攻）責任者）の承認手続きは事務局で行います。

総務課稟議書

申請番号＿＿＿＿＿＿＿＿

国際医療福祉大学

起案日	月　日	受理日	現地	東京
予算有無	□予算内　□予算外（予算種別下記）	起案者	（所属）　〇〇〇分野	
所属長名	〇〇　〇〇　印		（氏名）　国際　太郎　印	

起案件名　〇〇〇　学会雑誌　論文投稿料　の件

掲題の件に関し以下申請します。

研究指導教員氏名を記入し、捺印をもらってください。

第 24 巻　第 2 号　201-204 項

論文投稿者　氏名

・論文投稿料申請の際は投稿者氏名を表記してください。
・こちらの稟議書と合わせて論文の掲載された雑誌等の目次ページのコピーを添付してください。

費用見積合計：　30,000 円

過去実績：

事務責任者意見	

経費区分	種別（申請者記入）		学部按分･勘定科目（経理記入）	
	予算内申請	8．委託研究費（　）	1．　部門	2．　経費
	1．　学科・ｾﾝﾀｰ研究費	9．科学研究費（　）	□法人本部	□人件費
	2．　学生指導費	10．その他（　奨学寄附金　）	□赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	□教育研究費
	3．　教材費	**予算外申請**	□医療マネジメント学科	□管理経費
	4．　備品費	11．大学経費	□心理学科	□教育研究費管理費按分
	5．　実習関連経費	12．その他	□大学院	按分基準
	6．　学内研究費（　）	（　）	□総合研究所	（　）
	7．　院生指導費		□按分	□設備関係支出
			□その他（　）	□　そ　の　他（　）
年度予算	この項目を選択して下さい。	予算残額	（　年　月　日現在）	

決裁	年　月　日　可決・保留・否決 年　月　日　可決・保留・否決 決裁指示・条件	事務責任者			担当者

東京事務所		
総務部長	経理部長	受付担当

１１-９　証明書の申請

証明書の手続きについて

- 各キャンパス事務局窓口で、証明書の申請・各種届出を受け付けます。
  （受付時間は各キャンパスによって異なります。各キャンパスの施設案内は、大学院用Web掲示板を参照してください）。
- 大田原キャンパス、成田キャンパス、東京赤坂キャンパスは「証明書発行機」により発行します。
- 小田原キャンパス、福岡キャンパス、大川キャンパスは、証紙券売機で証紙を購入後、「証明書交付願」を窓口に提出してください。
  ※福岡キャンパスでは１号館に証紙券売機が設置されております。
- 熱海キャンパスには、証紙券売機がありませんので、発行手数料は定額小為替（郵便局等で販売）を必要な金額分購入して、「証明書交付願」とともに窓口に提出してください。
- 手続をするときには、必ず学生証を提示してください。
  本人確認のため事務局でコピーを取る場合があります。
- 熱海キャンパスでは、証明書発行のシステム処理ができません。よって通常交付日より２～３日程度多く発行に日数を要します。余裕をもって、早めに請求してください。

郵送での証明書の請求方法

- 証明書の交付は原則各キャンパスの事務局窓口にて行いますが、自宅等への郵送での交付を希望する場合は、以下の４点を同封してください。なお、学割証は窓口のみでの交付となりますので注意してください。

① 「各種証明書交付願」（下記 URL よりダウンロード可能）
② 学生証のコピー
　修了者は身分を証明できるもの（運転免許証等）のコピー
③ 定額小為替（郵便局発行）　証明書１通につき 300 円
④ 宛先を明記して返信用切手を貼付した、角形２号または角形３号封筒
　※成績証明書１通 18g（A4+厳封封筒 235mm×120mm）・その他証明書３g（A4）
　　を考慮し返信用切手・封筒を用意してください。

参考： 大学ホームページ「各種証明書の発行について」

https://otawara.iuhw.ac.jp/usr/shoumei.html

※在校生も卒業生・修了生と同様のお手続きで郵送での証明書の交付依頼が可能です。

代理人による申請・受取り

- 申請者の学生証コピー、署名・捺印のある委任状（自由書式）と代理人の学生証（身分証明書）があれば可能です。
- 学割証に関しては、申請・受取りともに申請者本人の学生証コピーを代理人が窓口に持参すれば委任状は不要です。

【各種証明書・許可証の交付】

<table>
<tr><th rowspan="2">手続きの内容</th><th rowspan="2">担当部署</th><th colspan="3">提出書類</th><th rowspan="2">手数料
（証紙使用）</th><th colspan="3">交付日・備考</th></tr>
<tr><th>大田原・成田・東京赤坂</th><th>小田原・熱海</th><th>福岡・大川</th><th>大田原・成田・東京赤坂</th><th>小田原・熱海</th><th>福岡・大川</th></tr>
<tr><td>成績証明書 ※１
（郵送申込可）</td><td rowspan="5">各キャンパス事務窓口</td><td>証明書発行機
（英文発行不可）
※３</td><td colspan="2">各種証明書交付願</td><td>300円</td><td>即日
※４
（英文は約２週間後）</td><td colspan="2">翌営業日
※５
（英文は約２週間後）</td></tr>
<tr><td>修了（見込）証明書
（郵送申込可）
※２</td><td>証明書発行機
（英文発行可
※４）</td><td colspan="2">各種証明書交付願</td><td>〃</td><td>〃</td><td colspan="2">〃</td></tr>
<tr><td>在学証明書
（郵送申込可）</td><td>証明書発行機
（英文発行可
※４）</td><td colspan="2">各種証明書交付願</td><td>〃</td><td>〃</td><td colspan="2">〃</td></tr>
<tr><td>博士課程満了証明書
（満期退学証明書）
（郵送申込可）</td><td>証明書発行機
（英文発行可）</td><td colspan="2">各種証明書交付願</td><td>〃</td><td>〃</td><td colspan="2">〃</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学割証</td><td rowspan="2">証明書発行機</td><td rowspan="2" colspan="2">学割証交付願
※受付・交付は窓口のみ</td><td rowspan="2">無料</td><td>〃</td><td colspan="2">〃</td></tr>
<tr><td colspan="3">※１日２枚まで（３か月間有効）
※年間発行枚数は、１人20枚まで
※JR線片道100kmを越えて利用するとき、普通運賃が２割引</td></tr>
<tr><td>通学証明書</td><td>―</td><td colspan="2">各自学生証裏面の通学定期乗車券発行控えをJR等窓口に提示</td><td>各キャンパス事務局窓口</td><td>無料</td><td colspan="2">―</td><td>即日</td></tr>
<tr><td>車両通学許可願
（自家用車・バイク）</td><td>学生課</td><td colspan="3">各キャンパスの学内施設案内を参照</td><td colspan="4">即日</td></tr>
<tr><td>上記以外の証明書</td><td colspan="4">各キャンパス事務局窓口で直接相談</td><td colspan="4">―</td></tr>
</table>

※１　前期履修科目の成績証明書は、当該年度の12月より発行可、後期を含む年間分は、翌年度の4月より発行可となります（修了する学生の成績証明書は、修了年度に実施される東京赤坂キャンパス学位記伝達式日より発行可能となります）。

※２　修了見込証明書は、修了予定年次より発行可となります。

※３　証明書発行機で発行する証明書は、「厳封」されません。「厳封」が必要な場合は、証明書発行機で「交付願」を購入し、必要な証明書の名称と厳封の旨を記入し、学生証を提示の上、各キャンパス大学院事務局に申請してください。

※４　事務局窓口に証明書交付願を提出する場合は、発行までに ２～３日程度の日数を要しますので、早めに申請してください（英文証明書は約２週間かかります）。

※５　熱海キャンパスでは、発行が通常交付日より２～３日程度多くかかります。

各種届出

【各種届出の提出】

＊書式は、掲示板の院生専用「各種申請書・書式」からダウンロードしてください。

手続きの内容	担当部署	提出書類	提出方法	備考
住所変更	各キャンパス事務局	氏名・住所・電話番号・キャンパス変更届	メールまたは郵送	本人等の住所を変更するとき
電話番号変更				本人等の電話番号を変更するとき
氏名変更				戸籍抄本・住民票等証明書を添付
緊急時連絡先変更 ※事務局にご連絡ください。		―		本人や保証人の緊急時の連絡を変更するとき
既修得単位認定に関する届け出		既修得単位認定申請書	郵送	手続き内容により、手数料が必要な場合もあります。
休学の願い出 ※書式は各キャンパス事務局窓口にてお渡しいたします。必ず事前に各キャンパスの大学院担当者にご連絡ください。		休学願 （保証人連署）	事務局へ要連絡	病気その他で３カ月以上就学できないとき（病気の場合は医師の診断書を添付）。減免対象とされる休学期間は原則、１年間または半期単位。 例）１年間の場合： 〇〇年4月1日～翌年3月31日 半期間の場合： 前期）〇〇年4月1日～9月30日 後期）〇〇年10月1日～翌年3月31日 休学期間が半期（６か月）以上の場合、授業料の３分の２が免除される。ただし休学期間満了後の復学時に減免。
退学の願い出 ※書式は各キャンパス事務局窓口にてお渡しいたします。必ず事前に各キャンパスの大学院担当者にご連絡ください。		退学願 （保証人連署） 学生証 ロッカーキー 夜間電子カードキー		学費は、願い出期日までに納入済であること。学費未納の場合は、原則「除籍」扱い。
復学の願い出		復学願 （保証人連署）		休学期間が終了する１か月前までに届け出ること
研究指導教員の変更		研究指導教員変更等届	教員へ提出	在学中に研究指導教員を変更したいとき
副研究指導教員の追加・変更				在学中に副研究指導教員を追加、変更したいとき
所属研究科/所属専攻/分野（コース）/領域の変更		所属分野等変更届	事務局へ要連絡	所属研究科・専攻・分野（コース）・領域を変更したいとき
海外渡航の届出		海外渡航届	メールまたは郵送	学会参加や私的な旅行などで海外に行く場合、渡航の1ヶ月前までに届け出ること。

11-10 本学における個人情報保護

本学の方針など

本学では、学生の教育・指導のため、各種の個人情報を収集し利用しています。個人情報の保護に関する関係法令を遵守し、また「学校法人国際医療福祉大学個人情報の保護に関する規程」を初めとする学内規程に則り、本学学生の個人情報に関し、収集する情報の内容とその利用目的及び利用方法、さらには情報保護の具体的な方策などを以下に示します。

1.「個人情報」について

「個人情報」とは、学生及びその保証人（いずれも生存する者に限ります）について、本学が職務上取得又は作成した個人に関する情報であって、特定の個人が識別されるもの（他の情報と容易に照合することによって識別することのできるものを含みます）及び個人識別符号が含まれるものをいいます。

＜具体例＞

氏名、住所、性別、生年月日、電話番号、電子メールアドレス、印章の印影、学籍番号、学業成績、人物評価、科目履修内容、等

なお、本人の人種、信条、社会的身分、病歴、犯罪の経歴、犯罪により害を被った事実その他本人に対する不当な差別、偏見などの不利益が生じないように、その取扱いに特に配慮を要する「要配慮個人情報」も対象としています。

2. 本学における個人情報の利用目的

本学は、学生の教育研究及び学生生活の支援を目的として、主に下記の利用目的に供するため、個人情報の取得・収集を行います。利用目的を追加・変更する場合は、公表又は学生及びその保証人への通知により行います。

① 入学関係情報：入学志願者に対する選抜試験運営、学生証交付、その他入学関連手続き
② 修学関係情報：履修相談、修学指導、学業奨励、研究活動支援、履修登録、授業・試験運営、成績処理、単位認定、進級・卒業判定、国家試験等資格課程登録、諸資格判定、学位記授与、海外研修、国際交流、臨床実習、その他修学関連手続き
③ 生活関連情報：学生生活関連指導・助言、福利厚生施設の紹介、奨学生選考、奨学金交付償還、定期健康診断、健康相談、課外活動支援、医療費補助、弔慰、災害見舞、生活指導、厚生補導事務、その他
④ 進路関連情報：就職・進学支援、求職登録、就職斡旋、その他進路指導手続き
⑤ 施設利用情報：図書館・情報教育実習室・その他教室・学内施設・駐輪場・駐車場使用、用具・備品貸与
⑥ 保証人の情報：必要情報の諸連絡、大学機関誌送付、寄付の依頼、学生納付金等の納付連絡
⑦ 卒業後の各種案内送付
⑧ 同窓会の会員登録、管理運営に必要な情報の提供
⑨ 防犯カメラの設置による映像情報管理
⑩ その他：表彰・処分、各種連絡、通知、証明書発行、教育後援会への加入

3. 個人情報の第三者への提供の制限

学生及び保証人の個人情報は、あらかじめ学生又はその保証人の同意を得ないで第三者に提供することはありません。ただし、以下の場合を除きます。

A．法令に基づく場合。

B．人の生命、身体又は財産・利益の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得る

ことが困難であるとき。

C．公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。

D．国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

以下の教育指導、学生交流、卒業生交流などの場合、請求者の安全・管理体制を確認し、あらかじめ本人の同意を得て第三者に提供することがあります。

① 保証人に対する学生の学業成績及び学籍異動情報の報告の為
② 教育後援会会員の登録、教育後援会の管理運営の為
③ ＶＯＤ(ビデオ・オン・デマンド)授業視聴の為
④ 教科書・実用用品販売の為
⑤ 奨学事業を行う団体への奨学金の申請及び受給手続の為
⑥ 学生保険加入、請求、案内の為
⑦ 実習先と契約書を交わす為
⑧ グループ病院における定期健康診断の実施、ワクチン接種の為
⑨ 学生証（IC カード）の発行、管理の為
⑩ 就職活動支援の為
⑪ 本学同窓会の会員登録、同窓会の管理運営のため

４．大学が講じる措置

1）本学は、個人情報保護の重要性を十分に認識し、個人情報の取扱いに伴う個人の権利や利益の侵害の防止に関し、関係法令を遵守し必要な措置を講じます。

2）本学は、個人情報の改ざん、漏えい、紛失又は毀損の防止、その他個人データ（個人情報保護法 16 条 3 項に規定する「個人データ」をいう。以下同じ）の安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。

3）本学は、各学部、大学院、事務局、クリニックに個人情報保護に関する管理責任者として、個人情報保護管理者を配置します。

５．個人情報収集の制限

1）個人情報は、本学の教育・研究及び業務に必要な範囲内で、収集目的を定めて収集します。

2）個人情報の収集は、思想、信条及び宗教に関する事項並びに社会的差別の原因となる事項の調査を目的として行うことはありません。

3）個人情報（要配慮個人情報も含む）は、本人から収集します。ただし、以下の場合を除きます。

A．法令に基づく場合。

B．人の生命、身体又は財産・利益の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。

C．公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。

D．国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

E．当該個人情報が、本人、国の機関、地方公共団体その他法令の定めに従い公開されている場合。

６．個人情報の開示

1）学生は、自己の個人情報の開示を当該情報の個人情報保護管理者に申請することができます。ただし、以下に該当する場合は、当該個人情報記録の全部又は一部を開示しないことがあります。

A．本人又は第三者の生命、身体、財産その他権利利益を害するおそれがある場合。

B．大学の業務の適正な実施に著しい支障を及ぼすおそれがある場合。

C．他の法令に違反することとなる場合。

2）学生の保証人は、学生本人にかかる個人情報記録の開示を個人情報保護管理者に申請することができます。ただし、上記 1)の制限を受けるとともに、学生本人の同意が必要です。

７．委託

本学は、利用目的の達成に必要な範囲内で外部業者等に対し個人データの取扱いの全部または一部を委託する場合には、個人データを提供することがあります。ただし、この場合には、委託された当該個人データの安全管理が図られるよう、委託を受けた者に対する必要かつ適切な監督を行います。

８．個人情報の訂正委託

学生又は保証人は、当該本人が識別される個人情報が事実でない場合、当該個人情報の訂正、追加又は削除（以下，これらを「訂正等」という。）を求めることができます。この場合、本学は情報利用目的に関連する範囲内で必要な調査を行い、その結果に基づき当該個人情報の訂正等を行います。本学は、個人情報の訂正等を行ったとき、又は訂正等を行わない旨の決定をしたときは、遅滞なく、本人に通知します。

問い合わせ先

東京赤坂キャンパス大学院事務局

電　　話：03-5574-3900

e-mail：tokyo.s.c@ihwg.jp